

徳島市
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
結果報告書

令和5年3月
徳島市

目次

I	調査概要	1
1	調査目的.....	1
2	調査設計.....	1
3	報告書の見方.....	1
4	評価項目の判定について.....	1
II	回答者の属性	2
1	性別.....	2
2	年齢構成.....	2
3	認定状況.....	3
4	日常生活圏域.....	4
5	記入者.....	4
III	調査結果	5
1	あなたのご家族や生活状況について.....	5
(1)	家族構成について.....	5
(2)	介護・介助の状況について.....	7
(3)	現在の経済状況.....	13
(4)	現在の住まいについて.....	14
2	からだを動かすことについて.....	16
(1)	運動器の機能について.....	16
(2)	転倒について.....	17
(3)	外出について.....	18
3	食べることについて.....	23
(1)	BMI算出.....	23
(2)	口腔機能について.....	23
(3)	体重減少について.....	27
(4)	孤食の状況について.....	27
4	毎日の生活について.....	28
(1)	認知機能について.....	28
(2)	<IADL：手段的日常生活動作>について（老研式活動能力指標）.....	29
(3)	<知的能動性>について（老研式活動能力指標）.....	32
(4)	<社会的役割>について（老研式活動能力指標）.....	34
(5)	趣味・生きがいについて.....	36

5	地域での活動について	37
	(1) 社会参加の状況	37
	(2) 地域づくりへの参加意向.....	42
6	たすけあいについて	48
	(1) 心配事や愚痴（ぐち）について.....	48
	(2) 看病や世話について	52
	(3) 家族以外に頼れる人の有無について.....	56
	(4) 友人・知人との関係性.....	61
7	健康について	63
	(1) 主観的健康感	63
	(2) 主観的幸福感	65
	(3) うつ傾向について	67
	(4) 飲酒の習慣	68
	(5) 喫煙の習慣	69
	(6) 現在治療中、後遺症のある病気について.....	70
8	認知症にかかる相談窓口の把握などについて	72
	(1) 認知症の症状の有無について.....	72
	(2) 認知症に関する相談窓口や充実すべきことについて.....	73
9	相談窓口について	76
	(1) 介護予防等に関する相談窓口や医療機関について.....	76
10	介護予防について	79
	(1) 介護予防等に関する取り組み状況.....	79
	(2) 介護予防事業に関する活動や要望について.....	85
	(3) 介護予防事業に関する情報の入手先.....	88
11	成年後見制度について	90
	(1) 成年後見制度の認知度.....	90
	(2) 成年後見制度の利用希望.....	92
12	地域での支え合いの体制について	98
	(1) 住民同士の支え合いによる地域づくりの現状.....	98
	(2) 生活支援コーディネーターの認知度.....	100
	(3) 地域にあれば良いと思う支え合い活動について.....	102
13	終末期の療養について	104
	(1) 終末期の療養場所について.....	104
	(2) 終末期に関する話し合いについて.....	110
14	介護予防事業で特に力を入れてほしい高齢者施策について	116
15	福祉・介護予防などに関係する名称、用語について	120

16 評価項目別の判定結果.....	121
(1) 運動器の機能低下	122
(2) 転倒リスク	124
(3) 閉じこもり傾向	126
(4) 低栄養状態	128
(5) 口腔機能低下	130
(6) 認知機能の低下	132
(7) うつ傾向	134
(8) IADL－手段的日常動作.....	137
(9) 知的能動性	139
(10) 社会的役割	141

I 調査概要

1 調査目的

本調査は「第9期徳島市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画」の策定に向けて、高齢者の皆さまの日頃の生活や介護の状況などを把握し、基礎資料とするために実施するものです。

2 調査設計

- (1) 調査対象 65歳以上の徳島市在住の高齢者より無作為抽出（要介護1～5以外の方）
- (2) 実施期間 令和4年11月24日～12月6日
- (3) 調査方法 郵送による配布・回収
- (4) 配布・回収状況

配布数	回収数	有効回収数	有効回答率
3,200	1,953	1,910	61.0%

3 報告書の見方

- (1) 基数となるべき実数は、(n=〇〇)と表示し、各比率はすべてを100%として百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのために、百分率の合計が100%にならないことがあります。
- (2) 質問文の中に、複数回答が可能な質問がありますが、その場合、回答の合計は調査数を上回る場合があります。
- (3) 図中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合があります。
- (4) クロス集計等での件数(母数)の少ない集計結果についても、参考までに記載しています。
- (5) 0%については表示を省略している場合があります。
- (6) 一般高齢者とは、「総合事業対象者」、「要支援1・2」に該当しない方のことをいいます。

4 評価項目の判定について

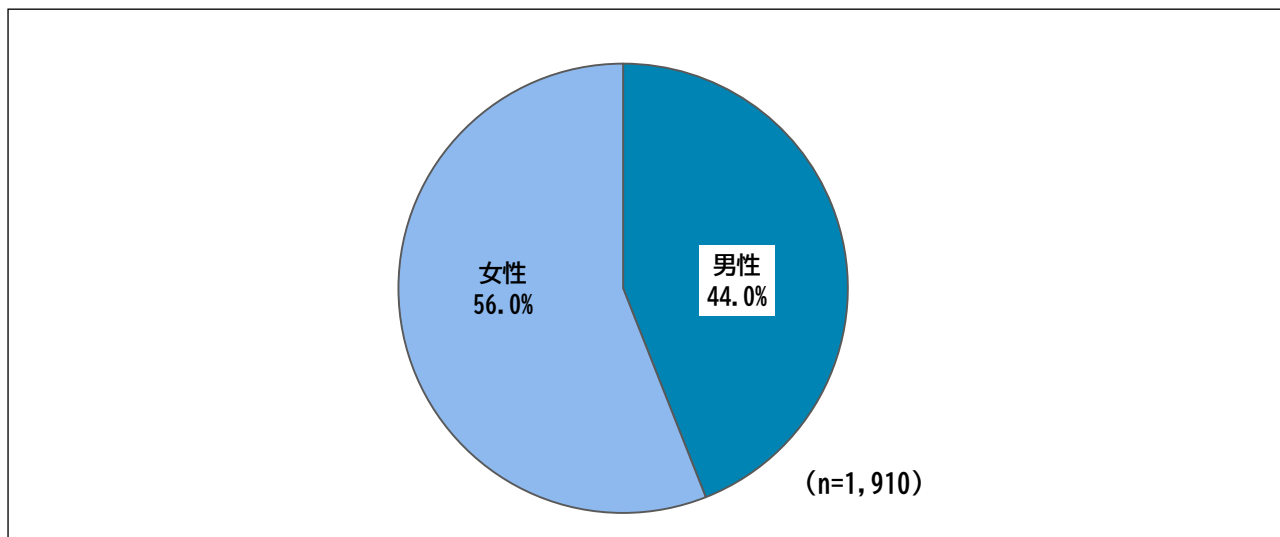
評価項目別の判定結果については、国が配布した「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」実施の手引き、及び老研式活動能力指標に基づき集計したものです。

各種リスク判定の「非該当」には判定不能の場合も含まれます。

II 回答者の属性

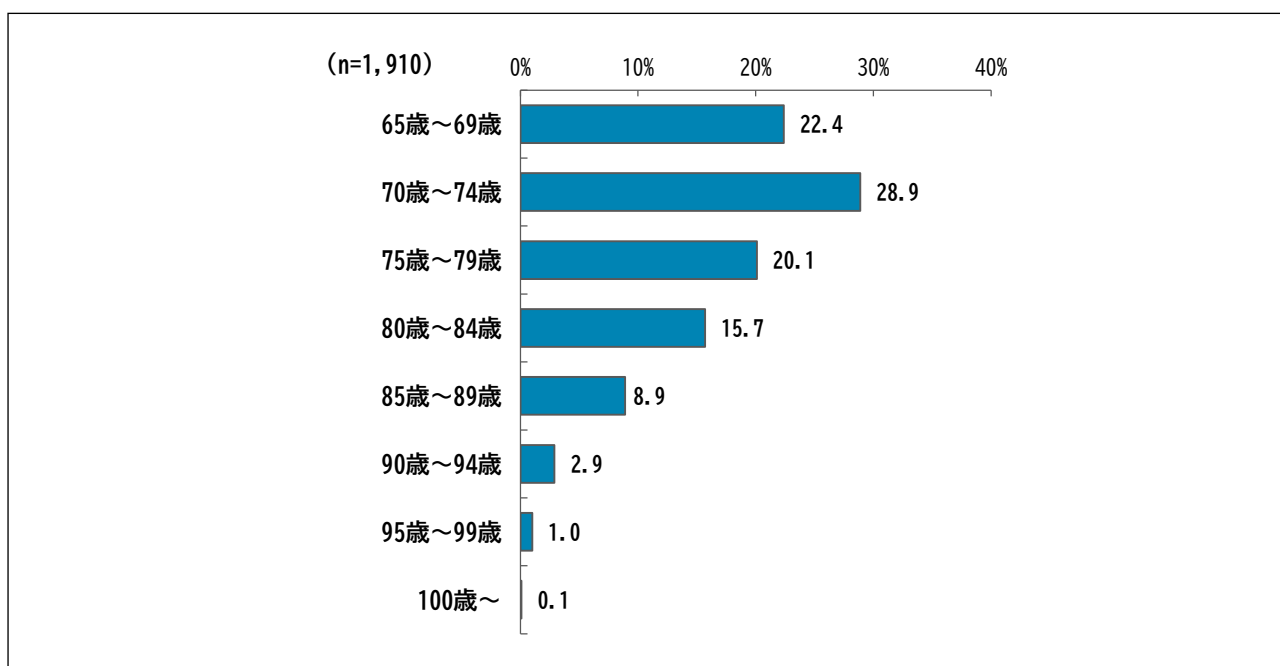
I 性別

回答者の性別は、「男性」が44.0%、「女性」が56.0%となっており、女性が12.0ポイント上回っています。

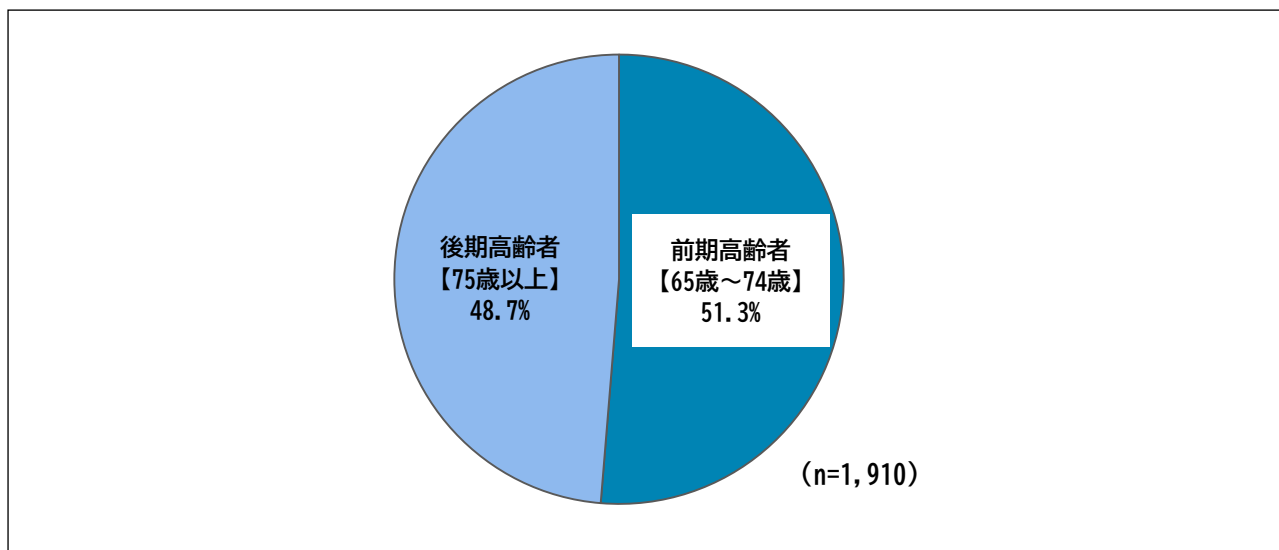


2 年齢構成

回答者の年齢は、「70～74歳」が28.9%で最も高く、次いで「65～69歳」(22.4%)、「75～79歳」(20.1%)となっています。

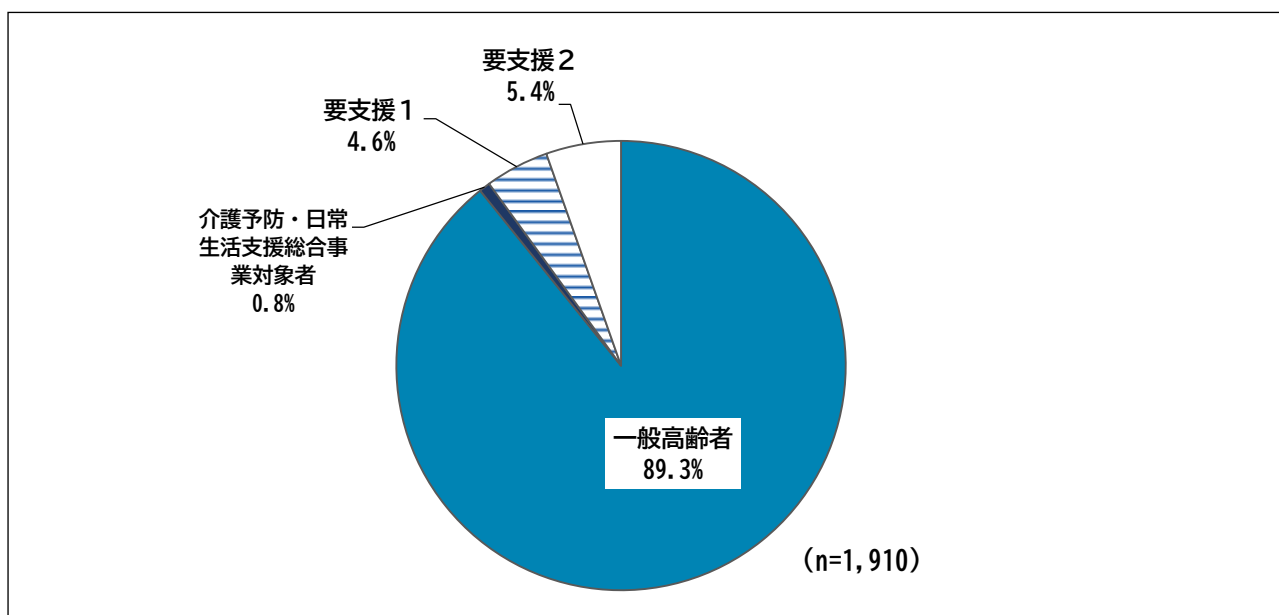


年齢を 65～74 歳の前期高齢者と 75 歳以上の後期高齢者とに分類してみると、前期高齢者が 51.3%、後期高齢者は 48.7%となっています。



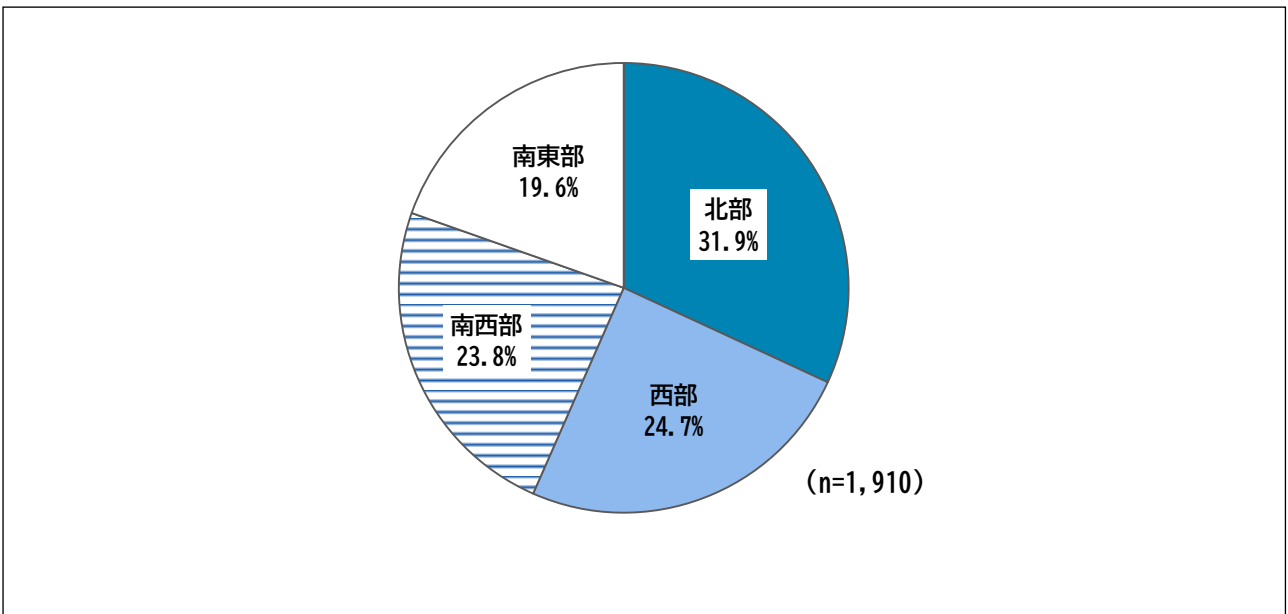
3 認定状況

回答者の認定状況を見ると、「一般高齢者」が 89.3%を占めており、「介護予防・日常生活支援総合事業対象者」が 0.8%、「要支援 1」が 4.6%、「要支援 2」が 5.4%となっています。



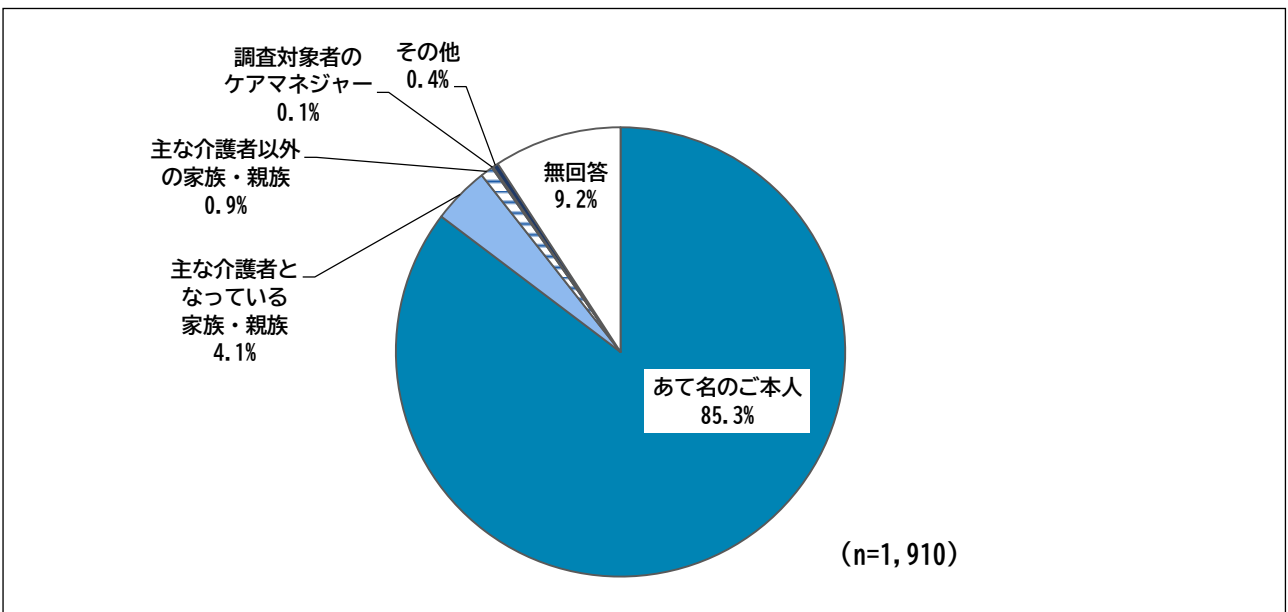
4 日常生活圏域

日常生活圏域をみると、「北部」が 31.9%と最も高く、次いで「西部」(24.7%)、「南西部」(23.8%)、「南東部」(19.6%)となっています。



5 記入者

記入者をみると、「あて名のご本人」が 85.3%を占めており、「主な介護者となっている家族・親族」が 4.1%、「主な介護者以外の家族・親族」が 0.9%、「調査対象者のケアマネジャー」が 0.1%、「その他」が 0.4%となっています。



Ⅲ 調査結果

Ⅰ あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成について

問1 (1) 家族構成をお教えてください。(1つだけ)

【全体の傾向】

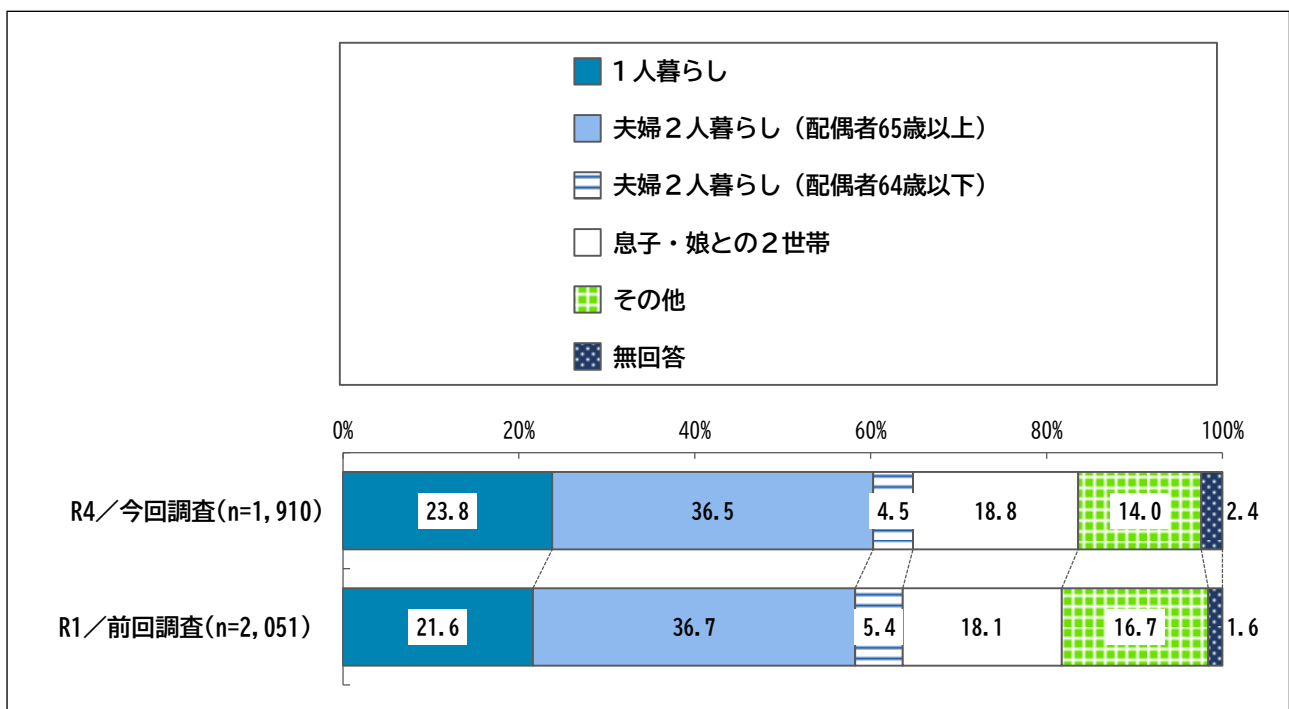
家族構成をみると、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が36.5%と最も高く、次いで「1人暮らし」（23.8%）、「息子・娘との2世帯」（18.8%）となっています。

前回調査と比較すると、「1人暮らし」が2.2ポイント増加しています。

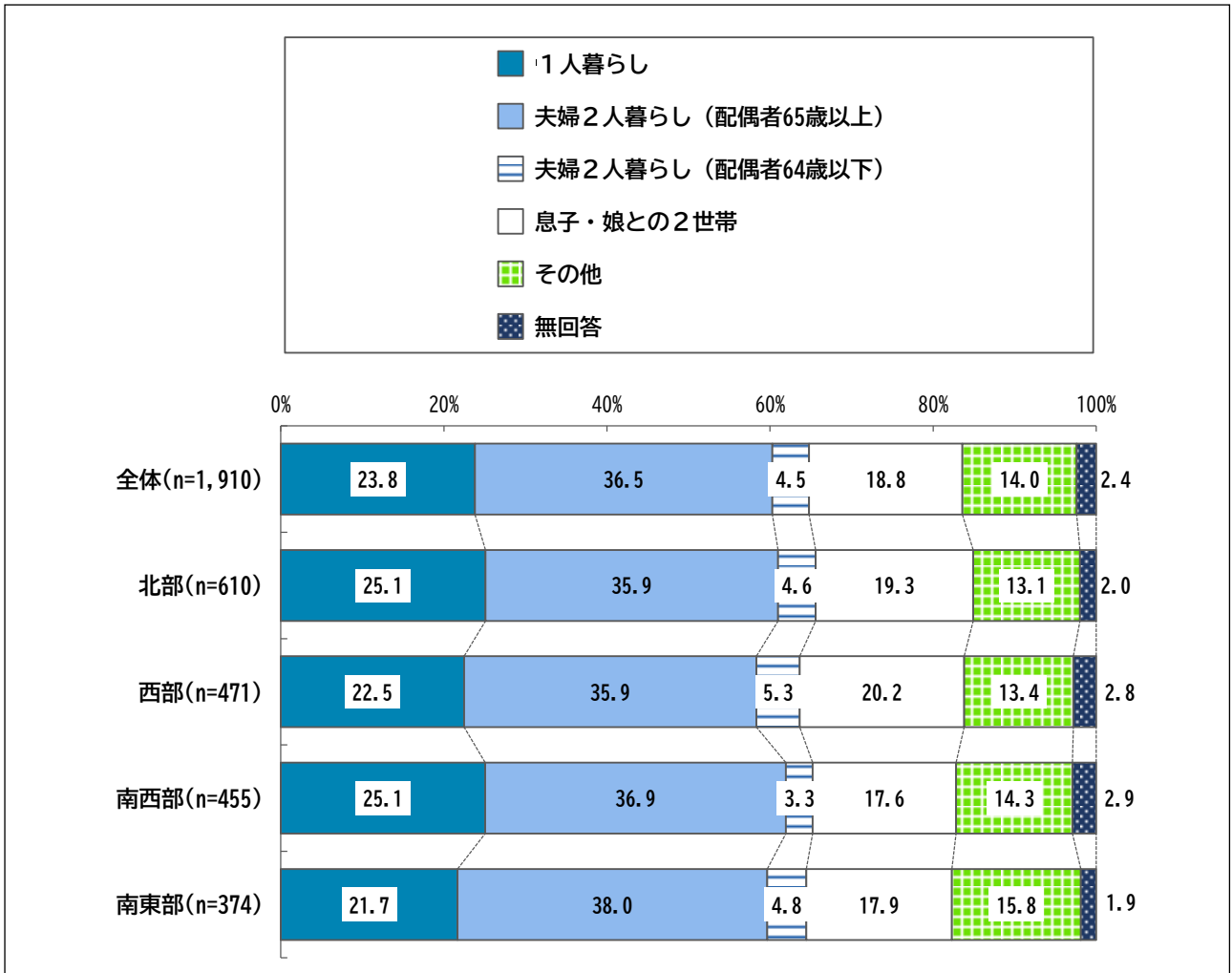
【属性別の傾向】

圏域別にみると、いずれの圏域においても「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」が最も高く、次いで「1人暮らし」、「息子・娘との2世帯」の順となっています。

図表 1 家族構成について（全体、前回比較）



図表 2 家族構成について（全体、圏域別）



(2) 介護・介助の状況について

問1 (2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(1つだけ)

【全体の傾向】

普段の生活における介護の必要性についてみると、全体の76.1%が「介護・介助は必要ない」と回答しています。

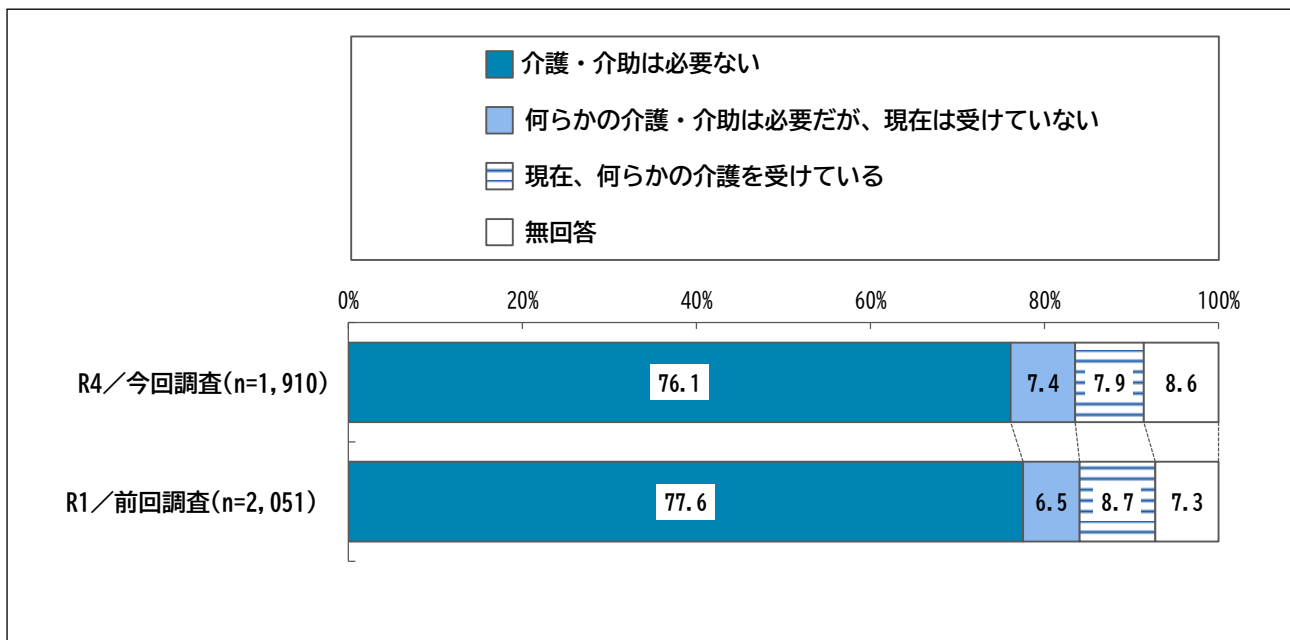
前回調査と比較すると、「介護・介助は必要ない」が1.5ポイント減少しています。

【属性別の傾向】

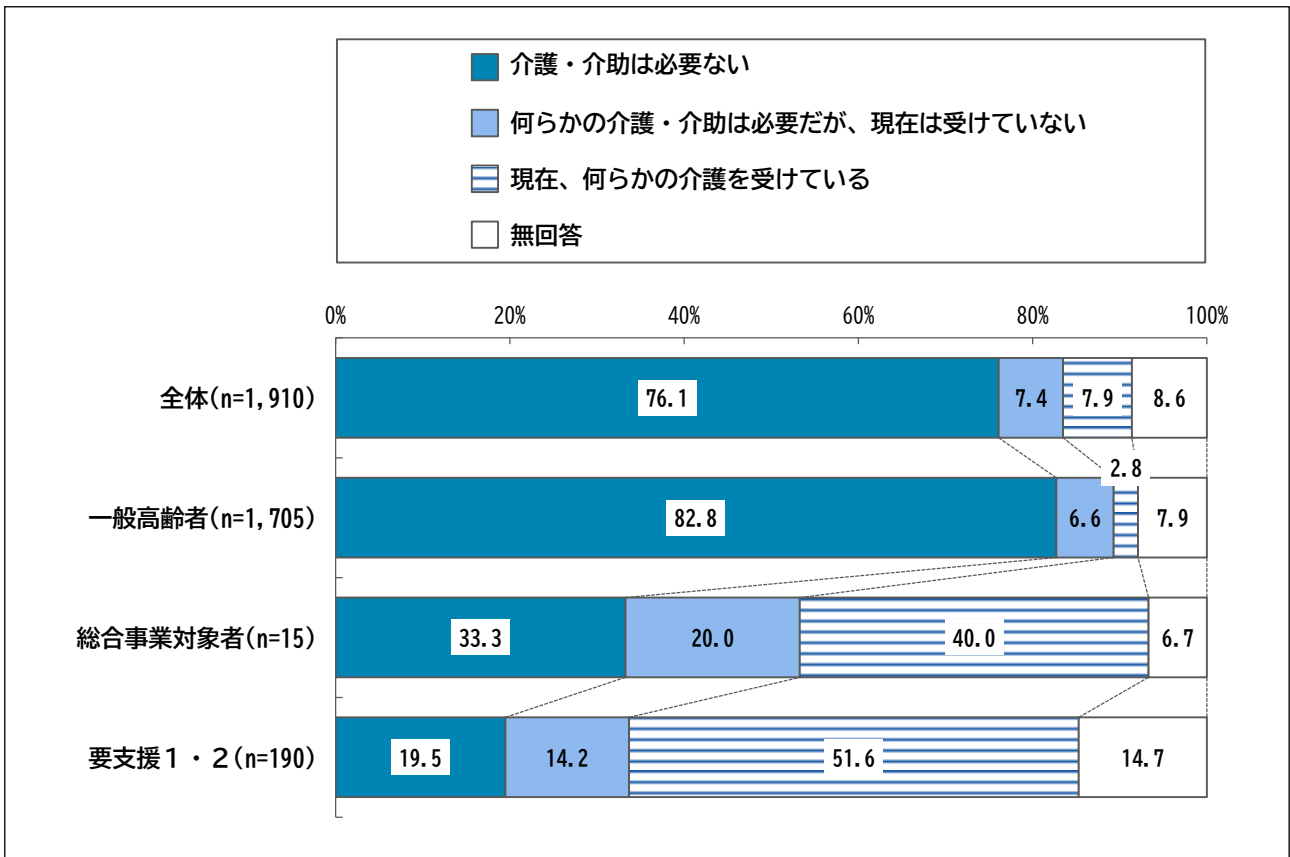
認定状況別にみると、一般高齢者では「介護・介助は必要ない」が8割以上を占めています。

また、要支援1・2では「現在、何らかの介護を受けている」が5割を超えています。

図表 3 介護・介助の必要性（全体、前回比較）



図表 4 介護・介助の必要性（全体、認定状況別）



※問1（2）で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「現在、何らかの介護を受けている」と答えた方のみ

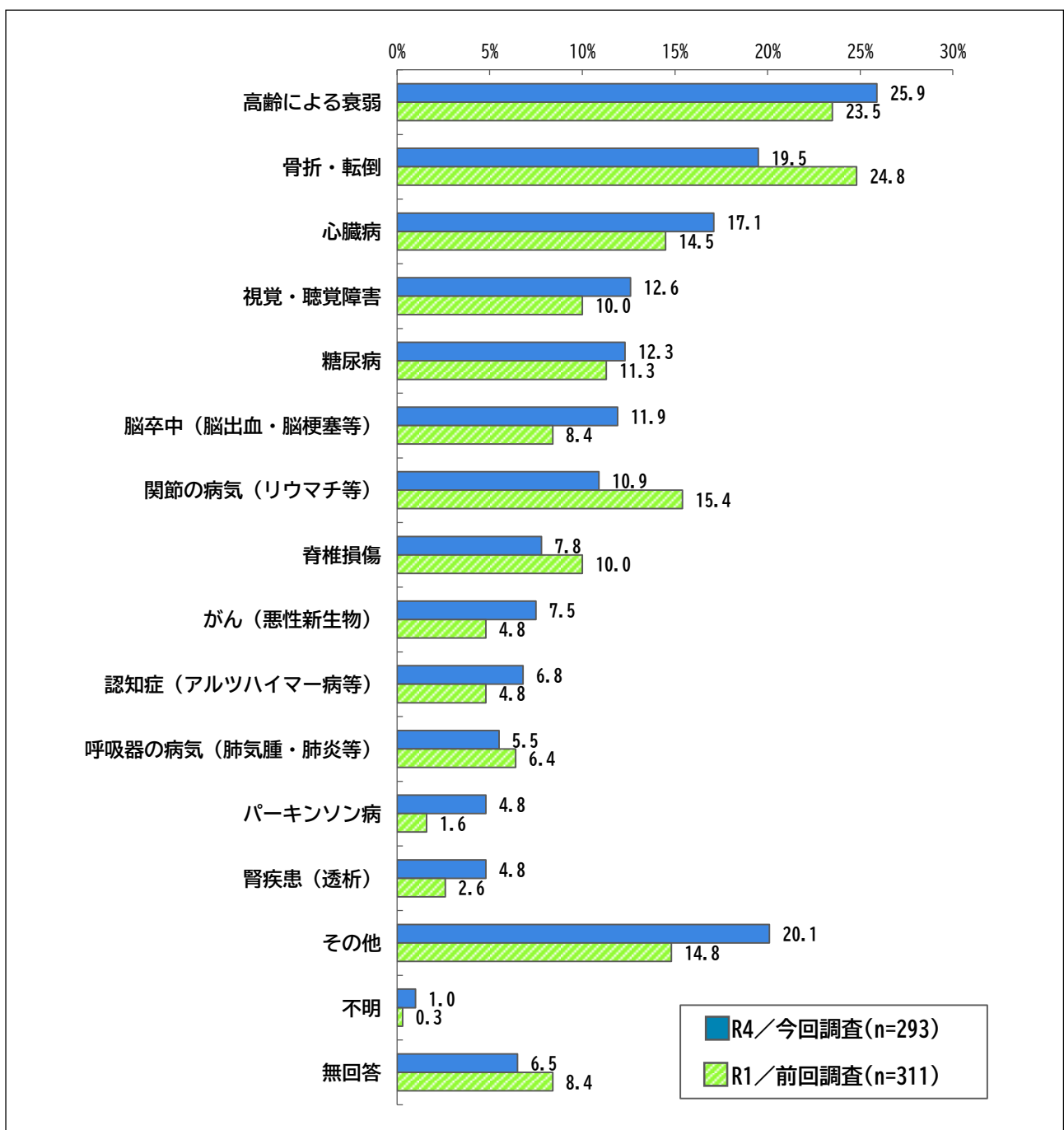
問1（2-1）介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。（いくつでも）

【全体の傾向】

介護・介助が必要になった原因についてみると、「高齢による衰弱」が25.9%、「骨折・転倒」(19.5%)、「心臓病」(17.1%)、「視覚・聴覚障がい」(12.6%)、「糖尿病」(12.3%)などとなっています。

前回調査と比較すると、「骨折・転倒」、「関節の病気（リウマチ等）」、「脊椎損傷」などの骨に関する原因や「呼吸器の病気（肺気腫・肺炎等）」が減少しています。

図表 5 介護・介助の主な原因（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

認定状況別にみると、いずれにおいても「高齢による衰弱」が第1位となっています。しかし、2位以降に差がみられ、一般高齢者では「糖尿病」や「脳卒中（脳出血・脳梗塞等）」が上位に挙がっていますが、総合事業対象者、要支援1・2では「関節の病気（リウマチ等）」や「視覚・聴覚障害」が上位に挙がっています。

図表 6 介護・介助の主な原因（全体、認定状況別／複数回答）

<上位5位/単位%>

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体(n=293)		高齢による衰弱 25.9	骨折・転倒 19.5	心臓病 17.1	視覚・聴覚障害 12.6	糖尿病 12.3
認定 状況 別	一般高齢者(n=159)	高齢による衰弱 20.8	心臓病 15.1	糖尿病 14.5	脳卒中（脳出血・脳梗塞等） ／骨折・転倒 13.8	
	総合事業対象者(n=9)	高齢による衰弱 55.6	骨折・転倒 22.2	関節の病気（リウマチ等） 11.1		
	要支援1・2(n=125)	高齢による衰弱	骨折・転倒	心臓病	視覚・聴覚障害	関節の病気 （リウマチ等）
		30.4	26.4	20.8	15.2	12.8

※問1(2)で「現在、何らかの介護を受けている」と答えた方のみ

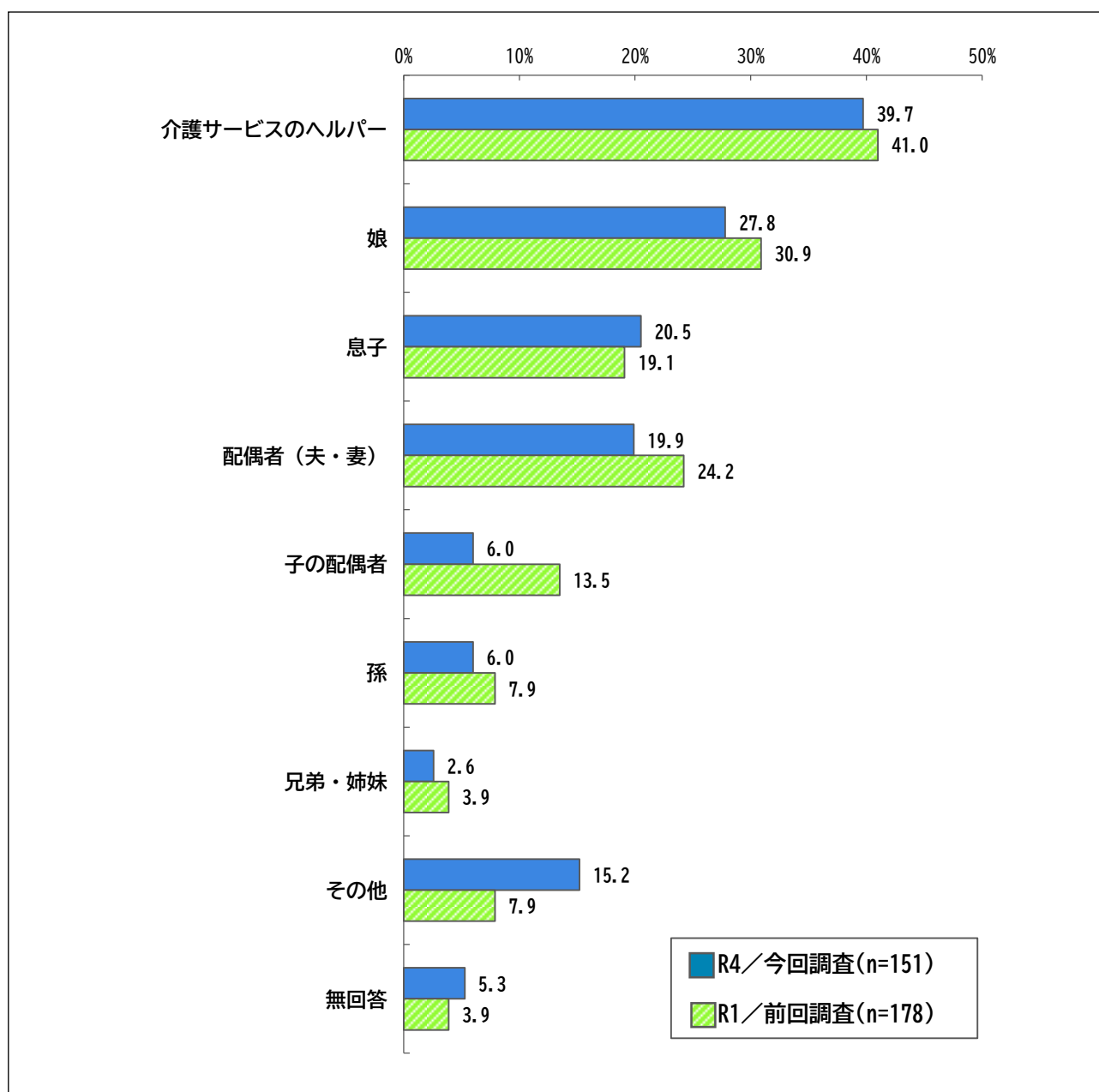
問1(2-2)主にどなたの介護・介助を受けていますか。(いくつでも)

【全体の傾向】

主にどなたの介護を受けているかについてみると、「介護サービスのヘルパー」が39.7%と最も多く、次いで「娘」(27.8%)、「息子」(20.5%)、「配偶者(夫・妻)」(19.9%)、「子の配偶者」、「孫」(いずれも6.0%)と続いています。

前回調査と比較すると、親族では「息子」が唯一増加しています。また、「子の配偶者」が前回の半分以下の割合となっています。

図表7 主な介護・介助者(全体、前回比較/複数回答)



【属性別の傾向】

家族構成別にみると、1人暮らしでは「介護サービスのヘルパー」、夫婦2人暮らしでは配偶者の年齢に関わらず「配偶者（夫・妻）」、息子・娘との2世帯およびその他では「娘」がそれぞれ第1位となっています。

図表 8 主な介護・介助者（全体、家族構成別／複数回答）

<上位3位/単位%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=151)		介護サービスのヘルパー 39.7	娘 27.8	息子 20.5
家族 構 成 別	1人暮らし(n=66)	介護サービスのヘルパー 59.1	娘 31.8	息子 22.7
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=31)	配偶者(夫・妻) 58.1	介護サービスのヘルパー 25.8	娘 16.1
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=2)	配偶者(夫・妻) 100.0		
	息子・娘との2世帯 (n=33)	娘 30.3	息子 27.3	介護サービスのヘルパー 24.2
	その他(n=18)	娘 33.3	配偶者(夫・妻) / 介護サービスのヘルパー 22.2	

(3) 現在の経済状況

問1 (3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

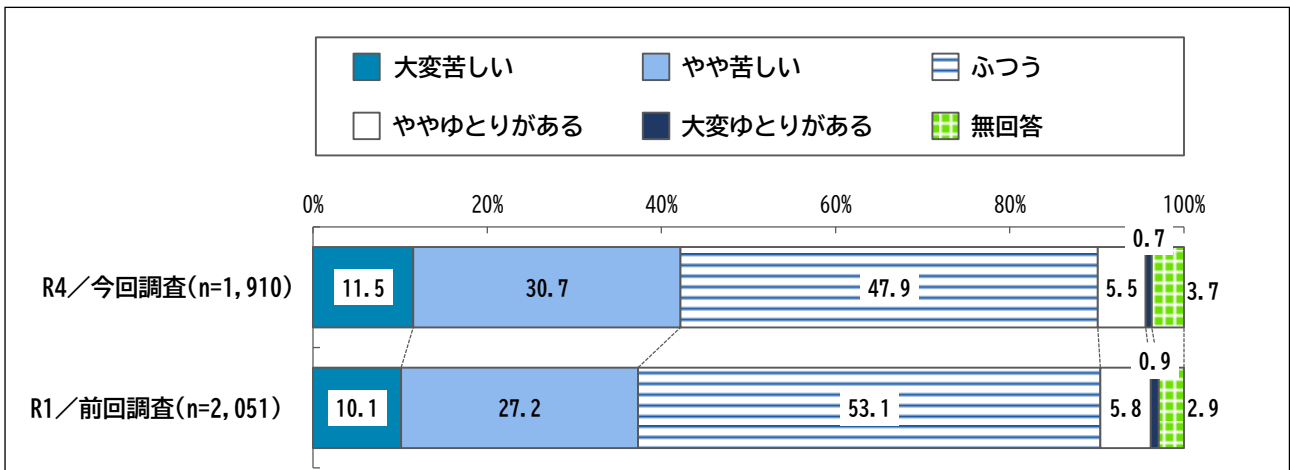
現在の暮らしの経済状況を見ると、「ふつう」が47.9%で最も高くなっています。

また、「大変苦しい」(11.5%)と「やや苦しい」(30.7%)を合計した『苦しい』は42.2%であるのに対し、「ややゆとりがある」(5.5%)と「大変ゆとりがある」(0.7%)を合わせた『ゆとりがある』は6.2%にとどまっています。前回調査と比較すると、「大変苦しい」、「やや苦しい」がいずれも増加し、『苦しい』とを感じる人が4.9ポイント増加しています。

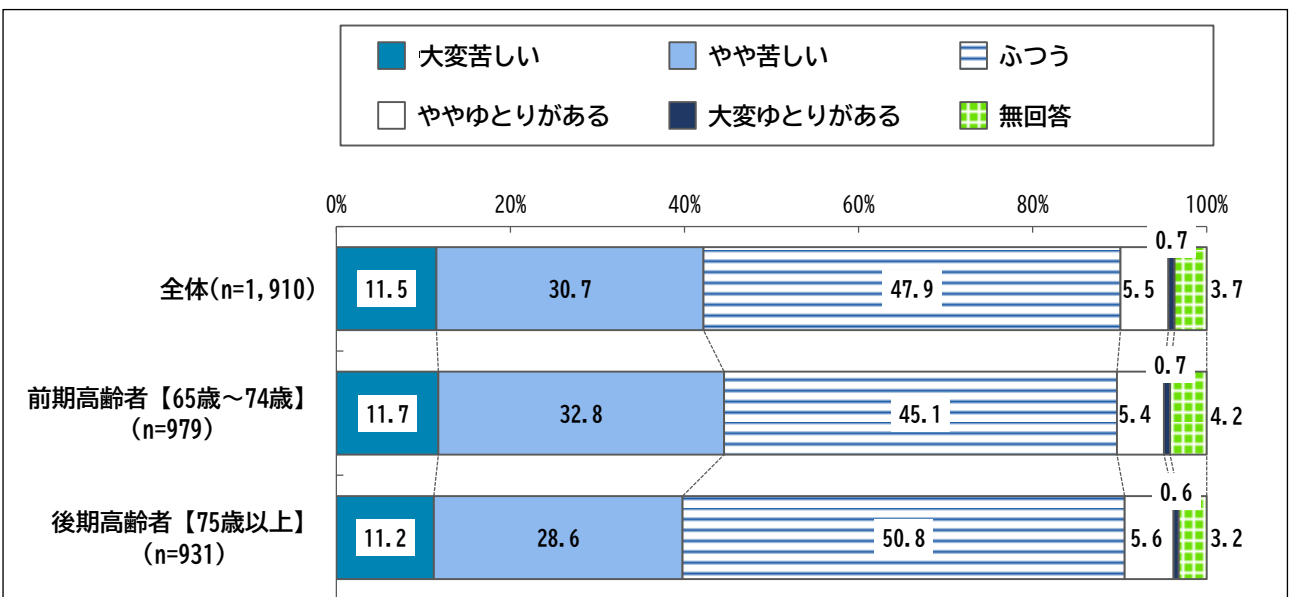
【属性別の傾向】

年齢構成別にみると、『苦しい』と感じている人は、前期高齢者(44.5%)が後期高齢者(39.8%)を4.7ポイント上回っています。

図表 9 現在の経済状況について (全体、前回比較)



図表 10 現在の経済状況について (全体、年齢構成別)



(4) 現在の住まいについて

問1 (4) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。(1つだけ)

【全体の傾向】

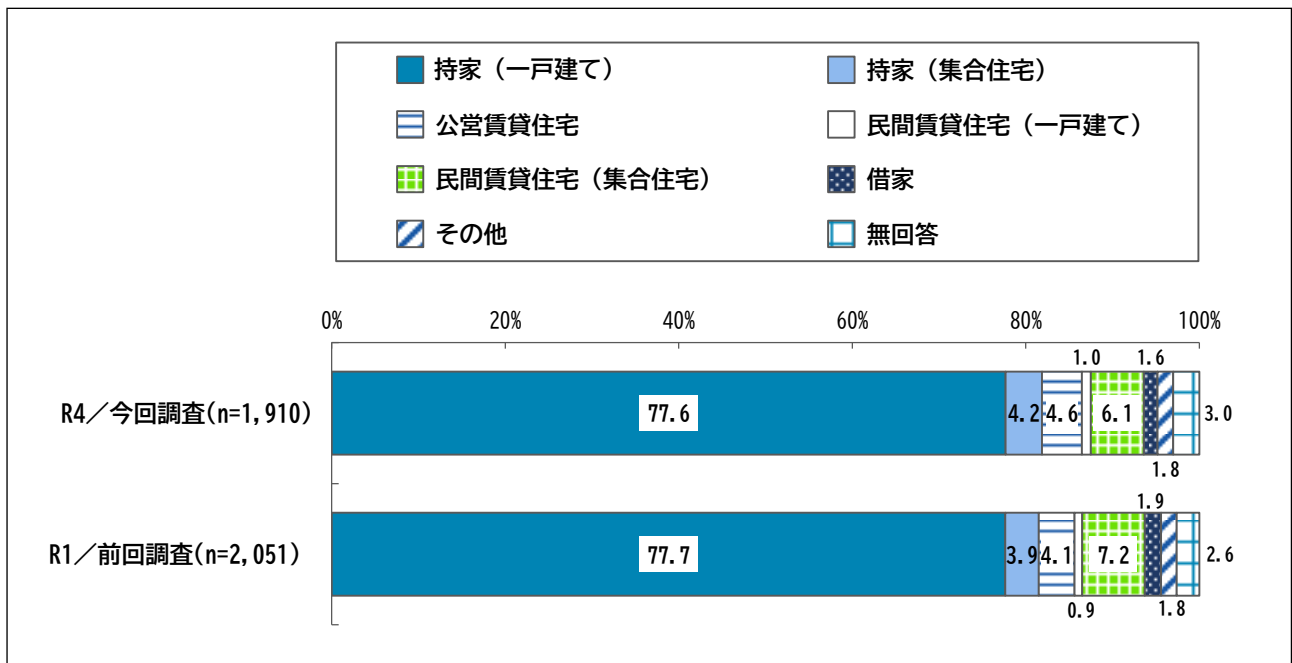
現在の住まいについてみると、「持家（一戸建て）」が77.6%を占めています。

前回調査と比較すると、「民間賃貸住宅（集合住宅）」が1.1ポイント減少していますが、概ね同様の傾向となっています。

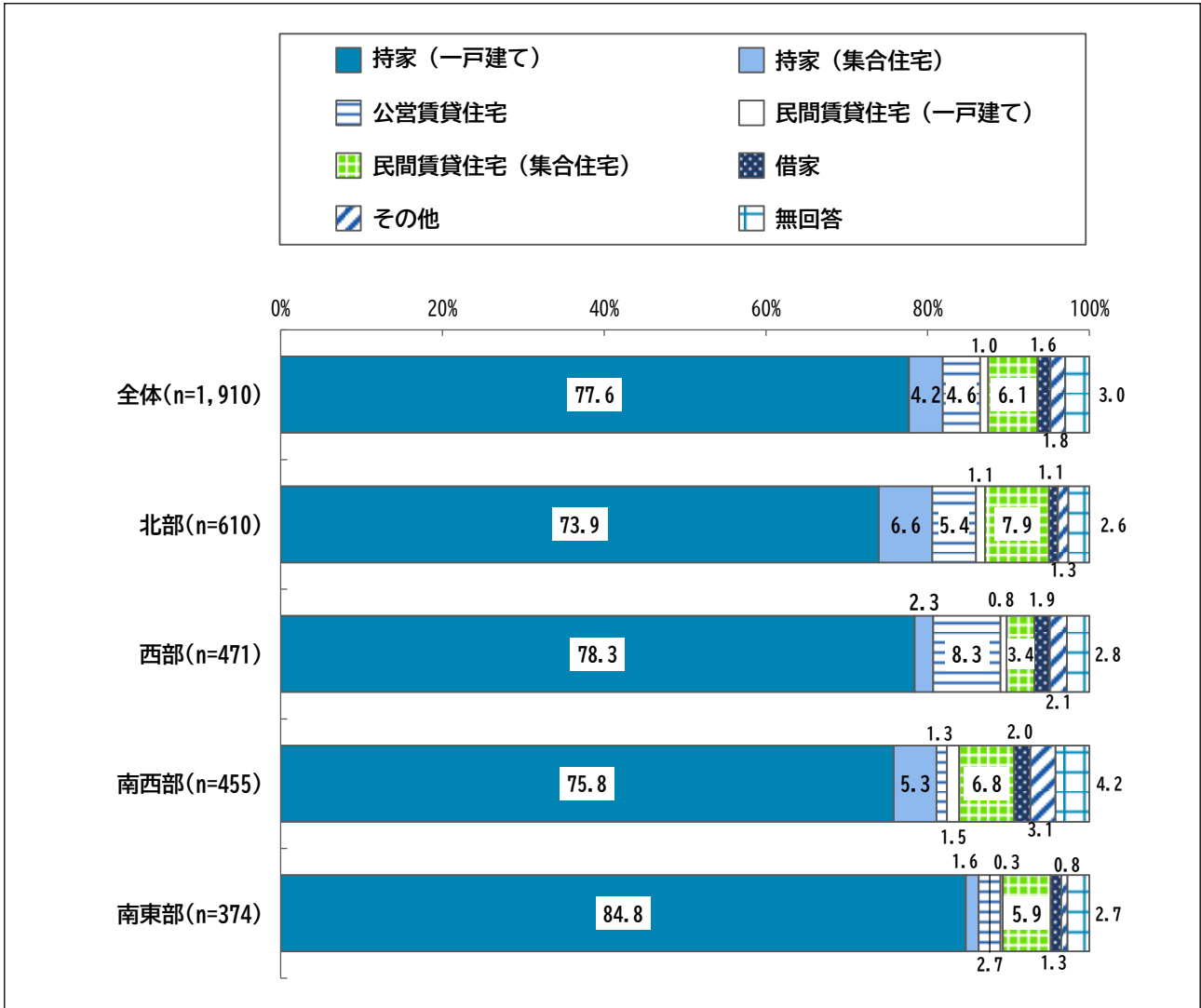
【属性別の傾向】

圏域別にみると、いずれの圏域においても「持家（一戸建て）」が7割以上を占めており、特に南東部では84.8%と8割を超えています。

図表 11 現在の住まいについて（全体、前回比較）



図表 12 現在の住まいについて（全体、圏域別）



2 からだを動かすことについて

(1) 運動器の機能について

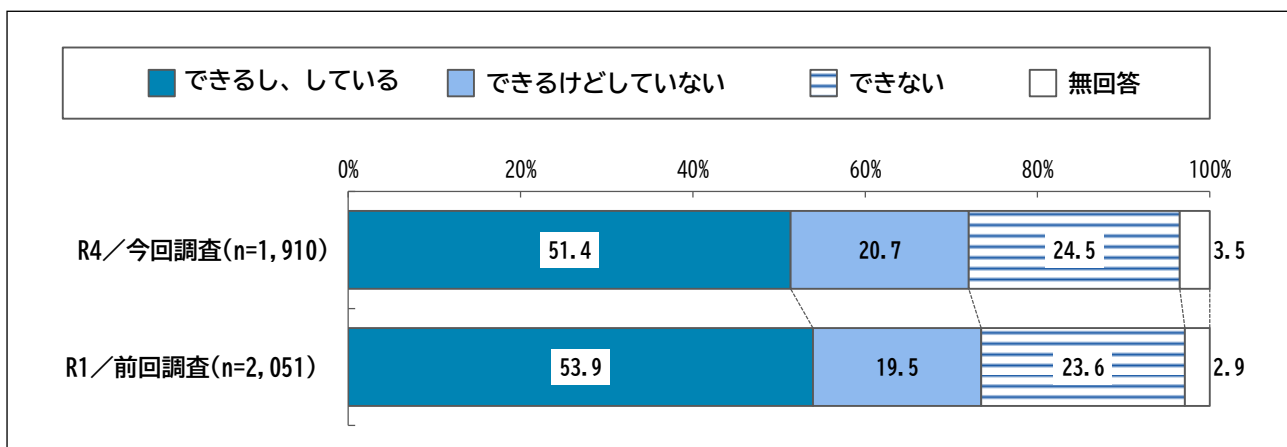
問2 (1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

階段を手すりや壁をつたわずに昇れるかどうかについてみると、「できるし、している」が51.4%と最も高く、半数以上の方が自分の力のみで昇ることができています。

前回調査と比較すると、「できるし、している」が2.5ポイント減少しています。

図表 13 階段を手すり等を使用せずに昇れるか(全体、前回比較)



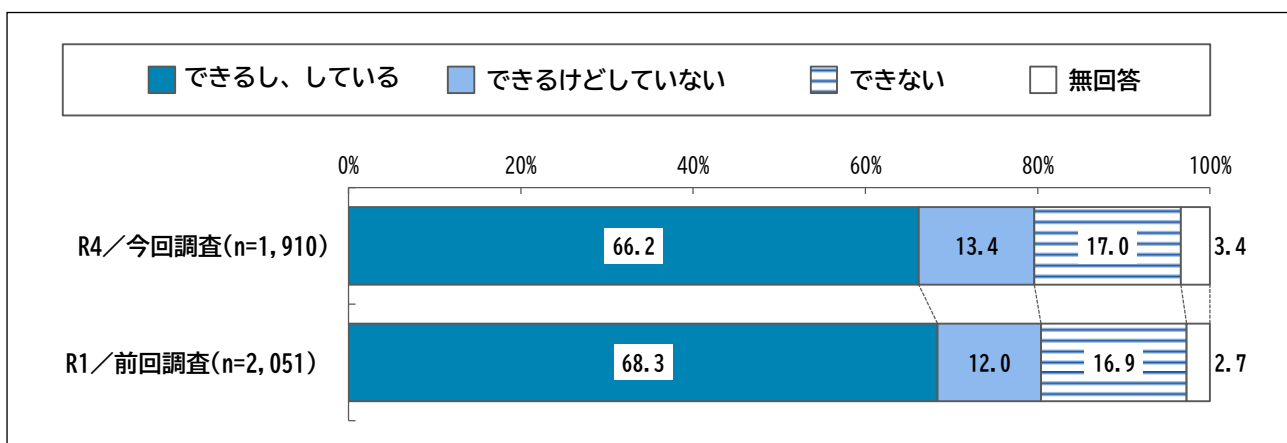
問2 (2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

椅子から何もつかまらずに立ち上がれるかどうかについてみると、「できるし、している」が66.2%と最も高く、6割以上が自分一人で立ち上がることができています。

前回調査と比較すると、「できるし、している」が2.1ポイント減少しています。

図表 14 椅子に座った状態から立ち上がれるか(全体、前回比較)

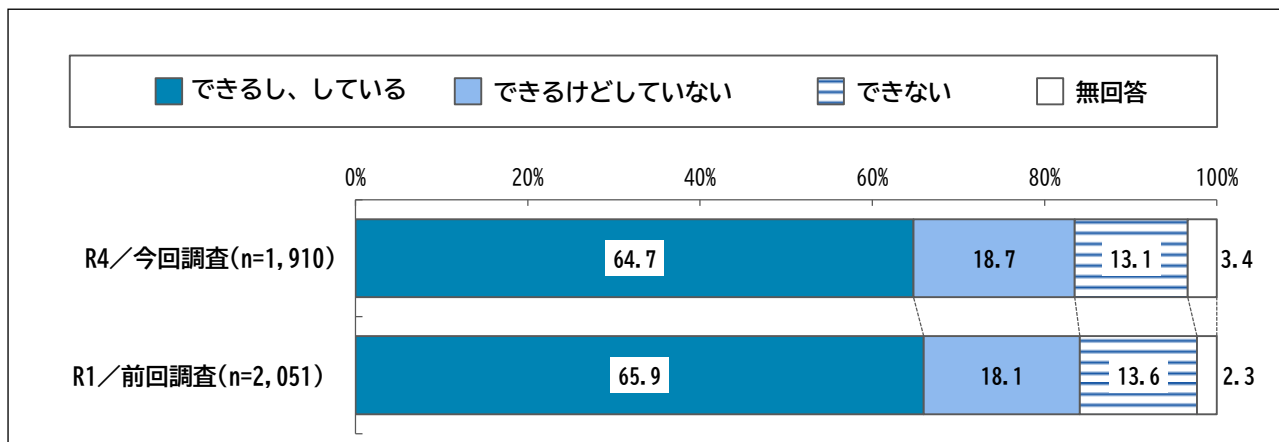


問2（3）15分位続けて歩いていますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

15分位続けて歩いているかどうかについてみると、「できるし、している」が64.7%と最も高くなっています。前回調査と比較すると、「できるし、している」が1.2ポイント減少しています。

図表 15 15分位続けて歩いているか（全体、前回比較）



（2）転倒について

問2（4）過去1年間に転んだ経験がありますか。（1つだけ）

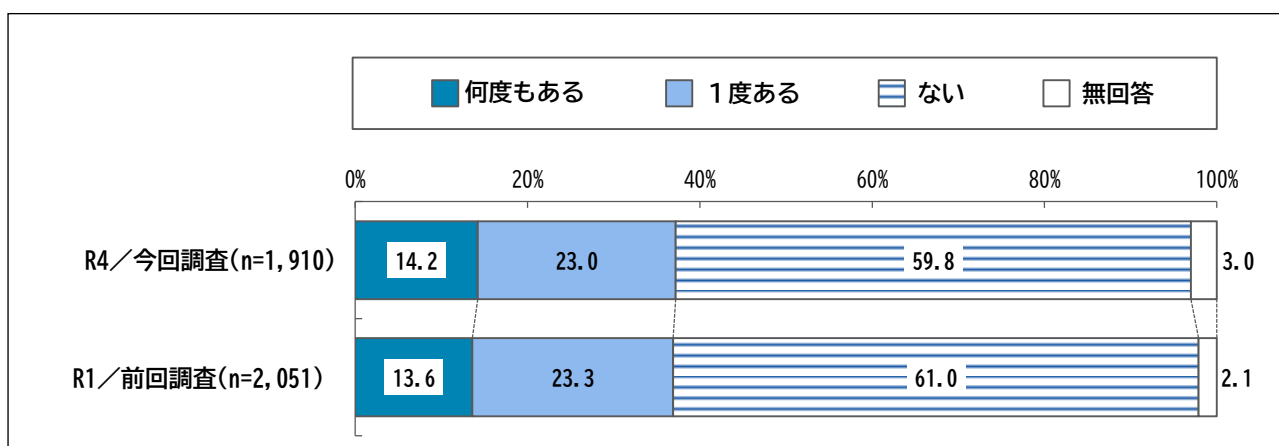
【全体の傾向】

過去1年間における転倒経験の有無についてみると、全体の59.8%が「ない」と回答しています。

一方、「何度もある」（14.2%）と「1度ある」（23.0%）を合計すると、37.2%が『転倒経験が1度以上ある』と回答しています。

前回調査と比較すると、「ない」が1.2ポイント減少しています。

図表 16 転倒の経験（全体、前回比較）



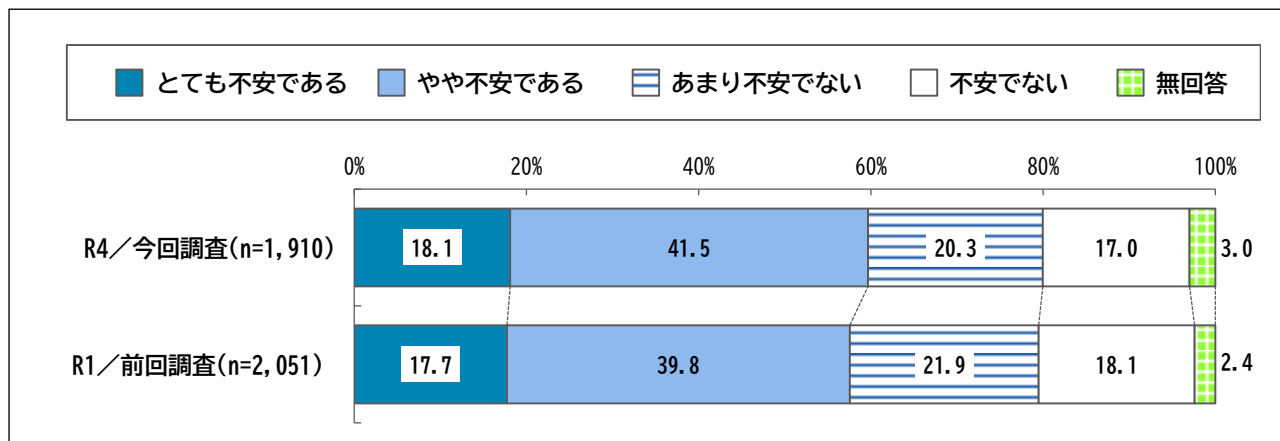
問2（5）転倒に対する不安は大きいですか。（1つだけ）

【全体の傾向】

転倒に対する不安についてみると、全体の41.5%が「やや不安である」と回答しており、「とても不安である」（18.1%）を合計すると、約6割の人が『転倒への不安を抱えている』という結果になっています。

前回調査と比較すると、『転倒への不安を抱えている』人は2.1ポイント増加しています。

図表 17 転倒に対する不安（全体、前回比較）



（3）外出について

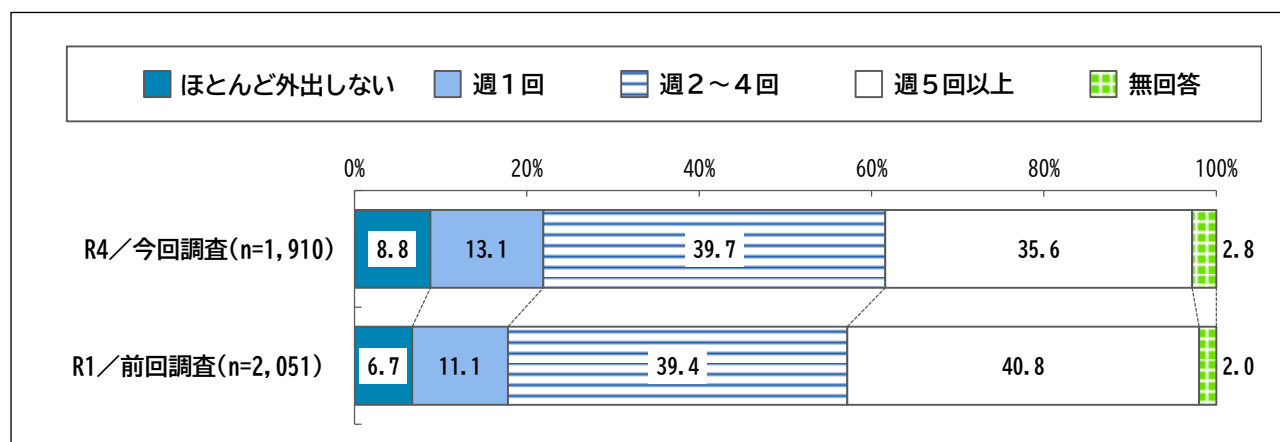
問2（6）週に1回以上は外出していますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

1週間当たりの外出回数についてみると、「週2～4回」が39.7%で最も高く、次いで「週5回以上」（35.6%）、「週1回」（13.1%）となっています。一方、「ほとんど外出しない」は8.8%となっています。

前回調査と比較すると、ほとんど外出しない又は週1～4回程度外出する人の割合が増加し、週5回以上外出する人の割合は減少しています。

図表 18 1週間当たりの外出回数について（全体、前回比較）



問2（7）昨年と比べて外出の回数が減っていますか。（1つだけ）

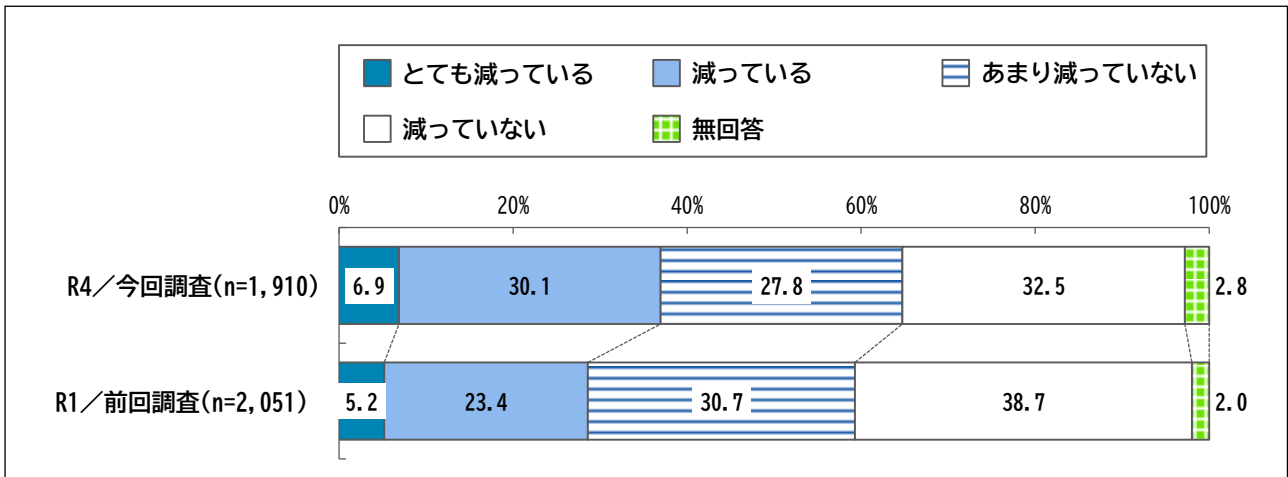
【全体の傾向】

昨年と比べて外出回数が減っているかどうかをみると、「減っていない」が32.5%で最も高くなっています。

一方、「とても減っている」(6.9%)と「減っている」(30.1%)を合計すると全体の37.0%が外出回数について『減っている』と回答しています。

前回調査と比較すると、『減っている』が8.4ポイント増加しています。

図表 19 昨年と比較した外出回数について（全体、前回比較）



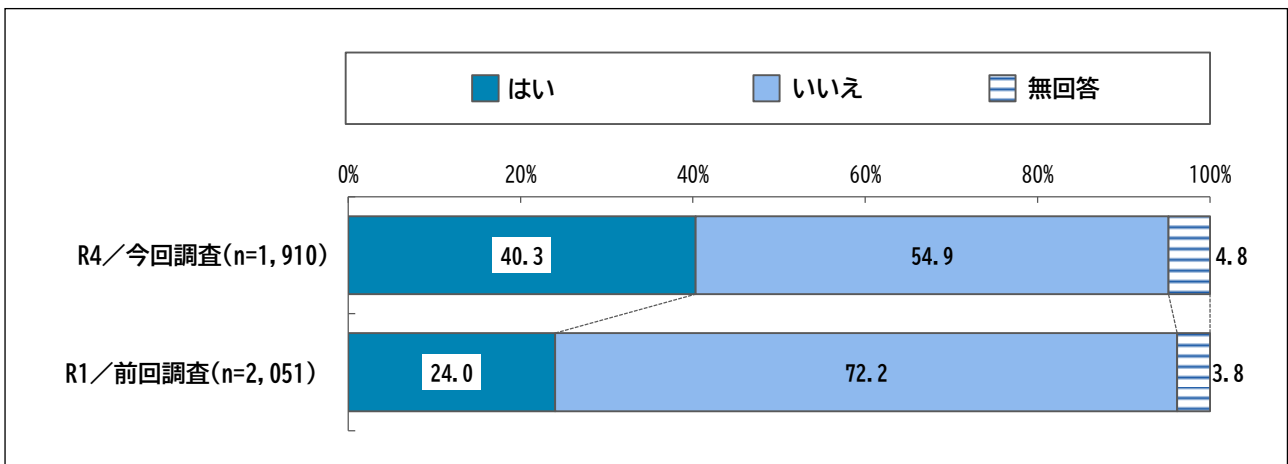
問2（8）外出を控えていますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

外出を控えているかどうかをみると、「はい」が40.3%、「いいえ」が54.9%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が16.3ポイント増加しています。

図表 20 外出を控えているか（全体、前回比較）



※問2(8)で「はい(控えている)」と答えた方のみ

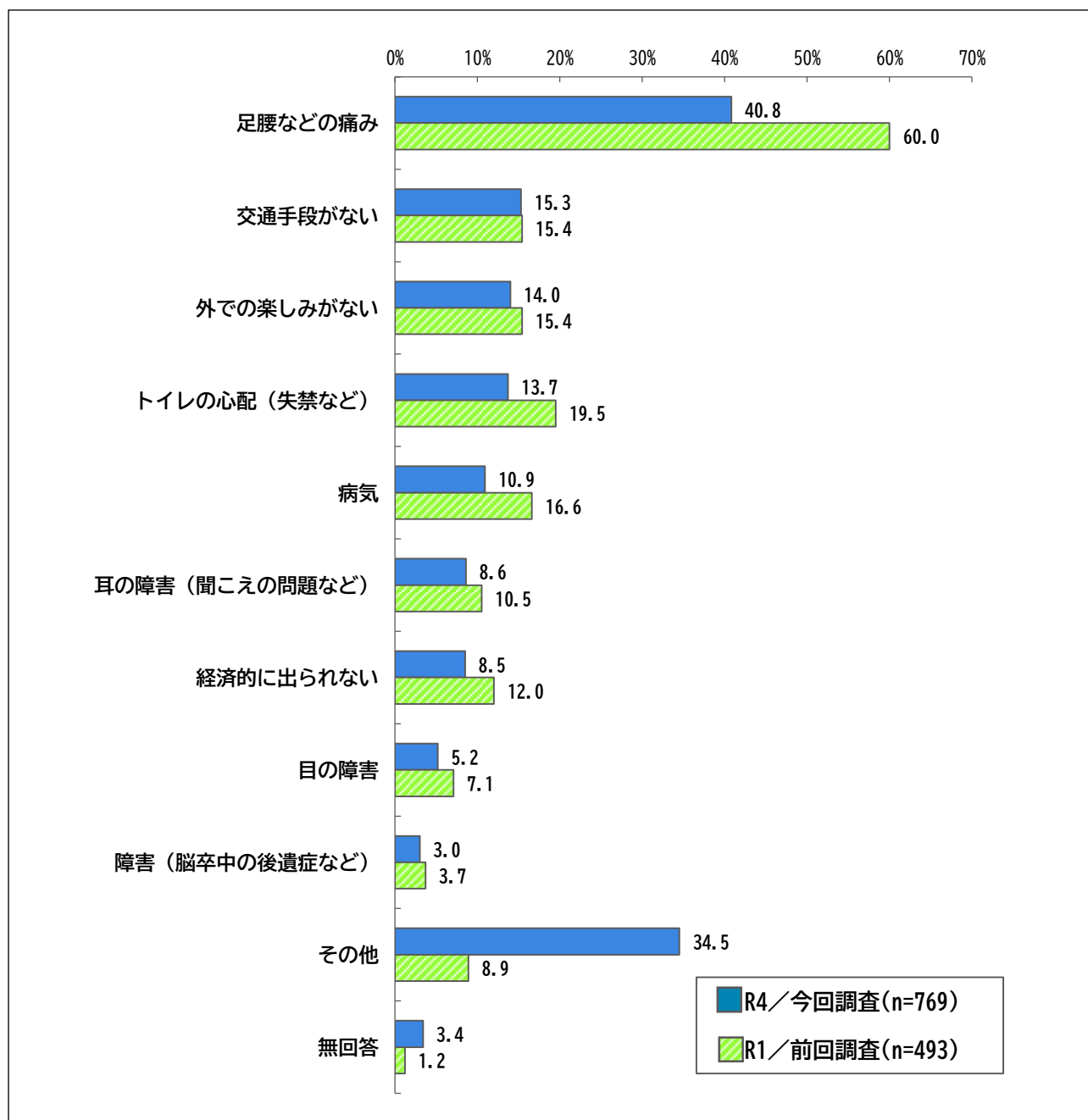
問2(8-1)外出を控えている理由は、次のどれですか。(いくつでも)

【全体の傾向】

外出を控えている理由についてみると、「足腰などの痛み」が40.8%で最も多くなっています。また、「その他」(34.5%)が第2位となっていますが、その内容としては約9割が新型コロナウイルス対策と回答しています。

前回調査と比較すると、「足腰などの痛み」が19.2ポイント減少しています。

図表 21 外出を控えている理由(全体、前回比較/複数回答)



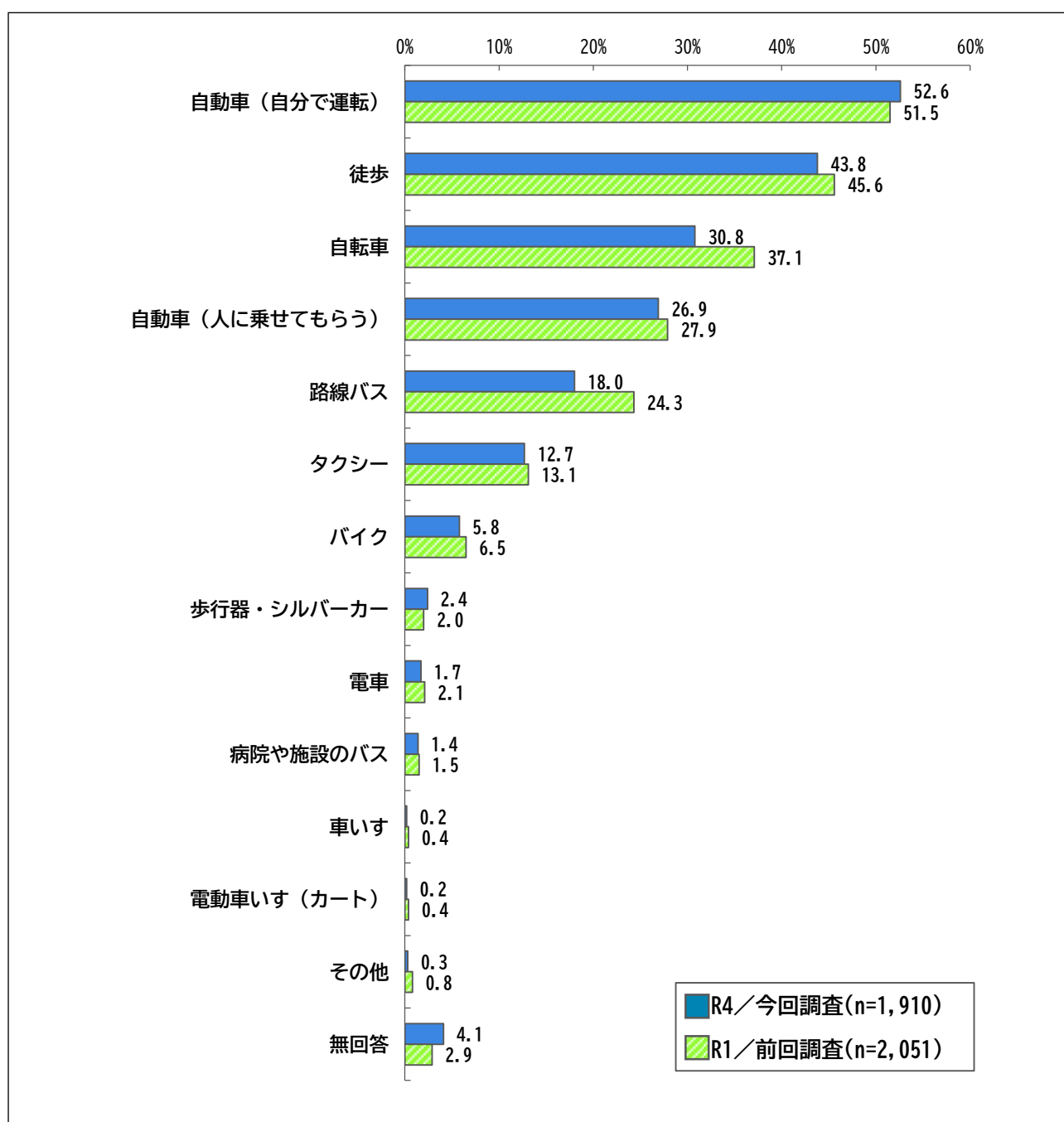
問2（9）外出する際の移動手段は何ですか。（いくつでも）

【全体の傾向】

外出する際の移動手段についてみると、「自動車（自分で運転）」が52.6%で最も多く、次いで、「徒歩」（43.8%）、「自転車」（30.8%）「自動車（人に乗せてもらう）」（26.9%）、「路線バス」（18.0%）と続いています。

前回調査と比較すると、「自動車（自分で運転）」、「歩行器・シルバーカー」は増加していますが、それ以外の交通手段の割合は全て減少しています。

図表 22 外出する際の移動手段（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

家族構成別にみると、1人暮らしでは「徒歩」が第1位、「自転車」が第2位となっており他との違いがみられます。

圏域別にみると、南西部では「徒歩」が第1位となっています。

閉じこもりリスク判定別にみると、リスク該当者では「自動車（人に乗せてもらう）」、リスク非該当者では「自動車（自分で運転）」がそれぞれ第1位となっています。また、リスク該当者では「タクシー」が第3位に、リスク非該当者では「路線バス」が第5位にそれぞれ挙がっています。

図表 23 外出する際の移動手段（全体、家族構成別、圏域別、閉じこもりリスク別／複数回答）

<上位5位/単位%>

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体(n=1,910)		自動車（自分で運転） 52.6	徒歩 43.8	自転車 30.8	自動車（人に乗せてもらう） 26.9	路線バス 18.0
家族構成別	1人暮らし(n=454)	徒歩 45.2	自転車 35.0	自動車（自分で運転） 34.1	路線バス 28.2	自動車（人に乗せてもらう） 24.0
	夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）(n=698)	自動車（自分で運転） 63.8	徒歩 43.4	自転車 28.7	自動車（人に乗せてもらう） 24.8	路線バス 14.5
	夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）(n=86)	自動車（自分で運転） 75.6	徒歩 47.7	自転車 31.4	路線バス 12.8	自動車（人に乗せてもらう） 11.6
	息子・娘との2世帯(n=360)	自動車（自分で運転） 48.9	徒歩 42.5	自動車（人に乗せてもらう） 38.3	自転車 30.3	路線バス 14.4
	その他(n=267)	自動車（自分で運転） 55.1	徒歩 44.9	自転車 28.5	自動車（人に乗せてもらう） 27.7	路線バス 16.1
圏域別	北部(n=610)	自動車（自分で運転） 52.6	徒歩 43.0	自転車 34.8	自動車（人に乗せてもらう） 24.8	路線バス 15.7
	西部(n=471)	自動車（自分で運転） 54.1	徒歩 40.3	自動車（人に乗せてもらう） 29.5	自転車 28.7	路線バス 15.7
	南西部(n=455)	徒歩 50.8	自動車（自分で運転） 48.1	自転車 31.0	自動車（人に乗せてもらう） 26.8	路線バス 22.9
	南東部(n=374)	自動車（自分で運転） 55.9	徒歩 41.2	自動車（人に乗せてもらう） 27.3	自転車 27.0	路線バス 18.4
閉じこもりリスク別	該当 (n=419)	自動車（人に乗せてもらう） 42.5	徒歩 32.9	タクシー 26.3	自動車（自分で運転） 24.8	自転車 19.8
	非該当 (n=1,491)	自動車（自分で運転） 60.4	徒歩 46.9	自転車 33.9	自動車（人に乗せてもらう） 22.5	路線バス 17.6

3 食べることについて

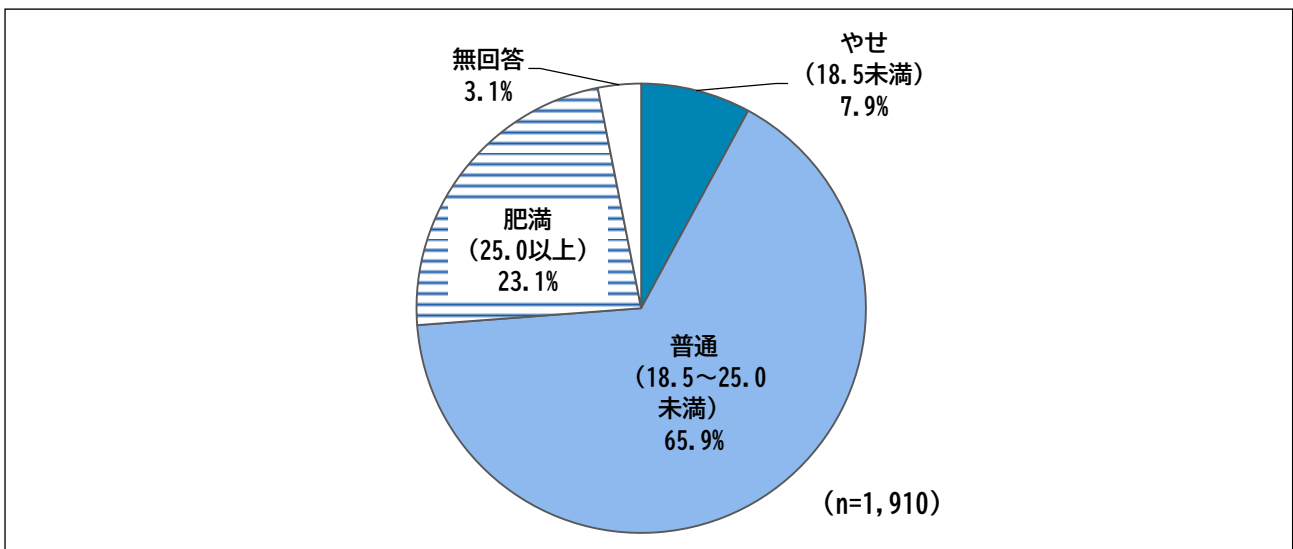
(1) BMI算出

問3 (1) 身長・体重を教えてください。

【全体の傾向】

身長及び体重の記載から算出したBMI値については、「普通（18.5～25.0未満）」が65.9%と6割を超えています。一方、「やせ（18.5未満）」は7.9%、「肥満（25.0以上）」は23.1%となっています。

図表 24 BMI値（全体）



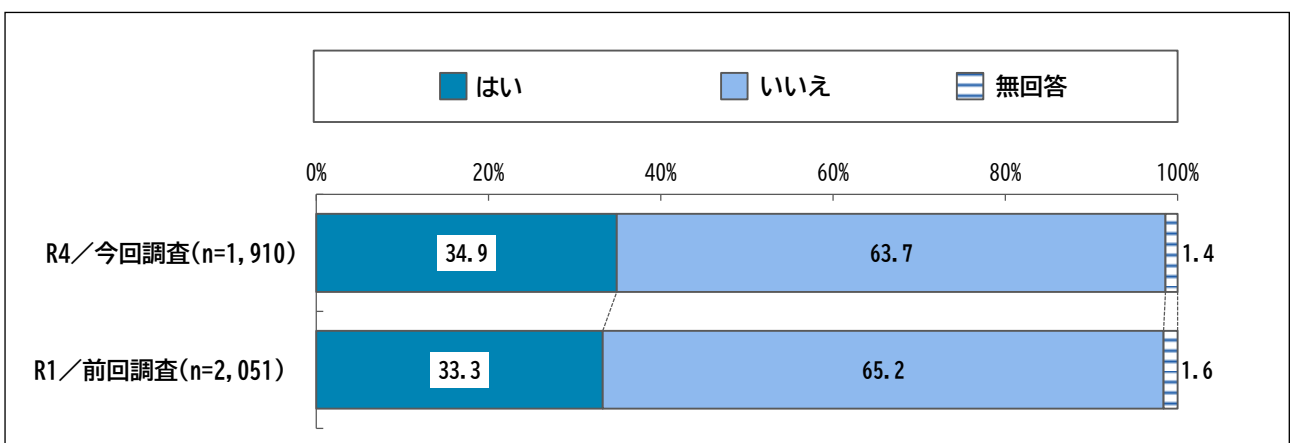
(2) 口腔機能について

問3 (2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(1つだけ)

【全体の傾向】

半年前に比べて固いものが食べにくいかどうかをみると、「はい」が34.9%となっています。前回調査と比較すると「はい」が1.6ポイント増加しています。

図表 25 固いものが食べにくくなったか（全体、前回比較）

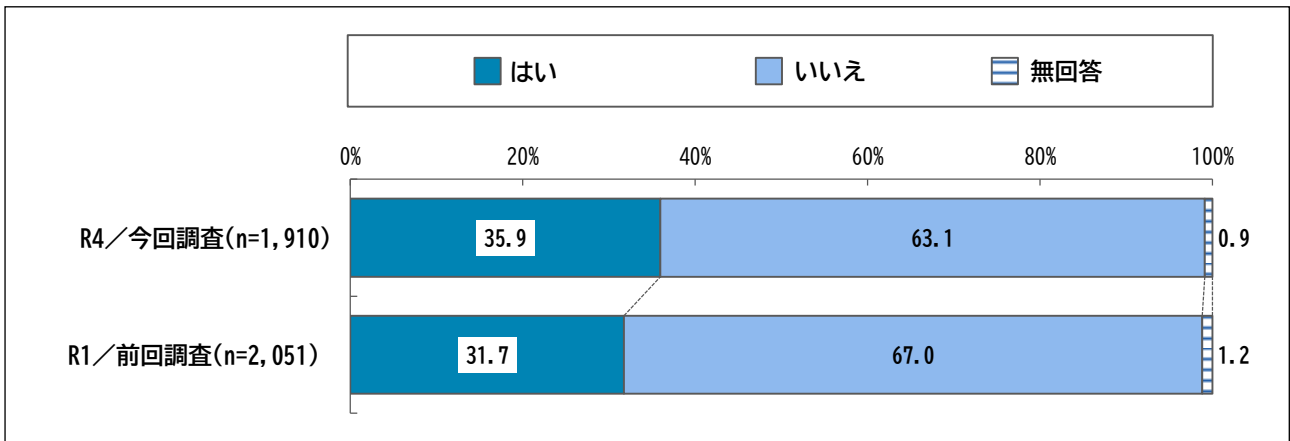


問3（3）お茶や汁物等でむせることがありますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

お茶や汁物等でむせることがあるかをみると、「はい」が35.9%、「いいえ」が63.1%となっています。前回調査と比較すると、「はい」が4.2ポイント増加しています。

図表 26 お茶や汁物等でむせることがあるか（全体、前回比較）

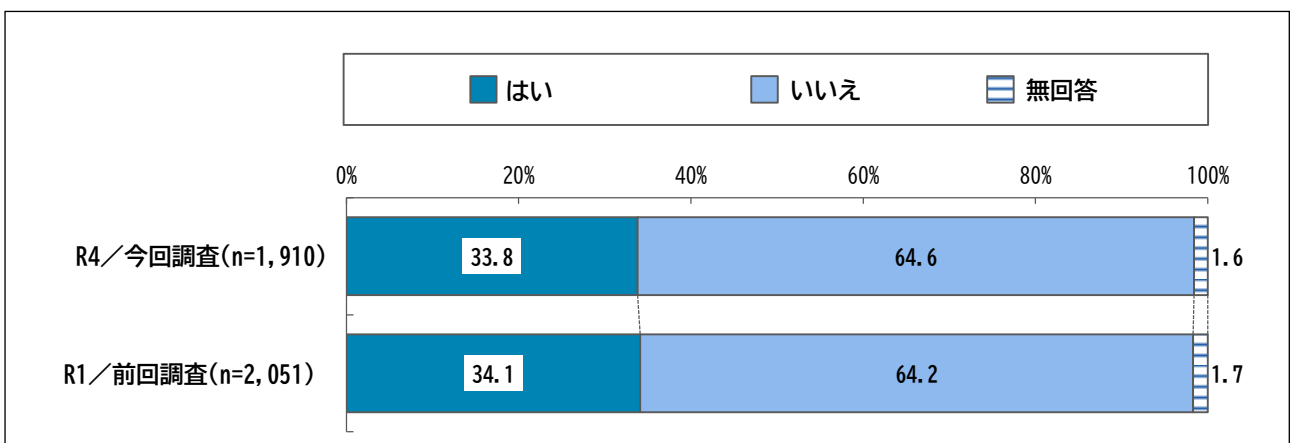


問3（4）口の渇きが気になりますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

口の渇きが気になるかをみると、「はい」が33.8%、「いいえ」が64.6%となっています。前回調査と比較すると、割合に大きな違いはみられません。

図表 27 口の渇きが気になるか（全体、前回比較）

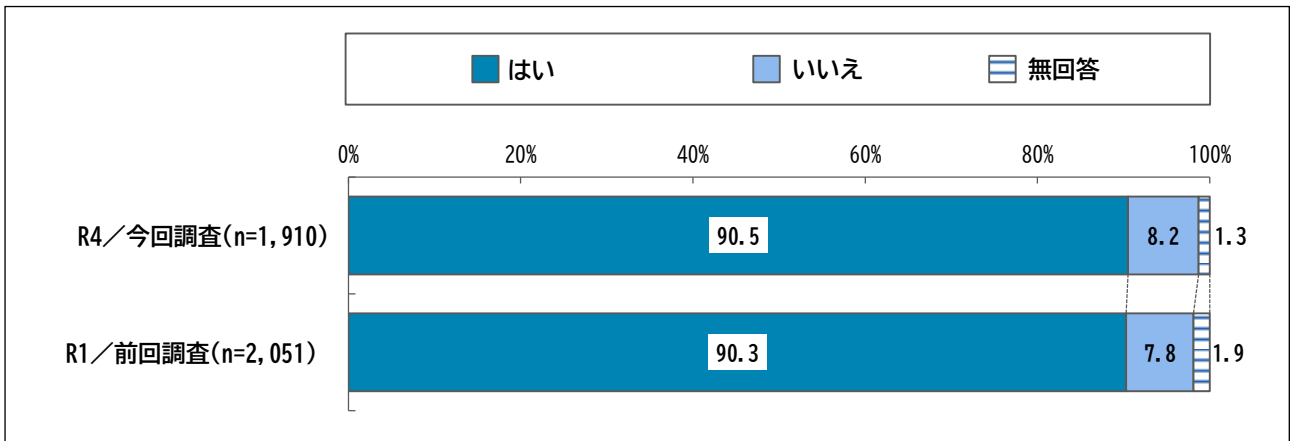


問3（5）歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

歯磨きを毎日しているかをみると、「はい」が90.5%、「いいえ」が8.2%となっています。
 前回調査と比較すると、割合に大きな違いはみられません。

図表 28 歯磨きを毎日しているか（全体、前回比較）



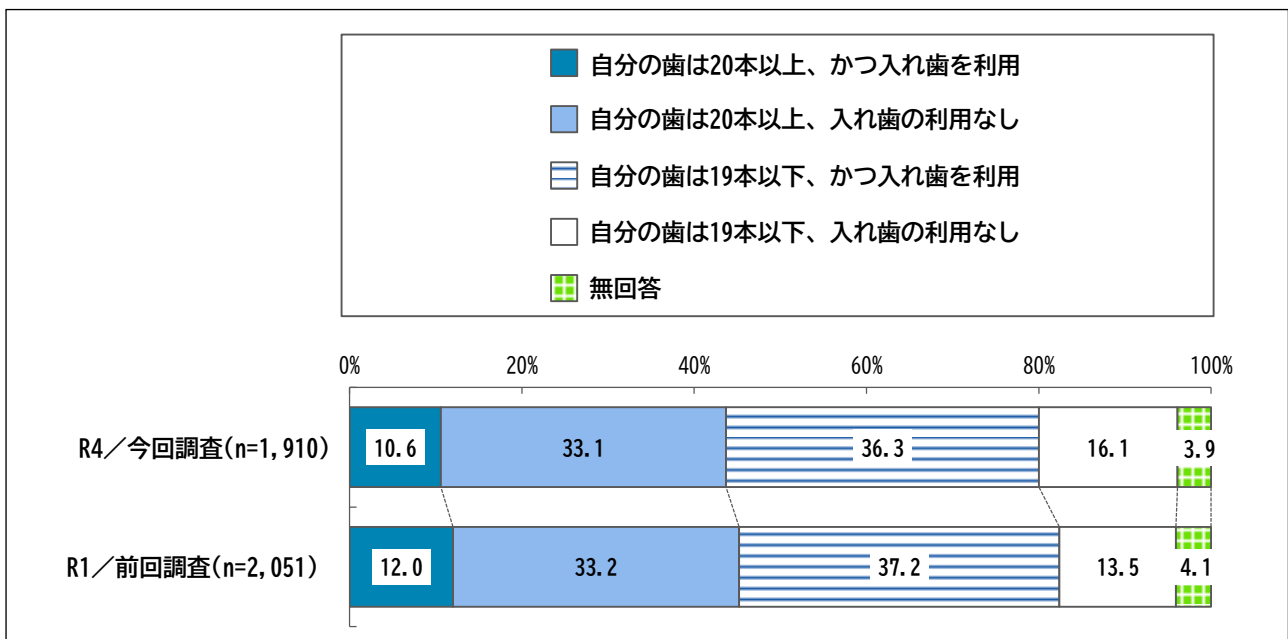
問3（6）歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。（1つだけ）

（成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です）

【全体の傾向】

歯の本数と、入れ歯の利用状況をみると、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が36.3%と最も高くなっています。前回調査と比較すると、自分の歯が20本以上残っている人の割合が減少しています。

図表 29 歯の本数と入れ歯の利用状況（全体、前回比較）

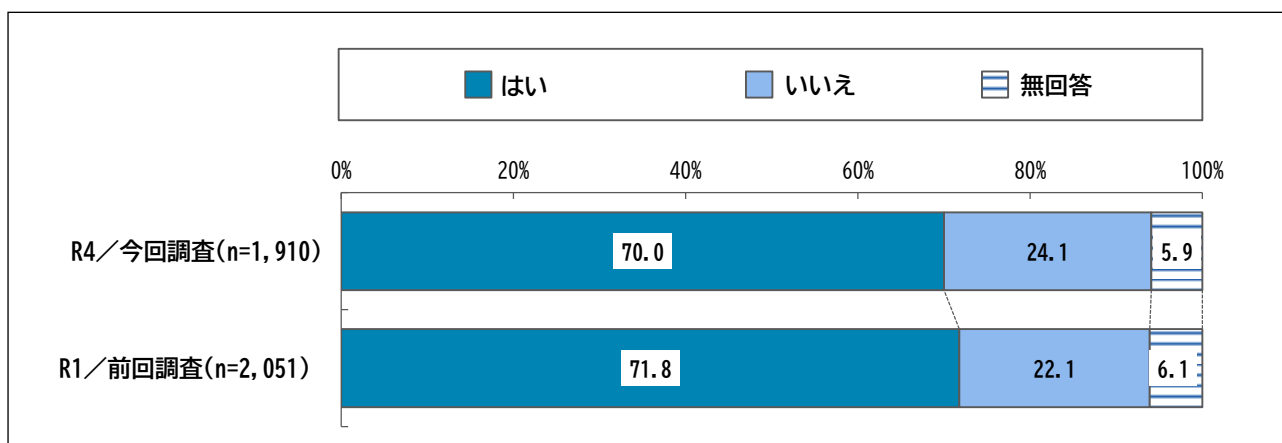


問3（6-1）噛み合わせは良いですか。（1つだけ）

【全体の傾向】

噛み合わせが良いかをみると、「はい」が70.0%、「いいえ」が24.1%となっています。
 前回調査と比較すると、「はい」が1.8ポイント減少しています。

図表 30 噛み合わせが良いか（全体、前回比較）



※問3（6）で「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」と答えた方のみ

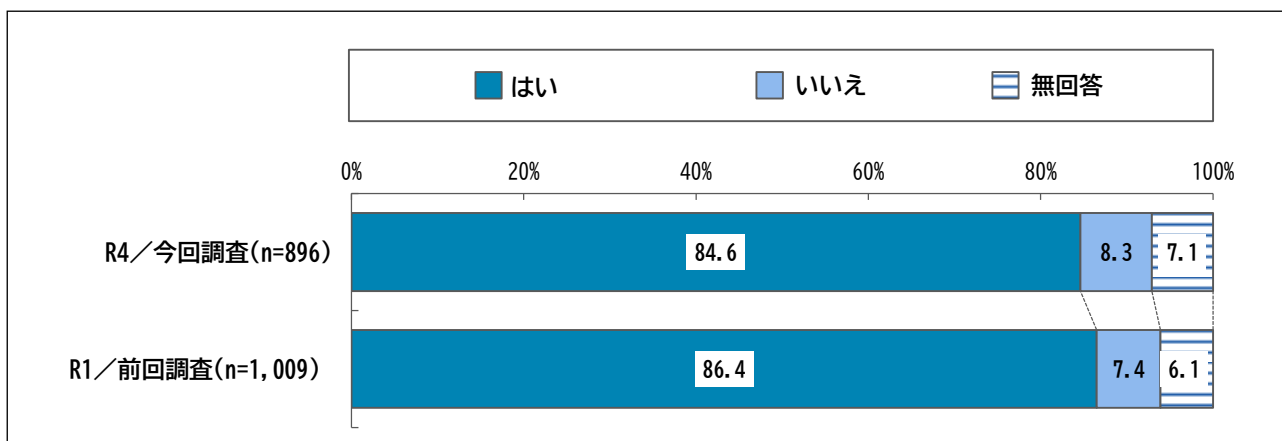
問3（6-2）毎日入れ歯の手入れをしていますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

毎日入れ歯の手入れをしているかについてみると、「はい」が84.6%、「いいえ」が8.3%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が1.8ポイント減少しています。

図表 31 毎日入れ歯の手入れをしているか（全体、前回比較）



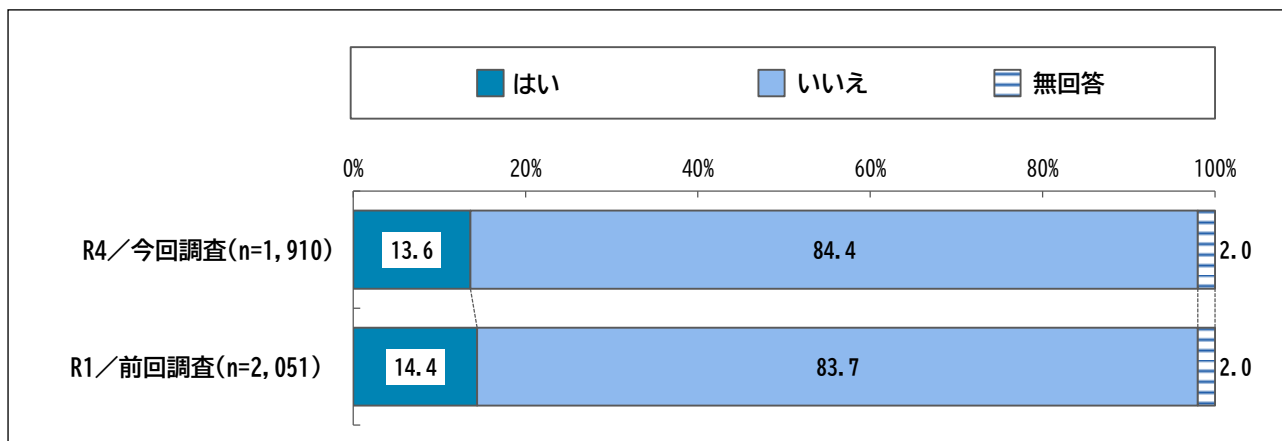
(3) 体重減少について

問3 (7) 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。(1つだけ)

【全体の傾向】

6か月間で体重減少があったかについてみると、「はい」が13.6%、「いいえ」が84.4%となっています。前回調査と比較すると、割合に大きな違いはみられません。

図表 32 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか（全体、前回比較）



(4) 孤食の状況について

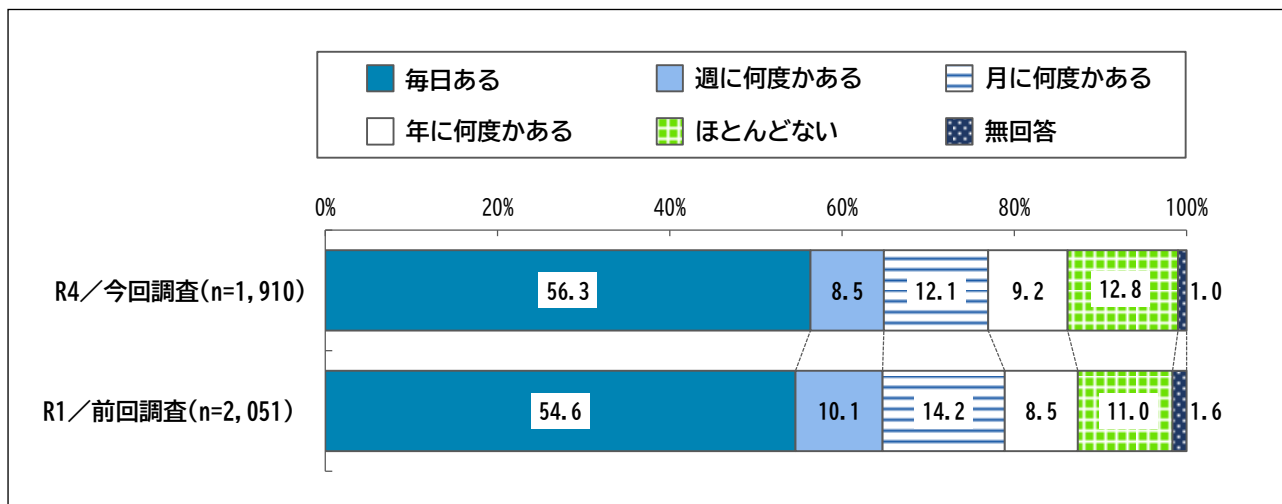
問3 (8) どなたかと食事をともにする機会がありますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

誰かと食事をともにする機会の有無についてみると、「毎日ある」が56.3%を占めており、次いで「ほとんどない」(12.8%)、「月に何度かある」(12.1%)、「年に何度かある」(9.2%)、「週に何度かある」(8.5%)となっています。

前回調査と比較すると、「毎日ある」が1.7ポイント増加しています。

図表 33 誰かと食事をともにする機会の有無について（全体、前回比較）



4 毎日の生活について

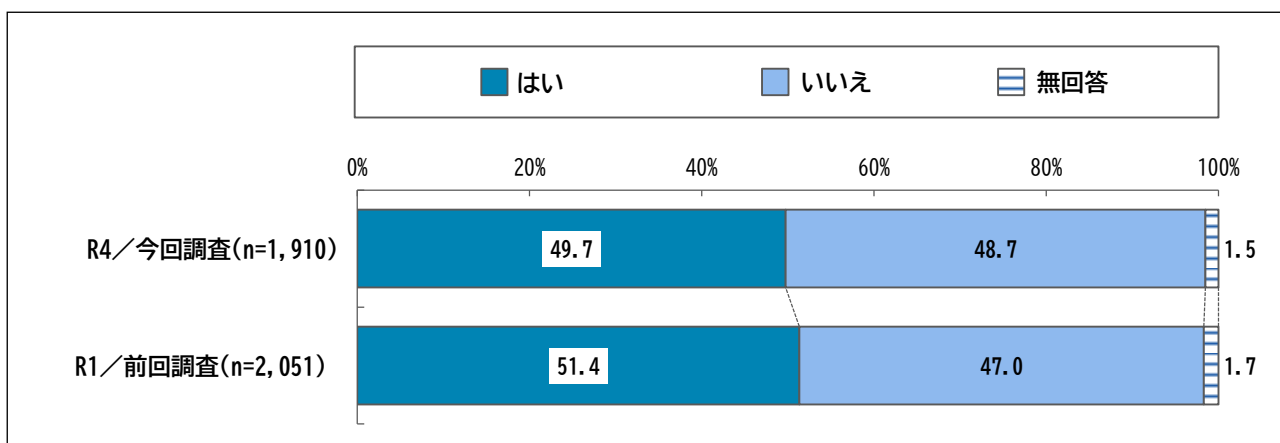
(1) 認知機能について

問4 (1) 物忘れが多いと感じますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

物忘れが多いと感じるかどうかについてみると、「はい」が49.7%、「いいえ」が48.7%となっています。前回調査と比較すると、「はい」が1.7ポイント減少しています。

図表 34 物忘れが多いと感じるか（全体、前回比較）



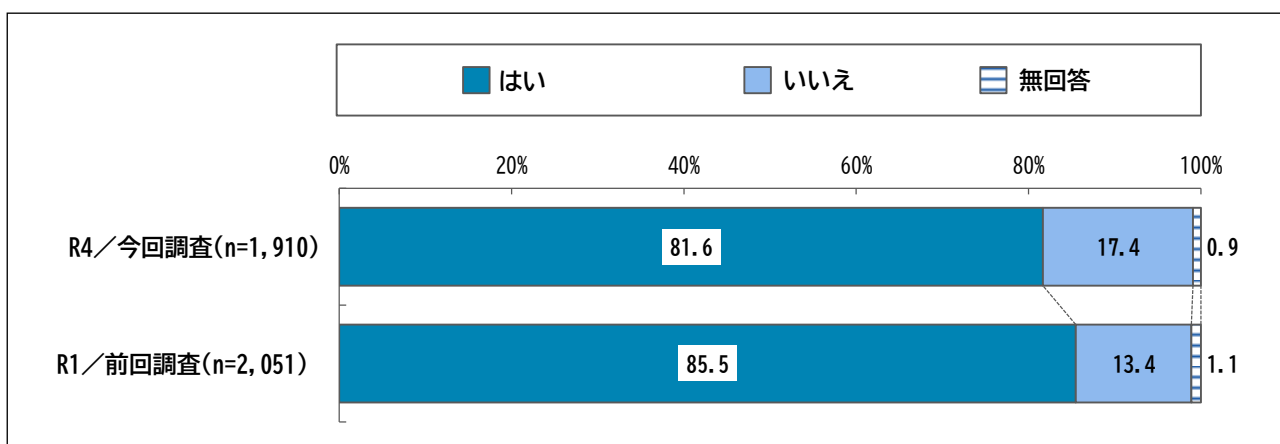
問4 (2) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

自分で電話番号を調べて、電話をかけているかについてみると、「はい」が81.6%、「いいえ」が17.4%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が3.9ポイント減少しています

図表 35 自分で電話番号を調べて、電話をかけているか（全体、前回比較）



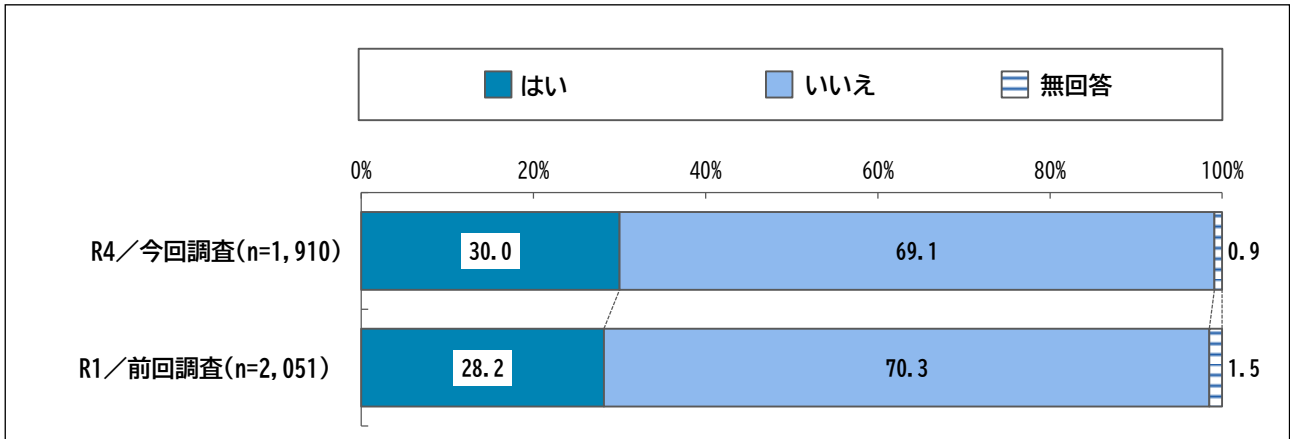
問4（3）今日が何月何日かわからない時がありますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

今日が何月何日かわからない時があるかについてみると、「はい」が30.0%、「いいえ」が69.1%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が1.8ポイント増加しています。

図表 36 今日が何月何日かわからない時があるか（全体、前回比較）



（2）＜IADL：手段的日常生活動作＞について（老研式活動能力指標）

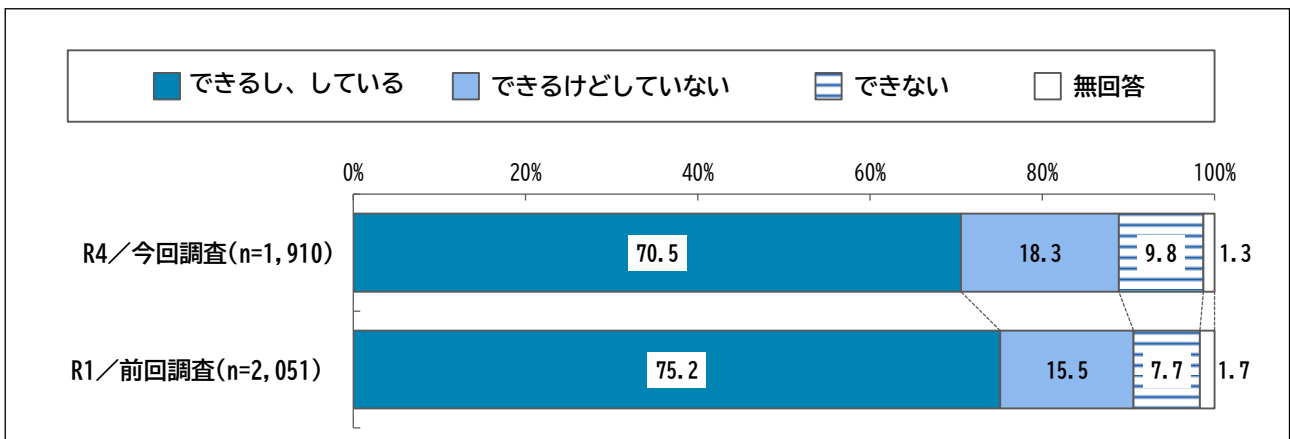
問4（4）バスや電車を使って1人で外出していますか。【自家用車でも可】（1つだけ）

【全体の傾向】

バスや電車を使って1人で外出しているかどうかをみると、「できるし、している」が70.5%に対し、「できない」は9.8%となっています。

前回調査と比較すると、「できるし、している」が4.7ポイント減少しています。

図表 37 1人で外出をしているか（全体、前回比較）



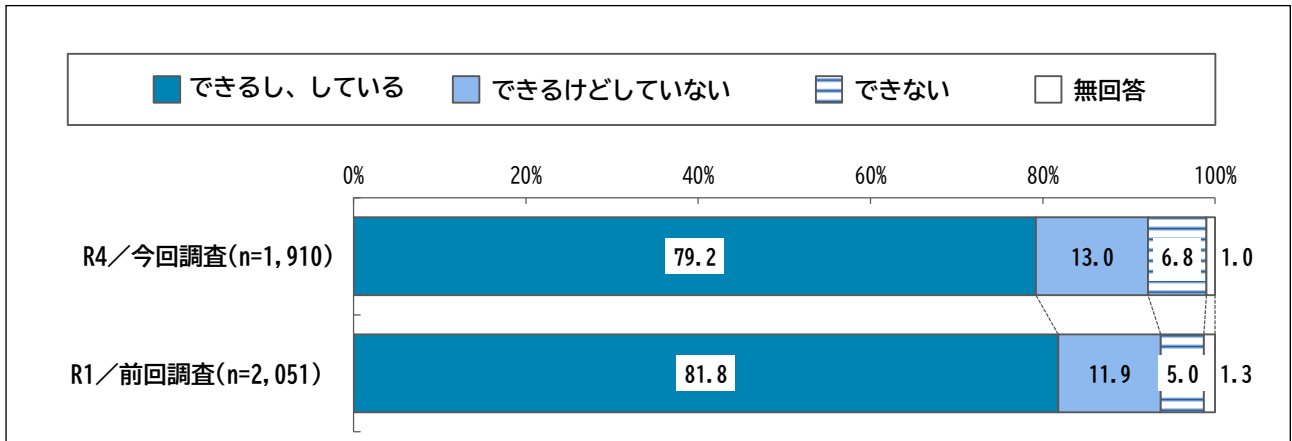
問4（5）自分で食品・日用品の買物をしていますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

自分で食品や日用品の買物をしているかどうかをみると、「できるし、している」が79.2%に対し、「できない」は6.8%となっています。

前回調査と比較すると、「できるし、している」が2.6ポイント減少しています。

図表 38 自分で食品・日用品の買物をしているか（全体、前回比較）



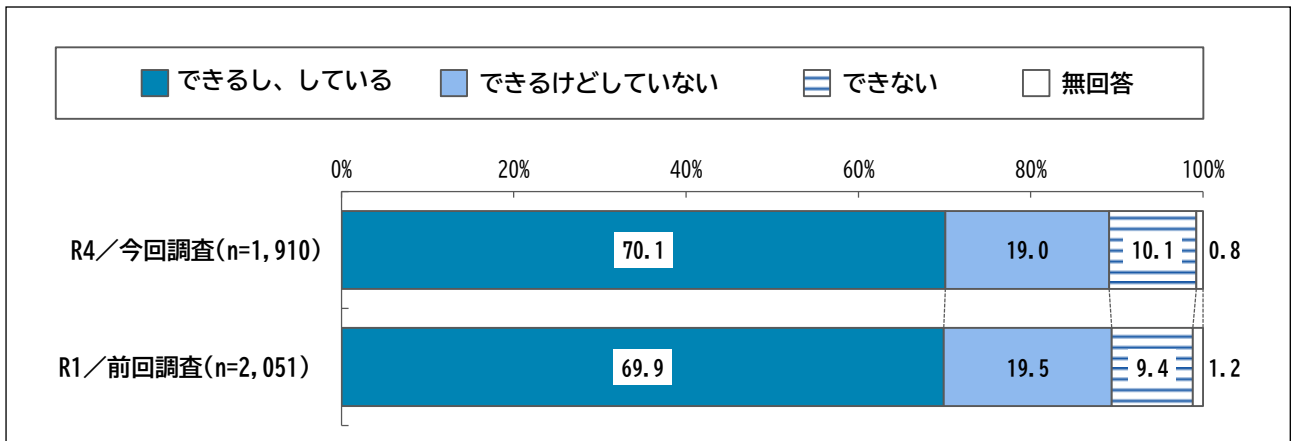
問4（6）自分で食事の用意をしていますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

自分で食事の用意をしているかどうかをみると、「できるし、している」が70.1%に対し、「できない」は10.1%となっています。

前回調査と比較すると、割合に大きな違いはみられません。

図表 39 自分で食事の用意をしているか（全体、前回比較）



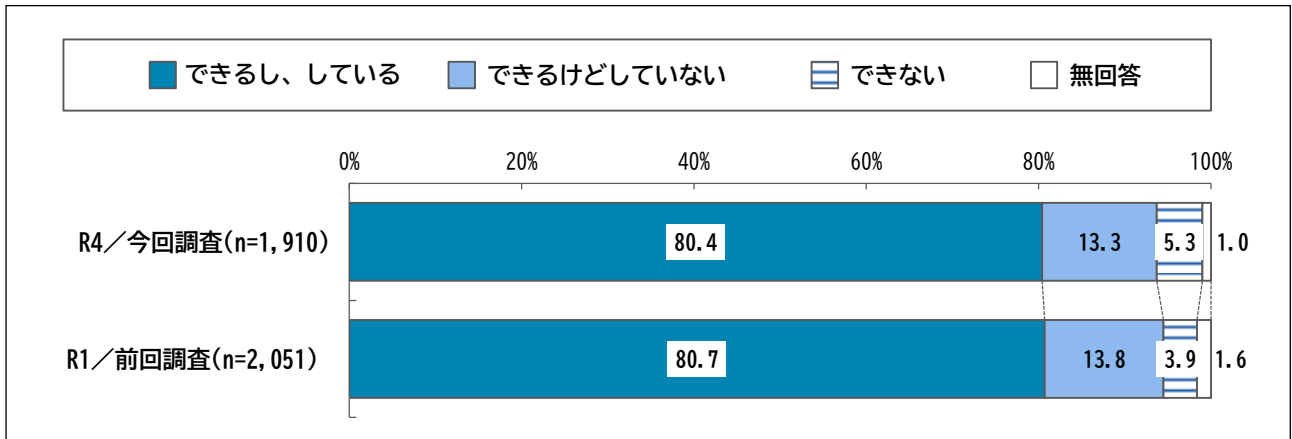
問4（7）自分で請求書の支払いをしていますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

自分で請求書の支払いをしているかどうかをみると、「できるし、している」が80.4%に対し、「できない」は5.3%となっています。

前回調査と比較すると、「できない」が1.4ポイント増加しています。

図表 40 自分で請求書の支払いをしているか（全体、前回比較）



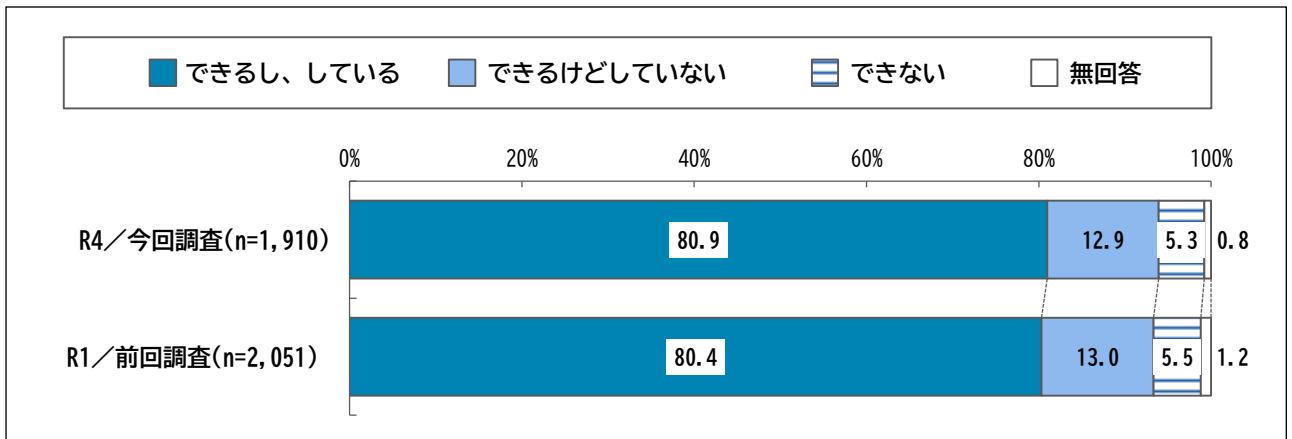
問4（8）自分で預貯金の出し入れをしていますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

自分で預貯金の出し入れをしているかどうかをみると、「できるし、している」が80.9%に対し、「できない」は5.3%となっています。

前回調査と比較すると、割合に大きな違いはみられません。

図表 41 自分で預貯金の出し入れをしているか（全体、前回比較）



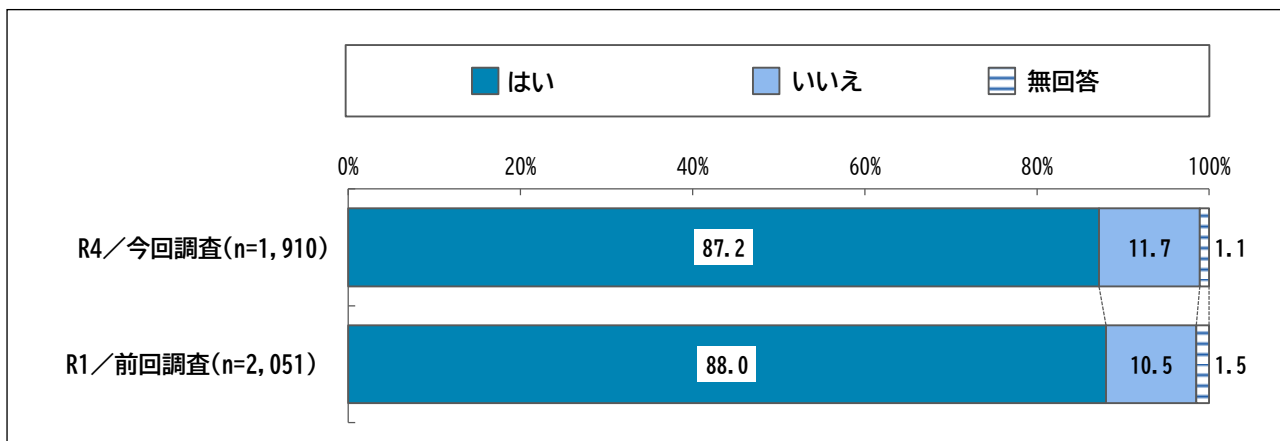
(3) <知的能動性>について（老研式活動能力指標）

問4（9）年金などの書類（役所や病院に出す書類）が書けますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

年金などの書類が書けるかどうかをみると、「はい」が87.2%、「いいえ」が11.7%となっています。前回調査と比較すると、割合に大きな違いはみられません。

図表 42 年金などの書類が書けるか（全体、前回比較）

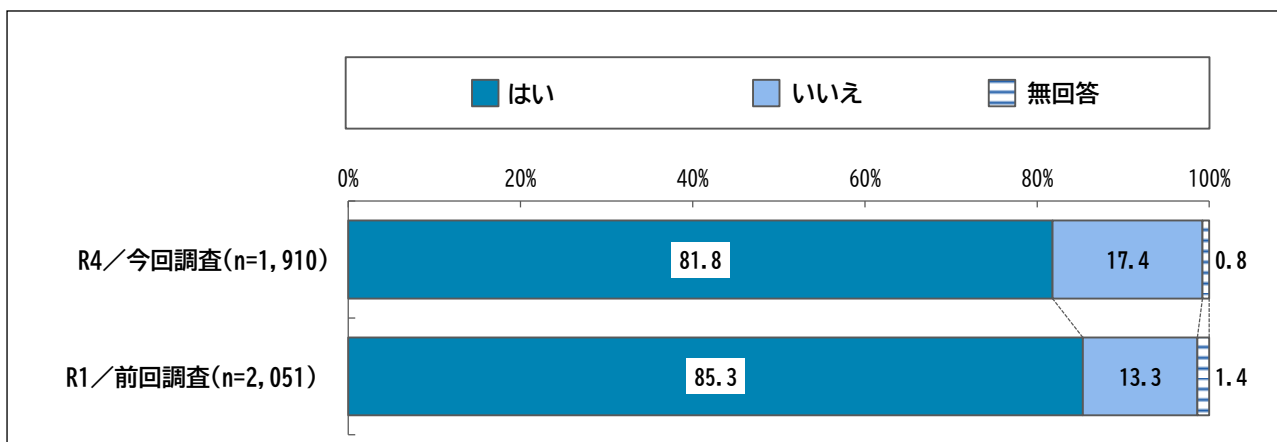


問4（10）新聞を読んでいますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

新聞を読んでいるかどうかをみると、「はい」が81.8%、「いいえ」が17.4%となっています。前回調査と比較すると、「はい」が3.5ポイント減少しています。

図表 43 新聞を読んでいるか（全体、前回比較）

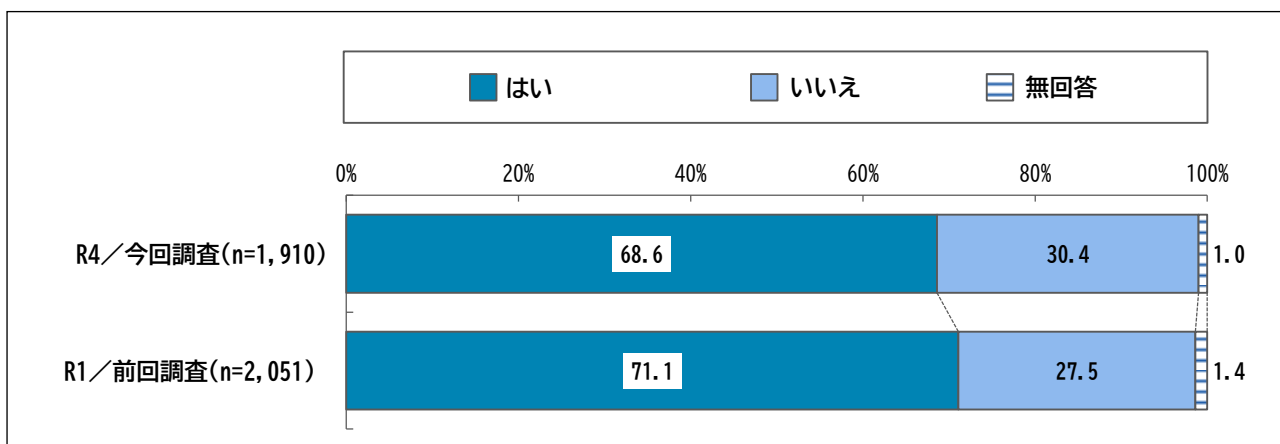


問4（11）本や雑誌を読んでいますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

本や雑誌を読んでいるかどうかをみると、「はい」が68.6%、「いいえ」が30.4%となっています。前回調査と比較すると、「はい」が2.5ポイント減少しています。

図表 44 本や雑誌を読んでいるか（全体、前回比較）



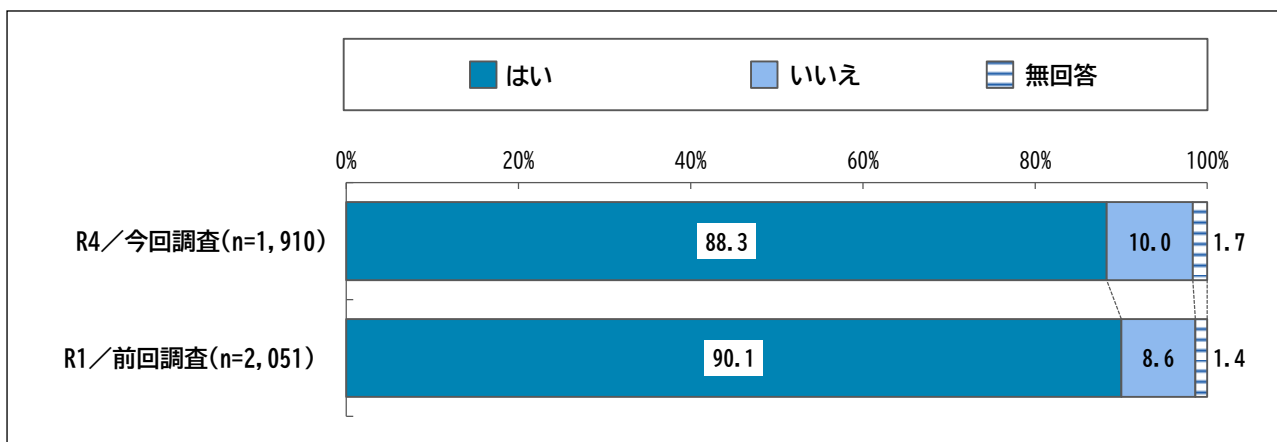
問4（12）健康についての記事や番組に関心がありますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

健康についての記事や番組に関心があるかをみると、「はい」が88.3%、「いいえ」が10.0%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が1.8ポイント減少しています。

図表 45 健康についての記事や番組に関心があるか（全体、前回比較）



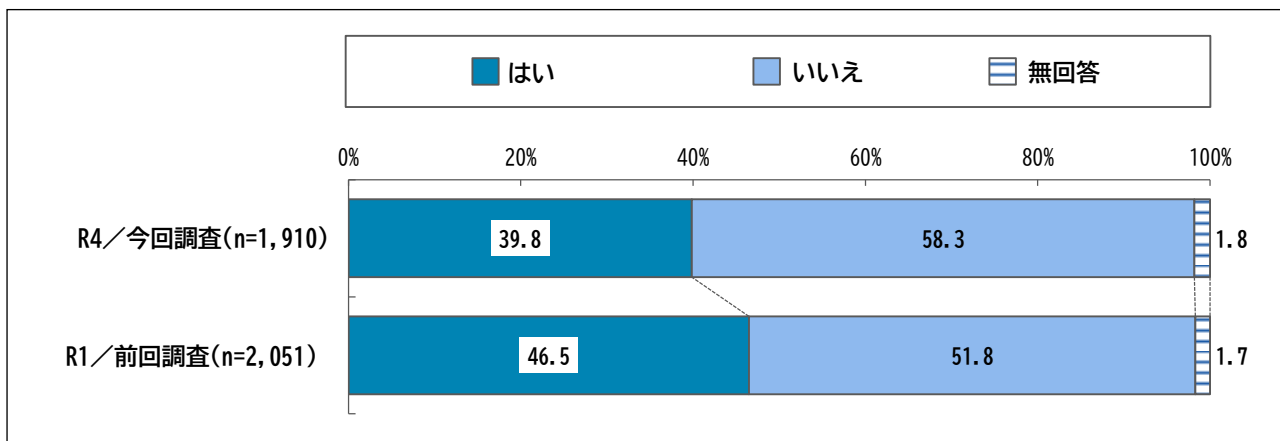
(4) <社会的役割>について（老研式活動能力指標）

問4（13）友人の家を訪ねていますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

友人の家を訪ねているかどうかをみると、「はい」が39.8%、「いいえ」が58.3%となっています。前回調査と比較すると、「はい」が6.7ポイント減少しています。

図表 46 友人の家を訪ねているか（全体、前回比較）



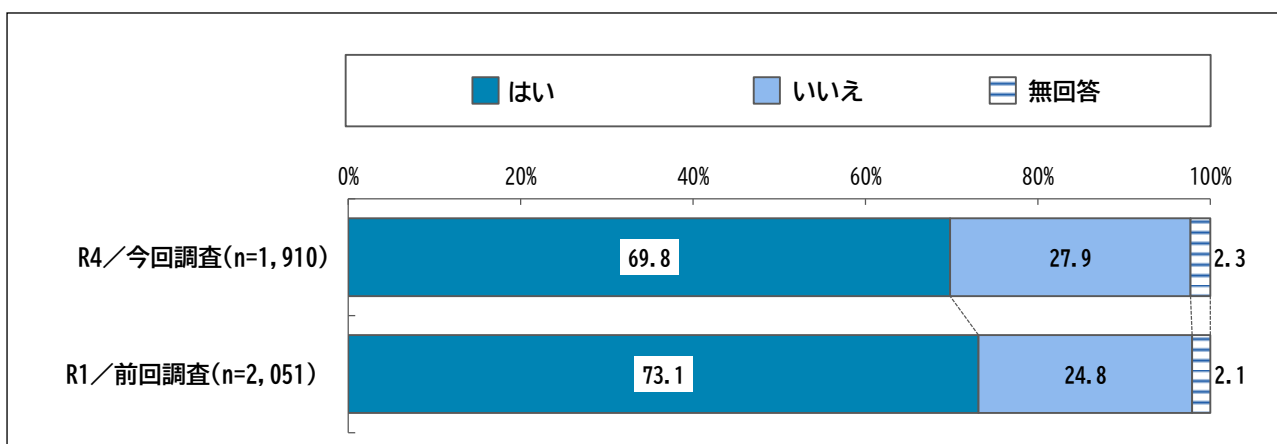
問4（14）家族や友人の相談にのっていますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

家族や友人の相談にのっているかどうかをみると、「はい」が69.8%、「いいえ」が27.9%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が3.3ポイント減少しています。

図表 47 家族や友人の相談にのっているか（全体、前回比較）

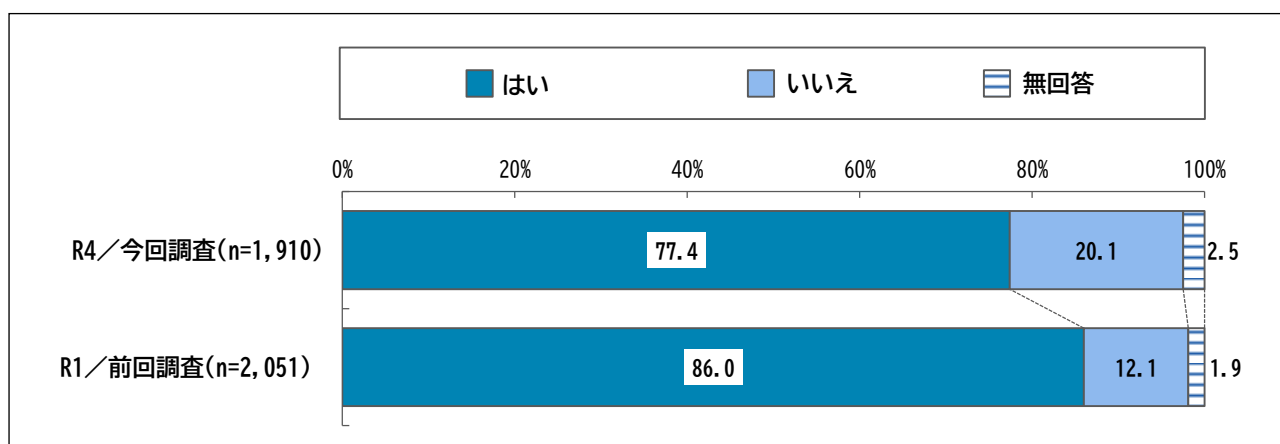


問4（15）病人を見舞うことができますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

病人を見舞うことができるかどうかをみると、「はい」が77.4%、「いいえ」が20.1%となっています。前回調査と比較すると、「はい」が8.6ポイント減少しています。

図表 48 病人を見舞うことができますか（全体、前回比較）



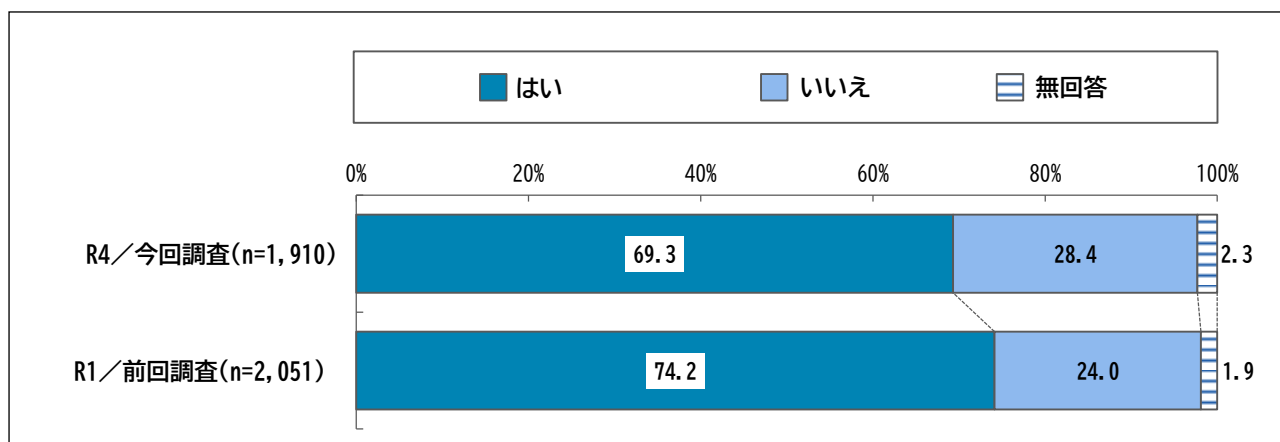
問4（16）若い人に自分から話しかけることがありますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

若い人に自分から話しかけることがあるかどうかをみると、「はい」が69.3%、「いいえ」が28.4%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が4.9ポイント減少しています。

図表 49 若い人に自分から話しかけることがありますか（全体、前回比較）



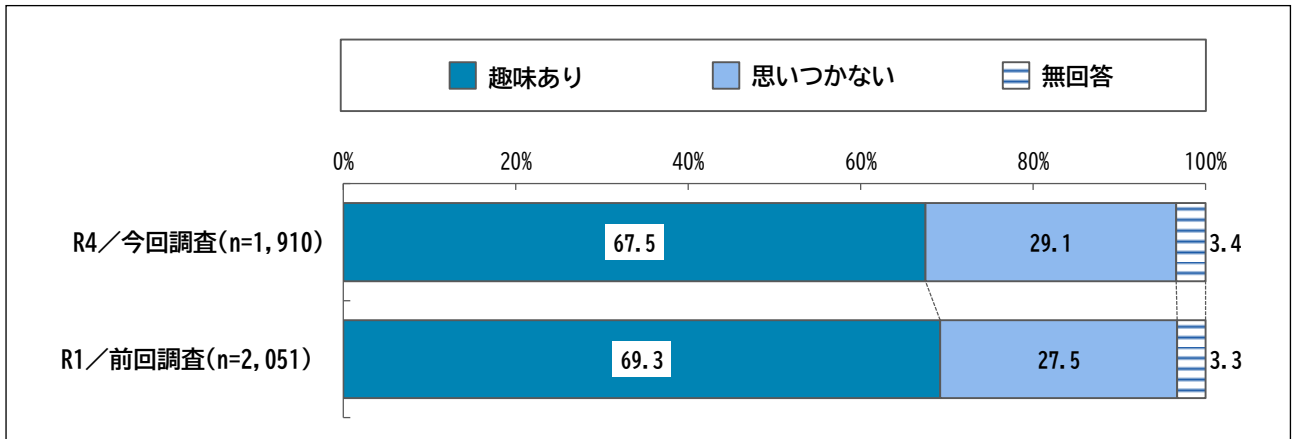
(5) 趣味・生きがいについて

問4 (17) 趣味はありますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

趣味があるかどうかをみると、「趣味あり」が67.5%、「思いつかない」が29.1%となっています。前回調査と比較すると、「趣味あり」が1.8ポイント減少しています。

図表 50 趣味があるか (全体、前回比較)



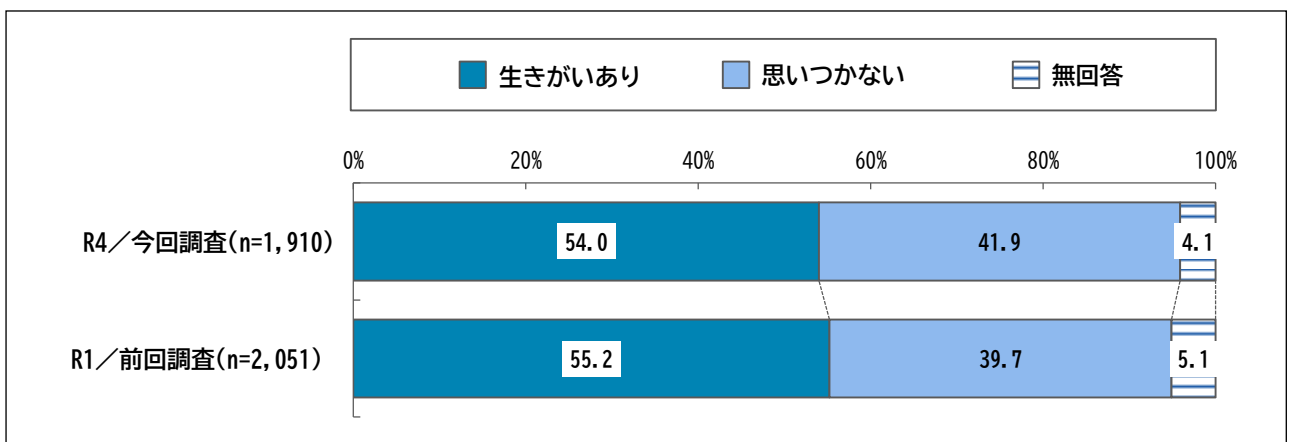
問4 (18) 生きがいはありますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

生きがいがあるかどうかをみると、「生きがいあり」が54.0%、「思いつかない」が41.9%となっています。

前回調査と比較すると、「生きがいあり」が1.2ポイント減少しています。

図表 51 生きがいはあるか (全体、前回比較)



5 地域での活動について

(1) 社会参加の状況

問5 (1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。
(①～⑧それぞれに1つ)

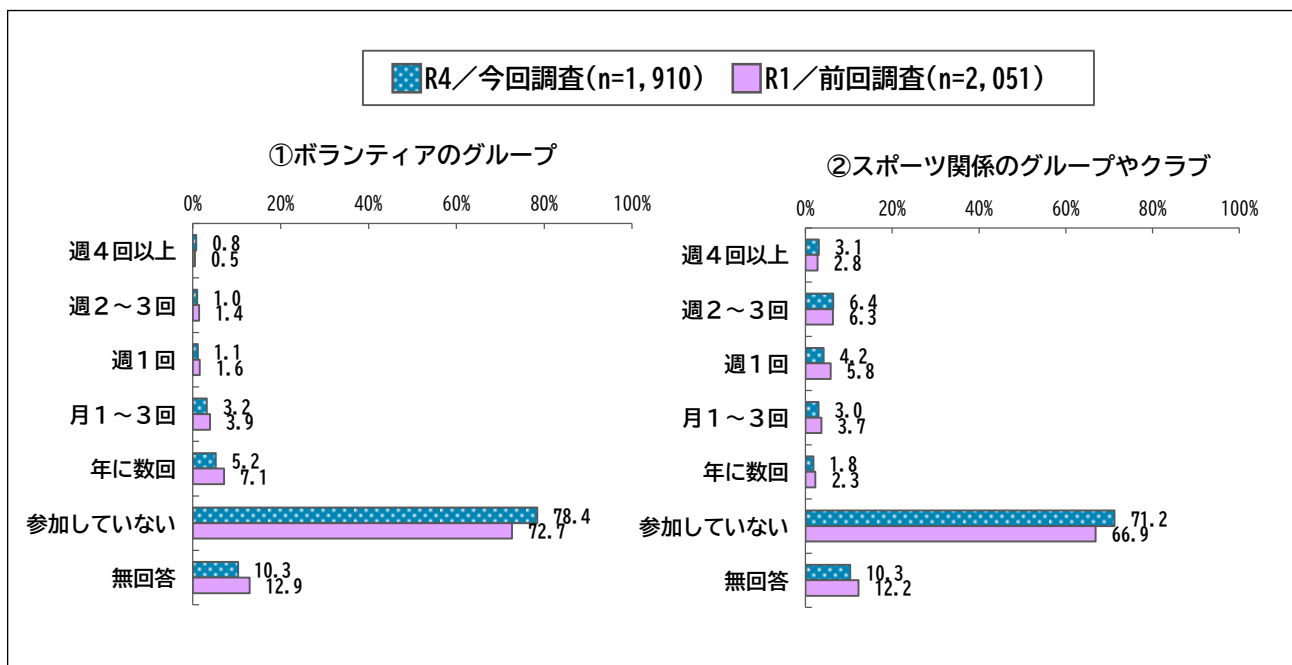
【全体の傾向】

社会参加の頻度についてみると、①ボランティアのグループ、④学習・教養サークル、⑥老人クラブ、⑦町内会・自治会では「年に数回」、②スポーツ関係のグループやクラブでは「週2～3回」、③趣味関係のグループでは「月1～3回」、⑤いきいき百歳体操など介護予防のための通いの場では「週1回」、⑧収入のある仕事では「週4回以上」が、それぞれ最も高くなっています。

また、「週4回以上」から「年に数回」までを合計した『参加率』をみると、最も高いグループは、⑧収入のある仕事 (25.5%) で、次いで、③趣味関係のグループ (24.5%)、⑦町内会・自治会 (21.2%) となっています。

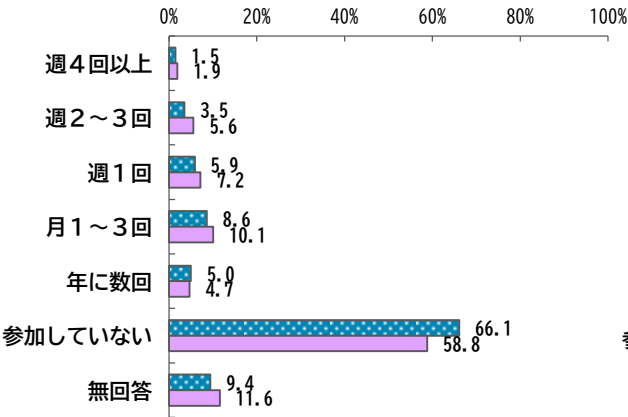
それぞれの『参加率』を前回調査と比較してみると、①ボランティアのグループでは3.2ポイント減少、②スポーツ関係のグループやクラブでは2.4ポイント減少、③趣味関係のグループでは5.0ポイント減少、④学習・教養サークルでは2.9ポイント減少、⑤いきいき百歳体操など介護予防のための通いの場では3.0ポイント減少、⑥老人クラブでは3.1ポイント減少、⑦町内会・自治会では7.5ポイント減少、⑧収入のある仕事では2.2ポイント減少となっており、全ての活動で減少という結果になっています。

図表 52 社会参加の状況 (全体、前回比較)

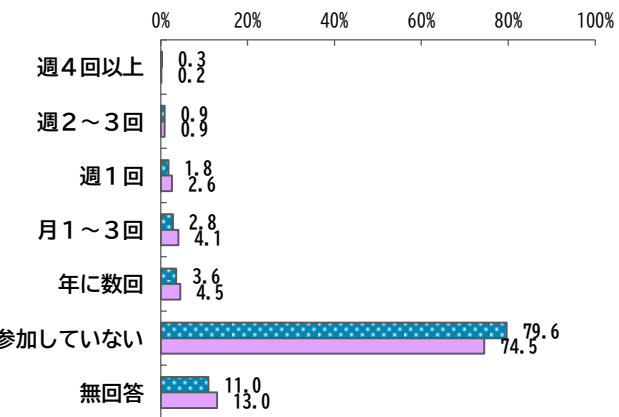


R4/今回調査(n=1,910) R1/前回調査(n=2,051)

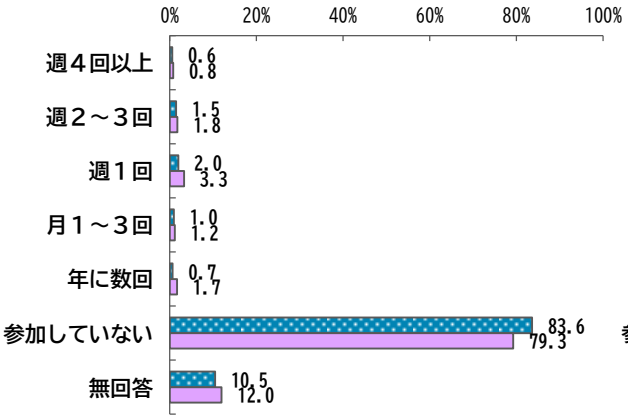
③趣味関係のグループ



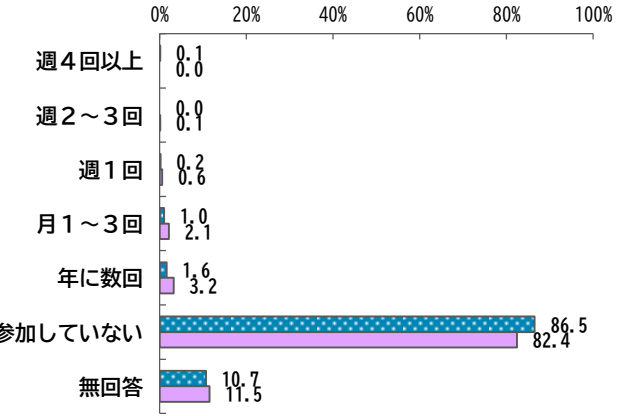
④学習・教養サークル



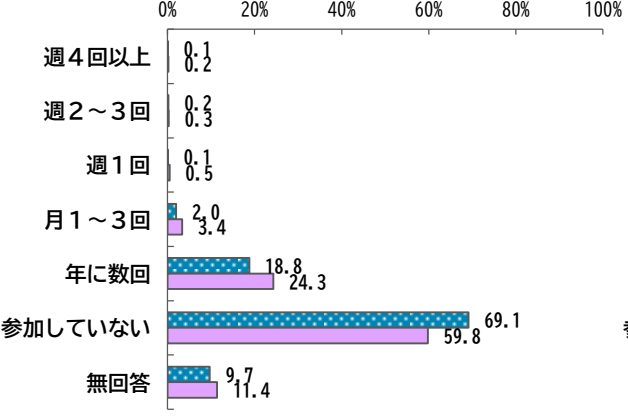
⑤いきいき百歳体操など介護予防のための通いの場



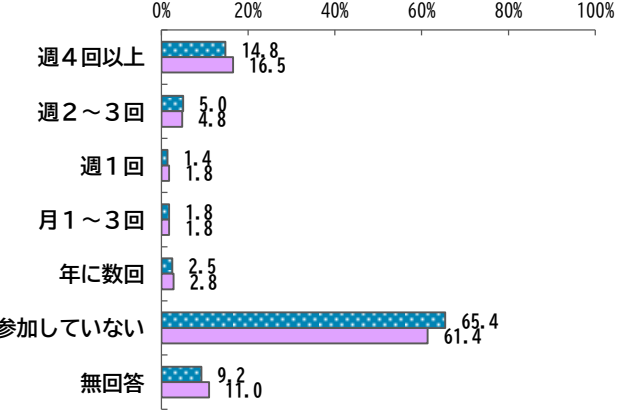
⑥老人クラブ



⑦町内会・自治会



⑧収入のある仕事



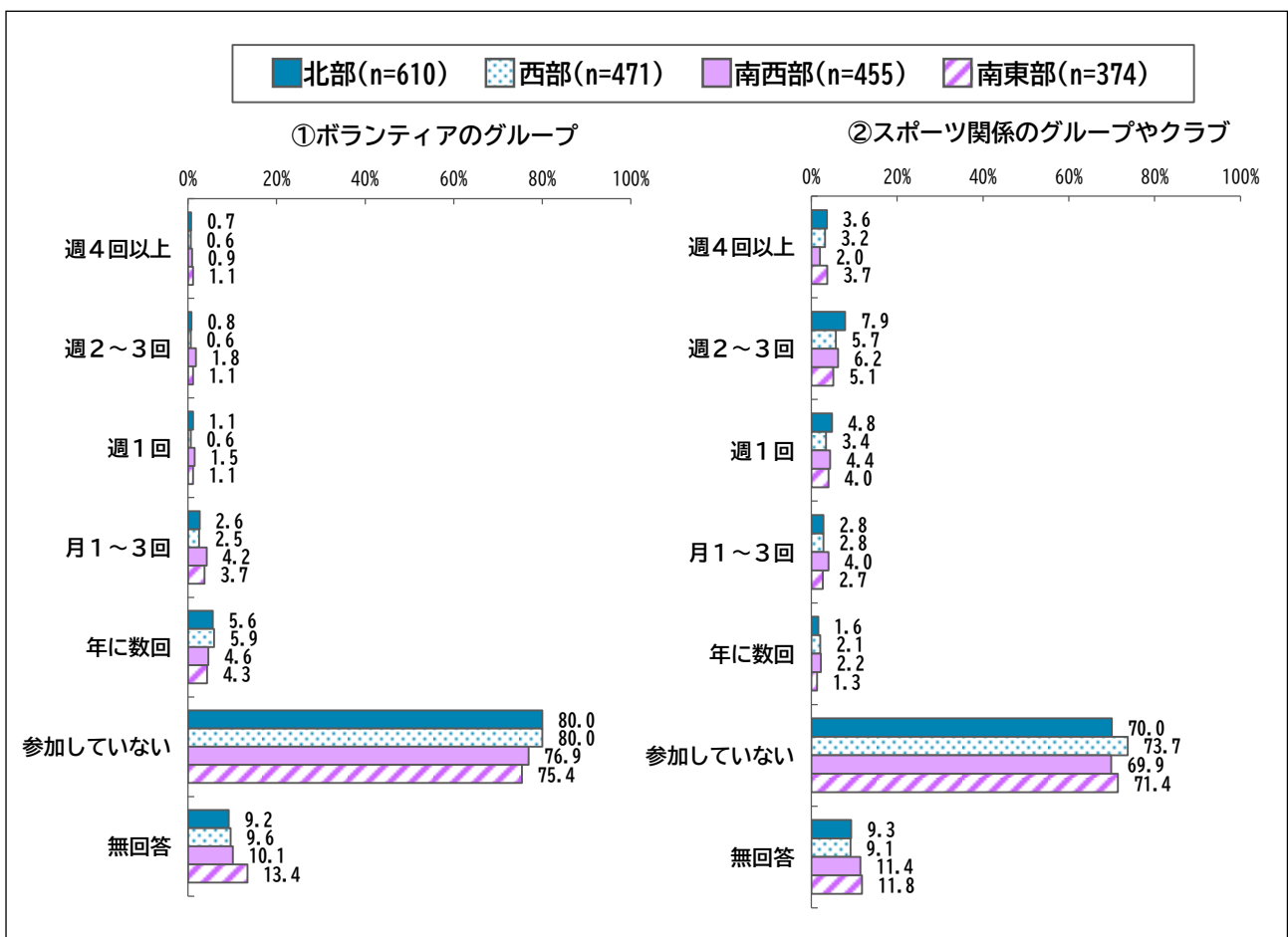
【属性別の傾向】

圏域別に参加頻度をみると、いずれの圏域でも①ボランティアのグループは「年に数回」、②スポーツ関係のグループやクラブは「週2～3回」、③趣味関係のグループは「月1～3回」、④学習・教養サークルは「年に数回」（西部では「月1～3回」も同率）、⑦町内会・自治会は「年に数回」、⑧収入のある仕事は、「週4回以上」がそれぞれ最も高くなっています。

一方、⑤いきいき百歳体操など介護予防のための通いの場合は、北部、南西部、南東部では「週1回」、西部では「週2～3回」がそれぞれ最も高くなっています。

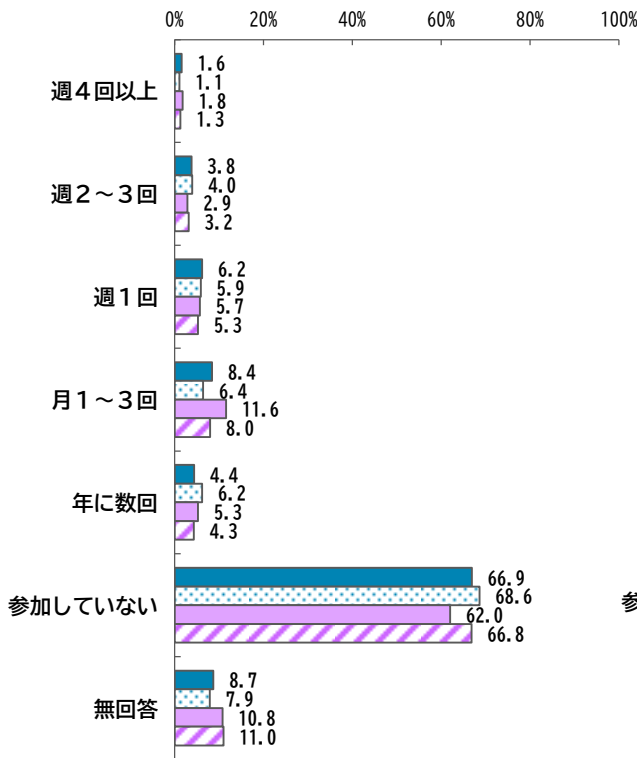
また、⑥老人クラブは、北部では「月1～3回」、西部、南西部、南東部では「年に数回」がそれぞれ最も高くなっています。

図表 53 社会参加の状況（圏域別）

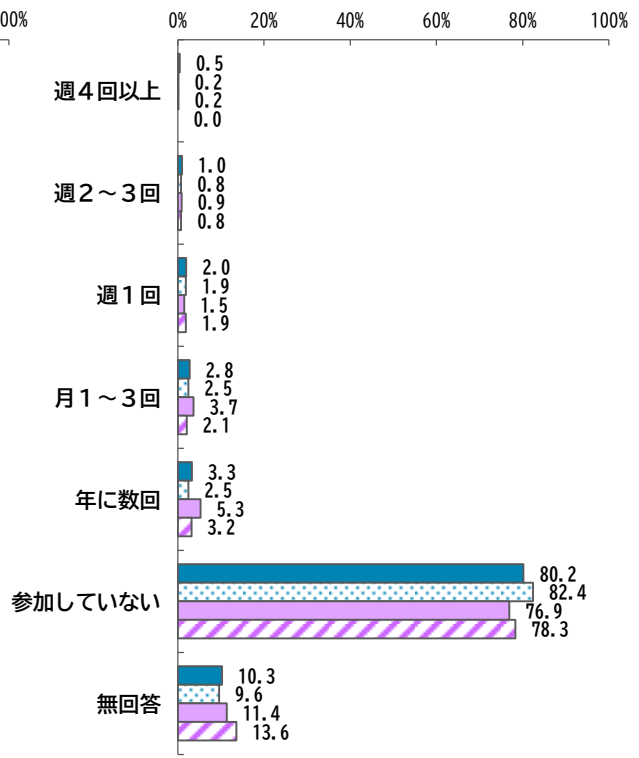


■北部(n=610) ■西部(n=471) ■南西部(n=455) ■南東部(n=374)

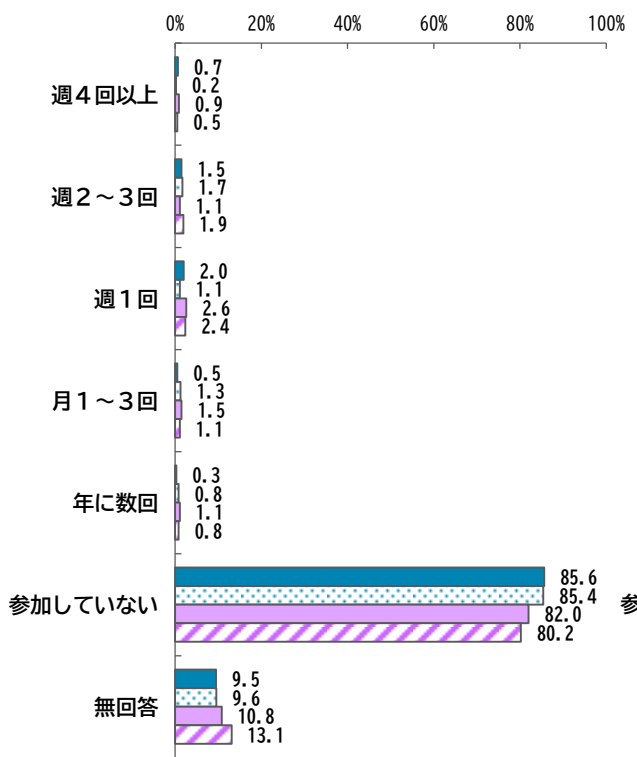
③趣味関係のグループ



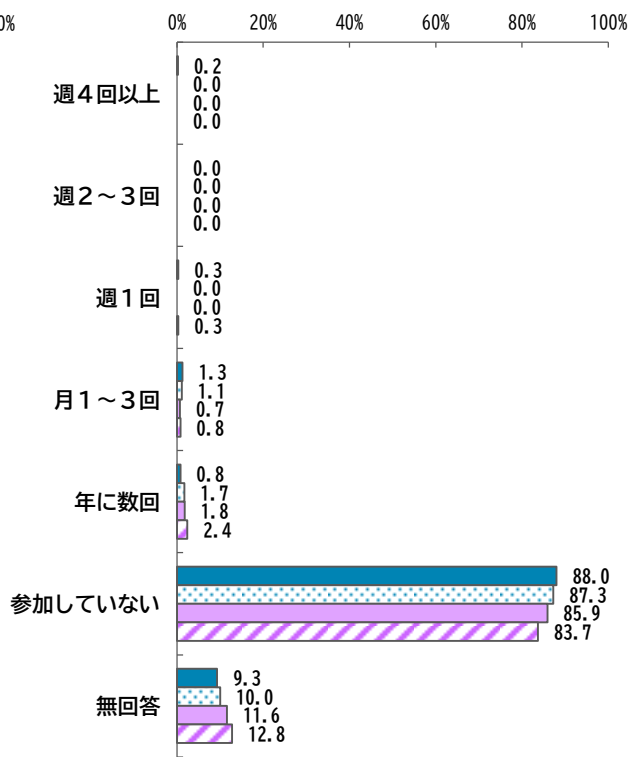
④学習・教養サークル



⑤いきいき百歳体操など介護予防のための通いの場

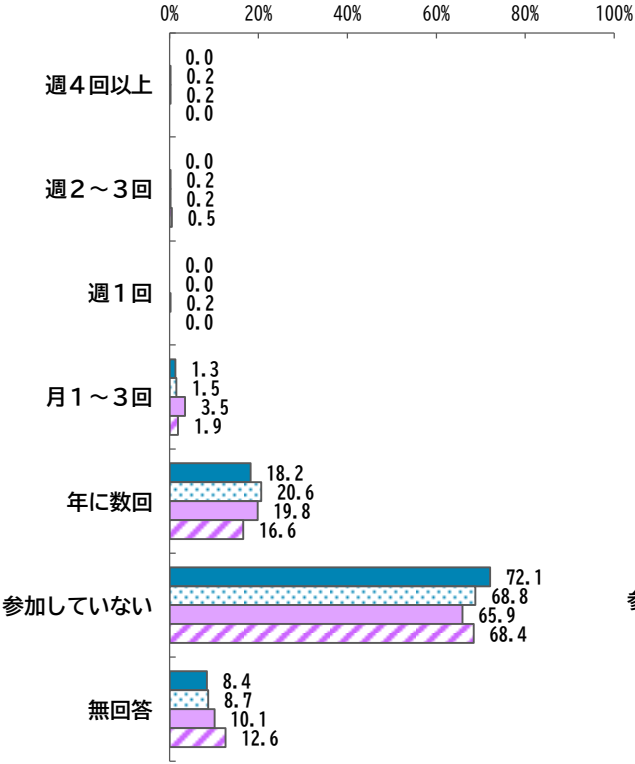


⑥老人クラブ

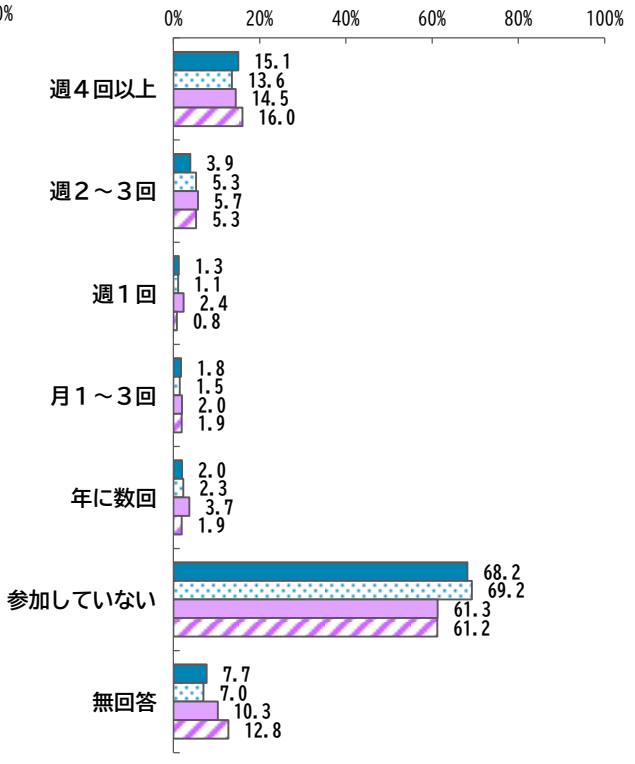


■北部(n=610) ■西部(n=471) ■南西部(n=455) ■南東部(n=374)

⑦町内会・自治会



⑧収入のある仕事



(2) 地域づくりへの参加意向

問5 (2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。
(1つだけ)

【全体の傾向】

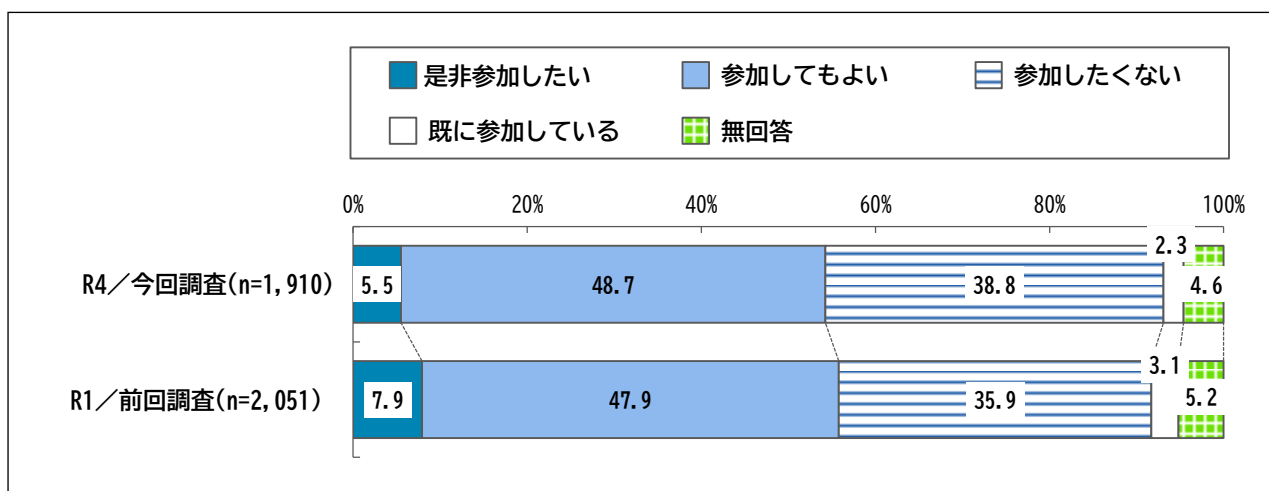
地域づくり活動に参加者として参加してみたいかどうかをみると、「参加してもよい」が48.7%と最も高く、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた『参加者として参加してもよい』は54.2%と半数以上を占めています。また、「既に参加している」は2.3%となっています。

前回調査と比較すると、『参加者として参加してもよい』が1.6ポイント減少しています。

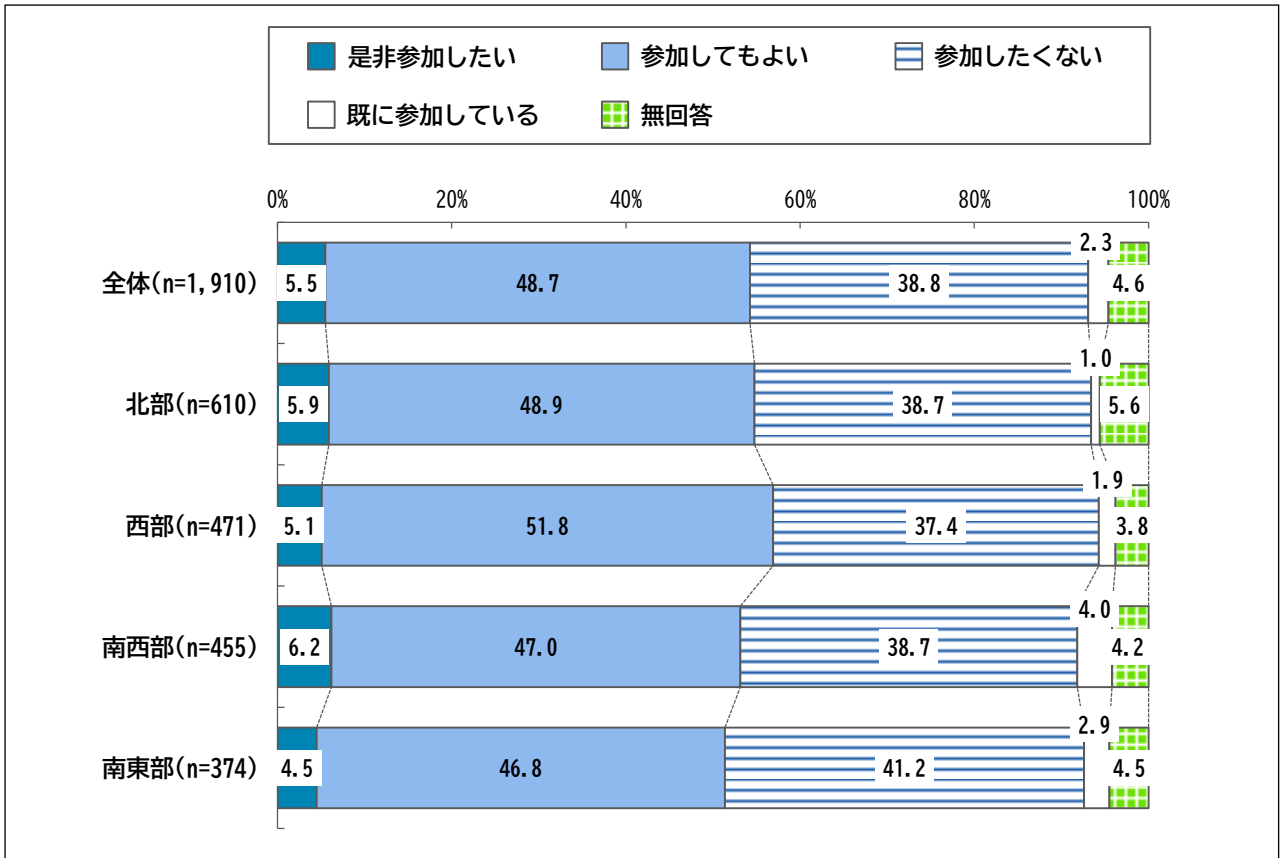
【属性別の傾向】

圏域別にみると、西部では「参加してもよい」が5割を超えており、『参加者として参加してもよい』が56.9%となっています。また、西部以外の圏域においても『参加者として参加してもよい』は5割を超えています。南東部では51.3%と他の圏域に比べてやや低くなっています。

図表 54 地域づくりへの参加意向（参加者）（全体、前回比較）



図表 55 地域づくりへの参加意向（参加者）（全体、圏域別）



問5（3）地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

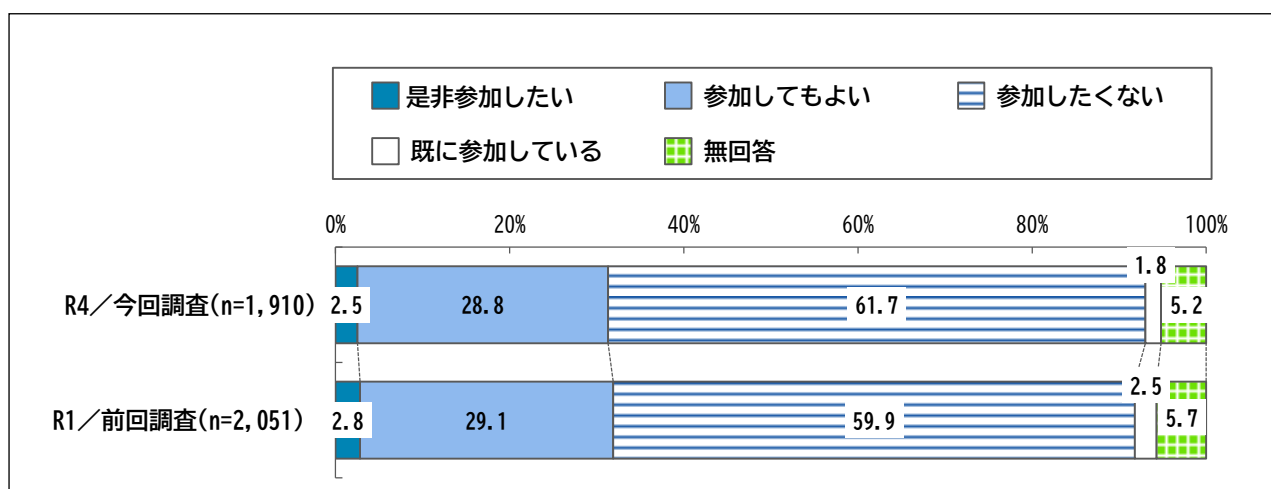
地域づくり活動に企画・運営として参加してみたいかどうかをみると、「参加したくない」が61.7%と6割を超えています。一方、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた『企画・運営として参加してもよい』は31.3%にとどまり、前問の『参加者として参加してもよい』（54.2%）に比べて22.9ポイント下回っています。また「既に参加している」は1.8%となっています。

前回調査と比較すると、「参加したくない」が1.8ポイント増加しています。

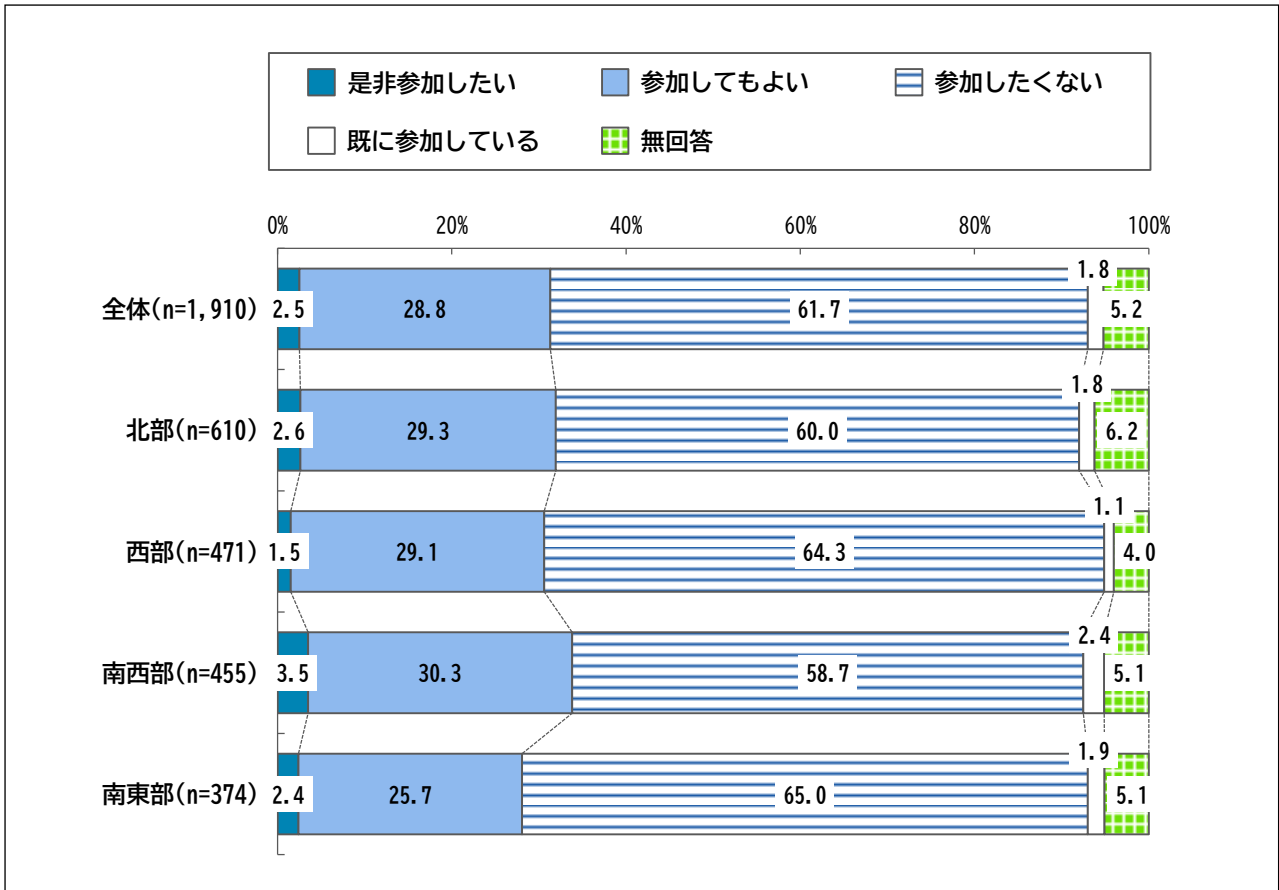
【属性別の傾向】

圏域別にみると、いずれの圏域においても「参加したくない」が半数以上を占めており、『企画・運営として参加してもよい』は、前問の『参加者として参加してもよい』よりも低くなっています。また、南西部では「是非参加したい」、「参加してもよい」が他の圏域よりも高くなっており『企画・運営として参加してもよい』は33.8%となっています。

図表 56 地域づくりへの参加意向（企画・運営）（全体、前回比較）



図表 57 地域づくりへの参加意向（企画・運営）（全体、圏域別）

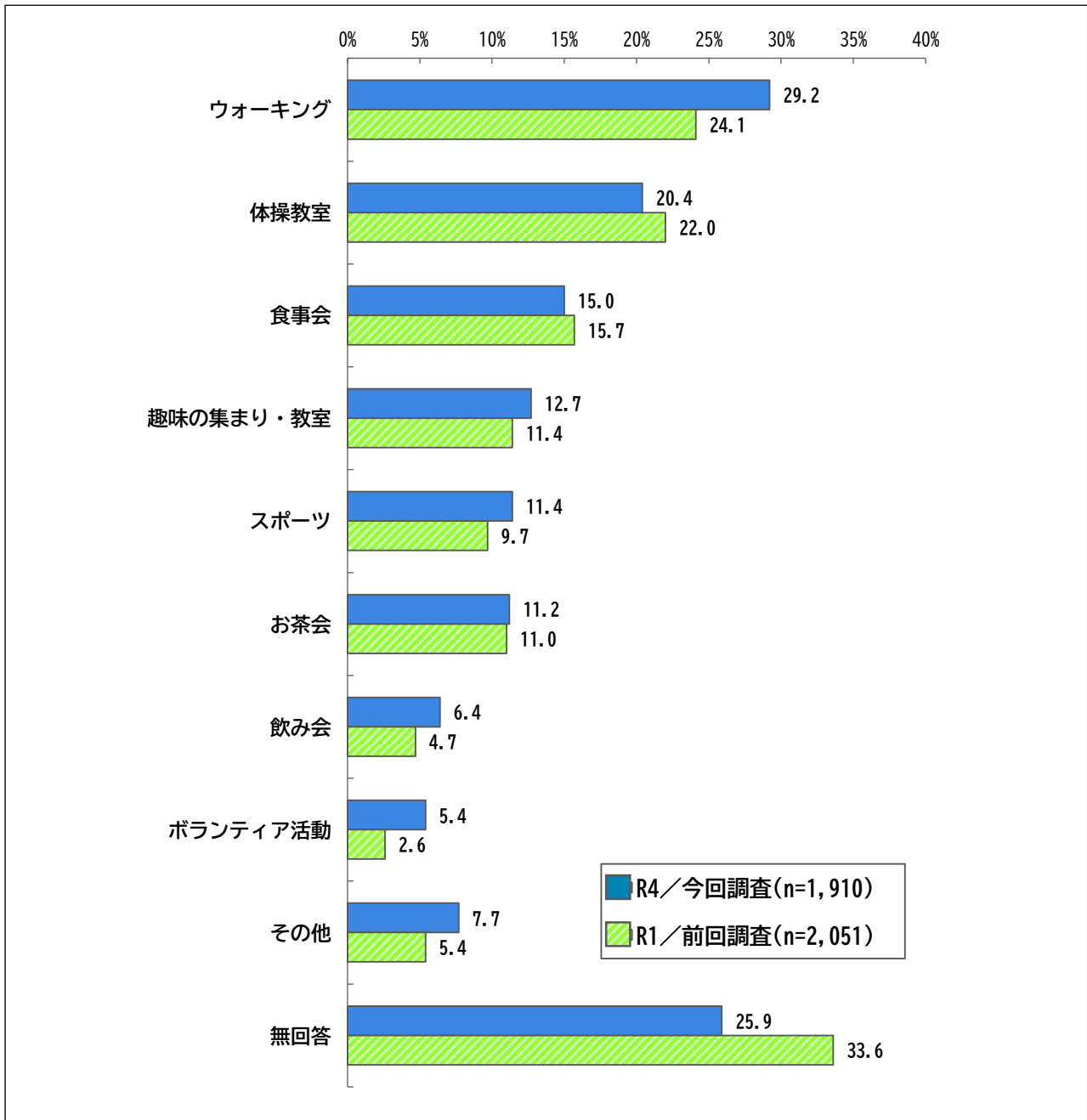


問5（4）どのような集まりが地域にあれば、参加してみたいと思いますか。（いくつでも）

【全体の傾向】

参加してみたい地域の行事についてみると、「ウォーキング」が29.2%と最も多く、次いで「体操教室」（20.4%）、「食事会」（15.0%）、「趣味の集まり・教室」（12.7%）、「スポーツ」（11.4%）となっています。前回調査と比較すると、「ウォーキング」が5.1ポイント増加しています。

図表 58 参加してみたい地域の行事（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

性別にみると、男性では「スポーツ」、「趣味の集まり・教室」、女性では「体操教室」、「食事会」がそれぞれ上位に挙がっています。

年齢構成別にみると、前期高齢者では「スポーツ」、後期高齢者では「食事会」が上位に挙がっています。

認定状況別にみると、一般高齢者では「ウォーキング」、総合事業対象者では「体操教室」、要支援1・2では「食事会」がそれぞれ第1位となっています。また、総合事業対象者では「ボランティア活動」、要支援1・2では「お茶会」も上位に挙がっています。

圏域別にみると、北部、西部、南西部に違いはみられませんが、南東部では「お茶会」が第3位となっています。

図表 59 参加してみたい地域の行事
(全体、性別、年齢構成別、認定状況別、圏域別/複数回答)

<上位3位/単位%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=1,910)		ウォーキング 29.2	体操教室 20.4	食事会 15.0
性別	男性(n=840)	ウォーキング 29.8	スポーツ 16.0	趣味の集まり・教室 12.6
	女性(n=1070)	ウォーキング 28.7	体操教室 27.9	食事会 17.6
年齢構成別	前期高齢者【65歳～74歳】(n=979)	ウォーキング 36.2	体操教室 21.9	スポーツ 14.8
	後期高齢者【75歳以上】(n=931)	ウォーキング 21.8	体操教室 18.8	食事会 17.3
認定状況別	一般高齢者(n=1,705)	ウォーキング 31.7	体操教室 20.9	食事会 15.0
	総合事業対象者(n=15)	体操教室 20.0	ウォーキング/ボランティア活動 13.3	
	要支援1・2(n=190)	食事会 16.8	体操教室 15.3	お茶会 14.7
圏域別	北部(n=610)	ウォーキング 29.8	体操教室 19.8	食事会 14.3
	西部(n=471)	ウォーキング 31.8	体操教室 23.1	食事会 15.7
	南西部(n=455)	ウォーキング 27.7	体操教室 20.4	食事会 16.5
	南東部(n=374)	ウォーキング 26.5	体操教室 17.6	お茶会 14.4

6 たすけあいについて

(1) 心配事や愚痴（ぐち）について

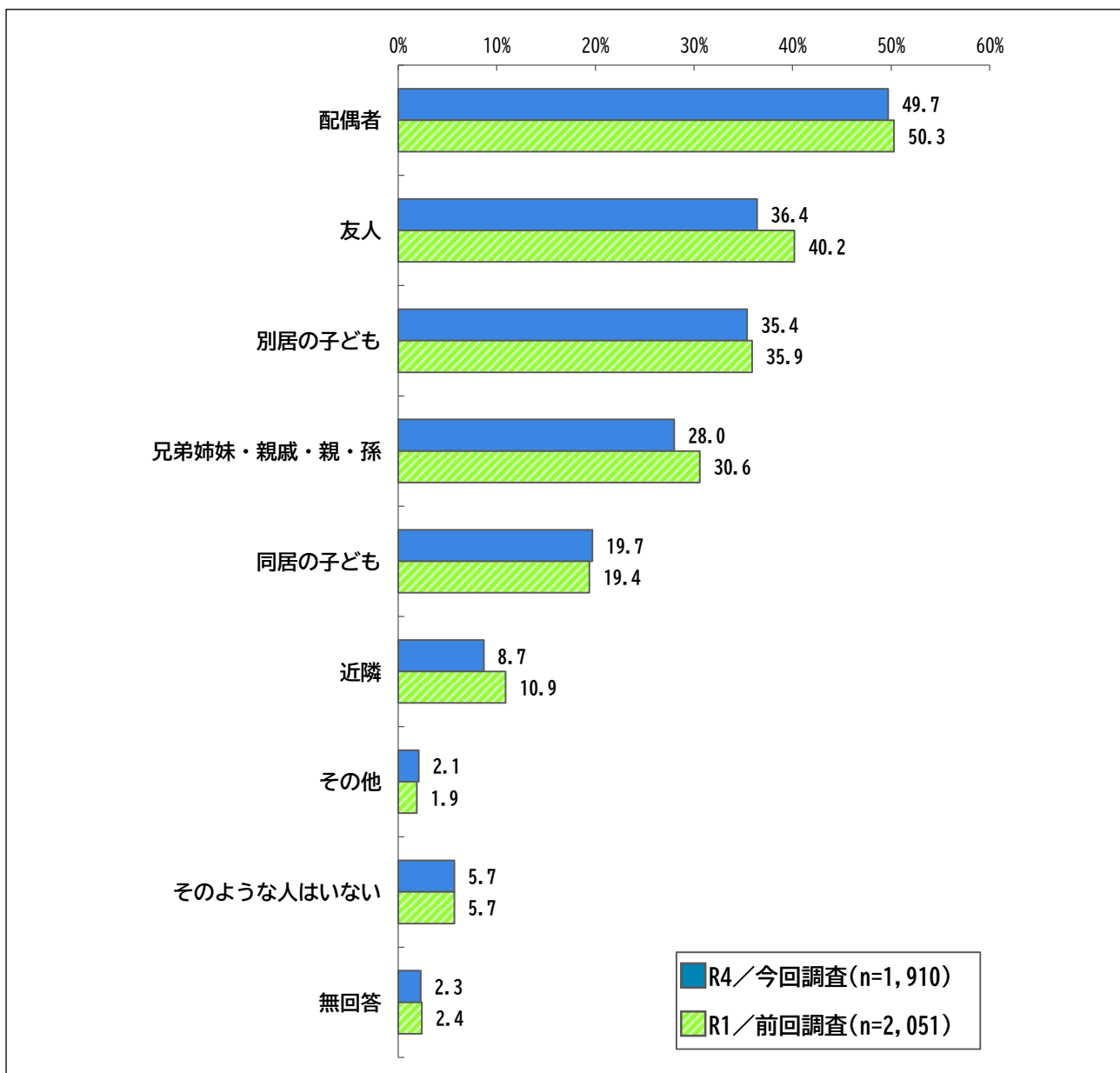
問6 (1) あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人。（いくつでも）

【全体の傾向】

心配事や愚痴を聞いてくれる相手についてみると、「配偶者」が49.7%と最も多く、次いで「友人」(36.4%)、「別居の子ども」(35.4%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(28.0%)、「同居の子ども」(19.7%)、「近隣」(8.7%)となっています。

前回調査と比較すると、「友人」が3.8ポイント減少しています。

図表 60 心配事や愚痴を聞いてくれる人（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

家族構成別にみると、1人暮らしでは「友人」が第1位、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が第3位となっています。

夫婦2人暮らしでは配偶者の年齢に関わらず「配偶者」が第1位となっており、その割合は8割を超えています。

息子・娘との2世帯では「同居の子ども」が第1位となっています。

図表 61 心配事や愚痴を聞いてくれる人（全体、家族構成別／複数回答）

<上位3位/単位%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=1,910)		配偶者 49.7	友人 36.4	別居の子ども 35.4
家族構成別	1人暮らし(n=454)	友人 42.7	別居の子ども 42.5	兄弟姉妹・親戚・親・孫 37.2
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=698)	配偶者 80.5	別居の子ども 41.0	友人 34.4
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=86)	配偶者 88.4	別居の子ども 34.9	友人 23.3
	息子・娘との2世帯 (n=360)	同居の子ども 61.4	配偶者 46.1	友人 36.7
	その他(n=267)	配偶者 43.4	同居の子ども 41.9	友人 35.6

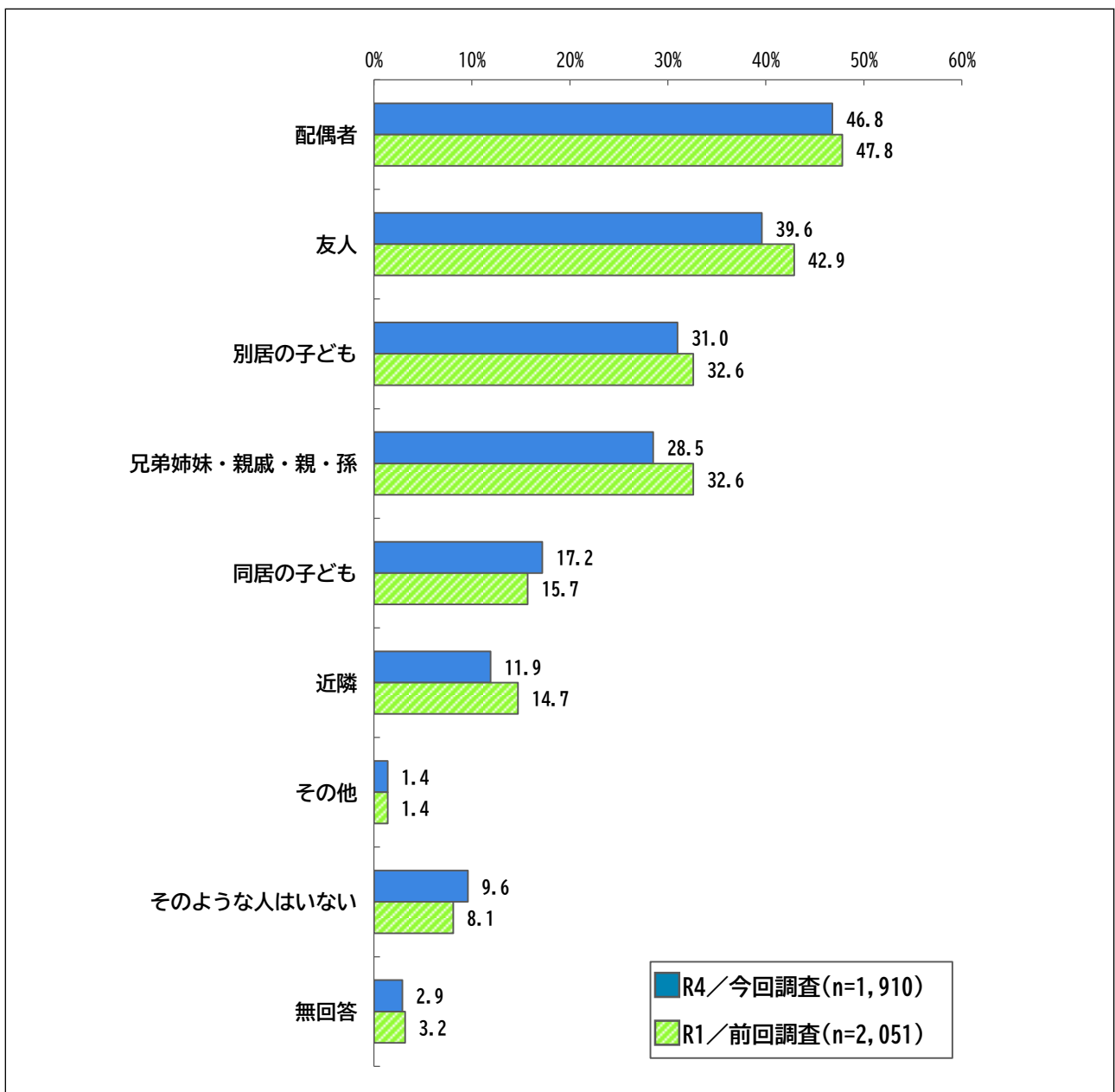
問6（2）反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人。（いくつでも）

【全体の傾向】

心配事や愚痴を聞いてあげる人についてみると、「配偶者」が46.8%と最も多く、次いで「友人」(39.6%)、「別居の子ども」(31.0%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(28.5%)、「同居の子ども」(17.2%)、「近隣」(11.9%)となっています。

前回調査と比較すると、「同居の子ども」、「そのような人はいない」が増加しています。

図表 62 心配事や愚痴を聞いてあげる人（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

家族構成別にみると、1人暮らしでは「友人」が第1位、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が第2位となっています。

夫婦2人暮らしでは配偶者の年齢に関わらず「配偶者」が第1位となっています。

息子・娘との2世帯では「同居の子ども」が第1位となっています。

図表 63 心配事や愚痴を聞いてあげる人（全体、家族構成別／複数回答）

<上位3位/単位%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=1,910)		配偶者 46.8	友人 39.6	別居の子ども 31.0
家族構成別	1人暮らし(n=454)	友人 45.4	兄弟姉妹・親戚・親・孫 32.2	別居の子ども 30.8
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=698)	配偶者 75.5	友人 37.2	別居の子ども 36.5
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=86)	配偶者 84.9	別居の子ども 43.0	友人 26.7
	息子・娘との2世帯 (n=360)	同居の子ども 52.8	配偶者 44.2	友人 39.4
	その他(n=267)	友人 41.2	配偶者 40.4	同居の子ども 38.6

(2) 看病や世話について

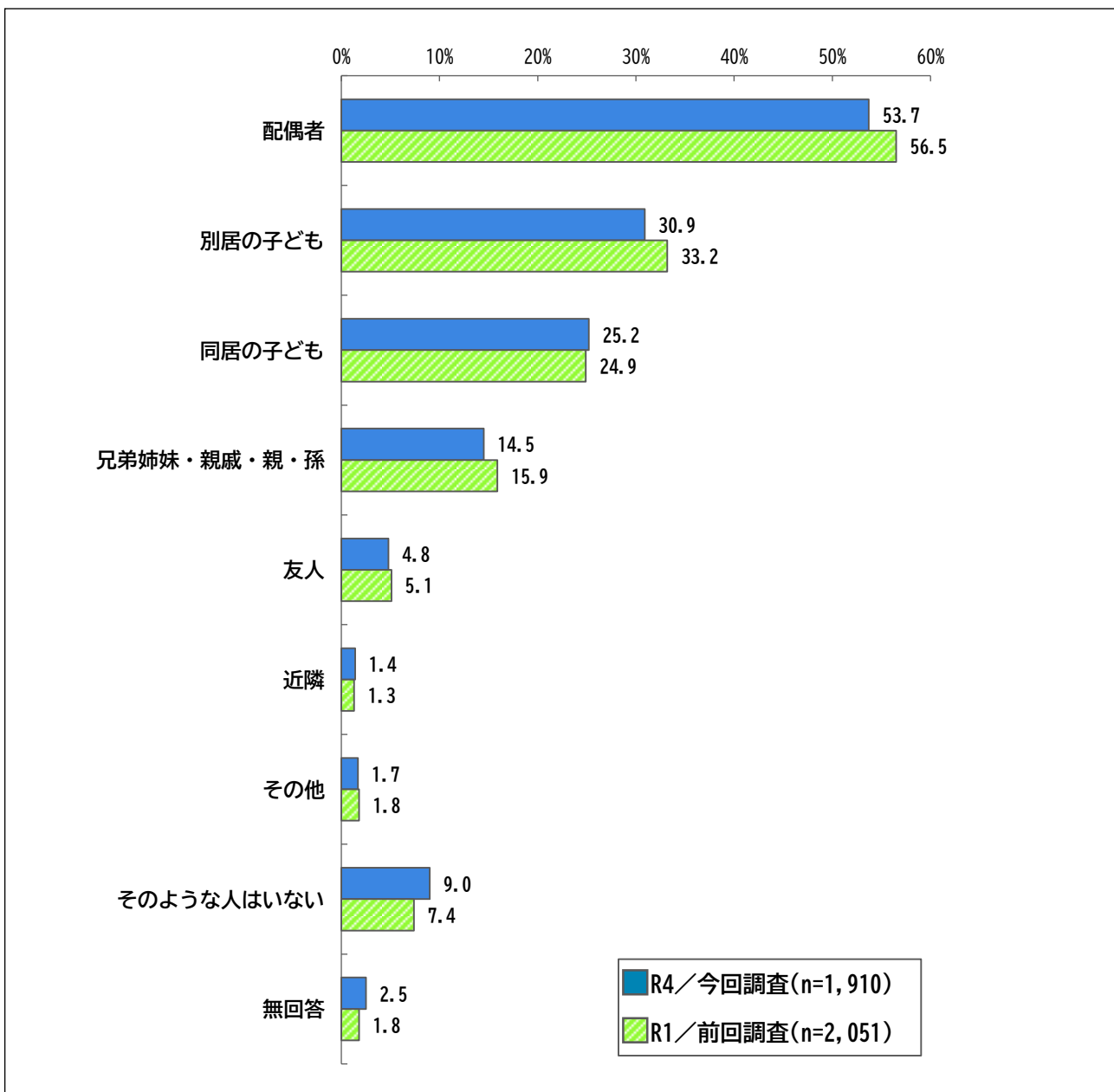
問6 (3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人。(いくつでも)

【全体の傾向】

病気で寝込んだ際に看病してくれる人についてみると、「配偶者」が53.7%と最も多く、次いで「別居の子ども」(30.9%)、「同居の子ども」(25.2%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(14.5%)と、上位4位までは、すべて親族となっています。さらに「友人」(4.8%)、「近隣」(1.4%)と続いています。親族と比較すると割合に大差がみられます。一方、「そのような人はいない」は9.0%となっています。

前回調査と比較すると、「そのような人はいない」が1.6ポイント増加しています。

図表 64 看病や世話をしてくれる人 (全体、前回比較/複数回答)



【属性別の傾向】

家族構成別にみると、1人暮らしでは、「別居の子ども」が第1位、「そのような人はいない」が第2位となっています。

夫婦2人暮らしでは、配偶者の年齢に関わらず、「配偶者」が第1位となっています。

息子・娘との2世帯では「同居の子ども」が第1位となっています。

図表 65 看病や世話をしてくれる人（全体、家族構成別／複数回答）

<上位3位/単位%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=1,910)		配偶者 53.7	別居の子ども 30.9	同居の子ども 25.2
家族構成別	1人暮らし(n=454)	別居の子ども 41.9	そのような人はいない 27.3	兄弟姉妹・親戚・親・孫 23.3
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=698)	配偶者 89.3	別居の子ども 34.5	兄弟姉妹・親戚・親・孫 7.9
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=86)	配偶者 91.9	別居の子ども 25.6	同居の子ども／兄弟姉妹・ 親戚・親・孫 8.1
	息子・娘との2世帯 (n=360)	同居の子ども 76.9	配偶者 46.9	別居の子ども 21.1
	その他(n=267)	同居の子ども 56.2	配偶者 47.6	別居の子ども 18.7

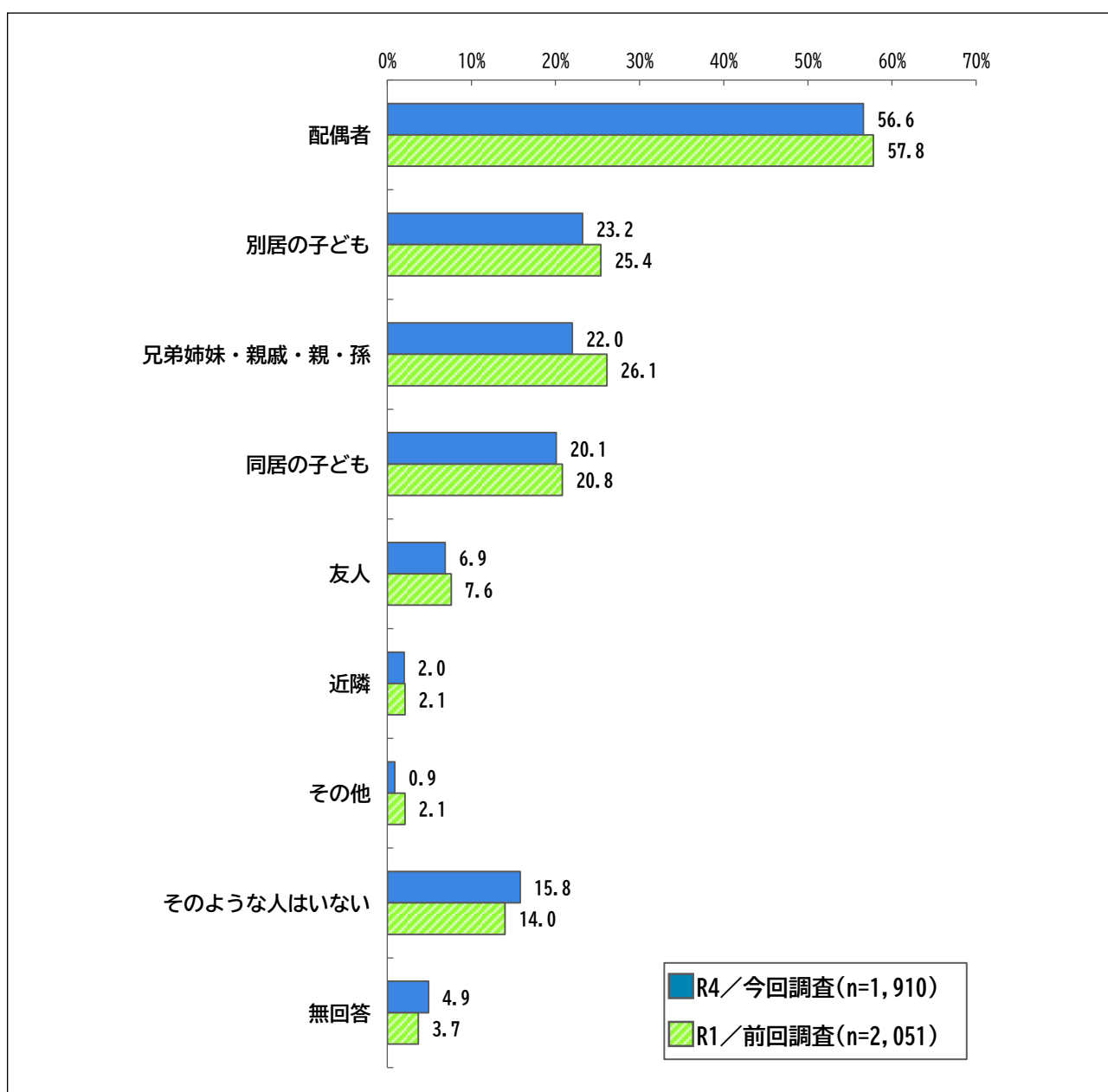
問6（4）反対に、看病や世話をしあける人。（いくつでも）

【全体の傾向】

病気の際に看病や世話をしあける人についてみると、「配偶者」が56.6%と最も多く、その割合は突出しています。次いで、「別居の子ども」（23.2%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（22.0%）、「同居の子ども」（20.1%）、「友人」（6.9%）、「近隣」（2.0%）となっています。一方、「そのような人はいない」は15.8%となっています。

前回調査と比較すると、「そのような人はいない」が1.8ポイント増加しています。

図表 66 看病や世話をしあける人（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

家族構成別にみると、1人暮らしでは「そのような人はいない」が第1位となっており、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が第2位となっています。

夫婦2人暮らしでは配偶者の年齢に関わらず「配偶者」が第1位となっています。

息子・娘との2世帯では「同居の子ども」が第1位となっています。

図表 67 看病や世話をしあける人（全体、家族構成別／複数回答）

<上位3位/単位%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=1,910)		配偶者 56.6	別居の子ども 23.2	兄弟姉妹・親戚・親・孫 22.0
家族構成別	1人暮らし(n=454)	そのような人はいない 40.3	兄弟姉妹・親戚・親・孫 23.8	別居の子ども 21.6
	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=698)	配偶者 92.6	別居の子ども 29.1	兄弟姉妹・親戚・親・孫 16.2
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=86)	配偶者 89.5	別居の子ども 29.1	兄弟姉妹・親戚・親・孫 17.4
	息子・娘との2世帯 (n=360)	同居の子ども 58.9	配偶者 53.9	兄弟姉妹・親戚・親・孫 24.7
	その他(n=267)	同居の子ども 49.8	配偶者 48.3	兄弟姉妹・親戚・親・孫 31.8

(3) 家族以外に頼れる人の有無について

問6 (5) 困った時に「助けて」といえる人は家族以外の人ですか。(1つだけ)

【全体の傾向】

家族以外で困った時に頼れる人の有無についてみると、「いる」が47.2%、「いない」が26.6%、「わからない」が23.6%となっています。

【属性別の傾向】

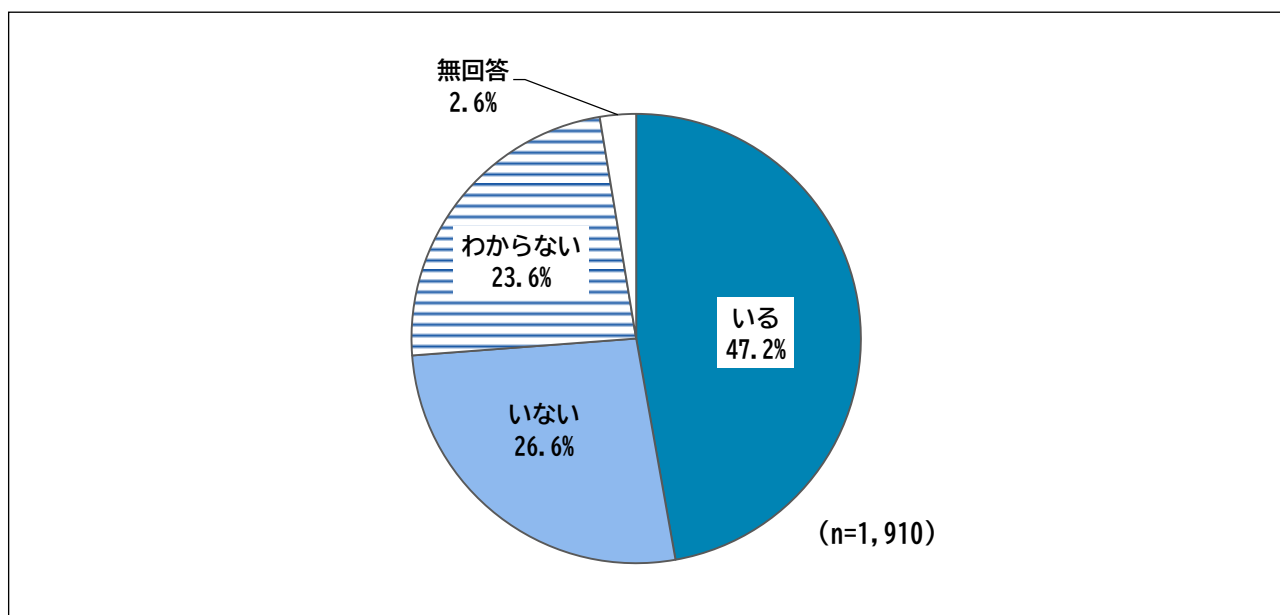
性別にみると、女性の半数以上が家族以外に頼れる人が「いる」という結果になっており、その割合は女性(50.7%)が男性(42.6%)を8.1ポイント上回っています。

家族構成別にみると、「いる」の割合は、夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)で51.2%と最も高くなっています。

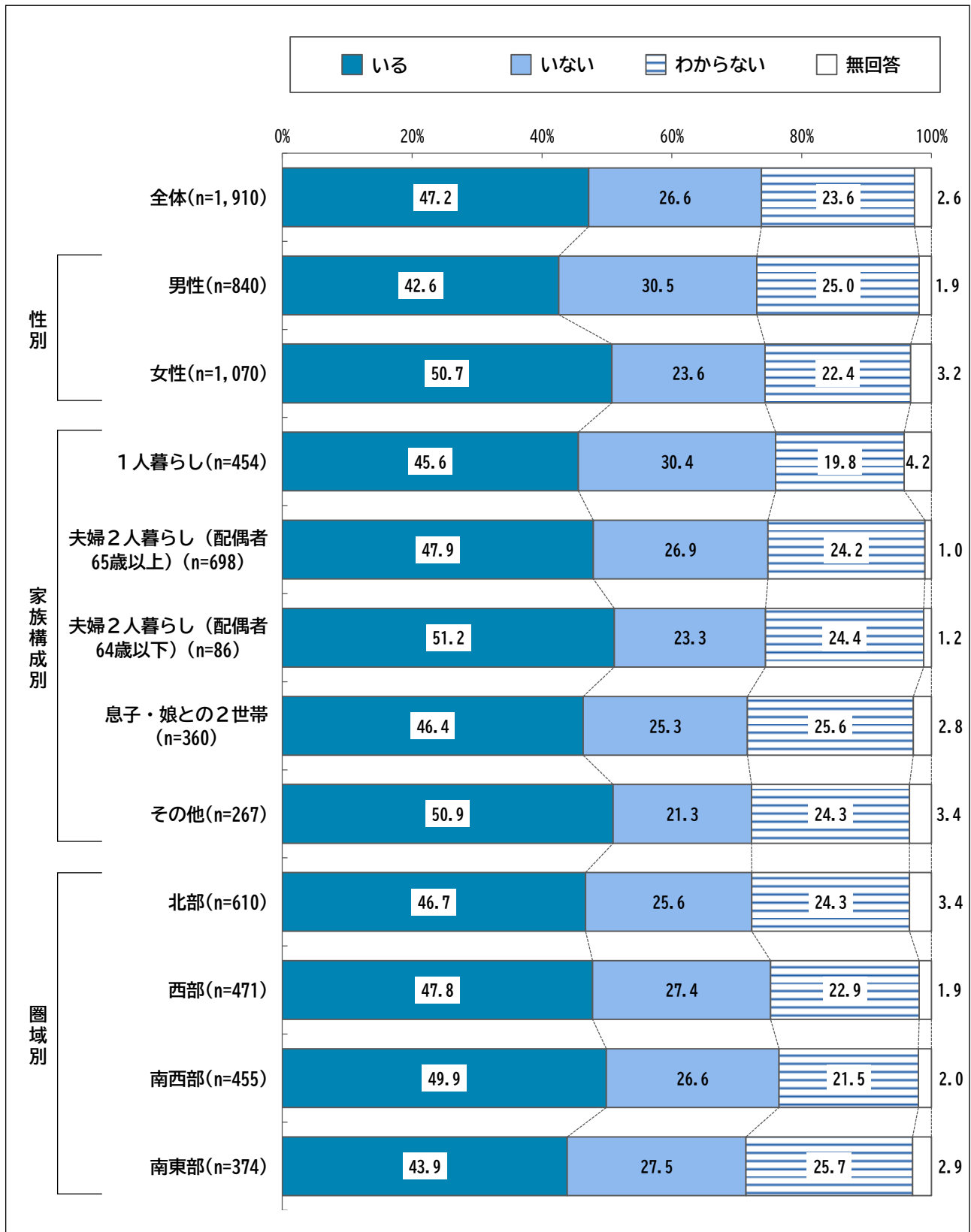
一方、1人暮らしでは「いる」は45.6%にとどまり、「いない」が30.4%と3割を超えています。

圏域別にみると、いずれの圏域においても「いる」が「いない」を上回っており、中でも南西部で49.9%と最も高くなっています。

図表 68 家族以外に困った時に頼れる人の有無について (全体)



図表 69 家族以外に困った時に頼れる人の有無について（全体、性別、家族構成別、圏域別）



※問6（5）で「いる」と答えた方のみ

問6（5-1）何人いますか。（人数を記入）

【全体の傾向】

家族以外で困った時に頼れる人の人数についてみると、「2人」が32.6%と最も高く、次いで「3人」（26.6%）、「1人」（16.3%）、「5人以上」（14.3%）、「4人」（5.3%）となっています。

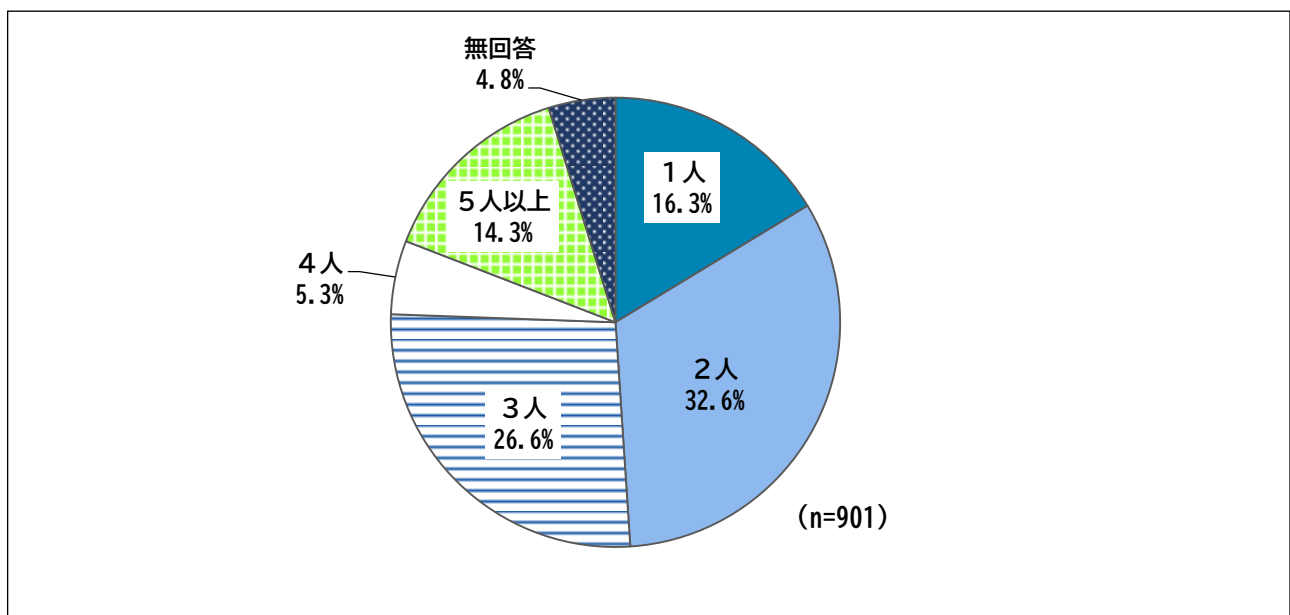
【属性別の傾向】

性別にみると、「2人」は女性（34.1%）が男性（30.4%）を3.7ポイント上回っています。一方、「5人以上」は男性（16.2%）が女性（13.1%）を3.1ポイント上回っています。

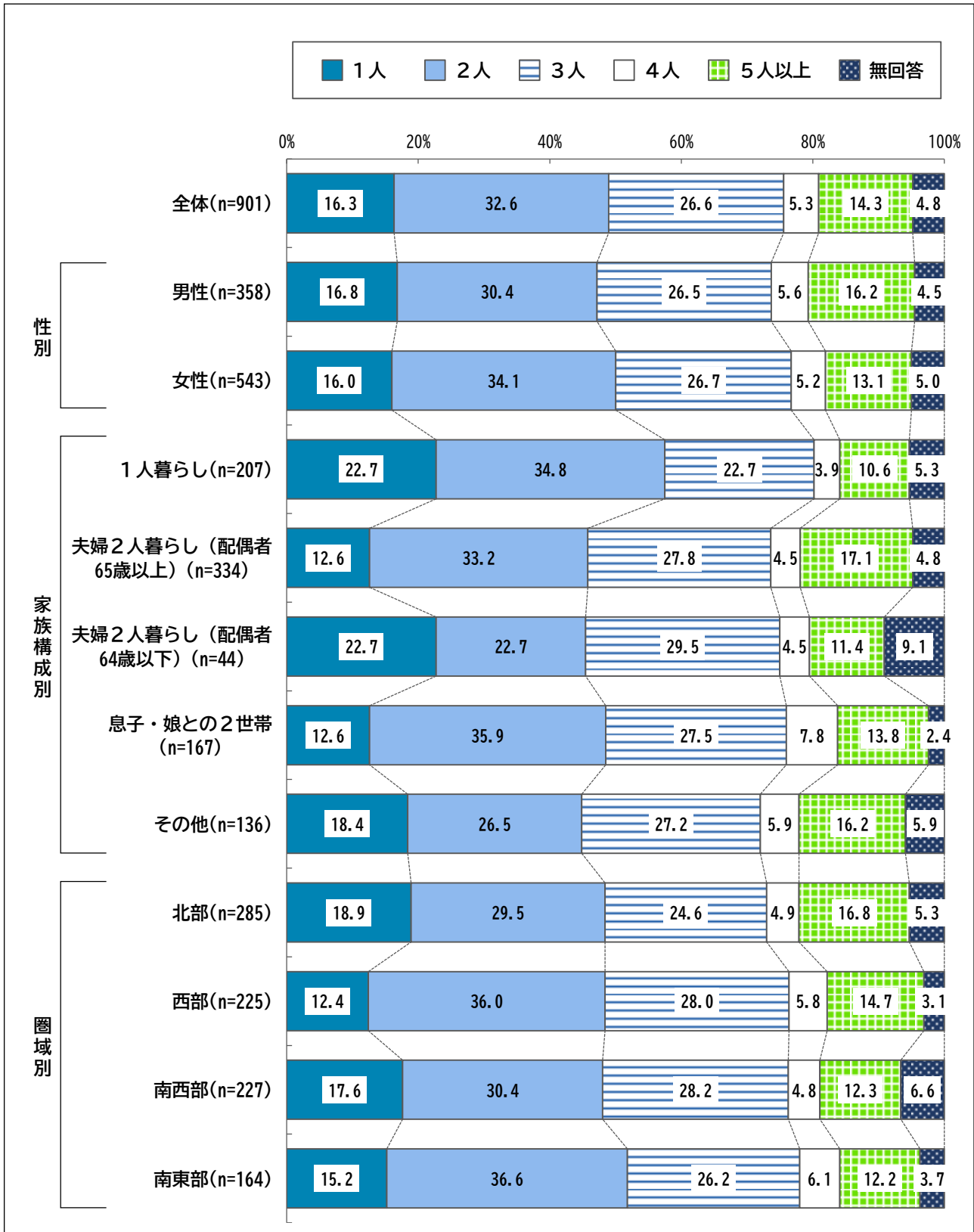
家族構成別にみると、1人暮らし、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）、息子・娘との2世帯では「2人」が最も高く、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）、その他では「3人」が最も高くなっています。

圏域別にみると、いずれの圏域においても「2人」が最も高く、次いで「3人」となっていますが第3位に違いがみられ、北部、南西部、南東部では「1人」、西部では「5人以上」となっています。

図表 70 家族以外に困った時に頼れる人の人数（全体）



図表 71 家族以外に困った時に頼れる人の人数（全体、性別、家族構成別、圏域別）



問6（6）家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。（いくつでも）

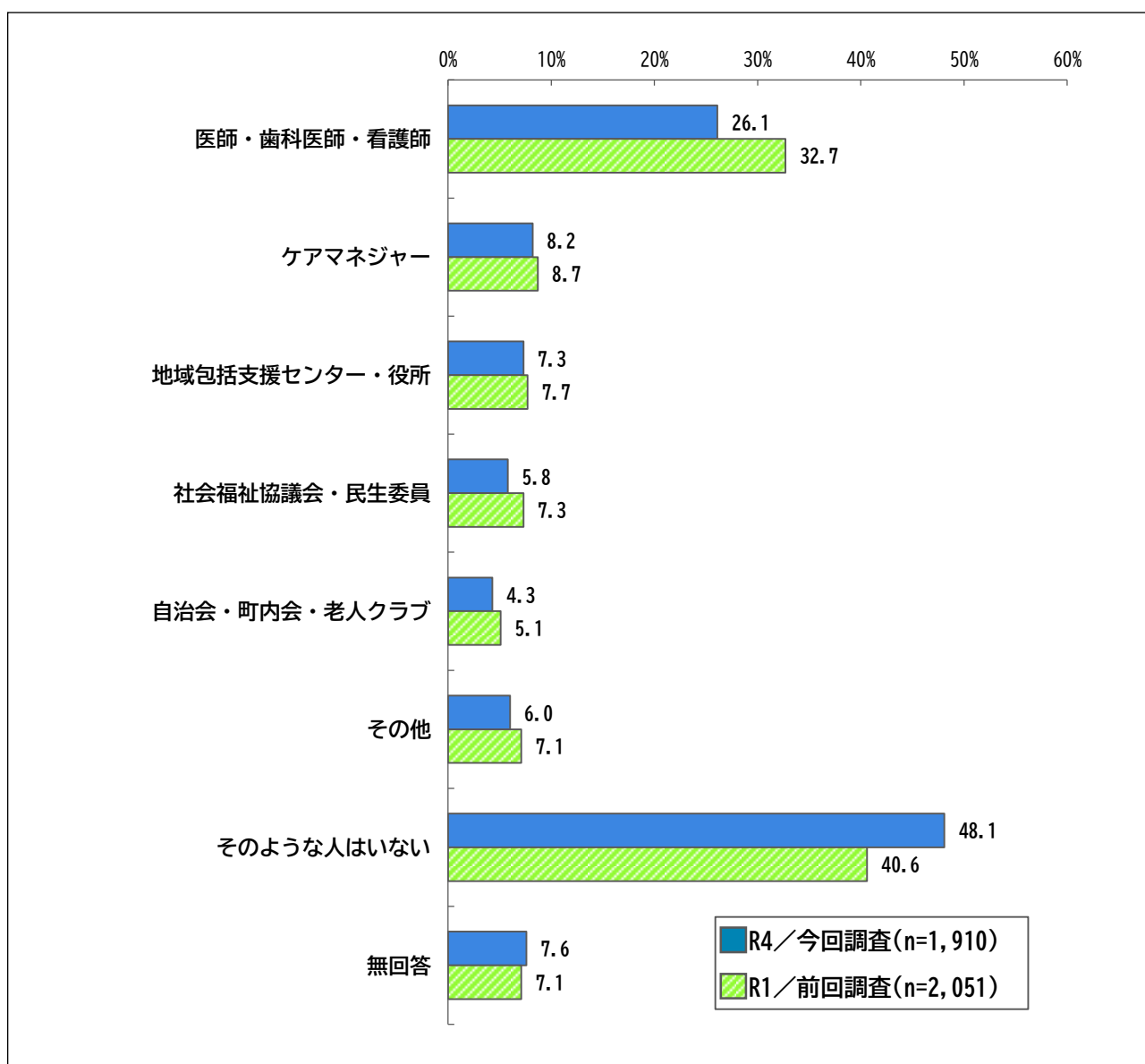
【全体の傾向】

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手についてみると、「医師・歯科医師・看護師」（26.1%）、「ケアマネジャー」（8.2%）、「地域包括支援センター・役所」（7.3%）、「社会福祉協議会・民生委員」（5.8%）、「自治会・町内会・老人クラブ」（4.3%）の順となっています。

一方、「そのような人はいない」は48.1%で最も多くなっています。

前回調査と比較すると、いずれの相手も減少しており、「そのような人はいない」が7.5ポイント増加しています。

図表 72 家族や友人・知人以外の相談相手（全体、前回比較／複数回答）



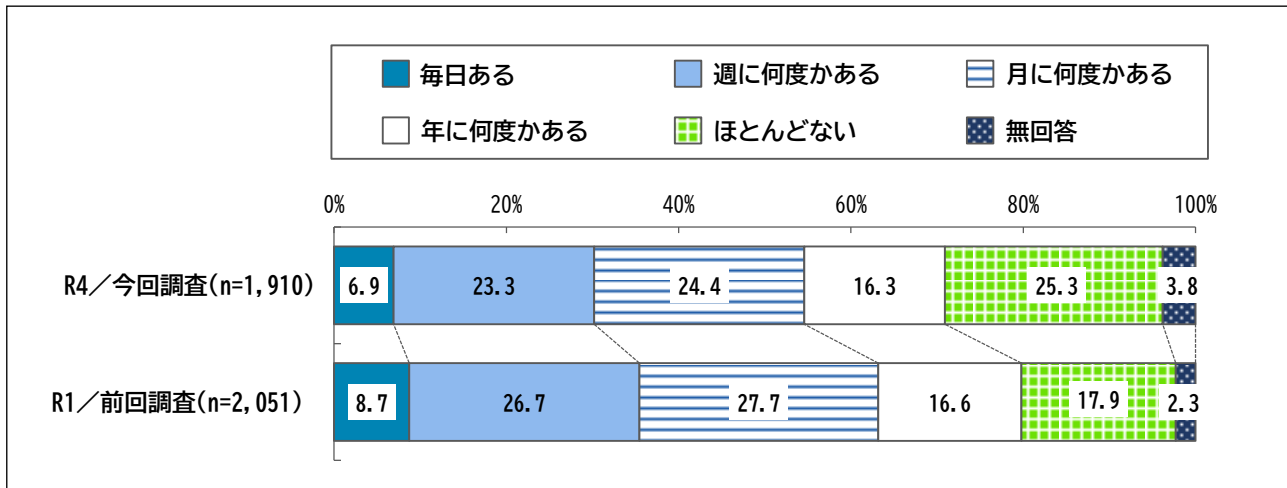
(4) 友人・知人との関係性

問6 (7) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(1つだけ)

【全体の傾向】

友人・知人と会う頻度をみると、「ほとんどない」が25.3%と最も高くなっており、次いで「月に何度かある」(24.4%)、「週に何度かある」(23.3%)となっています。前回調査と比較すると、会う頻度は全体的に減少傾向にあり、「ほとんどない」が7.4ポイント増加しています。

図表 73 友人・知人と会う頻度（全体、前回比較）

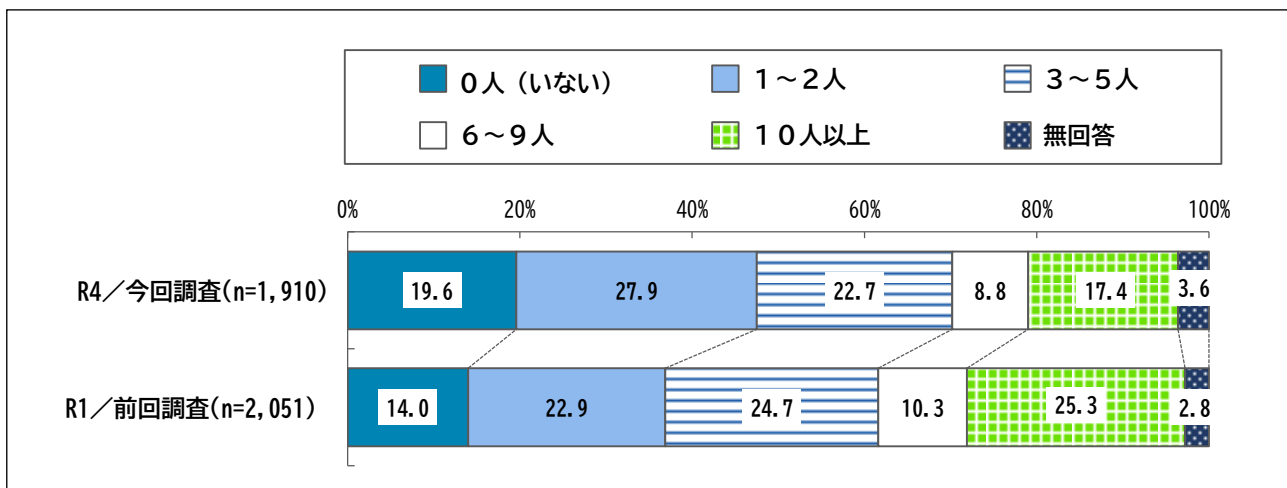


問6 (8) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。(1つだけ)

【全体の傾向】

1か月間で何人の友人・知人と会ったかをみると、「1～2人」が27.9%と最も高く、次いで「3～5人」(22.7%)、「0人(いない)」(19.6%)となっています。前回調査と比較すると、3人以上と会った人が減少し、「0人」、「1～2人」が増加しています。

図表 74 1か月間で何人の友人・知人と会ったか（全体、前回比較）



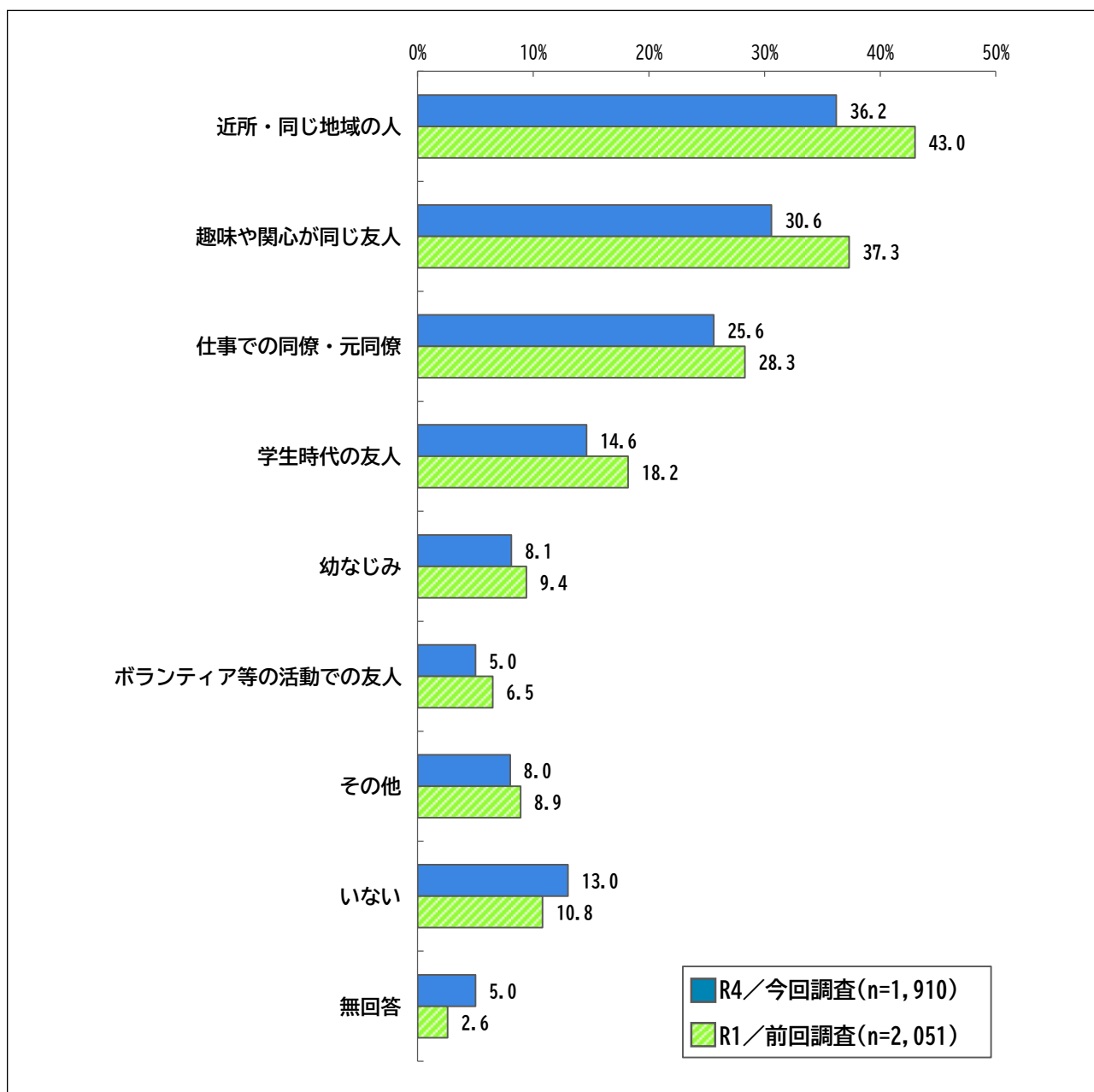
問6（9）よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。（いくつでも）

【全体の傾向】

よく会う友人・知人との関係についてみると、「近所・同じ地域の人」が36.2%と最も多く、「趣味や関心と同じ友人」(30.6%)、「仕事での同僚・元同僚」(25.6%)、「学生時代の友人」(14.6%)、「幼なじみ」(8.1%)、「ボランティア等の活動での友人」(5.0%)となっています。一方、「いない」は13.0%となっています。

前回調査と比較すると、「いない」が増加し、それ以外は減少しています。

図表 75 よく会う友人・知人との関係（全体、前回比較／複数回答）



7 健康について

(1) 主観的健康感

問7 (1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(1つだけ)

【全体の傾向】

現在の健康状態についてみると、「まあよい」が63.6%で最も高く、「とてもよい」(6.9%)と合計すると、『健康状態はよい』が70.5%となっています。

前回調査と比較すると、『健康状態はよい』が1.2ポイント減少しています。

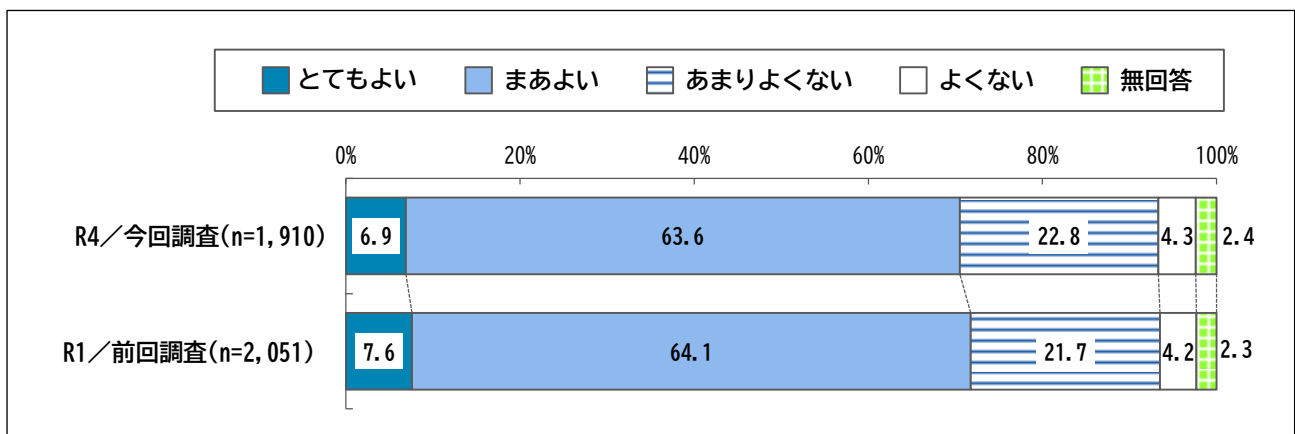
【属性別の傾向】

性別にみると、『健康状態はよい』は、女性(71.1%)が男性(69.8%)を1.3ポイント上回っています。

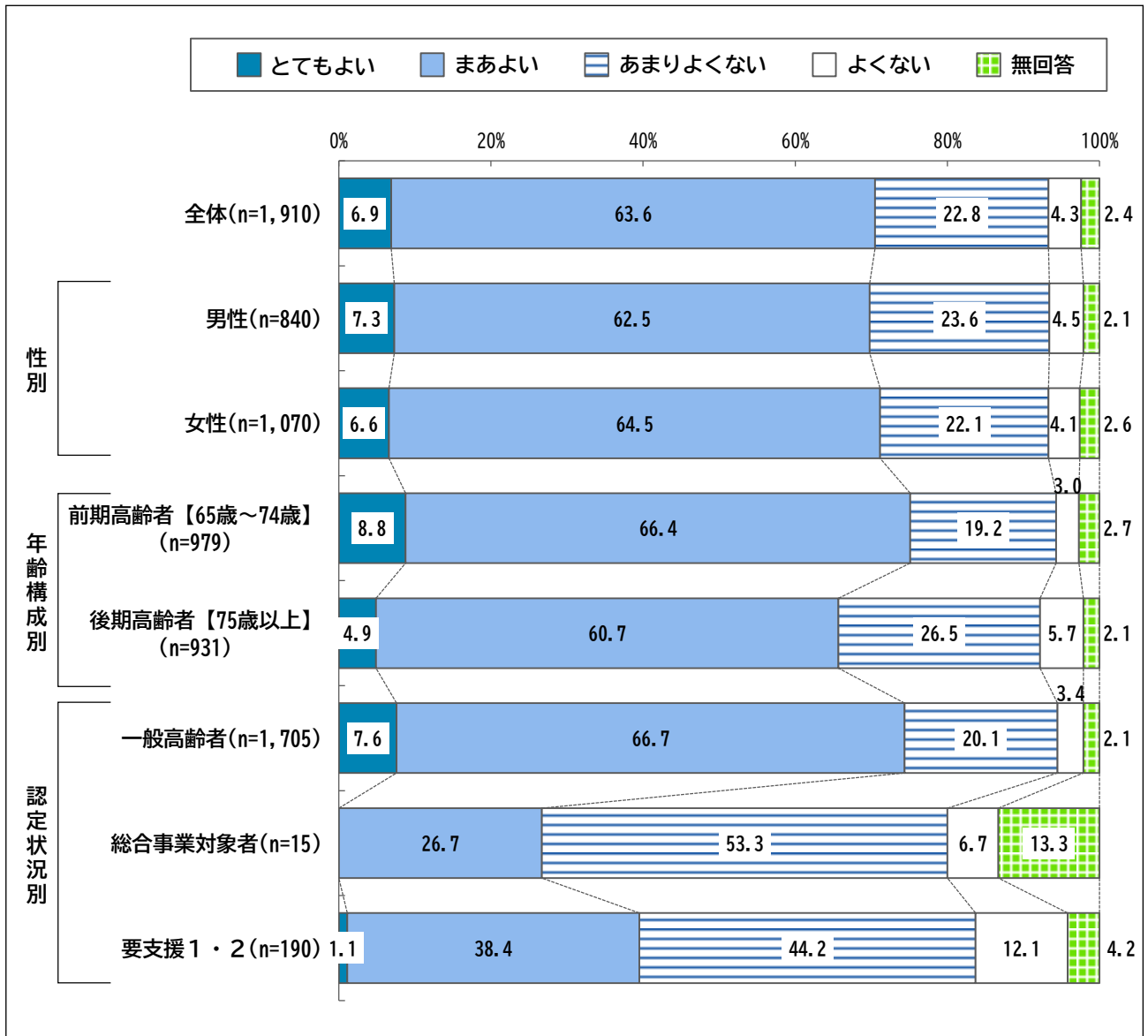
年齢構成別にみると、『健康状態はよい』は、前期高齢者(75.2%)が後期高齢者(65.6%)を9.6ポイント上回っています。

認定状況別にみると、『健康状態はよい』は、一般高齢者(74.3%)と、総合事業対象者(26.7%)および要支援1・2(39.5%)との間に差が見られます。また、総合事業対象者および要支援1・2では「あまりよくない」がそれぞれ最も高くなっており、「よくない」を合わせると、総合事業対象者では60.0%、要支援1・2では56.3%が『健康状態はよくない』と回答しています。

図表 76 主観的健康感 (全体、前回比較)



図表 77 主観的健康感（全体、性別、年齢構成別、認定状況別）



(2) 主観的幸福感

問7 (2) あなたは、現在どの程度幸せですか。

(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

【全体の傾向】

現在どの程度幸せかについて点数で評価したところ、「幸せ(7~9点)」が44.6%と最も高く、次いで「ふつう(4~6点)」(34.8%)、「とても幸せ(10点)」(9.7%)と続いています。また、「とても幸せ」と「幸せ」を合計した『幸せである』と感じている人は54.3%となっています。

前回調査と比較すると、『幸せである』と感じている人が2.7ポイント減少しています。

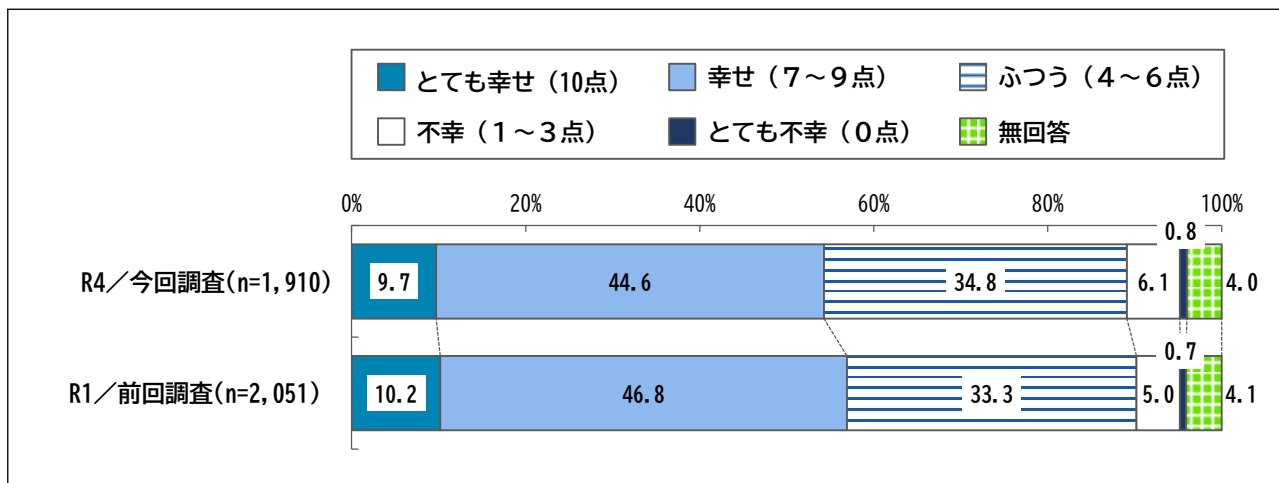
【属性別の傾向】

性別にみると、『幸せである』と感じている割合は、女性(56.0%)が男性(52.2%)を3.8ポイント上回っています。

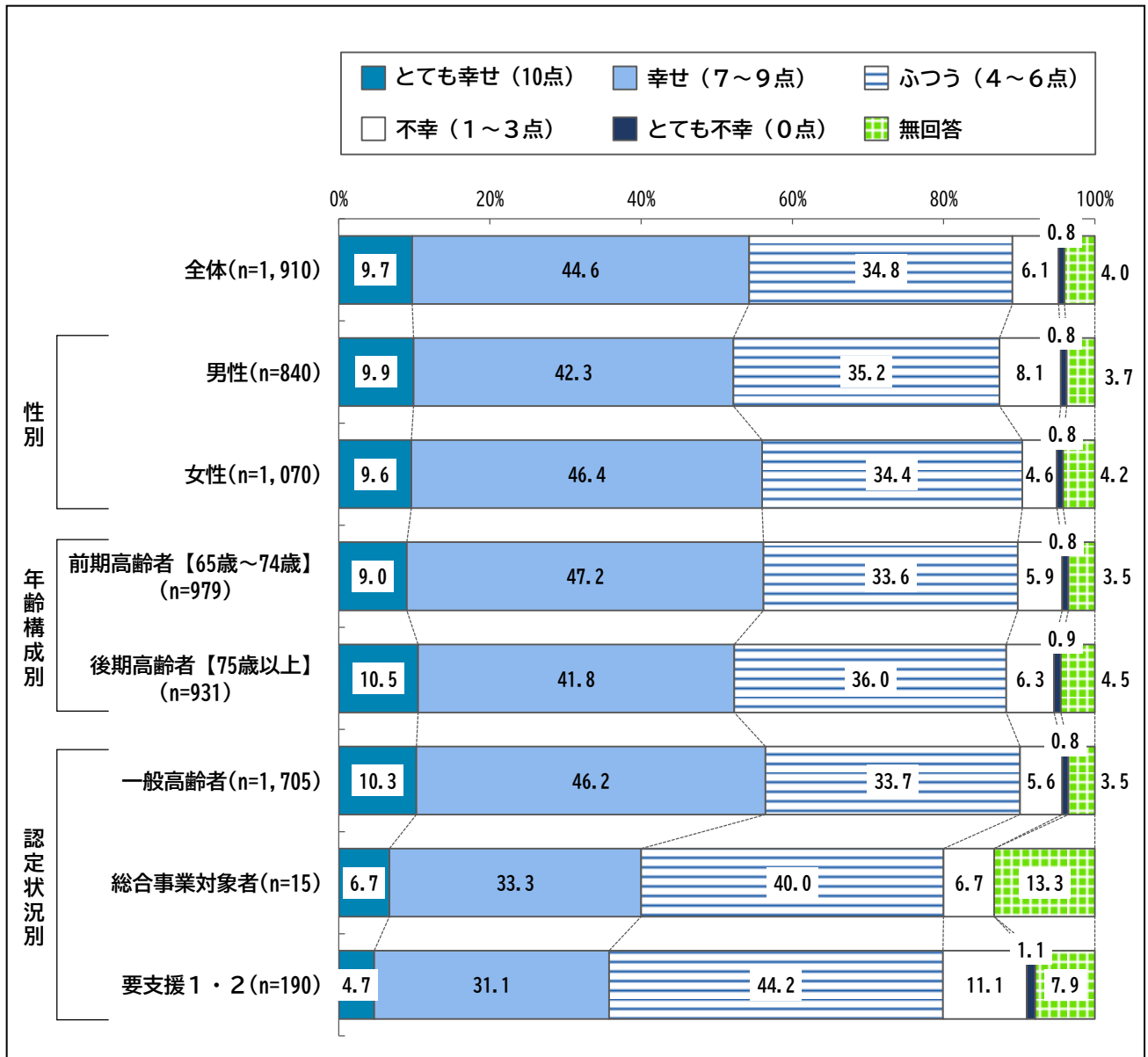
年齢構成別にみると、『幸せである』と感じている割合は、前期高齢者(56.2%)が後期高齢者(52.3%)を3.9ポイント上回っています。

認定状況別にみると、『幸せである』と感じている割合は、一般高齢者が56.5%と半数以上占めているのに対して、総合事業対象者では40.0%、要支援1・2では35.8%となっており、割合に差がみられます。

図表 78 主観的幸福感 (全体、前回比較)



図表 79 主観的幸福感（全体、性別、年齢構成別、認定状況別）



(3) うつ傾向について

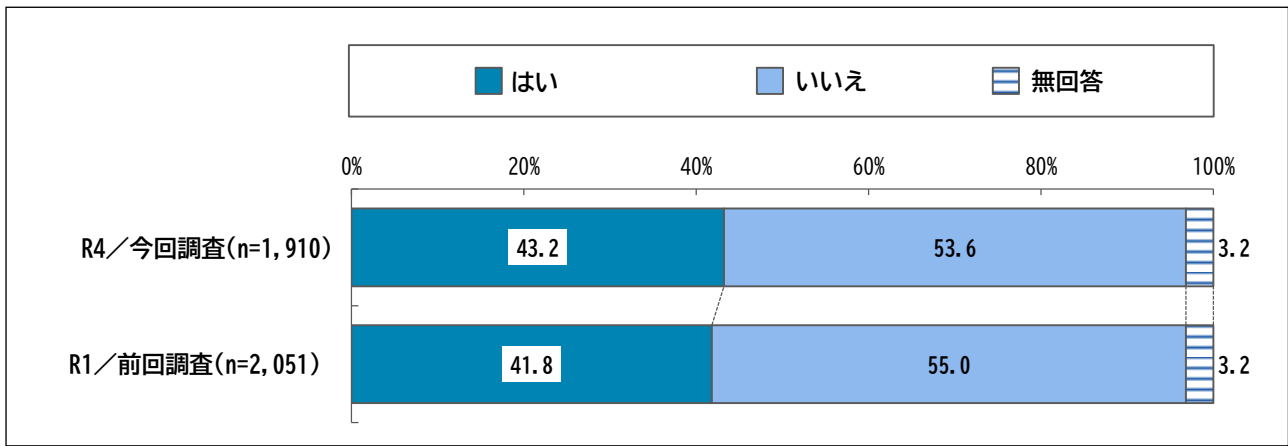
問7 (3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。
(1つだけ)

【全体の傾向】

この1か月間で気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったかについてみると、「はい」が43.2%、「いいえ」が53.6%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が1.4ポイント増加しています。

図表 80 ゆうつな気持ちになることがあったか（全体、前回比較）



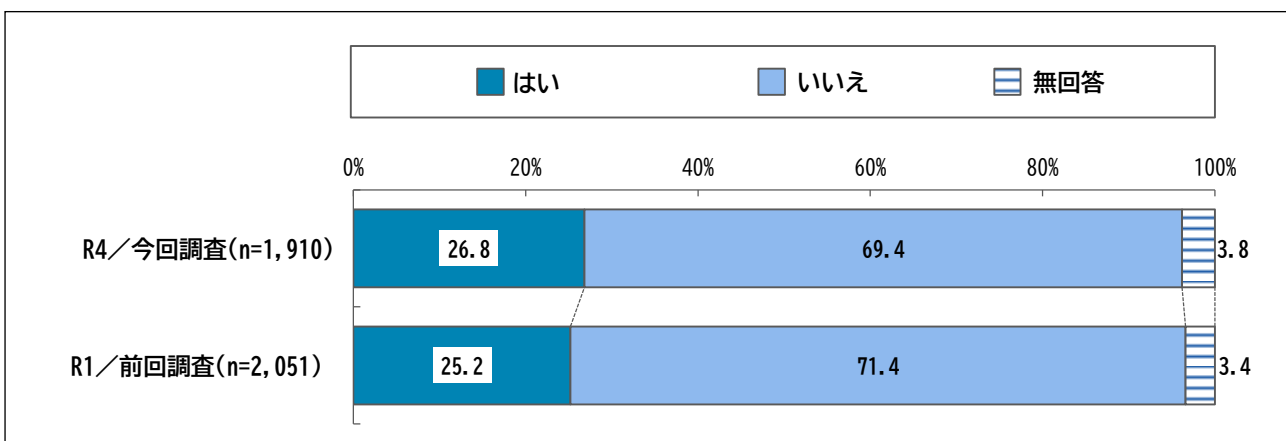
問7 (4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(1つだけ)

【全体の傾向】

この1か月間で物事に対して興味がわかない、楽しめないと感じたかについてみると、「はい」が26.8%、「いいえ」が69.4%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が1.6ポイント増加しています。

図表 81 物事に興味がわかない、楽しめないことがあったか（全体、前回比較）



(4) 飲酒の習慣

問7 (5) お酒は飲みますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

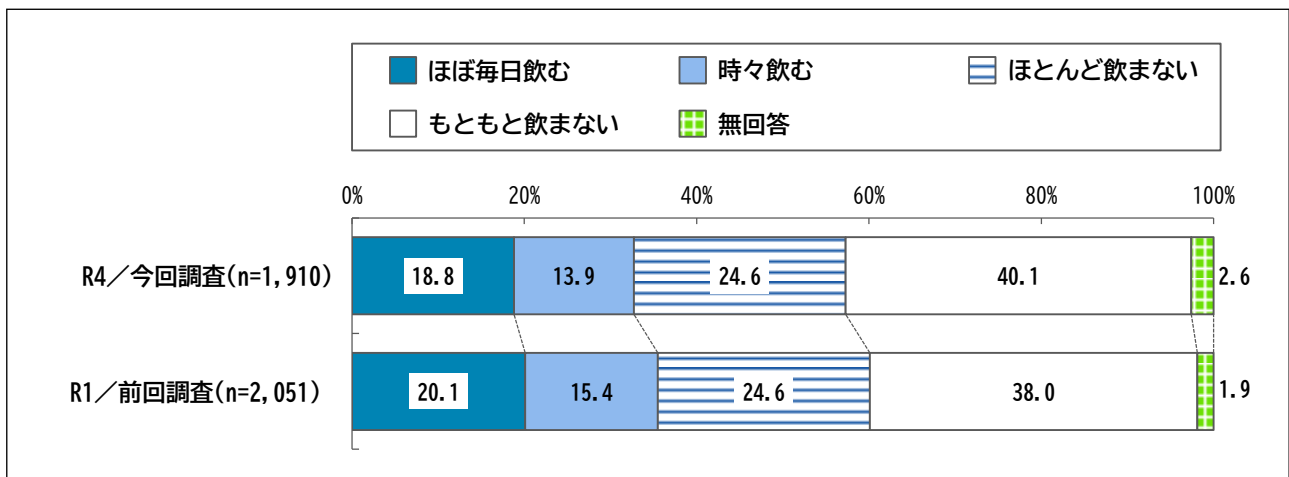
飲酒の習慣についてみると、「もともと飲まない」が40.1%と最も高く、「ほとんど飲まない」(24.6%)を合計すると、64.7%が『飲酒の習慣がない』と回答しています。一方、「ほぼ毎日飲む」(18.8%)と「時々飲む」(13.9%)を合計した『飲酒の習慣がある』は32.7%となっています。

前回調査と比較すると、『飲酒の習慣がある』が減少し、『飲酒の習慣がない』が増加しています。

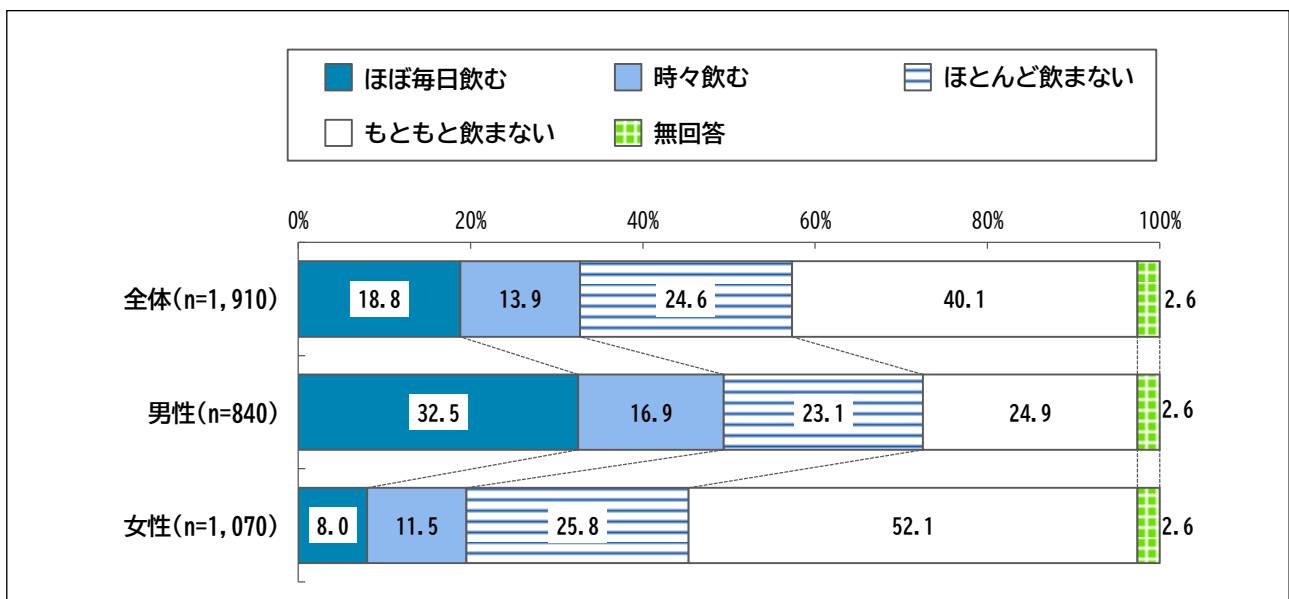
【属性別の傾向】

性別にみると、男性では『飲酒の習慣がある』が49.4%を占めており、そのうちの32.5%が「ほぼ毎日飲む」と回答しています。一方、女性では『飲酒の習慣がない』が77.9%を占めており、そのうち52.1%が「もともと飲まない」と回答しています。また、『飲酒の習慣がある』は19.5%にとどまっています。

図表 82 飲酒の習慣（全体、前回比較）



図表 83 飲酒の習慣（全体、性別）



(5) 喫煙の習慣

問7 (6) タバコは吸っていますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

喫煙の習慣についてみると、「もともと吸っていない」が60.6%となっており、「吸っていたがやめた」(28.3%)を合計すると、88.9%が『現在は吸っていない』と回答しています。

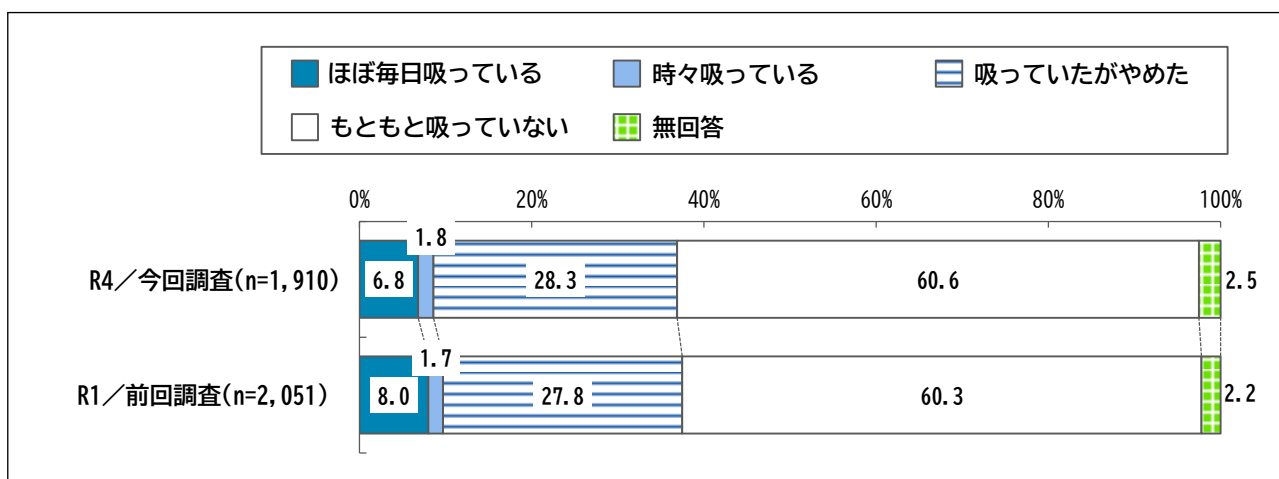
前回調査と比較すると、「ほぼ毎日吸っている」が1.2ポイント減少しています。

【属性別の傾向】

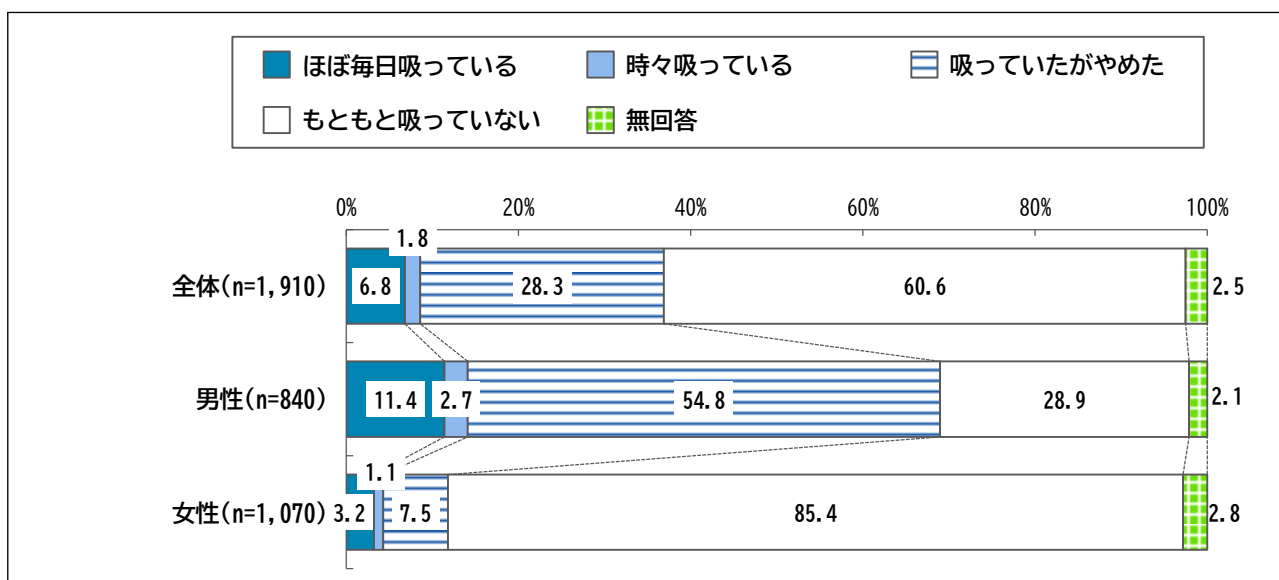
性別にみると、男性では『現在は吸っていない』が83.7%となっており、そのうちの54.8%が、「吸っていたがやめた」となっています。一方、女性では『現在は吸っていない』が92.9%と大半を占めており、そのうちの85.4%が「もともと吸っていない」となっています。

また、「ほぼ毎日吸っている」と「時々吸っている」を合計した『現在も吸っている』では、男性が14.1%、女性が4.3%となっており、男性が9.8ポイント上回っています。

図表 84 喫煙の習慣（全体、前回比較）



図表 85 喫煙の習慣（全体、性別）



(6) 現在治療中、後遺症のある病気について

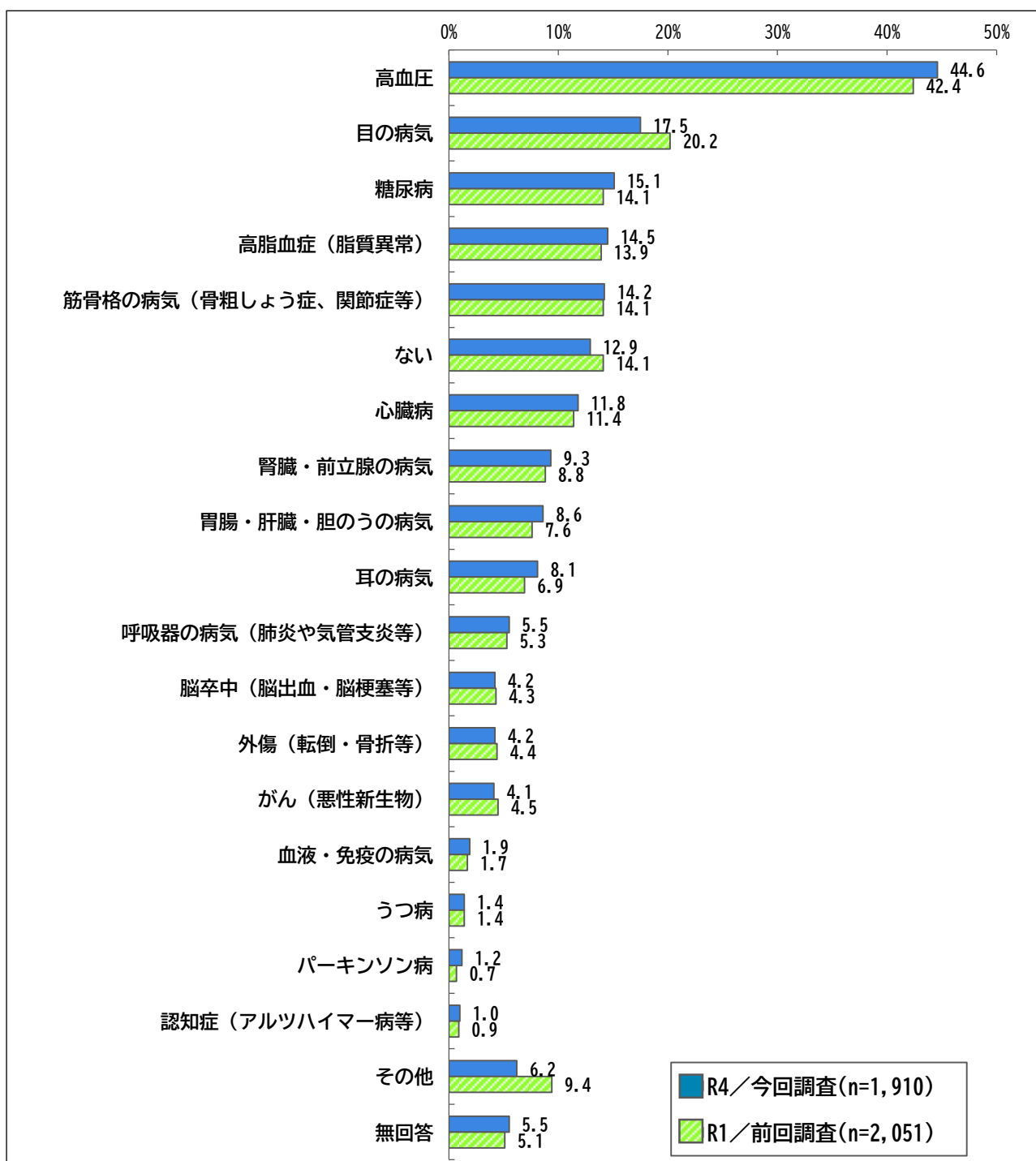
問7 (7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(いくつでも)

【全体の傾向】

現在治療中、または後遺症のある病気についてみると、「高血圧」が44.6%と最も多く、その割合は突出しています。次いで「目の病気」(17.5%)、「糖尿病」(15.1%)、「高脂血症(脂質異常)」(14.5%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」(14.2%)となっています。

前回調査と比較すると、「高血圧」が2.2ポイント増加しています。

図表 86 現在治療中、後遺症のある病気(全体、前回比較/複数回答)



【属性別の傾向】

性別にみると、男性では第2位が「糖尿病」、第3位が「腎臓・前立腺の病気」、第4位が「目の病気」、第5位が「心臓病」となっている一方で、女性では第2位が「筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等）」、第3位が「目の病気」、第4位が「高脂血症（脂質異常）」第5位が「ない」となっており、男女間で抱えている病気の種類などに差があることがわかります。

図表 87 現在治療中、後遺症のある病気（全体、性別／複数回答）

<上位5位/単位%>

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体(n=1,910)		高血圧 44.6	目の病気 17.5	糖尿病 15.1	高脂血症（脂質異常） 14.5	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等） 14.2
性別	男性(n=840)	高血圧 46.5	糖尿病 19.3	腎臓・前立腺の病気 16.3	目の病気 14.8	心臓病 14.6
	女性(n=1,070)	高血圧 43.1	筋骨格の病気（骨粗しょう症、関節症等） 21.0	目の病気 19.7	高脂血症（脂質異常） 17.4	ない 13.2

8 認知症にかかる相談窓口の把握などについて

(1) 認知症の症状の有無について

問8 (1) 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。(1つだけ)

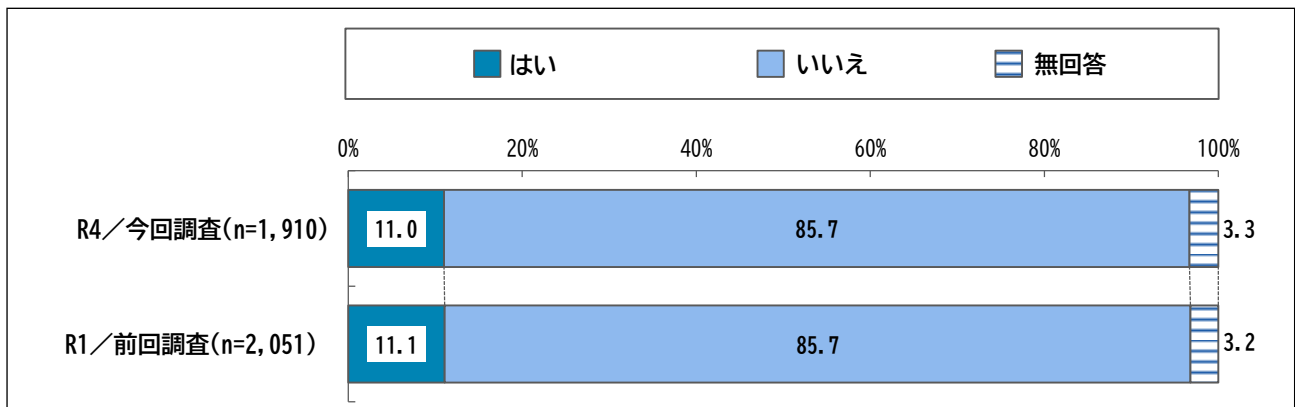
【全体の傾向】

認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるかどうかをみると、「はい」は 11.0%にとどまっています。前回調査と比較すると、その割合に大きな違いはみられません。

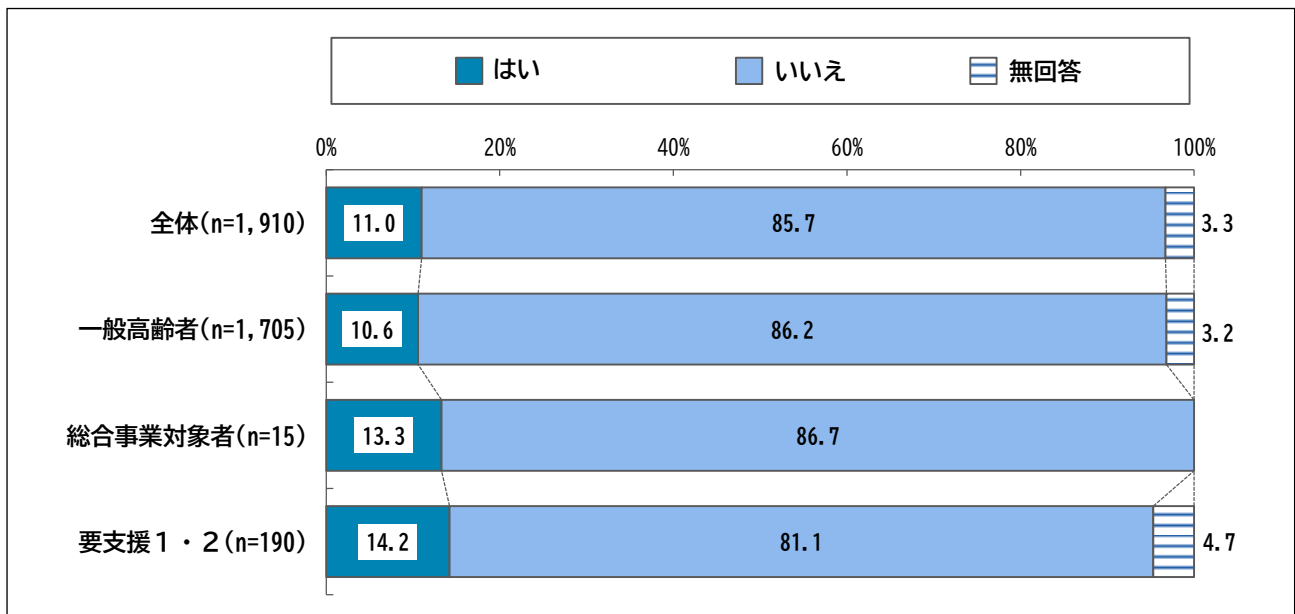
【属性別の傾向】

認定状況別にみると、要支援1・2で「はい」の割合が最も高くなっています。

図表 88 本人または家族の認知症の症状の有無について（全体、前回比較）



図表 89 本人または家族の認知症の症状の有無について（全体、認定状況別）



(2) 認知症に関する相談窓口や充実すべきことについて

問8 (2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

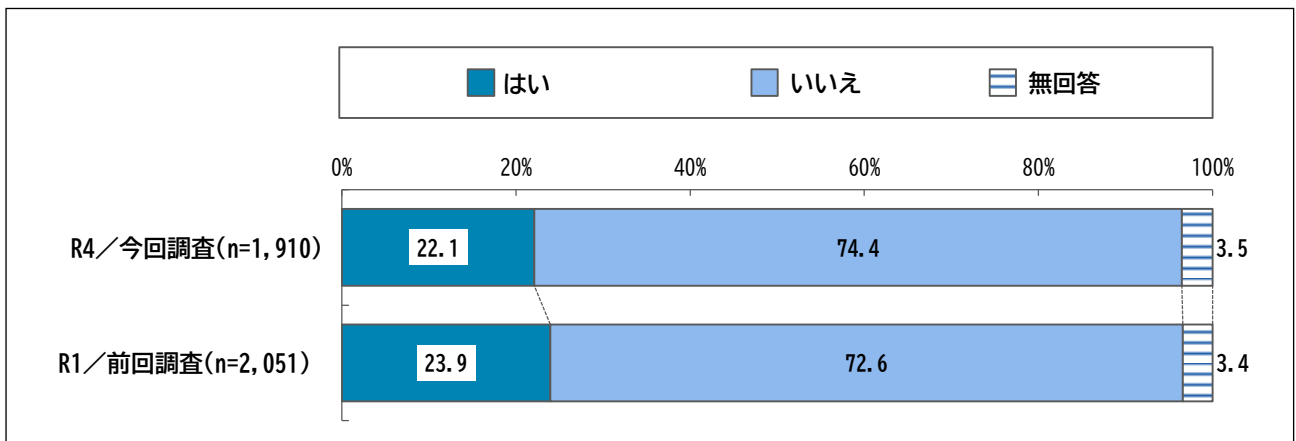
認知症に関する相談窓口の認知度についてみると、「はい」は22.1%、「いいえ」が74.4%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が1.8ポイント減少しています。

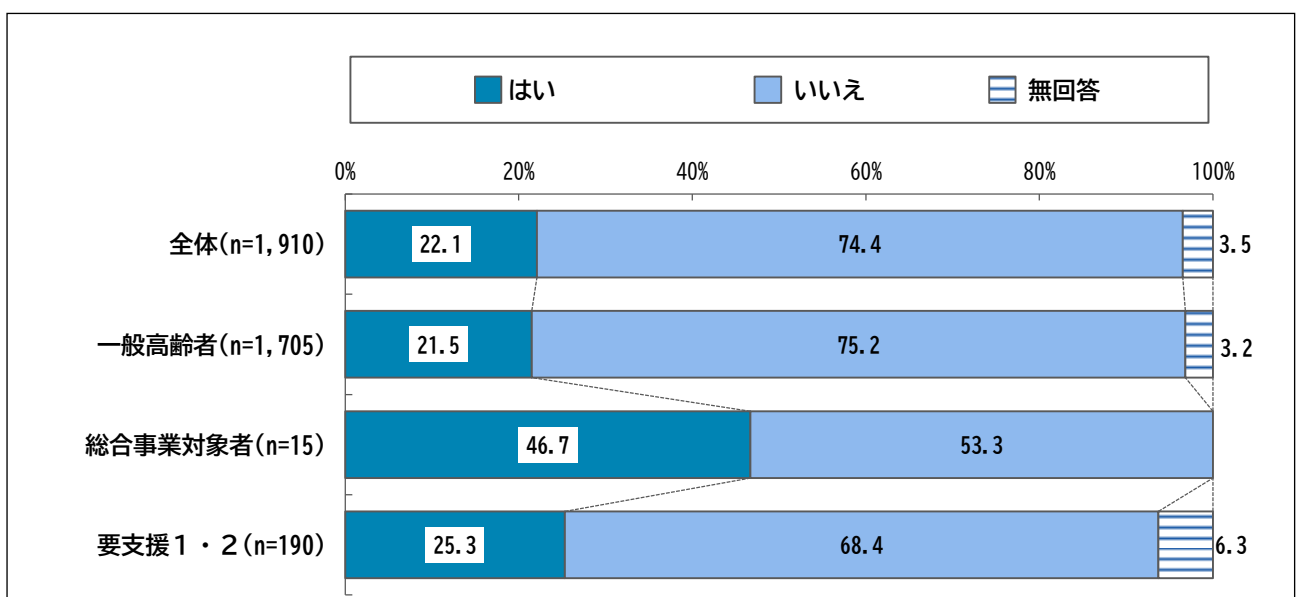
【属性別の傾向】

認定状況別にみると、「はい」の割合は、一般高齢者では21.5%、要支援1・2では25.3%となっているのに対し、総合事業対象者では46.7%と他よりも認知度は高くなっています。

図表 90 認知症に関する相談窓口の認知度（全体、前回比較）



図表 91 認知症に関する相談窓口の認知度（全体、認定状況別）

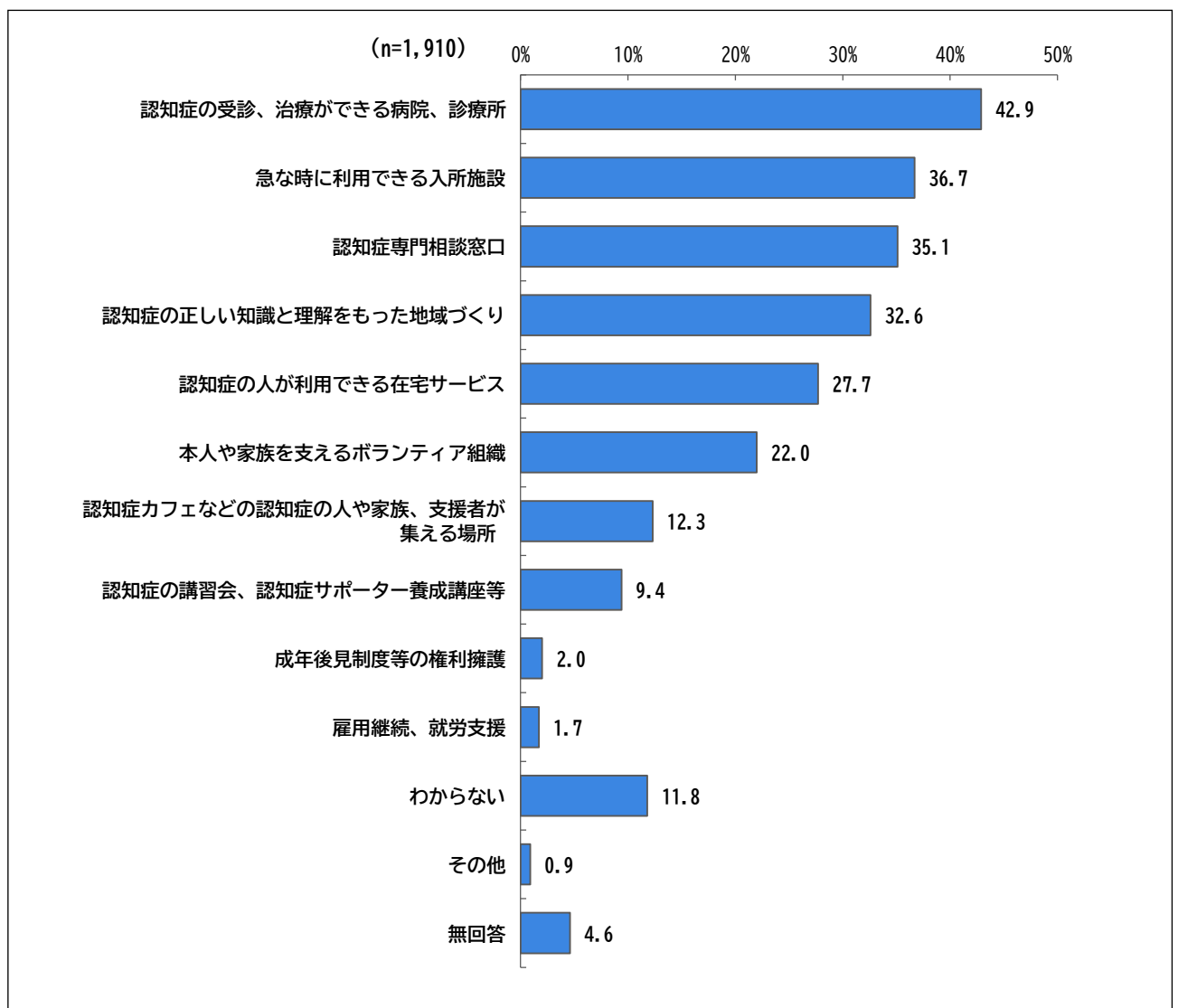


問8（3）今後どのようなことを充実すれば、認知症になっても住み慣れた街で安心して暮らしていくことができると思いますか。（特に必要と思うものを3つだけ）

【全体の傾向】

認知症になっても安心して暮らすために充実すべきことについてみると、「認知症の受診、治療ができる病院、診療所」が42.9%で最も多く、次いで「急なときに利用できる入所施設」(36.7%)、「認知症専門相談窓口」(35.1%)、「認知症の正しい知識と理解をもった地域づくり」(32.6%)、「認知症の人が利用できる住宅サービス」(27.7%)となっています。

図表 92 認知症になっても安心して暮らすために充実すべきこと（全体／複数回答：3つまで）



【属性別の傾向】

性別にみると、第1位は男女共に「認知症の受診、治療ができる病院、診療所」となっていますが、男性では「認知症専門相談窓口」、女性では「急な時に利用できる入所施設」がそれぞれ第2位に挙がるなどの違いがみられます。

認定状況別にみると、総合事業対象者では第2位に「認知症専門相談窓口」、第3位に「急な時に利用できる入所施設」、第4位に「本人や家族を支えるボランティア組織」が挙げられており、他との違いがみられます。

図表 93 認知症になっても安心して暮らすために充実すべきこと
(全体、性別、認定状況別/複数回答：3つまで)

<上位5位/単位%>

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体(n=1,910)		認知症の受診、治療ができる病院、診療所 42.9	急な時に利用できる入所施設 36.7	認知症専門相談窓口 35.1	認知症の正しい知識と理解をもった地域づくり 32.6	認知症の人が利用できる在宅サービス 27.7
性別	男性(n=840)	認知症の受診、治療ができる病院、診療所 43.9	認知症専門相談窓口 36.1	急な時に利用できる入所施設 31.0	認知症の正しい知識と理解をもった地域づくり 29.9	認知症の人が利用できる在宅サービス 25.2
	女性(n=1,070)	認知症の受診、治療ができる病院、診療所 42.1	急な時に利用できる入所施設 41.2	認知症の正しい知識と理解をもった地域づくり 34.7	認知症専門相談窓口 34.3	認知症の人が利用できる在宅サービス 29.7
認定状況別	一般高齢者(n=1,705)	認知症の受診、治療ができる病院、診療所 43.0	急な時に利用できる入所施設 36.8	認知症専門相談窓口 35.0	認知症の正しい知識と理解をもった地域づくり 32.9	認知症の人が利用できる在宅サービス 28.0
	総合事業対象者(n=15)	認知症の受診、治療ができる病院、診療所 46.7	認知症専門相談窓口 40.0	急な時に利用できる入所施設 33.3	本人や家族を支えるボランティア組織 26.7	認知症の正しい知識と理解をもった地域づくり/認知症カフェなどの認知症の人や家族、支援者が集える場所/認知症の人が利用できる在宅サービス/わからない 20.0
	要支援1・2(n=190)	認知症の受診、治療ができる病院、診療所 41.1	急な時に利用できる入所施設 35.8	認知症専門相談窓口 35.3	認知症の正しい知識と理解をもった地域づくり 30.5	認知症の人が利用できる在宅サービス 25.8

9 相談窓口について

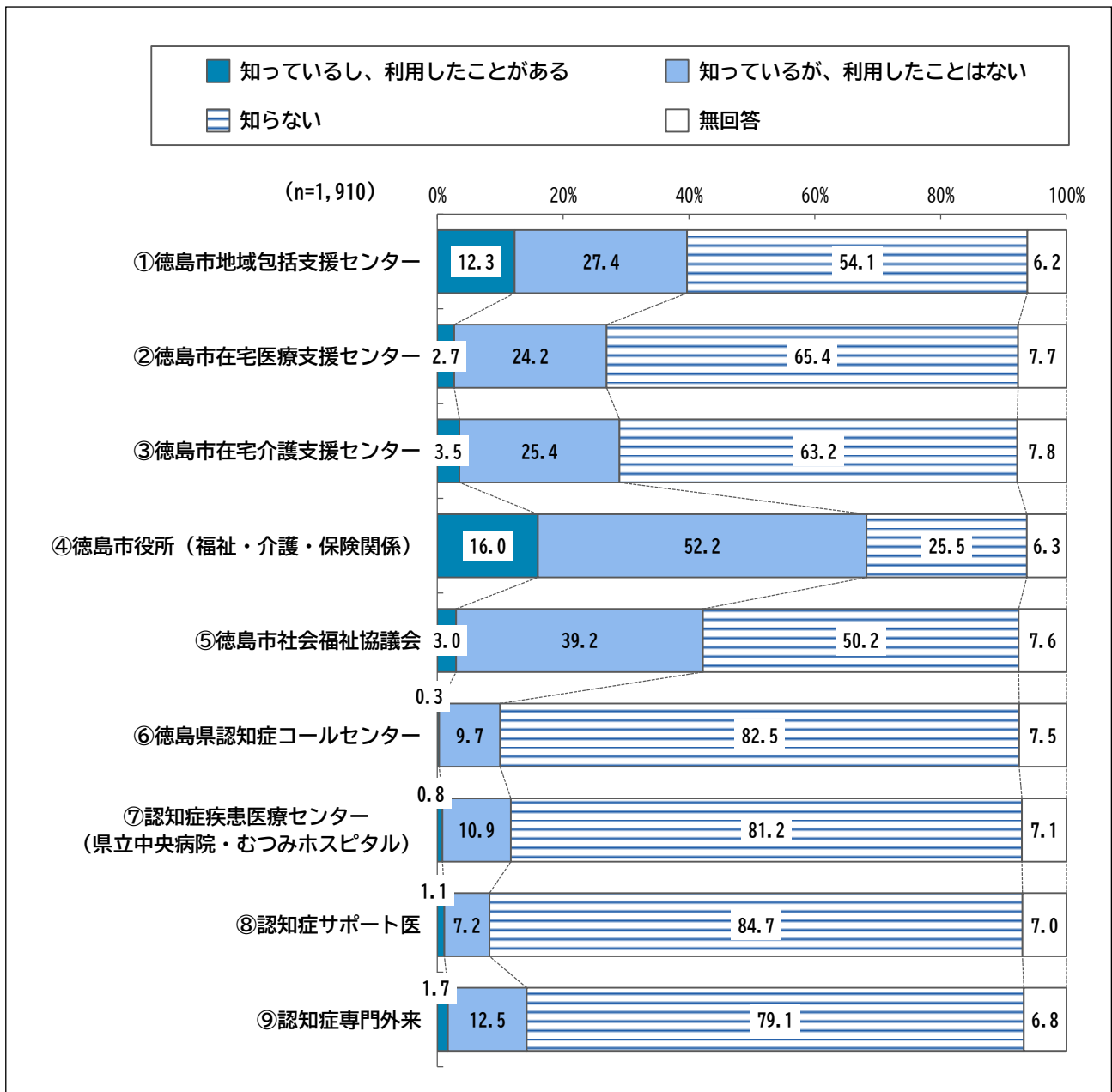
(1) 介護予防等に関する相談窓口や医療機関について

問9 以下の介護予防の各種事業の相談・申請窓口及び在宅医療に関する相談窓口、認知症に関する相談窓口・医療機関をご存知ですか。また、利用したことはありますか。(①～⑨それぞれ1つ)

【全体の傾向】

介護予防事業等に関する申請・相談窓口や医療機関の認知度と利用状況についてみると、「知っているし、利用したことがある」では①徳島市地域包括支援センター(12.3%)や④徳島市役所(福祉・介護・保険関係)(16.0%)が他の機関等に比べて高くなっています。また、⑥徳島県認知症コールセンター、⑦認知症疾患医療センター、⑧認知症サポート医では「知らない」が8割を超えています。

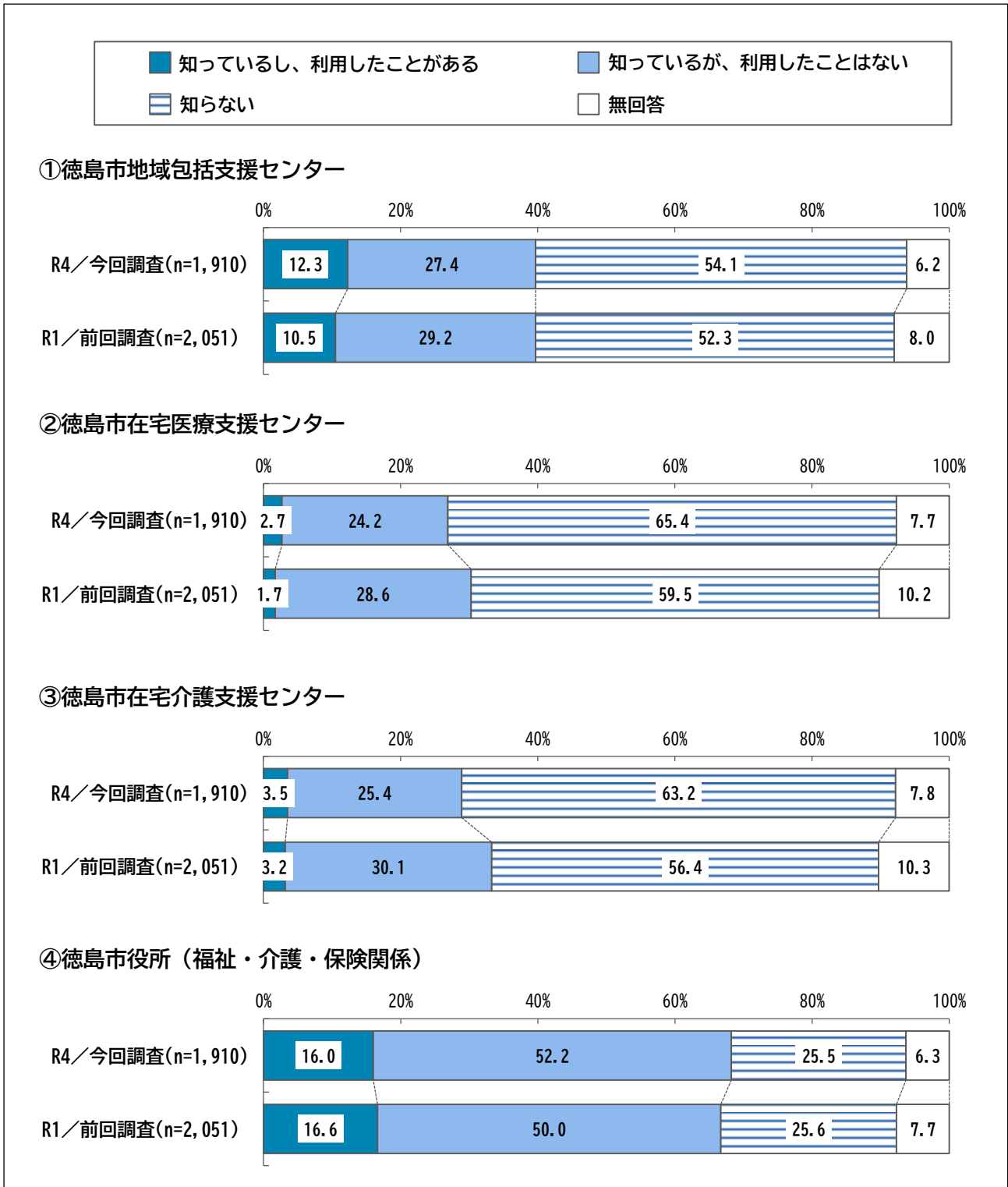
図表 94 介護予防事業等に関する申請・相談窓口や医療機関の認知度と利用状況(全体)



【前回調査との比較】

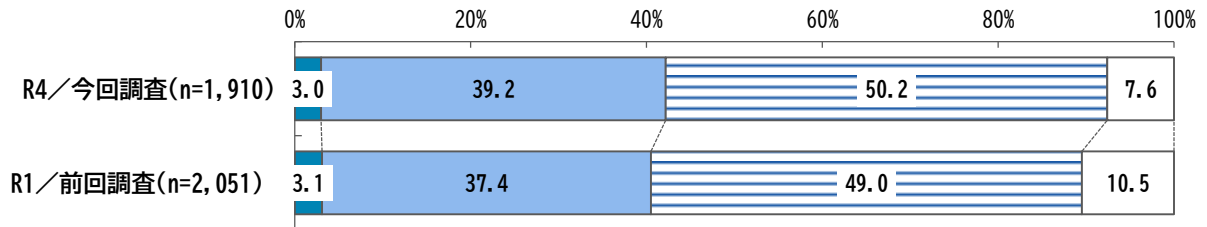
前回調査と比較すると、①徳島市地域包括支援センターでは「知っているし、利用したことがある」が1.8ポイント上回っています。また、④徳島市役所(福祉・介護・保険関係)、⑤徳島市社会福祉協議会では「知っているが、利用したことはない」の割合がそれぞれ前回調査を上回っています。

図表 95 介護予防等に関する申請・相談窓口や医療機関の認知度と利用状況（全体、前回比較）

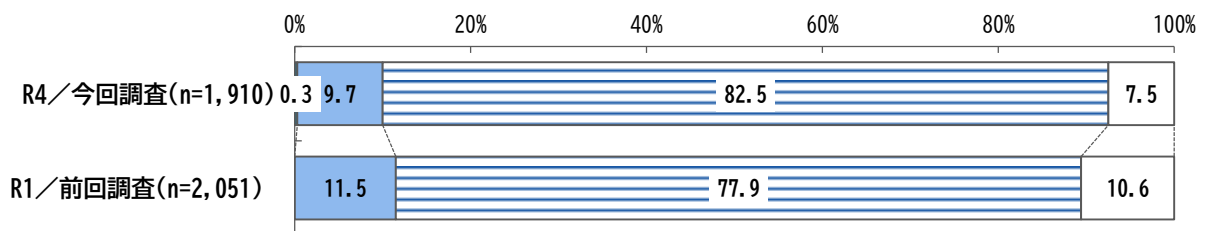




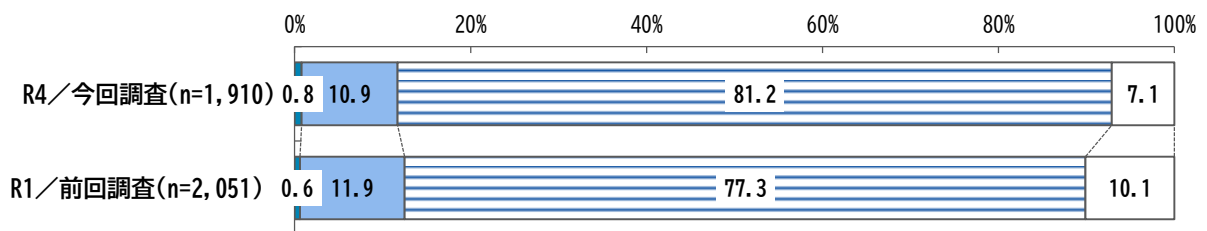
⑤徳島市社会福祉協議会



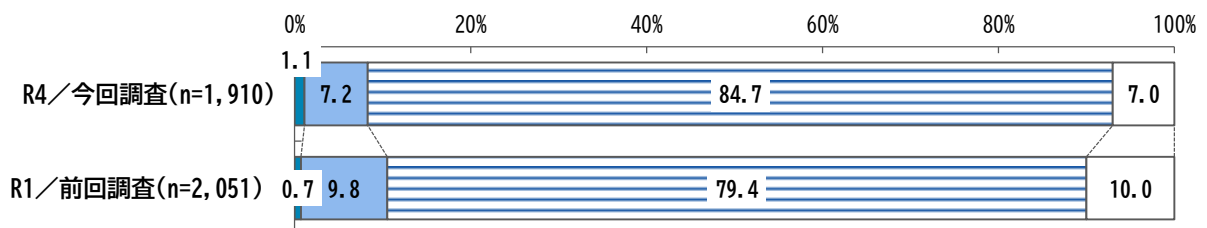
⑥徳島県認知症コールセンター



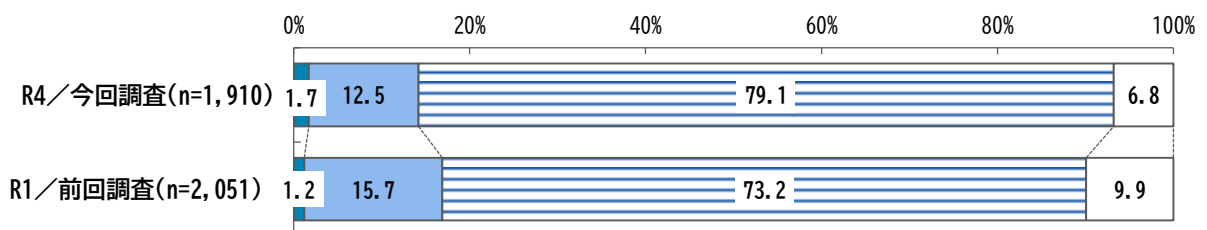
⑦認知症疾患医療センター（県立中央病院・むつみホスピタル）



⑧認知症サポート医



⑨認知症専門外来



10 介護予防について

(1) 介護予防等に関する取り組み状況

問 10 (1) 現在、介護予防に関する取り組みを行っていますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

介護予防に関する取り組み状況をみると、「介護予防に関する取り組みを6か月以内に行う気はない」が53.6%と半数以上を占めています。一方、「介護予防に関する取り組みを6か月以上継続している(19.5%)と「介護予防に関する取り組みを行っているが6か月以上継続していない」(3.0%)を合計した『現在、介護予防に関する取り組みを行っている』割合は22.5%となっています。

【属性別の傾向】

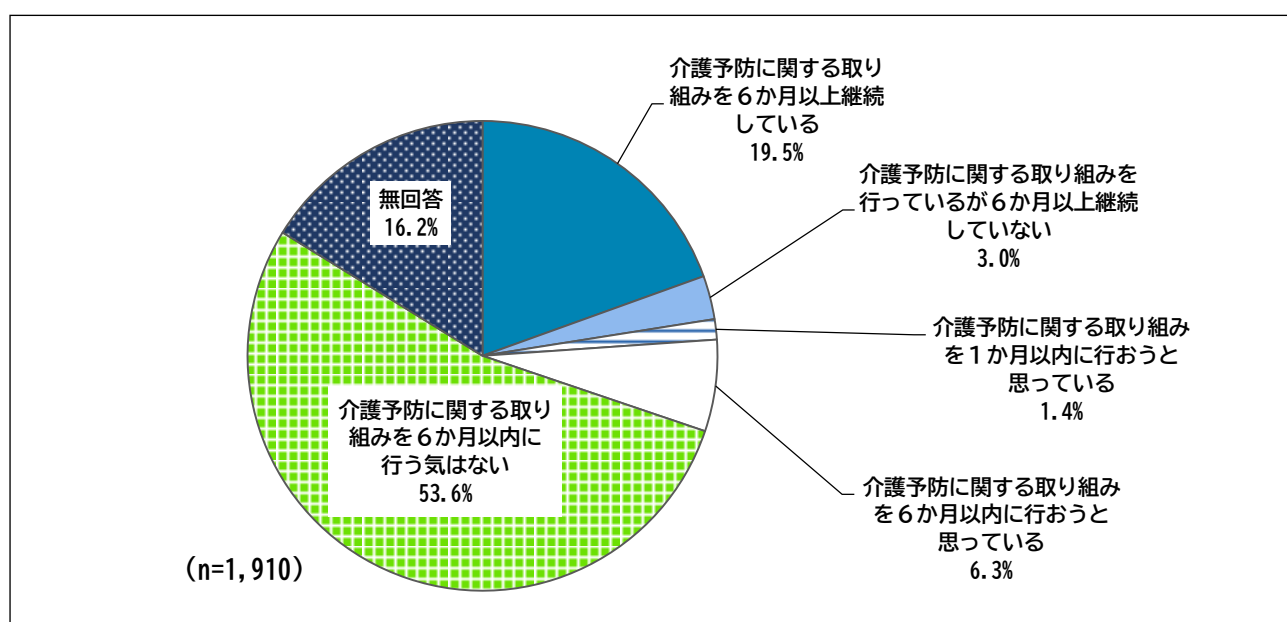
性別にみると、『現在、介護予防に関する取り組みを行っている』は女性(25.0%)が男性(19.2%)を5.8ポイント上回っています。

年齢構成別にみると、『現在、介護予防に関する取り組みを行っている』は後期高齢者(23.5%)が前期高齢者(21.6%)を1.9ポイント上回っています。

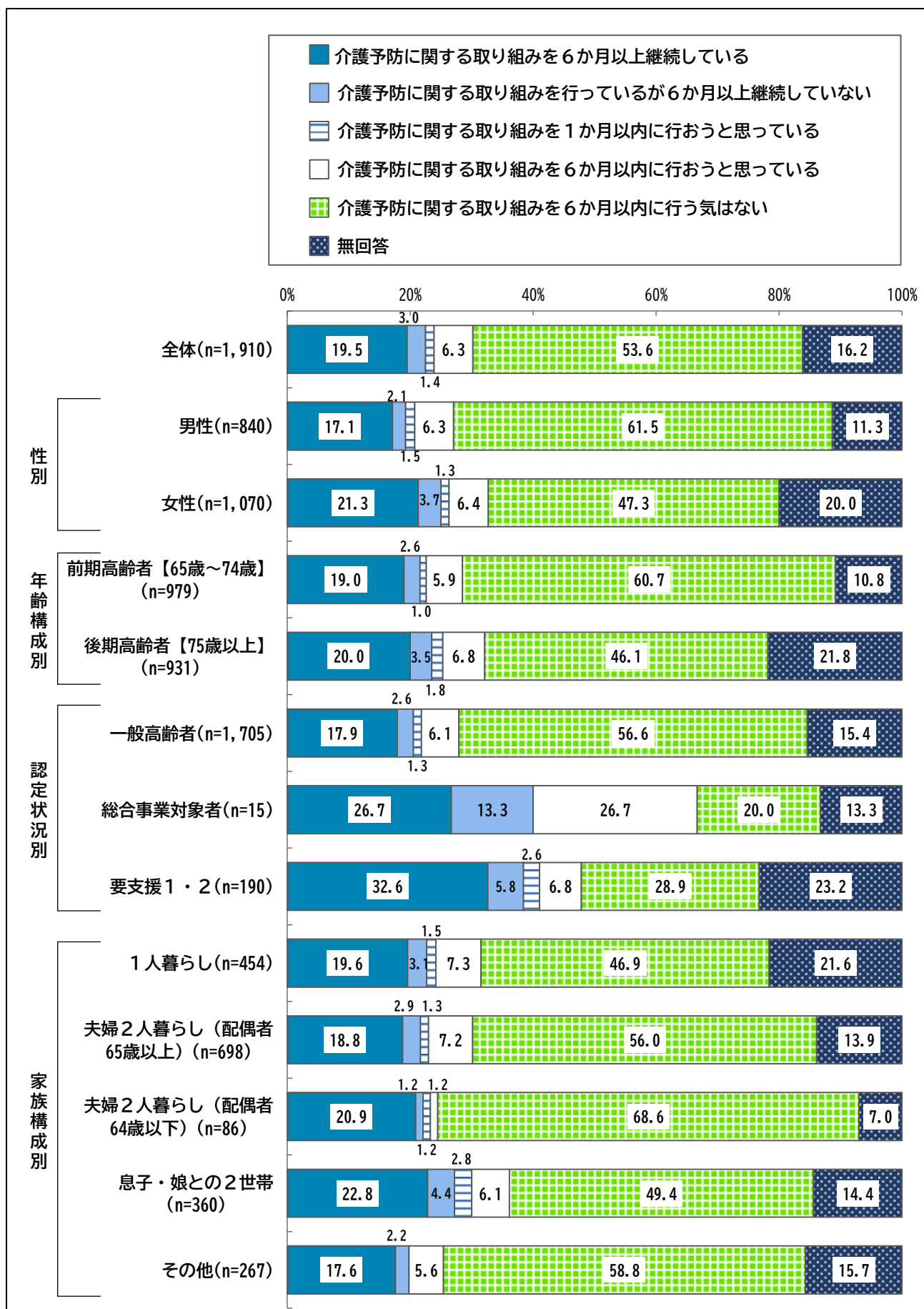
認定状況別にみると、『現在、介護予防に関する取り組みを行っている』は一般高齢者(20.5%)に比べて総合事業対象者(40.0%)、要支援1・2(38.4%)では高くなっています。

家族構成別にみると、『現在、介護予防に関する取り組みを行っている』は息子・娘との2世帯(27.2%)が最も高くなっています。

図表 96 介護予防に関する取り組み状況(全体)



図表 97 介護予防に関する取り組み状況（全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別）

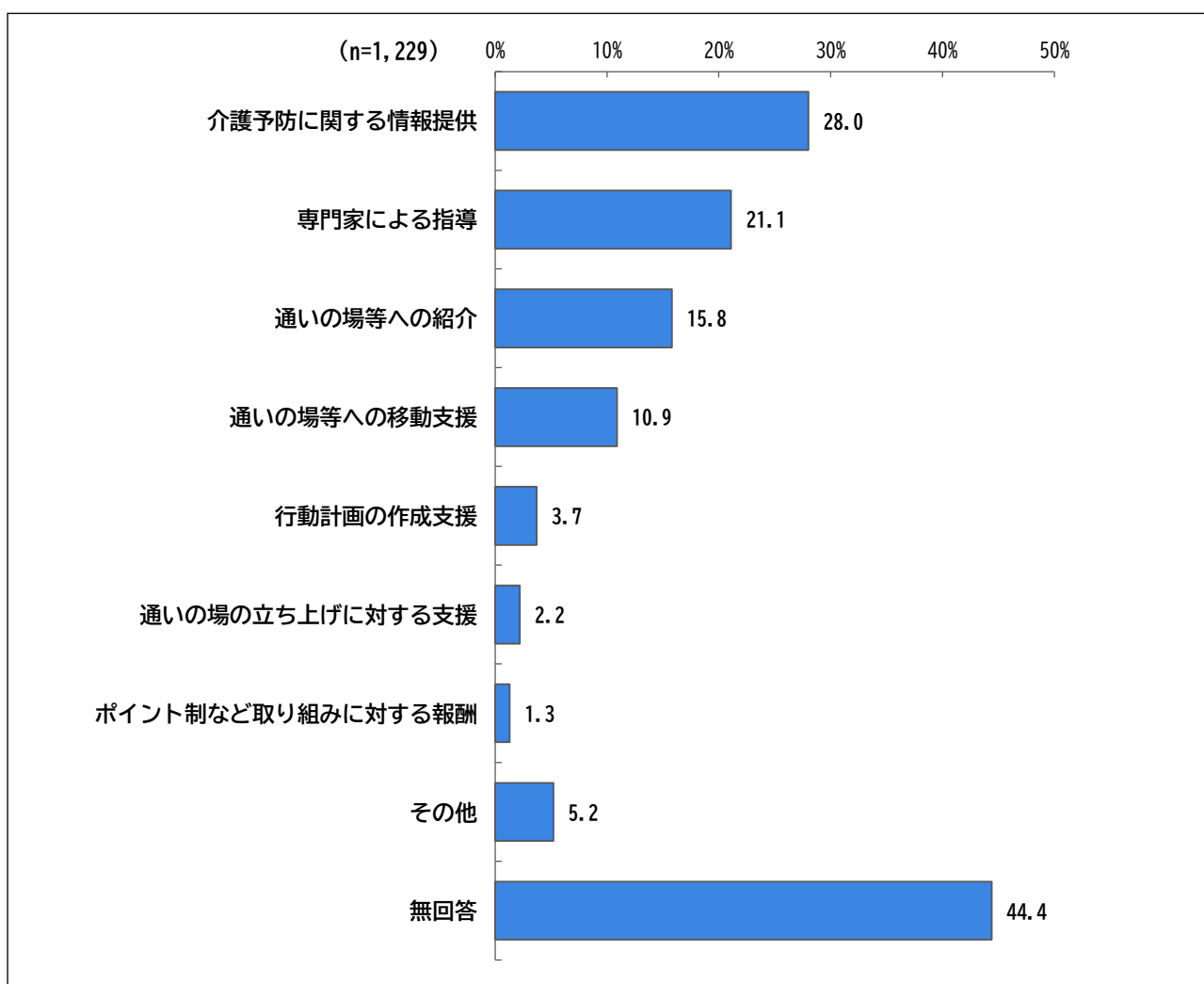


※問10(1)で「取り組みを6か月以上継続している」以外に答えた方(継続していない、行っていない方)のみ
問10(1-1)どのような支援があれば介護予防に関する取り組みを開始または継続できると思いますか。(いくつでも)

【全体の傾向】

介護予防に関する取り組みを開始、継続するために必要だと思う支援についてみると、「介護予防に関する情報提供」が28.0%と最も多く、次いで「専門家による指導」(21.1%)、「通いの場等への紹介」(15.8%)、「通いの場等への移動支援」(10.9%)、「行動計画の作成支援」(3.7%)となっています。

図表 98 介護予防に関する取り組みを開始、継続するために必要な支援 (全体/複数回答)



【属性別の傾向】

認定状況別にみると、総合事業対象者では第1位が「通いの場等への紹介」、第2位が「介護予防に関する情報提供」となっており、一般高齢者、要支援1・2との違いがみられます。

家族構成別にみると、1人暮らしでは「通いの場等への移動支援」が上位に挙がっています。

図表 99 介護予防に関する取り組みを開始、継続するために必要な支援
(全体、認定状況別、家族構成別/複数回答)

<上位3位/単位%>

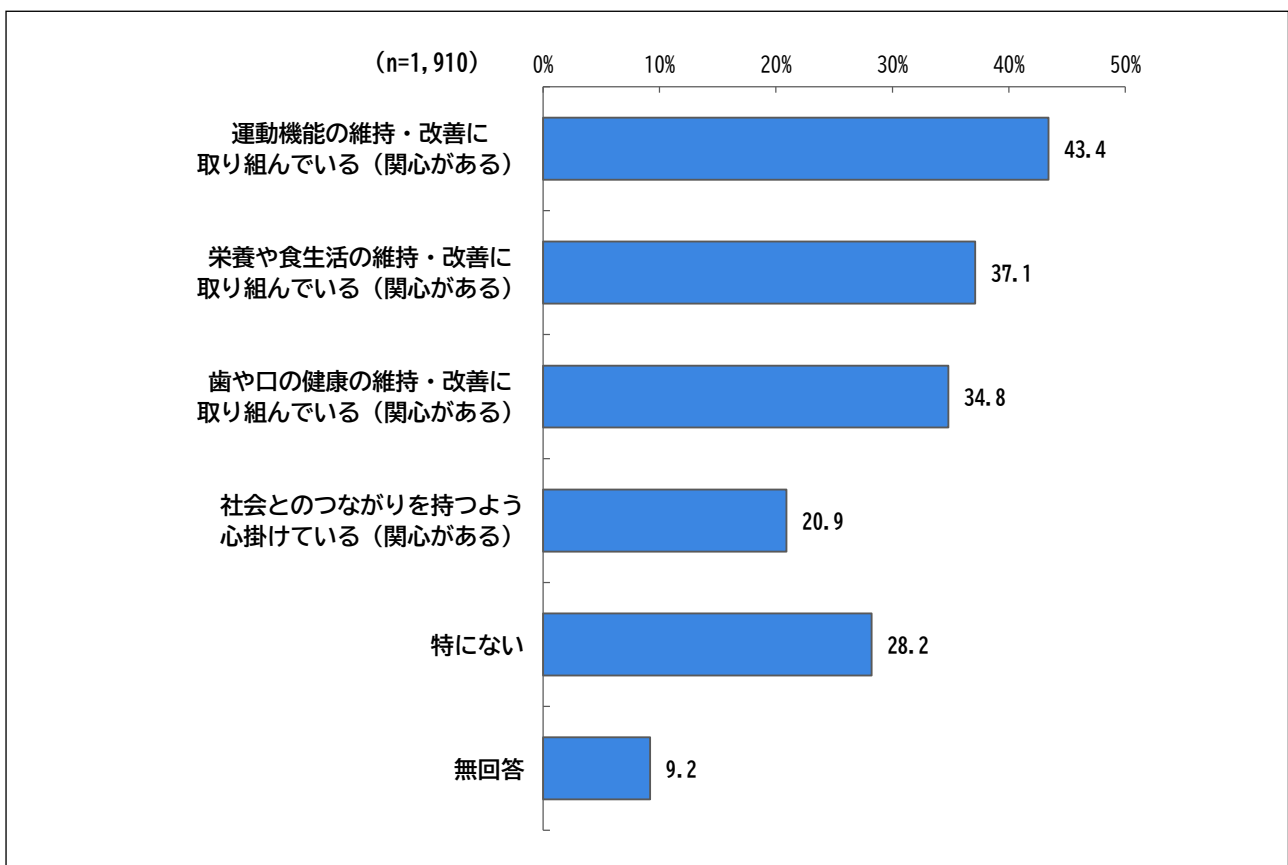
		第1位	第2位	第3位
全体(n=1,229)		介護予防に関する情報提供 28.0	専門家による指導 21.1	通いの場等への紹介 15.8
認定 状況 別	一般高齢者(n=1,136)	介護予防に関する情報提供 27.6	専門家による指導 20.9	通いの場等への紹介 15.5
	総合事業対象者(n=9)	通いの場等への紹介 55.6	介護予防に関する情報提供 44.4	通いの場等への移動支援 33.3
	要支援1・2(n=84)	介護予防に関する情報提供 32.1	専門家による指導 23.8	通いの場等への移動支援 21.4
	1人暮らし(n=267)	介護予防に関する情報提供 31.1	専門家による指導 23.2	通いの場等への移動支援 18.4
家族 構 成 別	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上) (n=470)	介護予防に関する情報提供 27.2	専門家による指導 20.0	通いの場等への紹介 14.9
	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下) (n=62)	介護予防に関する情報提供 24.2	専門家による指導/通いの場等への紹介 12.9	
	息子・娘との2世帯 (n=226)	介護予防に関する情報提供 29.2	専門家による指導 20.4	通いの場等への紹介 18.1
	その他(n=178)	専門家による指導 24.7	介護予防に関する情報提供 24.2	通いの場等への紹介 19.1

問10(2)「フレイル」を予防するには栄養・運動・社会参加が重要とされていますが、取り組んでいる分野や関心がある分野はありますか。(いくつでも)

【全体の傾向】

フレイル予防に関する取り組み状況についてみると、「運動機能の維持・改善に取り組んでいる(関心がある)」が43.4%と最も多く、「栄養や食生活の維持・改善に取り組んでいる(関心がある)」が37.1%、「歯や口の健康の維持・改善に取り組んでいる(関心がある)」が34.8%、「社会とのつながりを持つよう心掛けている(関心がある)」が20.9%となっています。一方、「特にない」は28.2%となっています。

図表 100 フレイル予防に関する取り組み状況(全体/複数回答)



【属性別の傾向】

性別にみると、男性では「特にない」、女性では「歯や口の健康の維持・改善に取り組んでいる（関心がある）」が上位に挙げられています。

年齢構成別にみると、前期高齢者では「歯や口の健康の維持・改善に取り組んでいる（関心がある）」、後期高齢者では「栄養や食生活の維持・改善に取り組んでいる（関心がある）」がそれぞれ第2位となっています。

家族構成別にみると、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）では第2位に「特にない」が挙がっています。

図表 101 フレイル予防に関する取り組み状況
(全体、性別、年齢構成別、家族構成別/複数回答)

<上位3位/単位%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=1,910)		運動機能の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 43.4	栄養や食生活の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 37.1	歯や口の健康の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 34.8
性別	男性(n=840)	運動機能の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 40.0	特にない 36.0	栄養や食生活の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 29.8
	女性(n=1,070)	運動機能の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 46.1	栄養や食生活の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 42.9	歯や口の健康の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 40.2
年齢構成別	前期高齢者【65歳～74歳】(n=979)	運動機能の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 46.9	歯や口の健康の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 37.4	栄養や食生活の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 36.9
	後期高齢者【75歳以上】(n=931)	運動機能の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 39.7	栄養や食生活の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 37.4	歯や口の健康の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 32.0
家族構成別	1人暮らし(n=454)	運動機能の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 43.8	栄養や食生活の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 41.9	歯や口の健康の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 38.3
	夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）(n=698)	運動機能の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 45.0	栄養や食生活の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 36.7	歯や口の健康の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 34.5
	夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）(n=86)	運動機能の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 41.9	特にない 36.0	歯や口の健康の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 30.2
	息子・娘との2世帯(n=360)	運動機能の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 42.5	栄養や食生活の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 37.2	歯や口の健康の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 31.7
	その他(n=267)	運動機能の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 40.8	歯や口の健康の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 35.2	栄養や食生活の維持・改善に取り組んでいる（関心がある） 34.1

(2) 介護予防事業に関する活動や要望について

問 10 (3) フレイル予防のためのサポーターとして、フレイルの状態をチェックするボランティア活動が期待されていますが、住民主体のボランティア活動に対する、あなたの関心に近いものはどれですか。(1つだけ)

【全体の傾向】

フレイル予防のボランティア活動に対する関心度についてみると、「フレイルの状態をチェックする必要性を感じるが、積極的には考えていない」が39.4%と最も高く、次いで「関心はない」(31.3%)、「ボランティア活動までは考えていないがチェックは受けたい」(12.2%)となっています。

【属性別の傾向】

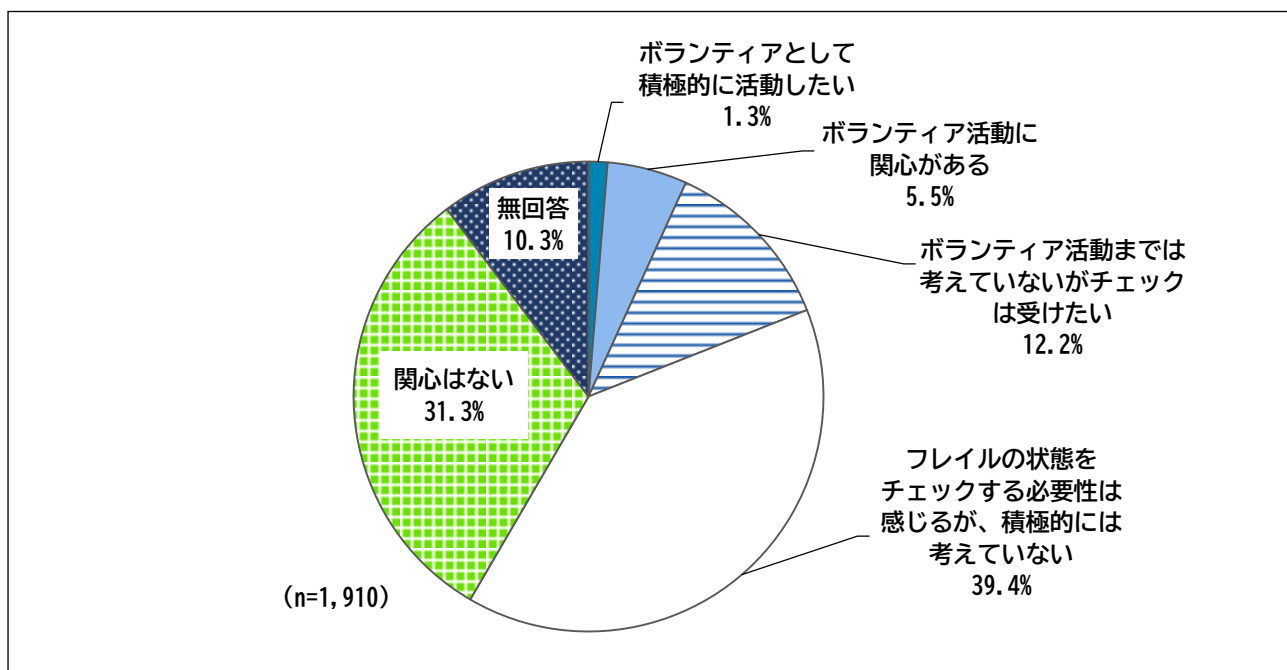
性別にみると、男性では「関心はない」が39.5%と最も高く、女性では「フレイルの状態をチェックする必要性を感じるが、積極的には考えていない」が42.2%と最も高くなっています。

年齢構成別にみると、「フレイルの状態をチェックする必要性を感じるが、積極的には考えていない」、「関心はない」はともに前期高齢者が上回っています。

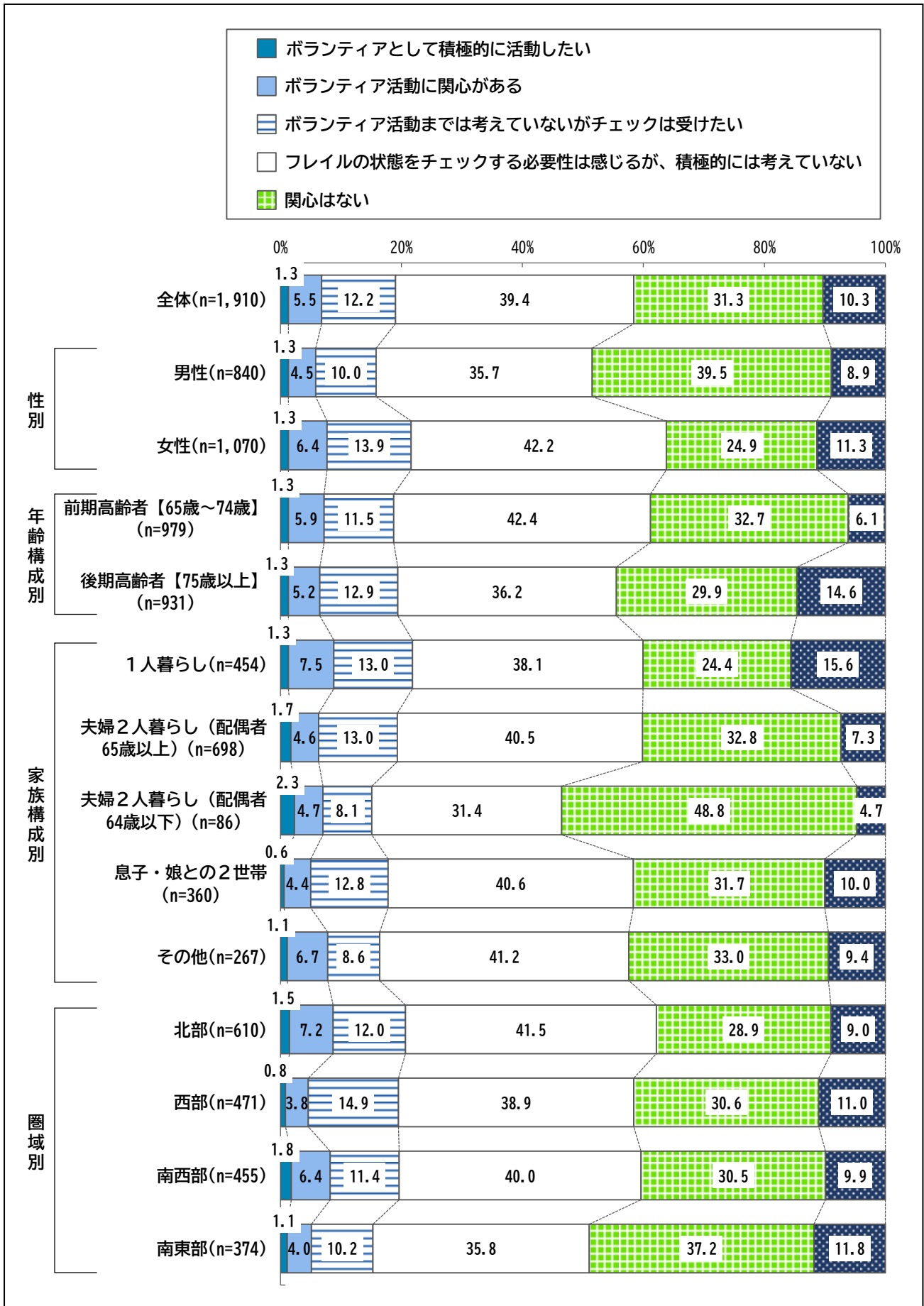
家族構成別にみると、1人暮らしでは「ボランティア活動に関心がある」が7.5%と他の家族構成に比べて高くなっています。また、夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)では「関心はない」が48.8%を占めています。

圏域別にみると、「ボランティア活動に関心がある」は北部(7.2%)、南西部(6.4%)が西部(3.8%)、南東部(4.0%)に比べて高くなっており、南東部では「関心はない」(37.2%)が最も高くなっています。

図表 102 フレイル予防のボランティア活動への関心度(全体)



図表 103 フレイル予防のボランティア活動への関心度
(全体、性別、年齢構成別、家族構成別、圏域別)

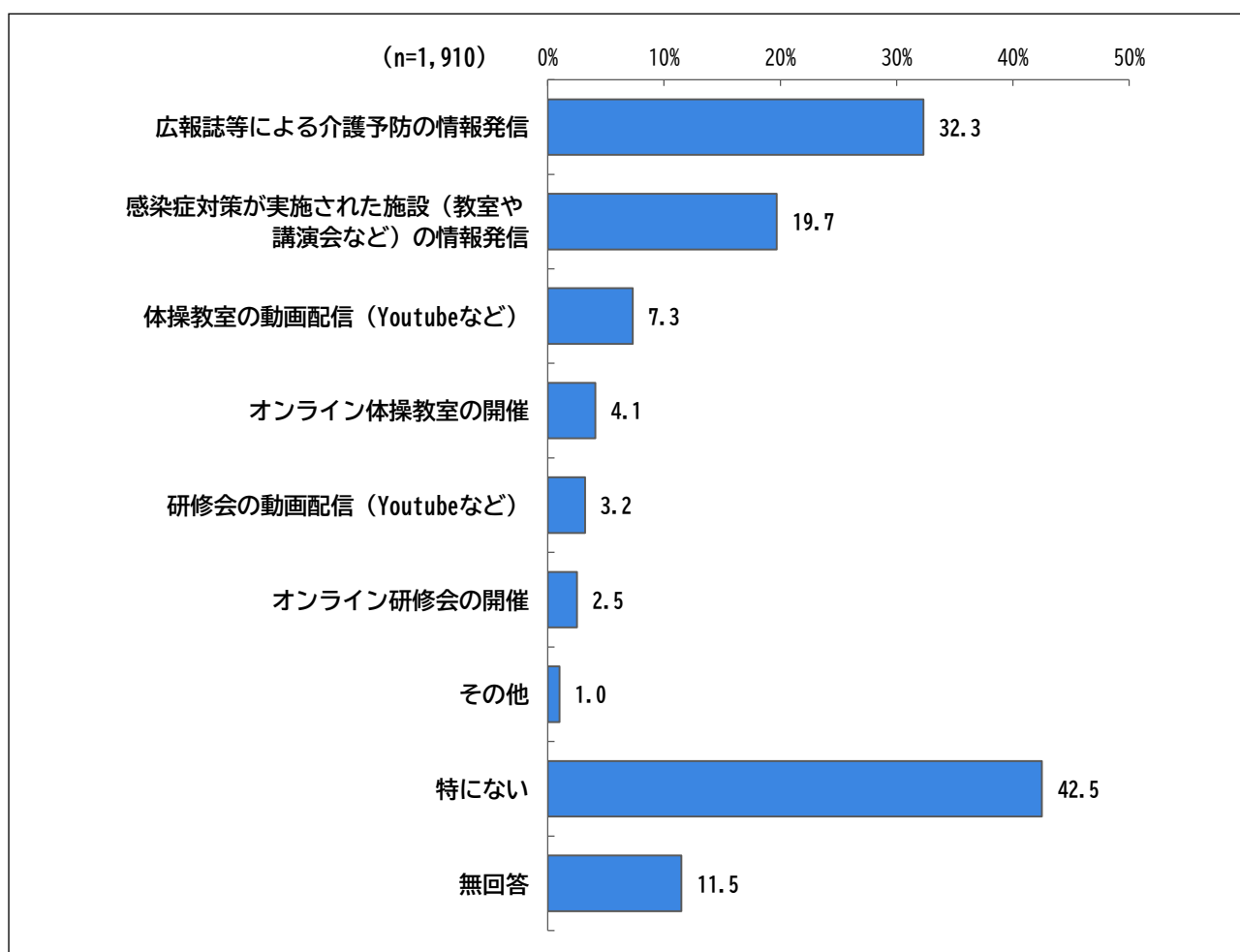


問10(4) コロナ禍やポストコロナを見据えた新しい生活の中での介護予防事業として、より充実を望むことはありますか。(いくつでも)

【全体の傾向】

ポストコロナを見据えた生活での介護予防事業に望むことをみると、「広報誌等による介護予防の情報発信」が32.3%、「感染症対策が実施された施設（教室や講演会など）の情報発信」が19.7%、「体操教室の動画配信（Youtubeなど）」が7.3%、「オンライン体操教室の開催」が4.1%、「研修会の動画配信（Youtubeなど）」が3.2%、「オンライン研修会の開催」が2.5%となっています。一方、「特にない」は42.5%となっています。

図表 104 ポストコロナを見据えた生活での介護予防事業に望むこと（全体／複数回答）



(3) 介護予防事業に関する情報の入手先

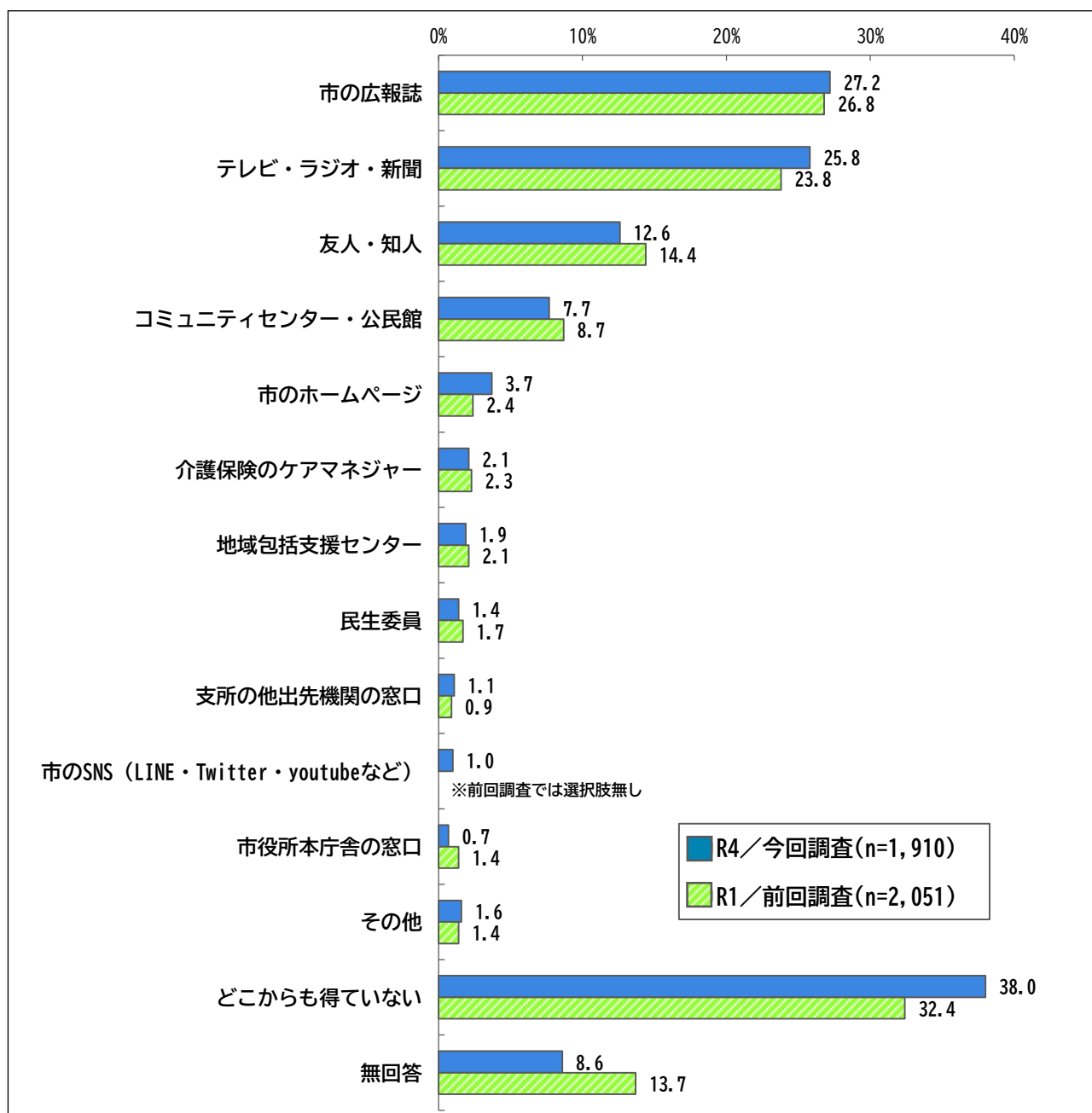
問 10 (5) 徳島市の体操教室などの介護予防事業についての情報はどこから入手していますか。(いくつでも)

【全体の傾向】

介護予防事業に関する情報の入手先についてみると、入手先としては「市の広報誌」が27.2%と最も多く、次いで「テレビ・ラジオ・新聞」(25.8%)、「友人・知人」(12.6%)となっています。

前回調査と比較すると、「市の広報誌」、「テレビ・ラジオ・新聞」「市のホームページ」などが増加し、「友人・知人」、「コミュニティセンター・公民館」、「介護保険のケアマネジャー」などが減少していることから、直接人を介さない方法での入手を選んでいる傾向が強くなっています。

図表 105 介護予防事業に関する情報の入手先（全体、前回比較／複数回答）



【属性別の傾向】

性別にみると、第1位が、男性は「どこからも得ていない」、女性は「市の広報誌」となっています。

年齢構成別にみると、第2位が、前期高齢者は「市の広報誌」、後期高齢者は「テレビ・ラジオ・新聞」となっています。

家族構成別にみると、いずれも主な入手先は「市の広報誌」、「テレビ・ラジオ・新聞」、「友人・知人」、「コミュニティセンター・公民館」となっていますが、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）では「市のホームページ」が上位に挙がっています。

図表 106 介護予防事業に関する情報の入手先
(全体、性別、年齢構成別、家族構成別/複数回答)

<上位5位/単位%>

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体(n=1,910)		どこからも得ていない 38.0	市の広報誌 27.2	テレビ・ラジオ・新聞 25.8	友人・知人 12.6	コミュニティセンター・公民館 7.7
性別	男性(n=840)	どこからも得ていない 48.1	市の広報誌 21.9	テレビ・ラジオ・新聞 21.4	コミュニティセンター・公民館 5.4	友人・知人 5.0
	女性(n=1,070)	市の広報誌 31.4	どこからも得ていない 30.0	テレビ・ラジオ・新聞 29.2	友人・知人 18.6	コミュニティセンター・公民館 9.5
年齢構成別	前期高齢者【65歳～74歳】(n=979)	どこからも得ていない 42.2	市の広報誌 30.5	テレビ・ラジオ・新聞 24.9	友人・知人 11.5	コミュニティセンター・公民館 4.9
	後期高齢者【75歳以上】(n=931)	どこからも得ていない 33.5	テレビ・ラジオ・新聞 26.6	市の広報誌 23.7	友人・知人 13.7	コミュニティセンター・公民館 10.6
家族構成別	1人暮らし(n=454)	どこからも得ていない 37.4	テレビ・ラジオ・新聞 25.8	市の広報誌 24.7	友人・知人 14.1	コミュニティセンター・公民館 7.7
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)(n=698)	どこからも得ていない 37.2	市の広報誌 31.9	テレビ・ラジオ・新聞 25.8	友人・知人 11.6	コミュニティセンター・公民館 7.7
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)(n=86)	どこからも得ていない 57.0	テレビ・ラジオ・新聞 23.3	市の広報誌 15.1	市のホームページ/友人・知人 7.0	
	息子・娘との2世帯(n=360)	どこからも得ていない 37.2	市の広報誌 25.0	テレビ・ラジオ・新聞 23.3	友人・知人 14.7	コミュニティセンター・公民館 10.3
	その他(n=267)	どこからも得ていない 35.6	テレビ・ラジオ・新聞 30.3	市の広報誌 28.1	友人・知人 12.4	コミュニティセンター・公民館 5.2

11 成年後見制度について

(1) 成年後見制度の認知度

問 11 (1) あなたは「成年後見制度」を知っていますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

成年後見制度の認知度についてみると、「名称のみ知っている」が 46.4%と最も高く、次いで「知らない」(25.8%)、「名称だけでなく制度の内容も知っている」(21.7%)となっています。また、「名称だけでなく制度の内容も知っている」と「名称のみ知っている」を合計した『成年後見制度を知っている』は 68.1%となっています。

【属性別の傾向】

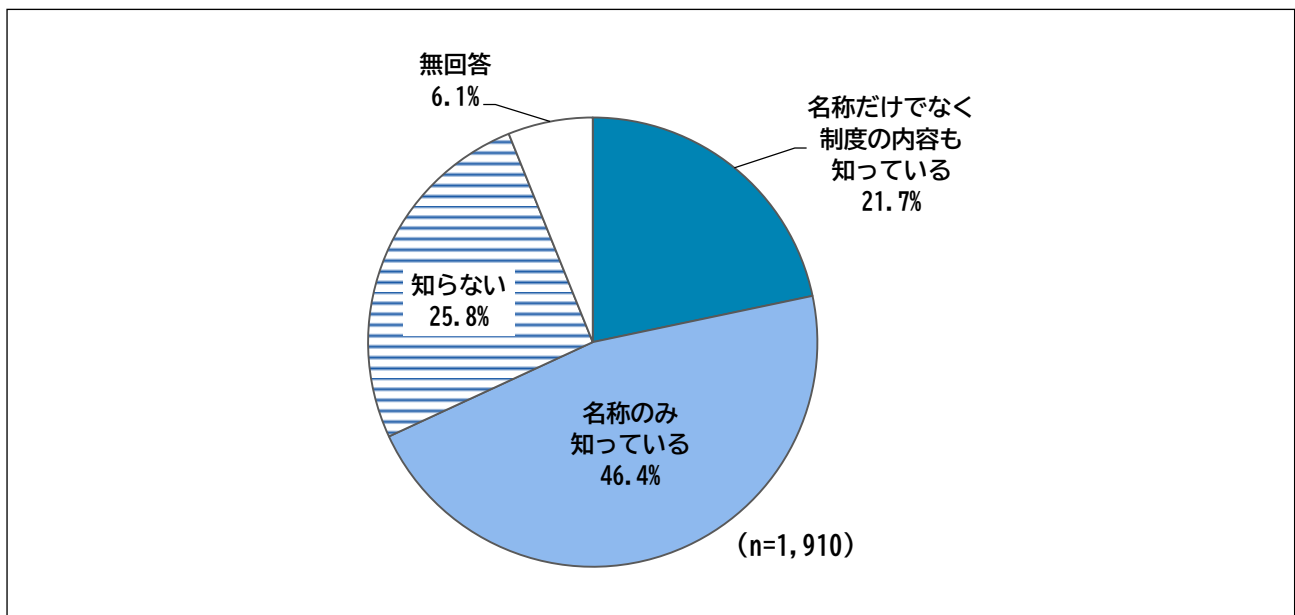
性別にみると、『成年後見制度を知っている』は女性(71.2%)が男性(64.2%)を 7.0 ポイント上回っています。

年齢構成別にみると、『成年後見制度を知っている』は前期高齢者(72.8%)、が後期高齢者(63.3%)を 9.5 ポイント上回っています。

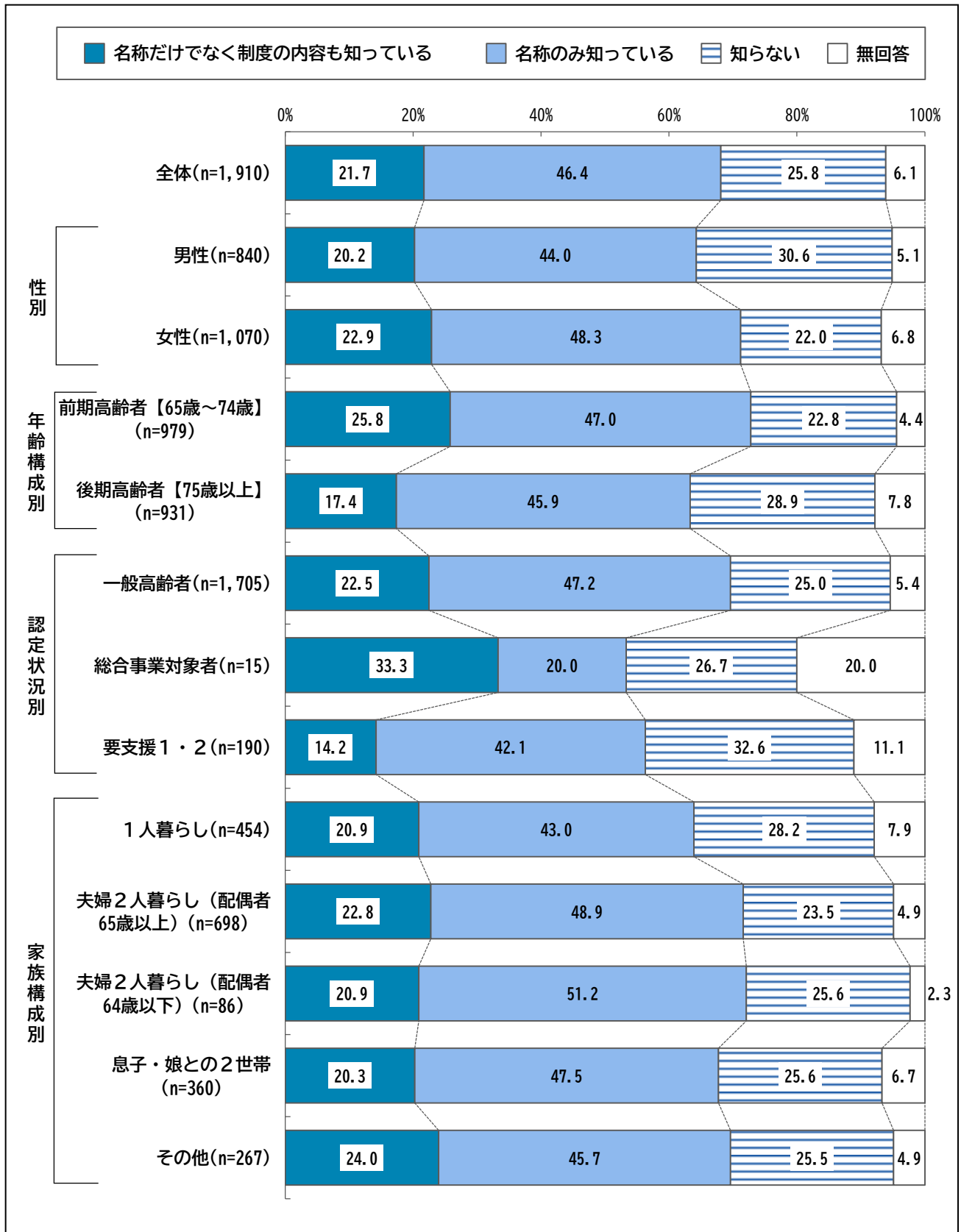
認定状況別にみると、『成年後見制度を知っている』は、一般高齢者で 69.7%と最も高くなっており、総合事業対象者では 53.3%、要支援 1・2 では 56.3%にとどまっています。

家族構成別にみると、『成年後見制度を知っている』は、夫婦 2 人暮らし(配偶者 64 歳以下)では 72.1%、夫婦 2 人暮らし(配偶者 65 歳以上)では 71.7 と 7 割を超えています。一方、1 人暮らしでは 63.9%と他の家族構成に比べて認知度が低くなっています。

図表 107 成年後見制度の認知度(全体)



図表 108 成年後見制度の認知度（全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別）



(2) 成年後見制度の利用希望

問 11 (2) あなたは、あなた自身の判断能力が低下し、自分で身の回りの契約行為や財産管理などができなくなった場合、成年後見制度を利用したいと思いますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

成年後見制度の利用希望についてみると、「はい」が22.6%、「いいえ」が28.7%、「わからない」が42.8%となっています。

【属性別の傾向】

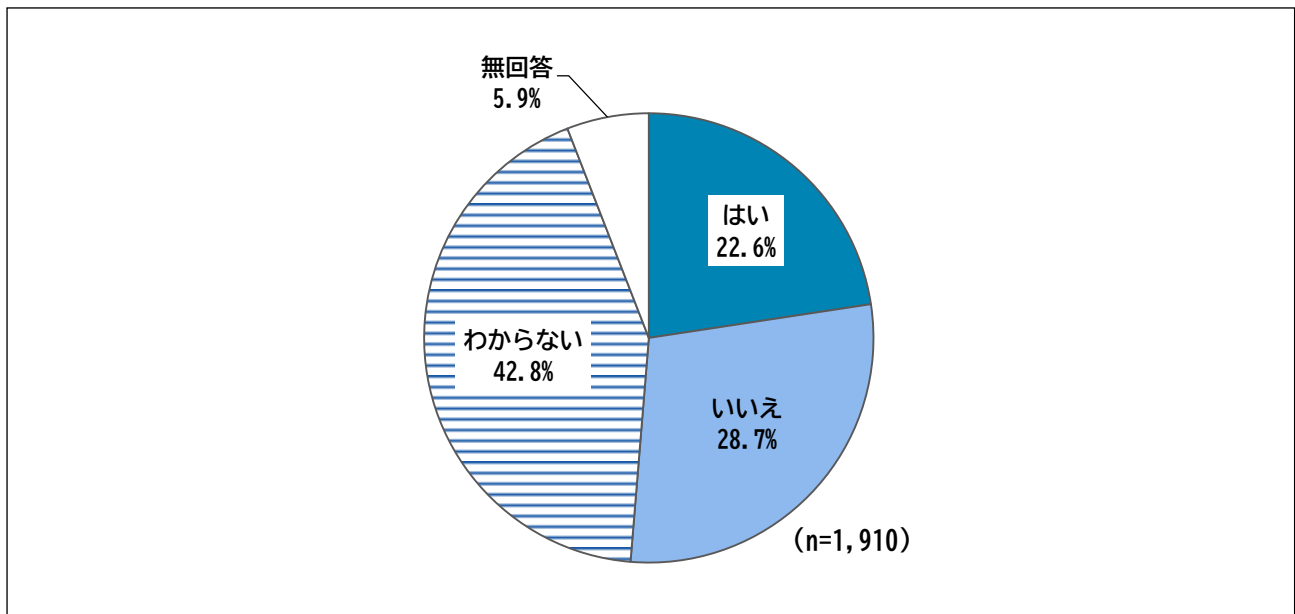
性別にみると、「はい」は女性(23.3%)が男性(21.8%)を1.5ポイント上回っています。また「わからない」は男性(48.8%)が女性(38.0%)を10.8ポイント上回っています。

年齢構成別にみると、「はい」は前期高齢者(24.9%)が後期高齢者(20.2%)を4.7ポイント上回っています。

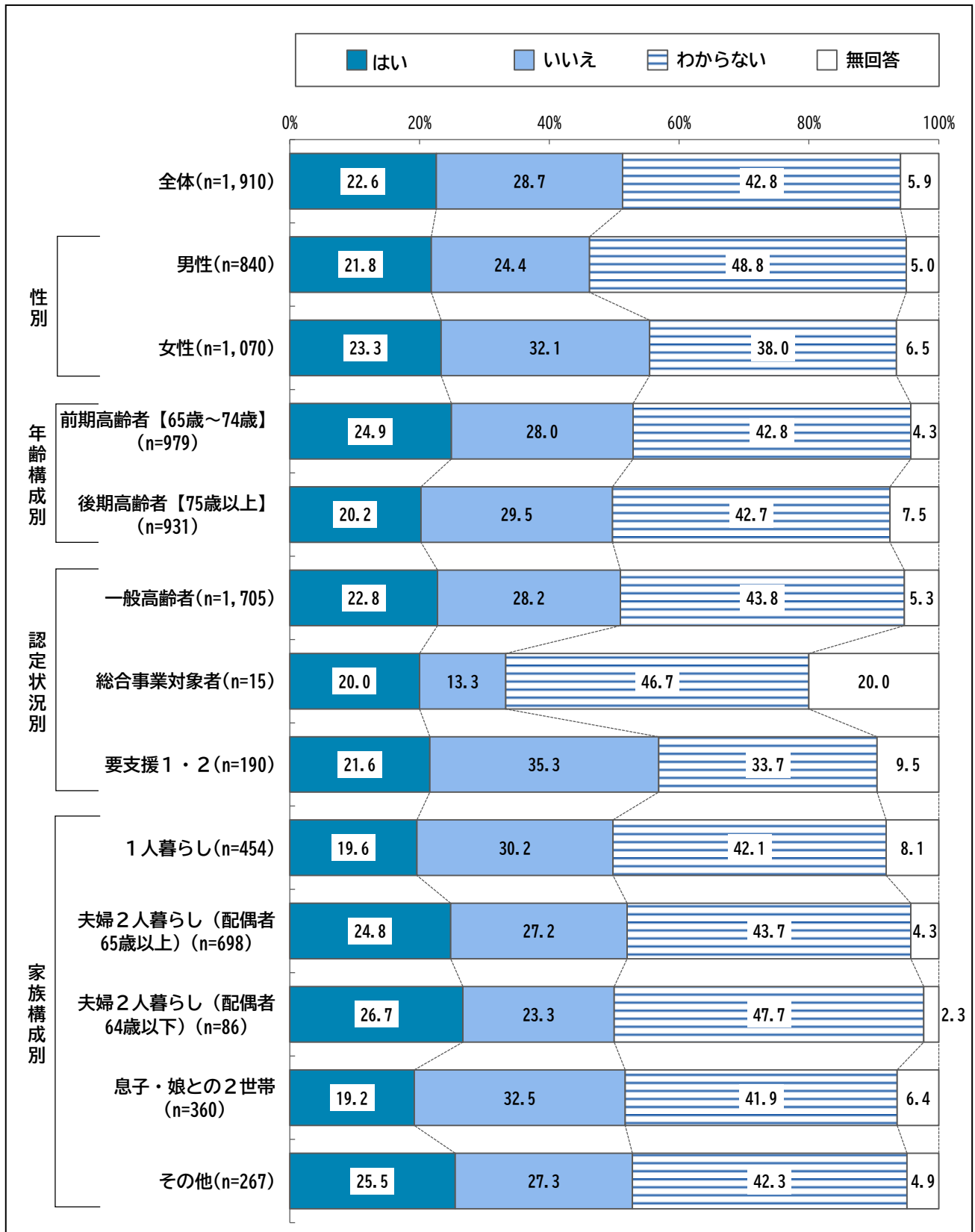
認定状況別にみると、要支援1・2では「いいえ」が35.3%と3割を超えています。

家族構成別にみると、「はい」は、夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)で26.7%と最も高くなっており、1人暮らし、息子・娘との2世帯では2割未満となっています。

図表 109 成年後見制度の利用希望(全体)



図表 110 成年後見制度の利用希望（全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別）



※問 11（2）で「はい」と回答した方のみ

問 11（2-1）将来的にあなた自身の判断能力が不十分となった場合、だれに後見人となって支援してほしいですか。（1つだけ）

【全体の傾向】

成年後見制度を利用する場合に後見人となってほしい人を見ると、「配偶者や子どもなどの親族」が 88.4%を占めています。

【属性別の傾向】

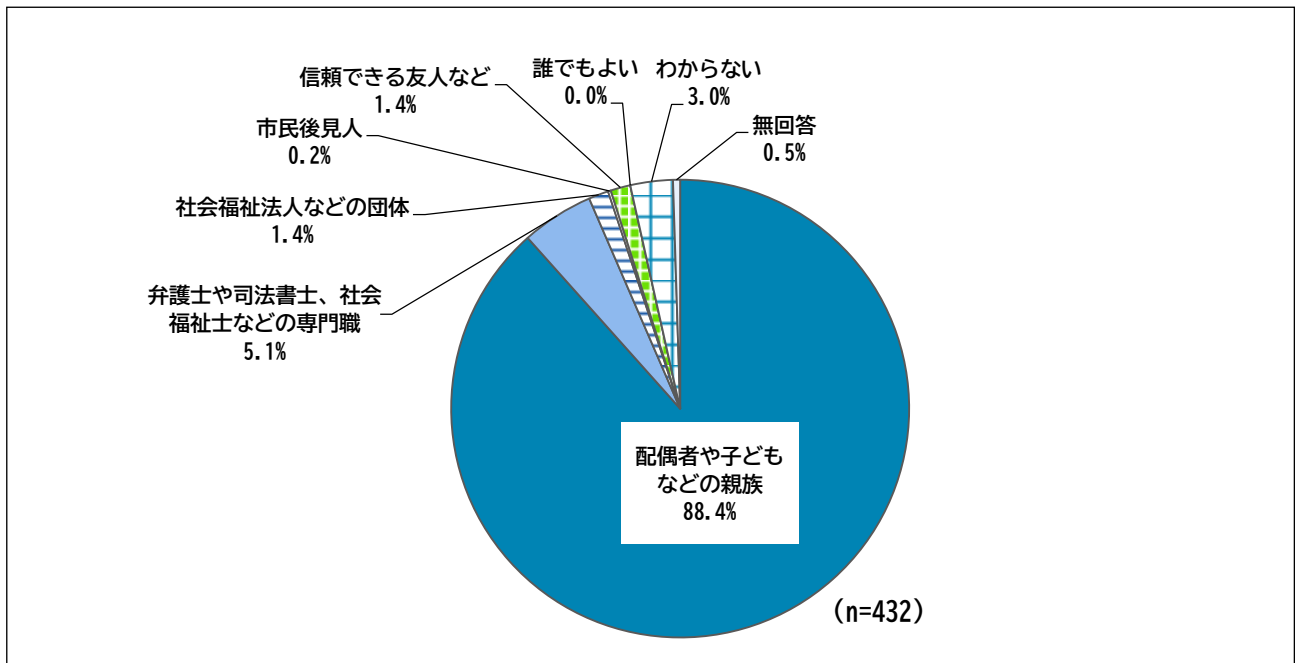
性別にみると、いずれも「配偶者や子どもなどの親族」が 8 割以上を占めていますが女性が 1.8 ポイント上回っています。

年齢構成別にみると、いずれも「配偶者や子どもなどの親族」が 8 割以上を占めています。

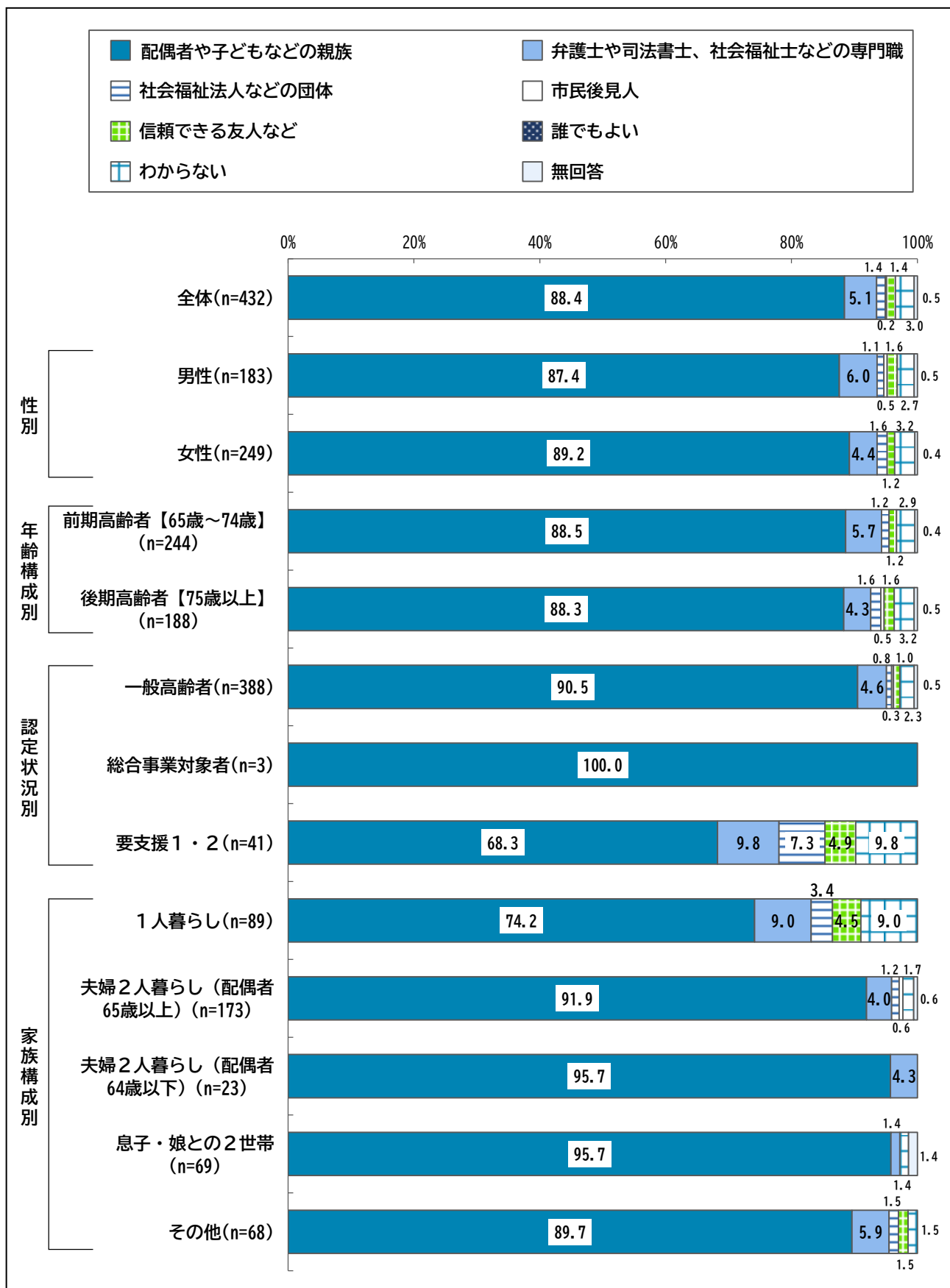
認定状況別にみると、要支援 1・2 では「配偶者や子どもなどの親族」が 68.3%と 7 割を下回っており、「弁護士や司法書士、社会福祉士などの専門職」、「社会福祉法人などの団体」、「信頼できる友人など」が一般高齢者や総合事業対象者に比べて高くなっています。

家族構成別にみると、1 人暮らしでは「配偶者や子どもなどの親族」が 74.2%となっており、「弁護士や司法書士、社会福祉士などの専門職」、「社会福祉法人などの団体」、「信頼できる友人など」が他の家族構成に比べて高くなっています。

図表 111 成年後見制度を利用する場合に後見人となってほしい人（全体）



図表 112 成年後見制度を利用する場合に後見人となってほしい人
(全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別)



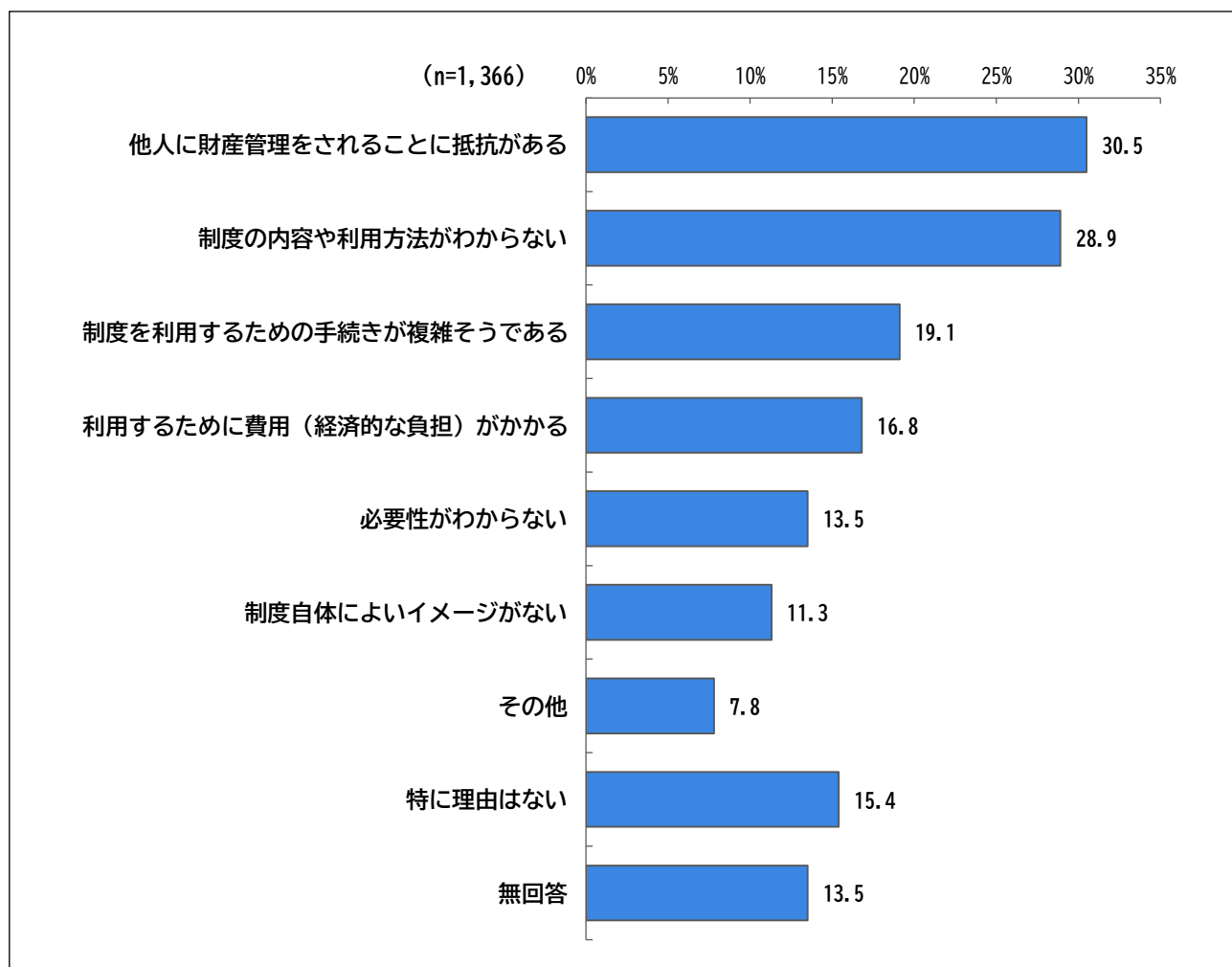
※問11(2)で「いいえ」または「わからない」と回答した方のみ

問11(2-2)あなたが、「利用したいと思わない」または「わからない」と回答した理由は何ですか。
(いくつでも)

【全体の傾向】

成年後見制度を利用したいと思わない、わからない理由をみると、「他人に財産管理をされることに抵抗がある」が30.5%と最も多く、次いで「制度の内容や利用方法がわからない」(28.9%)、「制度を利用するための手続きが複雑そうである」(19.1%)などとなっています。

図表 113 成年後見制度を利用したいと思わない、わからない理由(全体/複数回答)



【属性別の傾向】

性別にみると、第1位が、男性は「制度の内容や利用方法がわからない」、女性は「他人に財産管理をされることに抵抗がある」となっています。

年齢構成別にみると、順位や割合に大きな違いはみられません。

家族構成別にみると、いずれも主な理由としては「制度の内容や利用方法がわからない」、「他人に財産管理をされることに抵抗がある」、「制度を利用するための手続きが複雑そうである」が挙げられていますが、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）では「必要性がわからない」が第3位となっています。

図表 114 成年後見制度を利用したいと思わない、わからない理由
(全体、性別、年齢構成別、家族構成別/複数回答)

<上位3位/単位%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=1,366)		他人に財産管理をされることに抵抗がある 30.5	制度の内容や利用方法がわからない 28.9	制度を利用するための手続きが複雑そうである 19.1
性別	男性(n=615)	制度の内容や利用方法がわからない 33.3	他人に財産管理をされることに抵抗がある 29.3	制度を利用するための手続きが複雑そうである 17.6
	女性(n=751)	他人に財産管理をされることに抵抗がある 31.6	制度の内容や利用方法がわからない 25.3	制度を利用するための手続きが複雑そうである 20.4
年齢構成別	前期高齢者【65歳～74歳】(n=693)	他人に財産管理をされることに抵抗がある 31.2	制度の内容や利用方法がわからない 29.3	制度を利用するための手続きが複雑そうである 19.9
	後期高齢者【75歳以上】(n=673)	他人に財産管理をされることに抵抗がある 29.9	制度の内容や利用方法がわからない 28.5	制度を利用するための手続きが複雑そうである 18.3
家族構成別	1人暮らし(n=328)	制度の内容や利用方法がわからない 30.5	他人に財産管理をされることに抵抗がある 29.9	制度を利用するための手続きが複雑そうである 22.3
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)(n=495)	他人に財産管理をされることに抵抗がある 31.5	制度の内容や利用方法がわからない 28.5	制度を利用するための手続きが複雑そうである 18.6
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)(n=61)	制度の内容や利用方法がわからない 34.4	他人に財産管理をされることに抵抗がある 26.2	必要性がわからない 23.0
	息子・娘との2世帯(n=268)	他人に財産管理をされることに抵抗がある 31.0	制度の内容や利用方法がわからない 25.7	制度を利用するための手続きが複雑そうである 16.4
	その他(n=186)	制度の内容や利用方法がわからない 31.7	他人に財産管理をされることに抵抗がある 30.1	制度を利用するための手続きが複雑そうである 20.4

12 地域での支え合いの体制について

(1) 住民同士の支え合いによる地域づくりの現状

問 12 (1) あなたのお住まいの地区では、住民同士による支え合いができる地域づくりができていると思いますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

支え合いによる地域づくりができていると思うかについてみると、「そう思わない」が 45.7%と最も高く、「ややそう思わない」(21.7%)を合計すると 67.4%が『できていると思わない』と回答しています。一方、「そう思う」(3.9%)と「ややそう思う」(20.6%)を合計した『できていると思う』は 24.5%となっています。

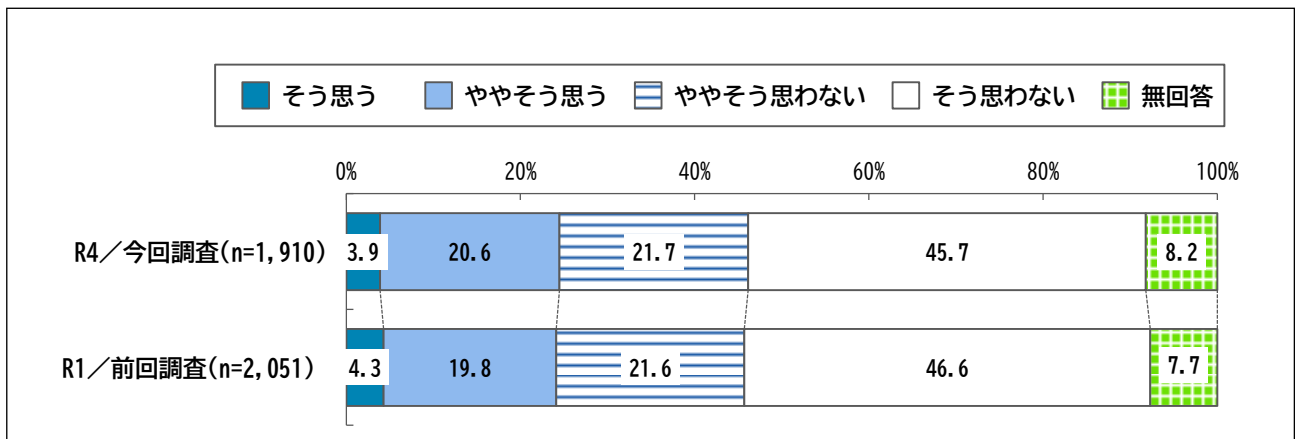
前回調査と比較すると、割合に大きな違いはみられません。

【属性別の傾向】

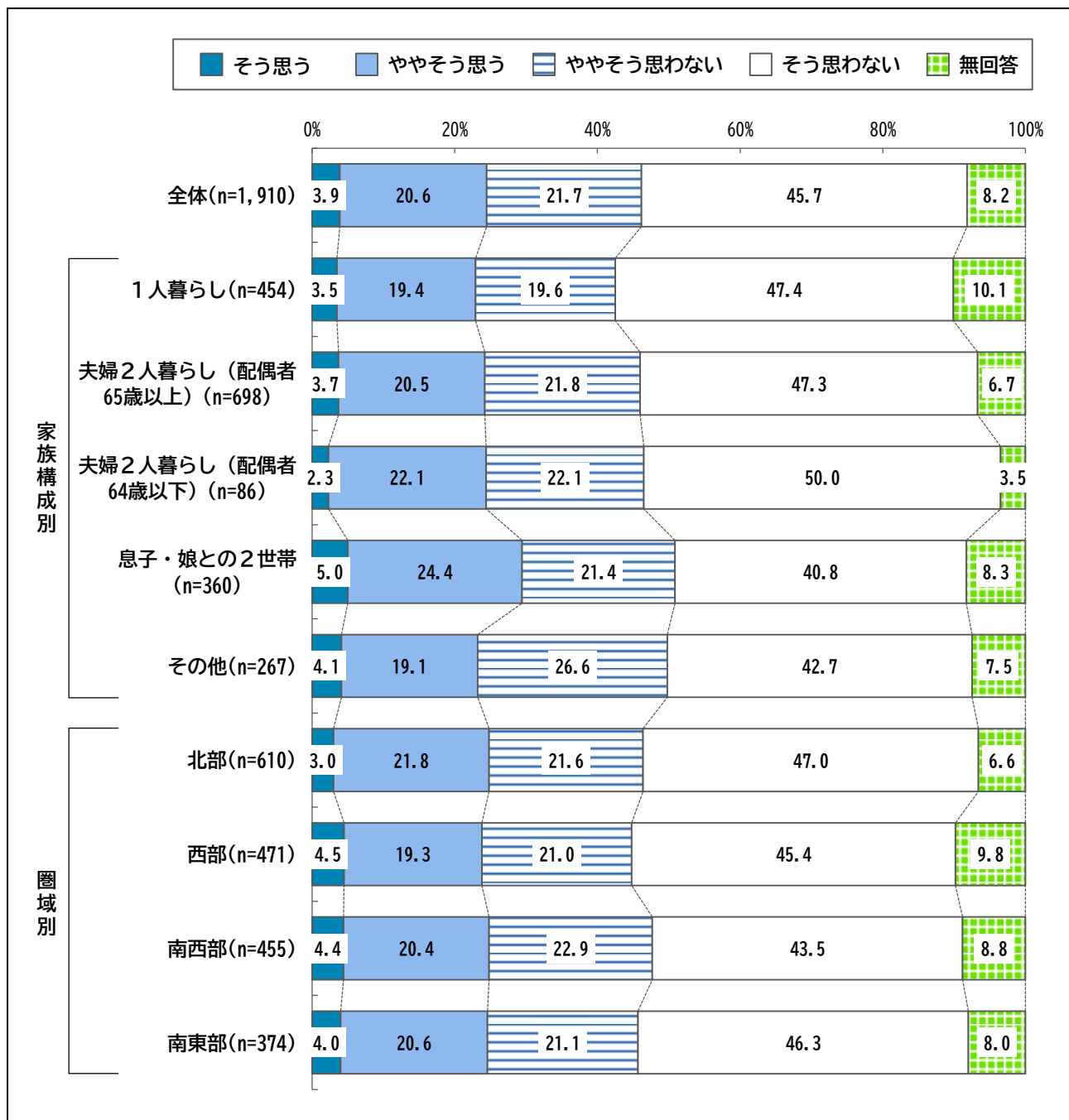
家族構成別にみると、『できていると思う』は、息子・娘との2世帯で 29.4%、次いで夫婦2人暮らし(配偶者 64歳以下)(24.4%)、夫婦2人暮らし(配偶者 65歳以上)(24.2%)、その他(23.2%)、1人暮らし(22.9%)となっています。

圏域別にみると、『できていると思う』は、北部および南西部で 24.8%、南東部で 24.6%、西部で 23.8%となっており、いずれの圏域でも3割を下回っています。

図表 115 支え合いによる地域づくりができていると思うか(全体、前回比較)



図表 116 支え合いによる地域づくりができていると思うか（全体、家族構成別、圏域別）



(2) 生活支援コーディネーターの認知度

問12(2) 地域と連携して、支え合い活動を支援する「生活支援コーディネーター」をご存知ですか。
(1つだけ)

【全体の傾向】

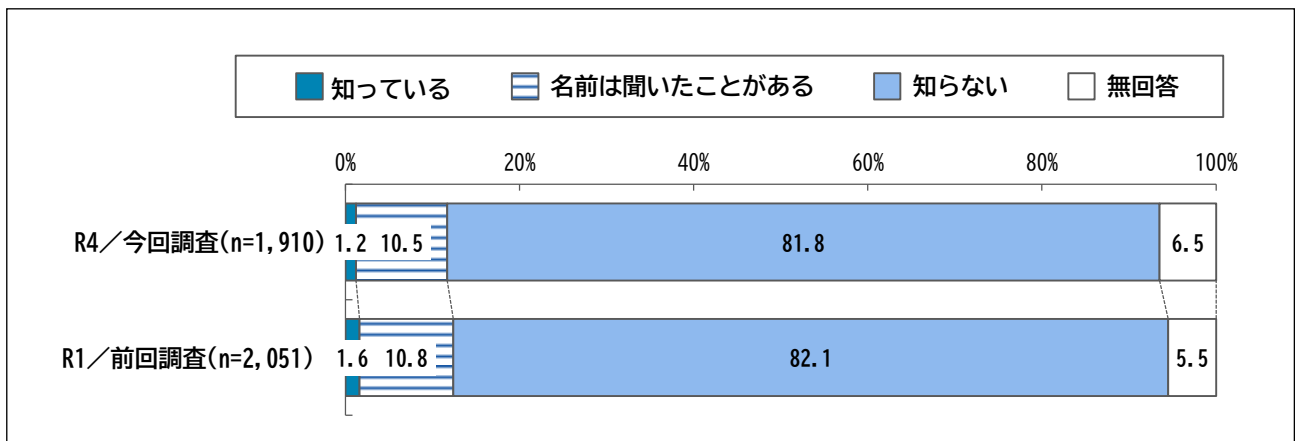
生活支援コーディネーターの認知度についてみると、「知らない」が81.8%を占めています。一方、「知っている」(1.2%)と「名前は聞いたことがある」(10.5%)を合計した『存在は知っている』は11.7%にとどまっています。

前回調査と比較すると、その割合に大きな違いはみられません。

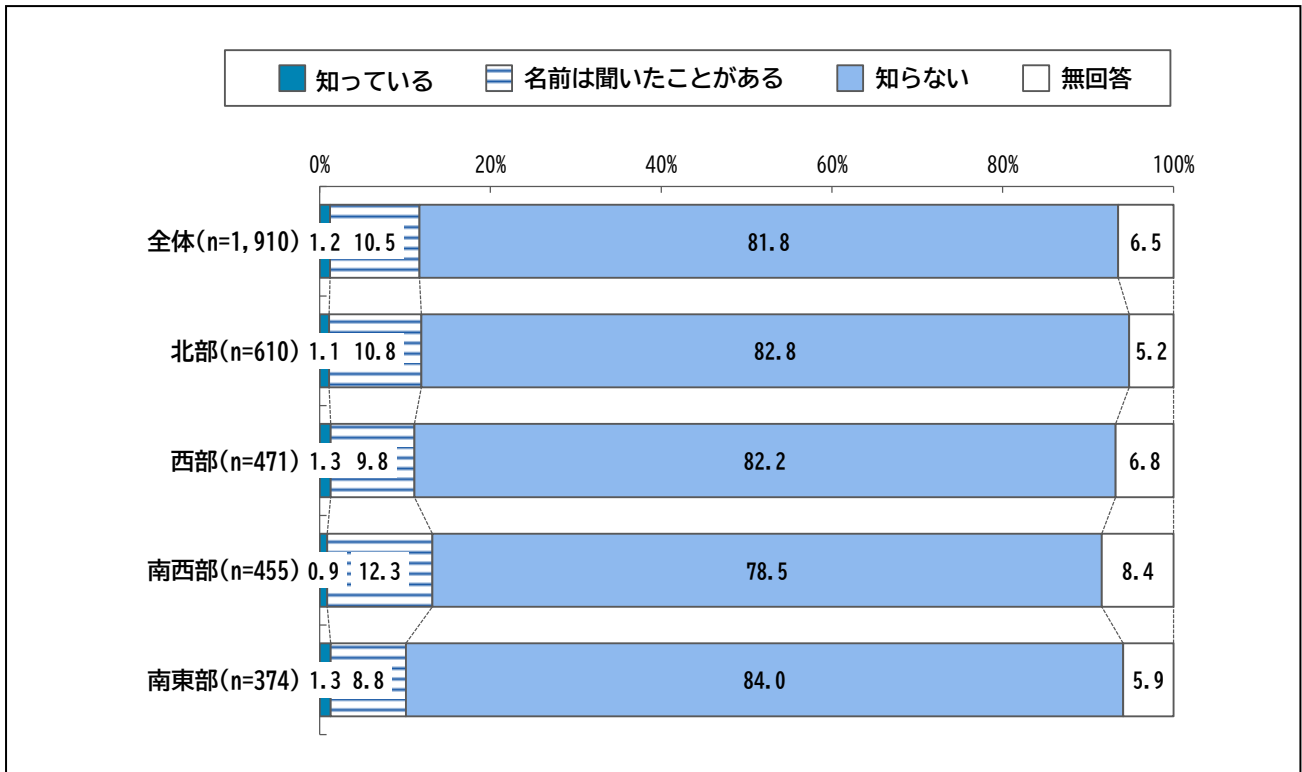
【属性別の傾向】

圏域別にみると、南西部では『存在は知っている』が13.2%と他の圏域に比べて高くなっています。

図表 117 生活支援コーディネーターの認知度（全体、前回比較）



図表 118 生活支援コーディネーターの認知度（全体、圏域別）



(3) 地域にあれば良いと思う支え合い活動について

問12(3) あなたのお住まいの地区で、どのような住民同士の支え合い活動があれば良いと思いますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

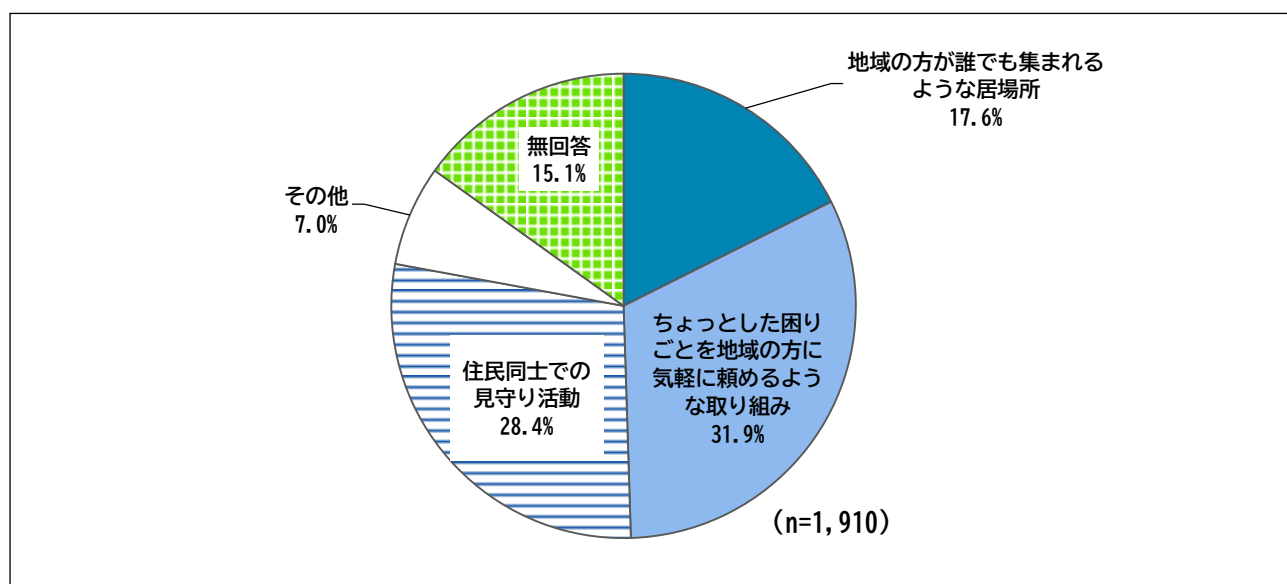
地域にあれば良いと思う支え合い活動についてみると、「ちょっとした困りごとを地域の方に気軽に頼めるような取り組み」が31.9%と最も高く、次いで「住民同士での見守り活動」(28.4%)、「地域の方が誰でも集まれるような居場所」(17.6%)となっています。

【属性別の傾向】

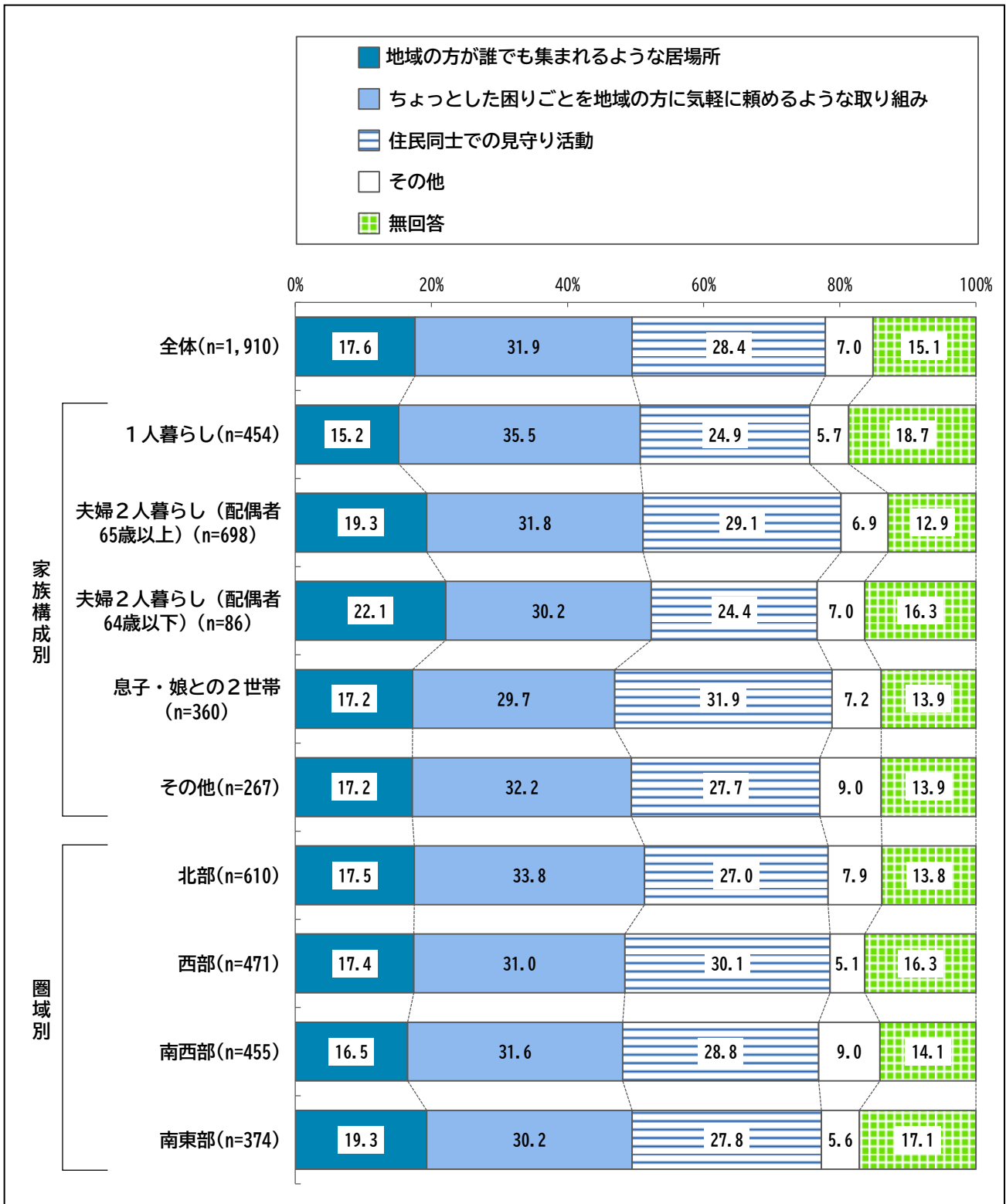
家族構成別にみると、夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)では「地域の方が誰でも集まれるような居場所」(22.1%)が2割を超えています。また、息子・娘との2世帯では「住民同士での見守り活動」(31.9%)が最も高くなっています。

圏域別にみると、いずれの圏域でも「ちょっとした困りごとを地域の方に気軽に頼めるような取り組み」がそれぞれ最も高くなっています。また、南東部では「地域の方が誰でも集まれるような居場所」(19.3%)、西部では「住民同士での見守り活動」(30.1%)が他の圏域に比べて高くなっています。

図表 119 地域にあれば良いと思う支え合い活動(全体)



図表 120 地域にあれば良いと思う支え合い活動（全体、家族構成別、圏域別）



13 終末期の療養について

(1) 終末期の療養場所について

問 13 (1) 終末期の療養はどのような場所を希望しますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

終末期における療養場所の希望をみると、「必要に応じて病院に入院しながら自宅を中心に療養したい」が33.6%と最も高く、次いで「訪問診療や介護サービスを受けながら、住み慣れた自宅で家族と過ごしたい」(20.1%)、「療養専門の病院に入院したい」(15.1%)となっています。

前回調査と比較すると、「療養専門の病院に入院したい」や「老人ホームなどの高齢者施設に入所したい」など自宅以外での療養を望む割合が増加しています。

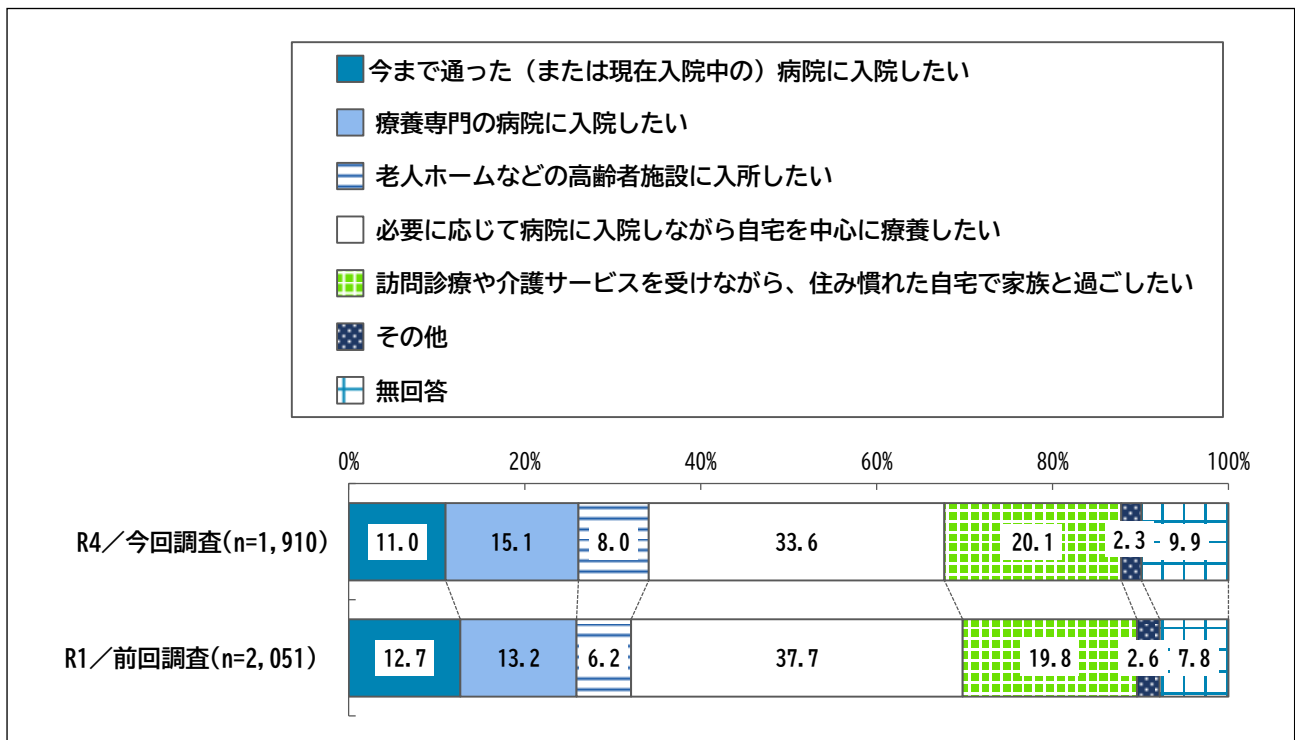
【属性別の傾向】

性別にみると、男性は「必要に応じて病院に入院しながら自宅を中心に療養したい」、「訪問診療や介護サービスを受けながら、住み慣れた自宅で家族と過ごしたい」といった自宅中心の療養を望む割合が女性よりも高くなっています。一方、女性は病院や高齢者施設を望む割合が男性よりも高くなっています。

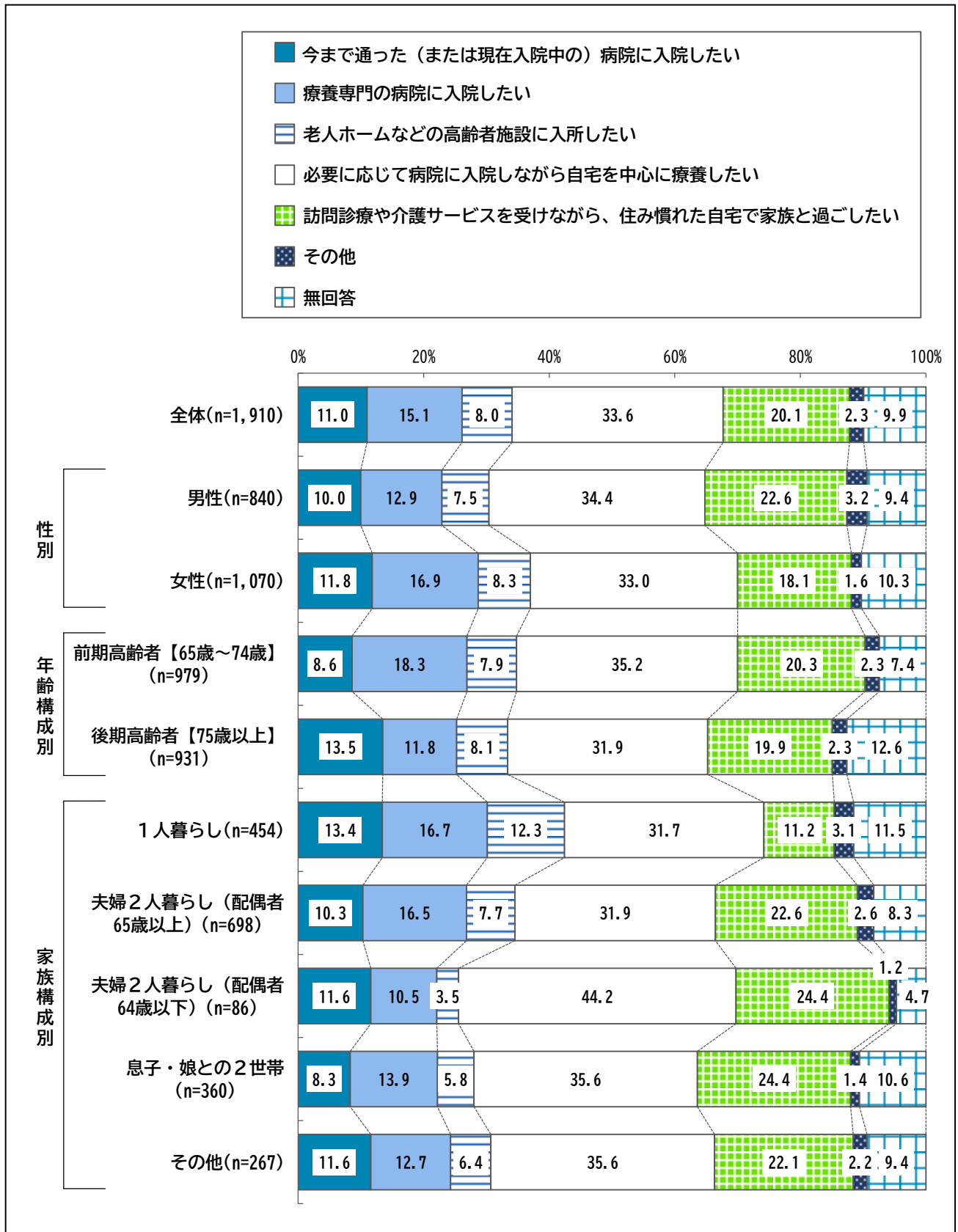
年齢構成別にみると、今まで通った（または現在入院中の）病院や高齢者施設を望む割合は後期高齢者の方が高く、自宅中心の療養を望む割合は前期高齢者の方が高くなっています。

家族構成別にみると、病院や高齢者施設を望む割合は、1人暮らしや夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）で他の家族構成に比べて高くなっています。一方、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）では自宅中心の療養を望む割合が、他の家族構成に比べて高くなっています。

図表 121 終末期における療養場所の希望（全体、前回比較）



図表 122 終末期における療養場所の希望（全体、性別、年齢構成別、家族構成別）



問 13 (2) あなたやあなたの家族が、自宅で最期を迎えたいと願った時に、希望がかなえられる体制が整っていると思いますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

自宅で最期を迎える体制が整っているかどうかをみると、「そう思わない」が38.6%と最も高く、「ややそう思わない」(24.0%)を合計した『整っていると思わない』は62.6%を占めています。一方、「そう思う」(5.4%)と「ややそう思う」(21.6%)を合計した『整っていると思う』は27.0%となっています。

前回調査と比較すると、『整っていると思う』が1.0ポイント増加しています。

【属性別の傾向】

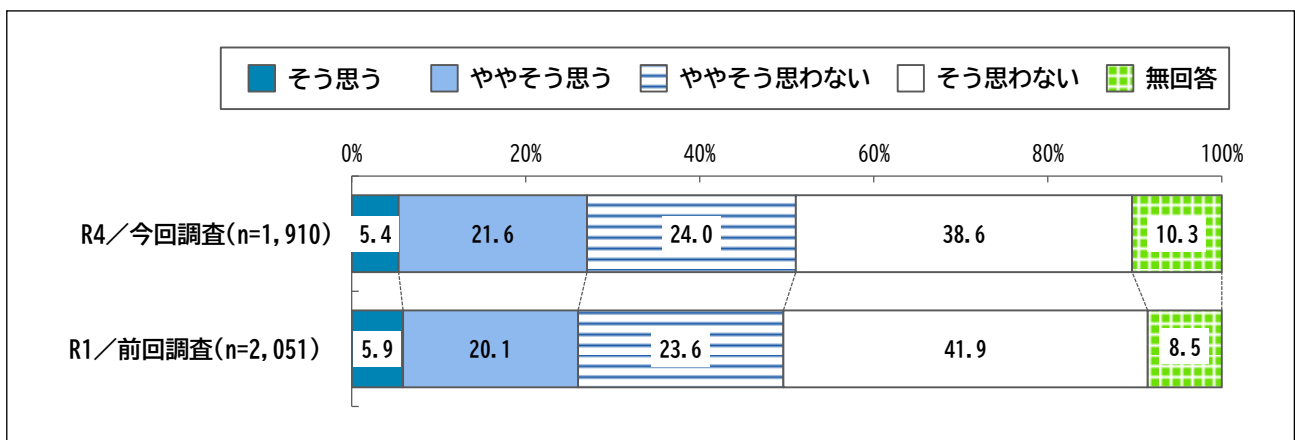
性別にみると、『整っていると思う』は男性(30.8%)が女性(24.1%)を6.7ポイント上回っています。

年齢構成別にみると、『整っていると思う』は後期高齢者(29.1%)が前期高齢者(25.0%)を4.1ポイント上回っています。

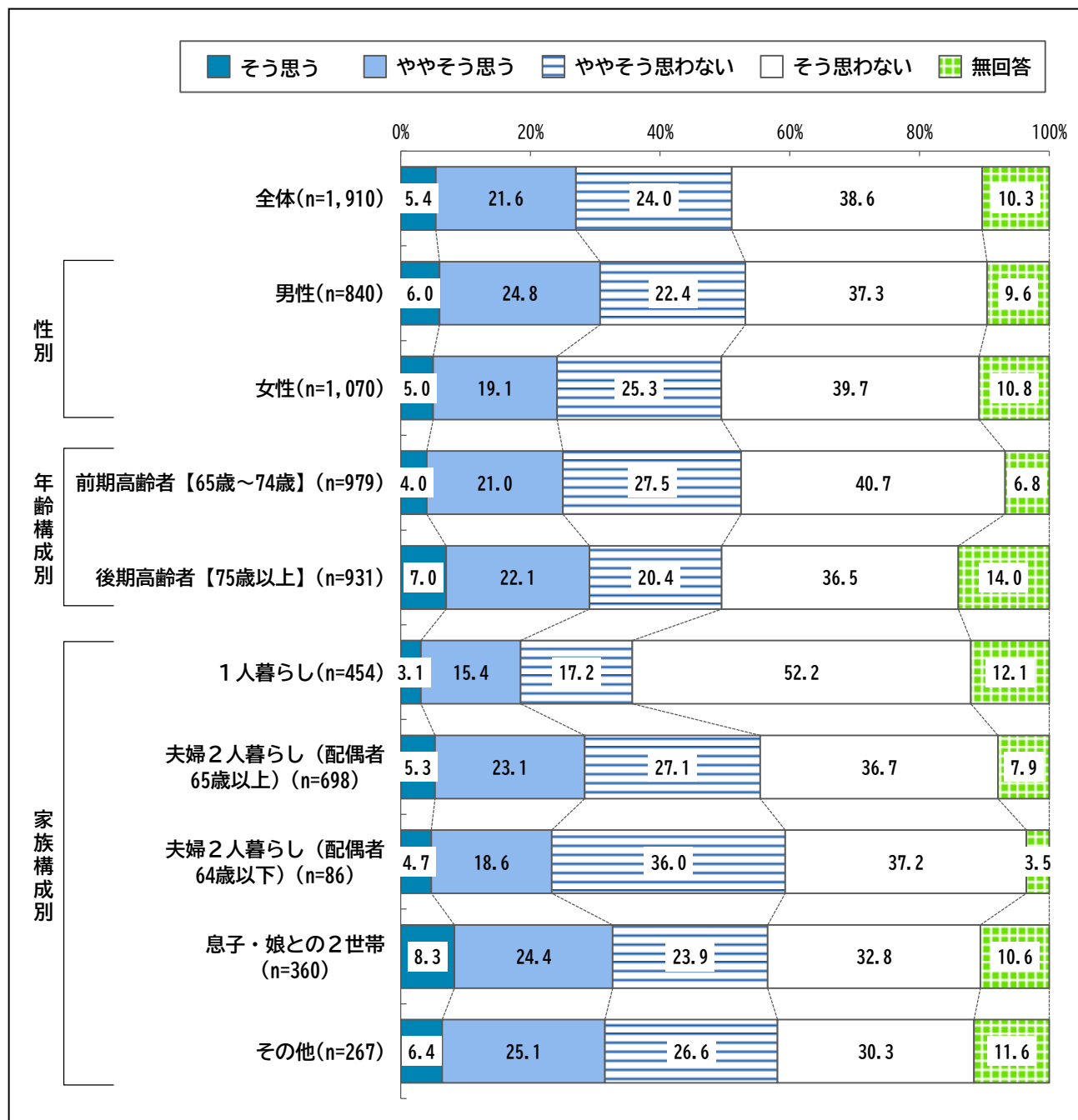
家族構成別にみると、『整っていると思う』は、息子・娘との2世帯で32.7%と最も高くなっています。

一方、1人暮らし、夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)では『整っていると思わない』が他の家族構成に比べて高く、特に夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)では7割以上を占めています。

図表 123 自宅で最期を迎える体制が整っているか(全体、前回比較)



図表 124 自宅で最期を迎える体制が整っているか（全体、性別、年齢構成別、家族構成別）



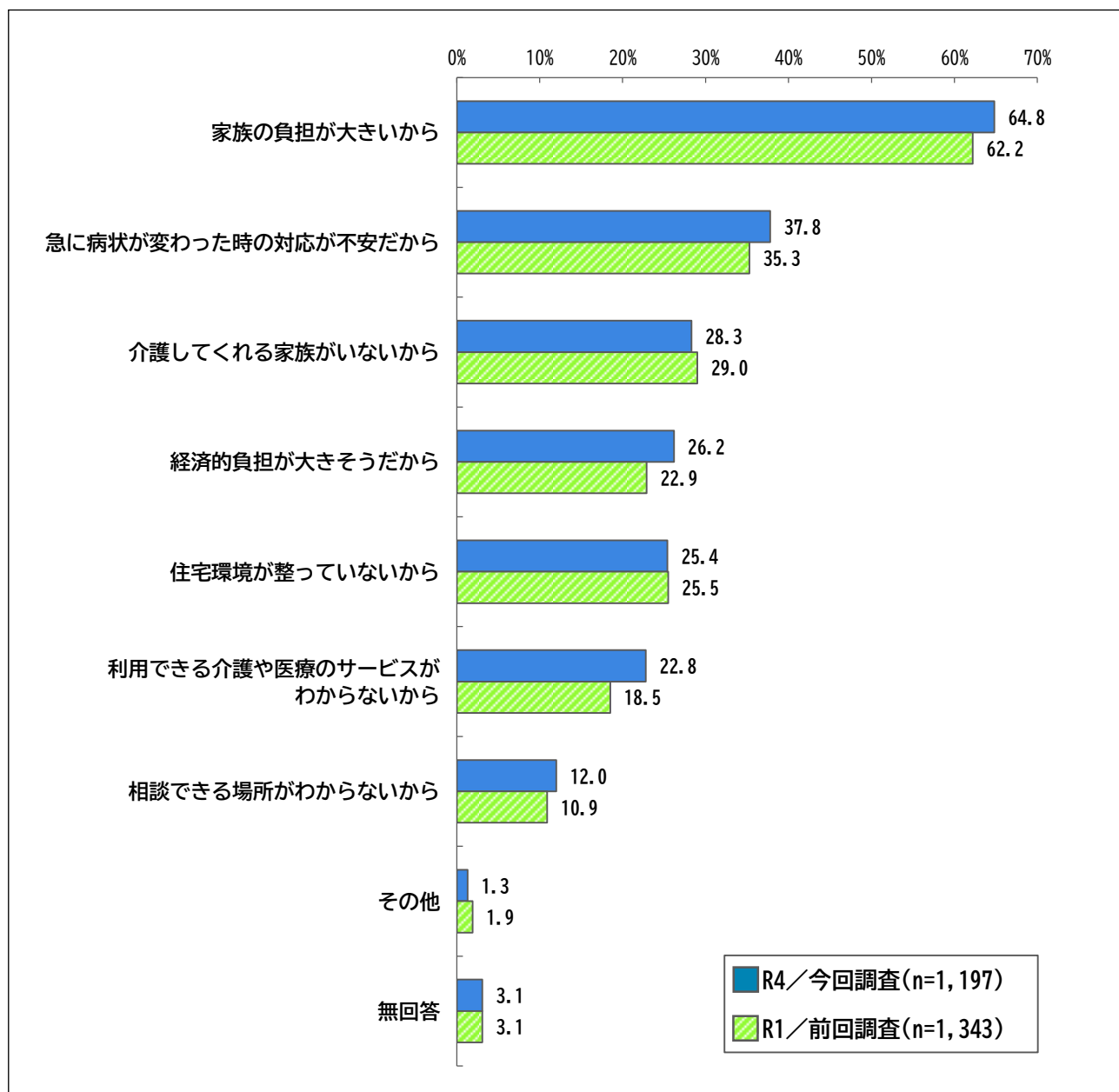
※問13(2)で「ややそう思わない」「そう思わない」と回答した方のみ
 問13(2-1) そう思わない理由は何ですか。(いくつでも)

【全体の傾向】

自宅で最期を迎える体制が整っていない理由をみると、「家族の負担が大きいから」が64.8%と最も多く、次いで「急に病状が変わった時の対応が不安だから」(37.8%)、「介護してくれる家族がないから」(28.3%)、「経済的負担が大きそうだから」(26.2%)、「住宅環境が整っていないから」(25.4%)となっています。

前回調査と比較すると、「利用できる介護や医療のサービスがわからないから」が4.3ポイント、「経済的負担が大きそうだから」が3.3ポイント、「家族の負担が大きいから」が2.6ポイント、「急に病状が変わった時の対応が不安だから」が2.5ポイント増加しています。

図表 125 自宅で最期を迎える体制が整っていない理由(全体、前回比較/複数回答)



【属性別の傾向】

性別にみると、男性では「経済的負担が大きそうだから」、女性では「介護してくれる家族がいないから」がそれぞれ上位に挙がっています。

年齢構成別にみると、前期高齢者では「経済的負担が大きそうだから」、後期高齢者では「介護してくれる家族がいないから」がそれぞれ上位に挙がっています。

家族構成別にみると、1人暮らしでは「介護してくれる家族がいないから」が第1位となっています。

圏域別にみると、西部では「住宅環境が整っていないから」が上位に挙がっています。

図表 126 自宅で最期を迎える体制が整っていない理由
(全体、性別、年齢構成別、家族構成別、圏域別/複数回答)

<上位3位/単位%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=1,197)		家族の負担が大きいためから 64.8	急に病状が変わった時の対応が不安だから 37.8	介護してくれる家族がいないから 28.3
性別	男性(n=501)	家族の負担が大きいためから 63.3	急に病状が変わった時の対応が不安だから 31.9	経済的負担が大きそうだから 27.9
	女性(n=696)	家族の負担が大きいためから 65.9	急に病状が変わった時の対応が不安だから 42.0	介護してくれる家族がいないから 30.9
年齢構成別	前期高齢者【65歳～74歳】(n=667)	家族の負担が大きいためから 66.4	急に病状が変わった時の対応が不安だから 38.1	経済的負担が大きそうだから 28.9
	後期高齢者【75歳以上】(n=530)	家族の負担が大きいためから 62.8	急に病状が変わった時の対応が不安だから 37.4	介護してくれる家族がいないから 32.6
家族構成別	1人暮らし(n=315)	介護してくれる家族がいないから 56.8	家族の負担が大きいためから 42.2	急に病状が変わった時の対応が不安だから/経済的負担が大きそうだから 32.7
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)(n=445)	家族の負担が大きいためから 69.0	急に病状が変わった時の対応が不安だから 40.4	利用できる介護や医療のサービスがわからないから 24.0
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)(n=63)	家族の負担が大きいためから 73.0	経済的負担が大きそうだから 33.3	急に病状が変わった時の対応が不安だから 30.2
	息子・娘との2世帯(n=204)	家族の負担が大きいためから 81.4	急に病状が変わった時の対応が不安だから 39.7	住宅環境が整っていないから 29.4
	その他(n=152)	家族の負担が大きいためから 73.7	急に病状が変わった時の対応が不安だから 40.8	経済的負担が大きそうだから 27.6
圏域別	北部(n=395)	家族の負担が大きいためから 65.6	急に病状が変わった時の対応が不安だから 40.8	介護してくれる家族がいないから 27.6
	西部(n=302)	家族の負担が大きいためから 66.9	急に病状が変わった時の対応が不安だから 38.4	住宅環境が整っていないから 29.1
	南西部(n=275)	家族の負担が大きいためから 63.6	急に病状が変わった時の対応が不安だから 37.1	介護してくれる家族がいないから 30.9
	南東部(n=225)	家族の負担が大きいためから 62.2	急に病状が変わった時の対応が不安だから 32.4	経済的負担が大きそうだから 28.9

(2) 終末期に関する話し合いについて

問 13 (3) ご自身が終末期になった時にどうしたいかを誰かと話し合ったことはありますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

終末期に関する話し合いの有無についてみると、「ある」が32.1%、「ない」が58.6%となっています。前回調査と比較すると、「ある」が6.7ポイント減少しています。

【属性別の傾向】

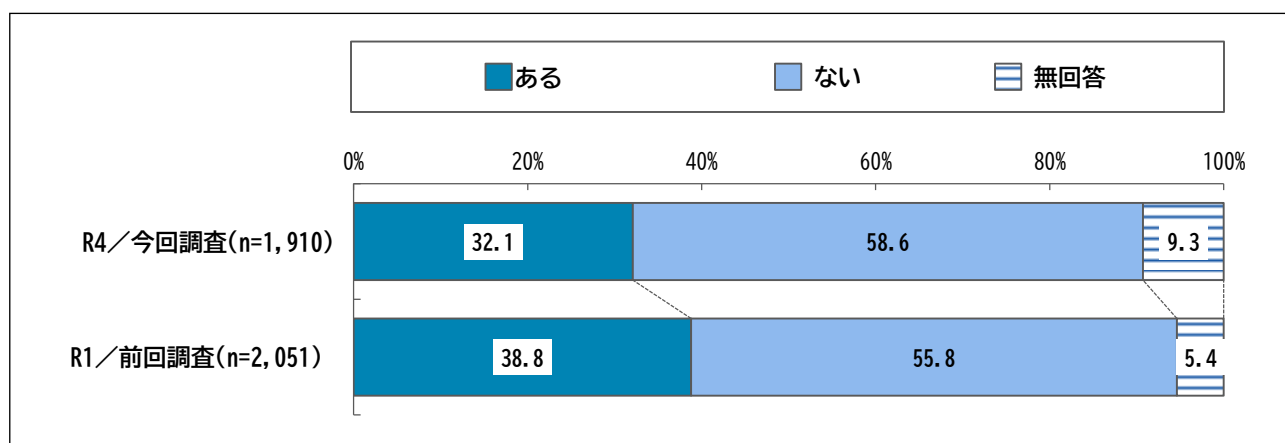
性別にみると、「ある」は女性(35.0%)が男性(28.5%)を6.5ポイント上回っています。

年齢構成別にみると、「ある」は後期高齢者(34.4%)が前期高齢者(29.9%)を4.5ポイント上回っています。

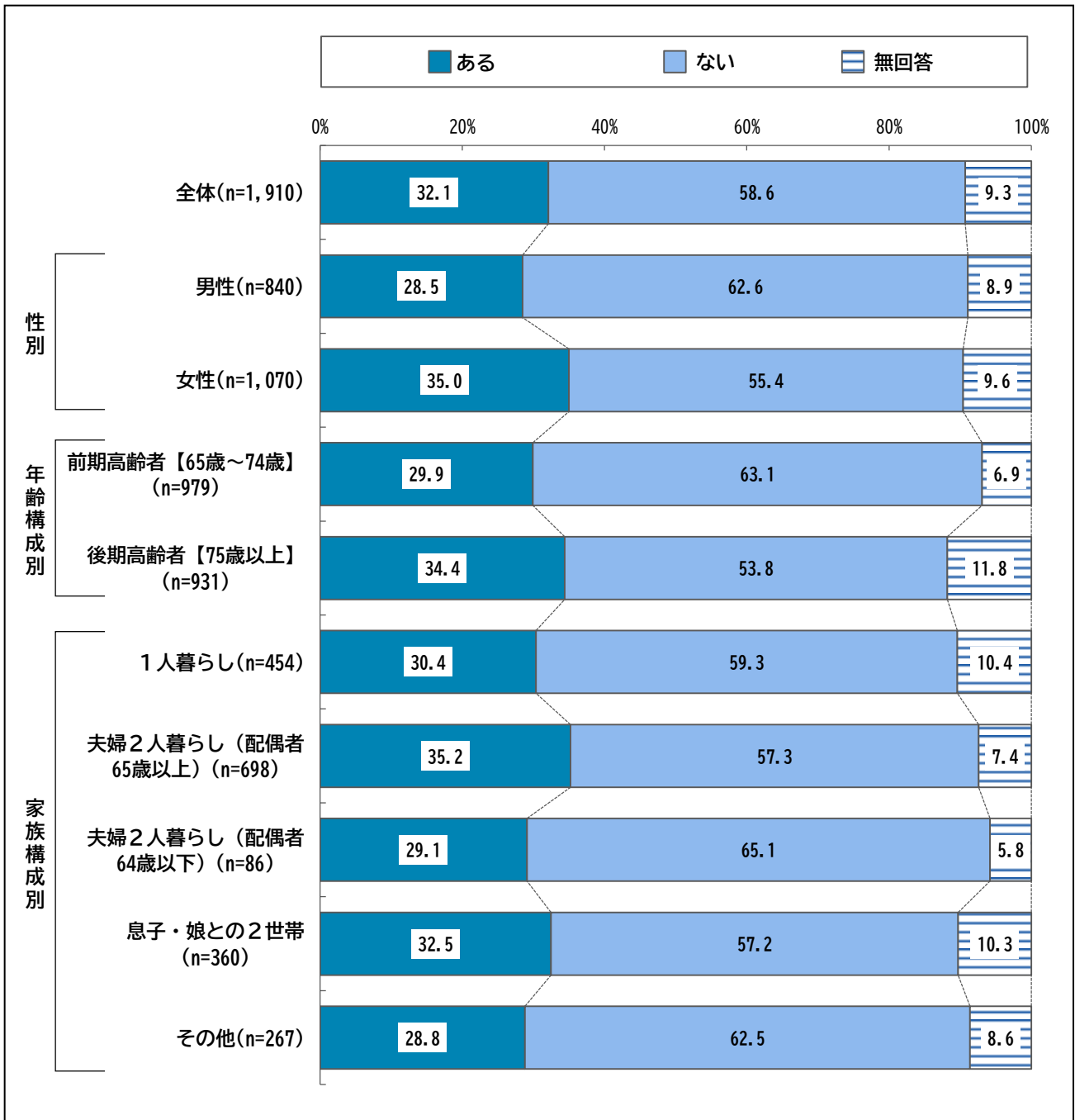
家族構成別にみると、「ある」は、1人暮らし、夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)、息子・娘との2世帯では3割を超えています。

一方、夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)、その他では「ない」が6割以上を占めています。

図表 127 終末期に関する話し合いの有無(全体、前回比較)



図表 128 終末期に関する話し合いの有無（全体、性別、年齢構成別、家族構成別）



※問13(3)で「ある」と回答した方のみ

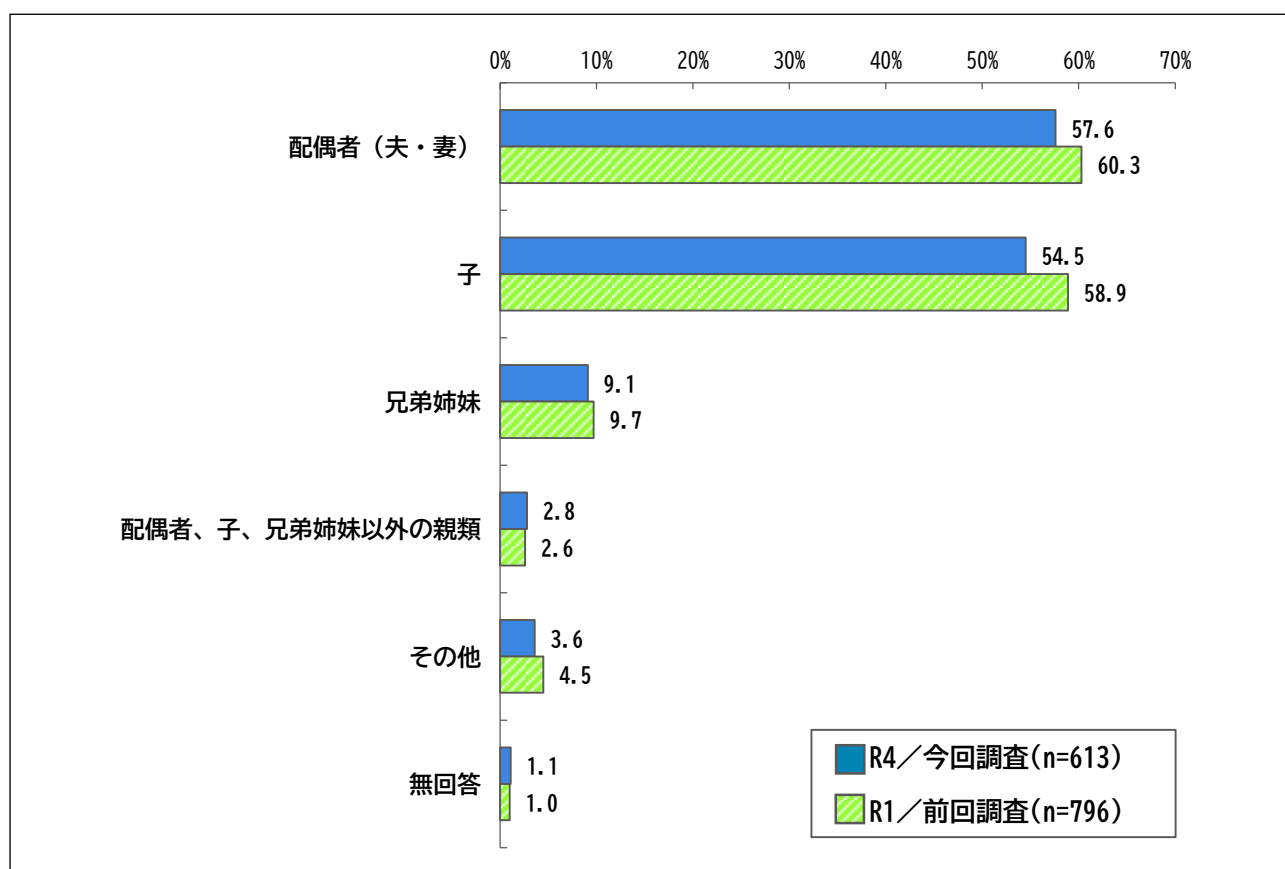
問13(3-1)誰と話し合いましたか。(いくつでも)

【全体の傾向】

終末期に関する話し合いをした相手についてみると、「配偶者(夫・妻)」が57.6%と最も多く、次いで「子」(54.5%)となっており、その割合は突出しています。続いて「兄弟姉妹」(9.1%)、「配偶者、子、兄弟姉妹以外の親類」(2.8%)となっています。

前回調査と比較すると、「子」が4.4ポイント、「配偶者(夫・妻)」が2.7ポイント減少しています。

図表 129 終末期に関する話し合いをした相手(全体、前回比較/複数回答)



【属性別の傾向】

性別にみると、男性は「配偶者（夫・妻）」、女性は「子」がそれぞれ第1位となっており、違いがみられます。

年齢構成別にみると、前期高齢者は「配偶者（夫・妻）」、後期高齢者は「子」が第1位となっています。

家族構成別にみると、第1位が、1人暮らし、息子・娘との2世帯、その他は「子」、夫婦2人暮らしでは配偶者の年齢に関わらず「配偶者（夫・妻）」となっています。また、1人暮らしでは「配偶者、子、兄弟姉妹以外の親類」が第3位となっています。

図表 130 終末期に関する話し合いをした相手
(全体、性別、年齢構成別、家族構成別/複数回答)

<上位3位/単位%>

		第1位	第2位	第3位
全体(n=613)		配偶者(夫・妻) 57.6	子 54.5	兄弟姉妹 9.1
性別	男性(n=239)	配偶者(夫・妻) 79.1	子 36.0	兄弟姉妹 5.9
	女性(n=374)	子 66.3	配偶者(夫・妻) 43.9	兄弟姉妹 11.2
年齢構成別	前期高齢者【65歳~74歳】(n=293)	配偶者(夫・妻) 71.7	子 45.1	兄弟姉妹 9.9
	後期高齢者【75歳以上】(n=320)	子 63.1	配偶者(夫・妻) 44.7	兄弟姉妹 8.4
家族構成別	1人暮らし(n=138)	子 71.0	兄弟姉妹 21.0	配偶者、子、兄弟姉妹以外の親類 9.4
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)(n=246)	配偶者(夫・妻) 91.1	子 36.2	兄弟姉妹 5.7
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)(n=25)	配偶者(夫・妻) 92.0	子 12.0	その他 4.0
	息子・娘との2世帯(n=117)	子 71.8	配偶者(夫・妻) 53.8	兄弟姉妹 7.7
	その他(n=77)	子 68.8	配偶者(夫・妻) 46.8	その他 7.8

※問13(3)で「ない」と回答した方のみ

問13(3-2) 誰かと話し合いたいと思いますか。(1つだけ)

【全体の傾向】

終末期に関する話し合いをしたいと思うかについてみると、「はい」が63.4%、「いいえ」が30.2%となっています。

前回調査と比較すると、「はい」が3.7ポイント増加しています。

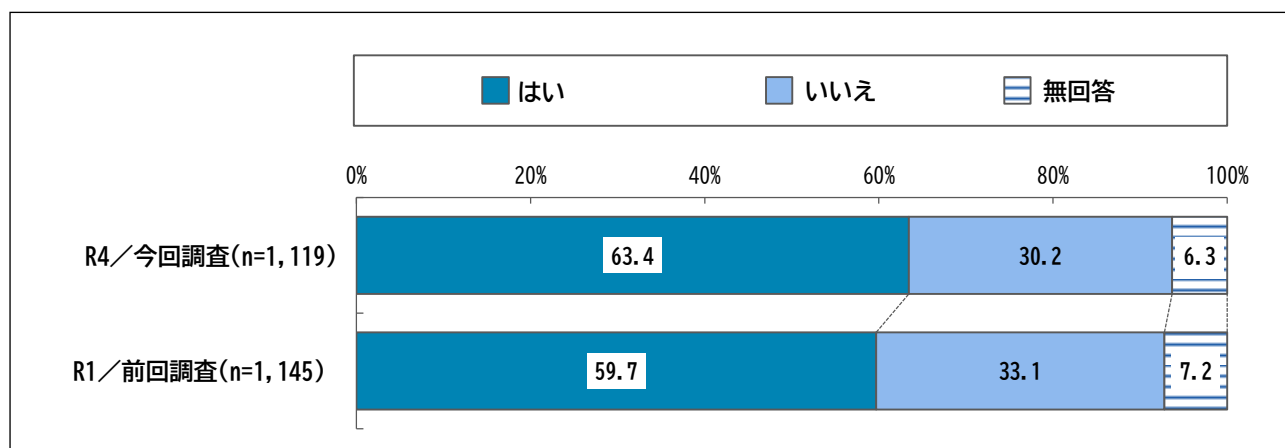
【属性別の傾向】

性別にみると、「はい」は女性(67.5%)が男性(58.9%)を8.6ポイント上回っています。

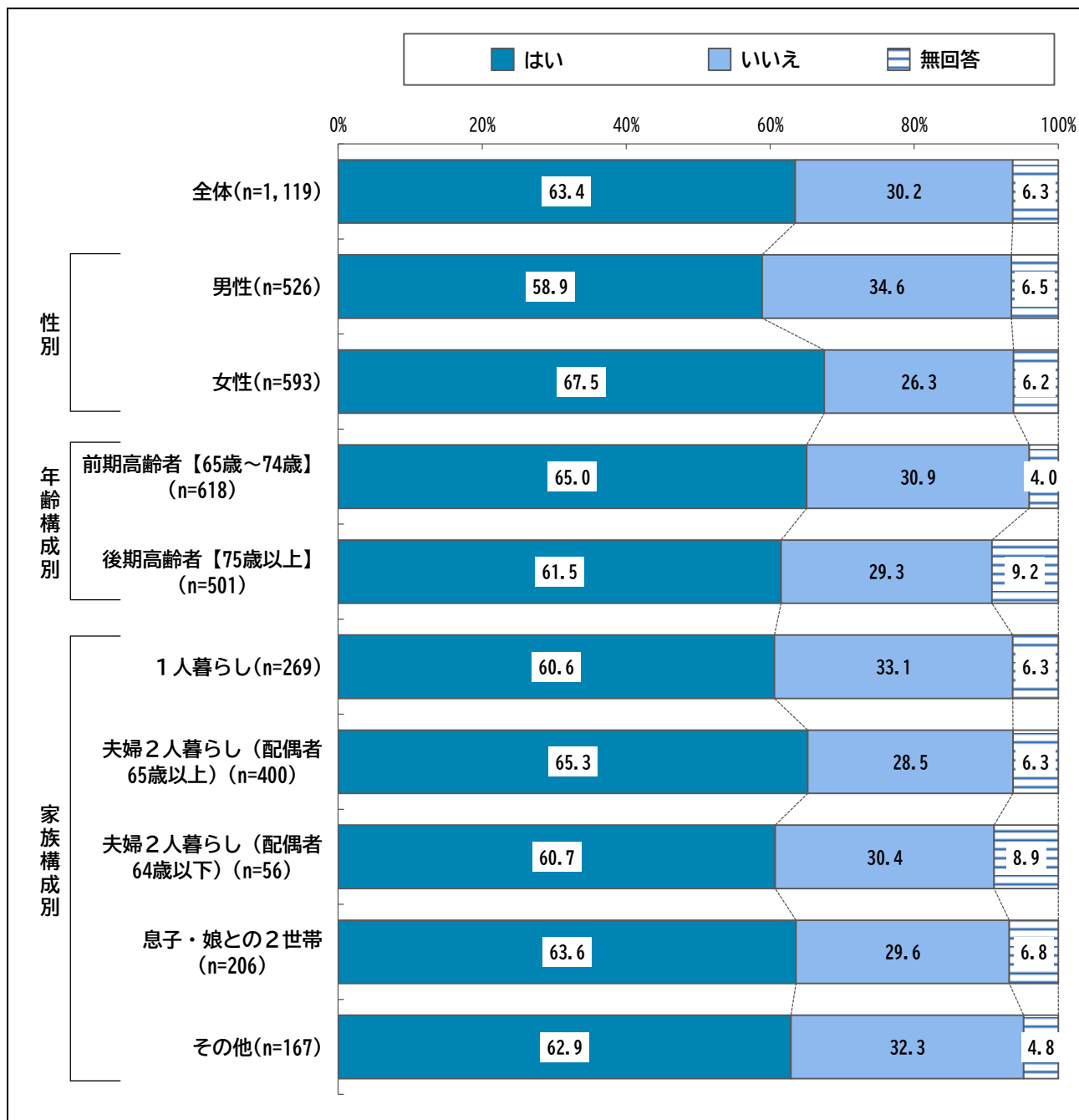
年齢構成別にみると、「はい」は前期高齢者(65.0%)が後期高齢者(61.5%)を3.5ポイント上回っています。

家族構成別にみると、いずれも「はい」が6割以上を占めています。特に夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)で65.3%と最も高くなっています。

図表 131 終末期に関する話し合いをしたいと思うか(全体、前回比較)



図表 132 終末期に関する話し合いをしたいと思いますか（全体、性別、年齢構成別、家族構成別）



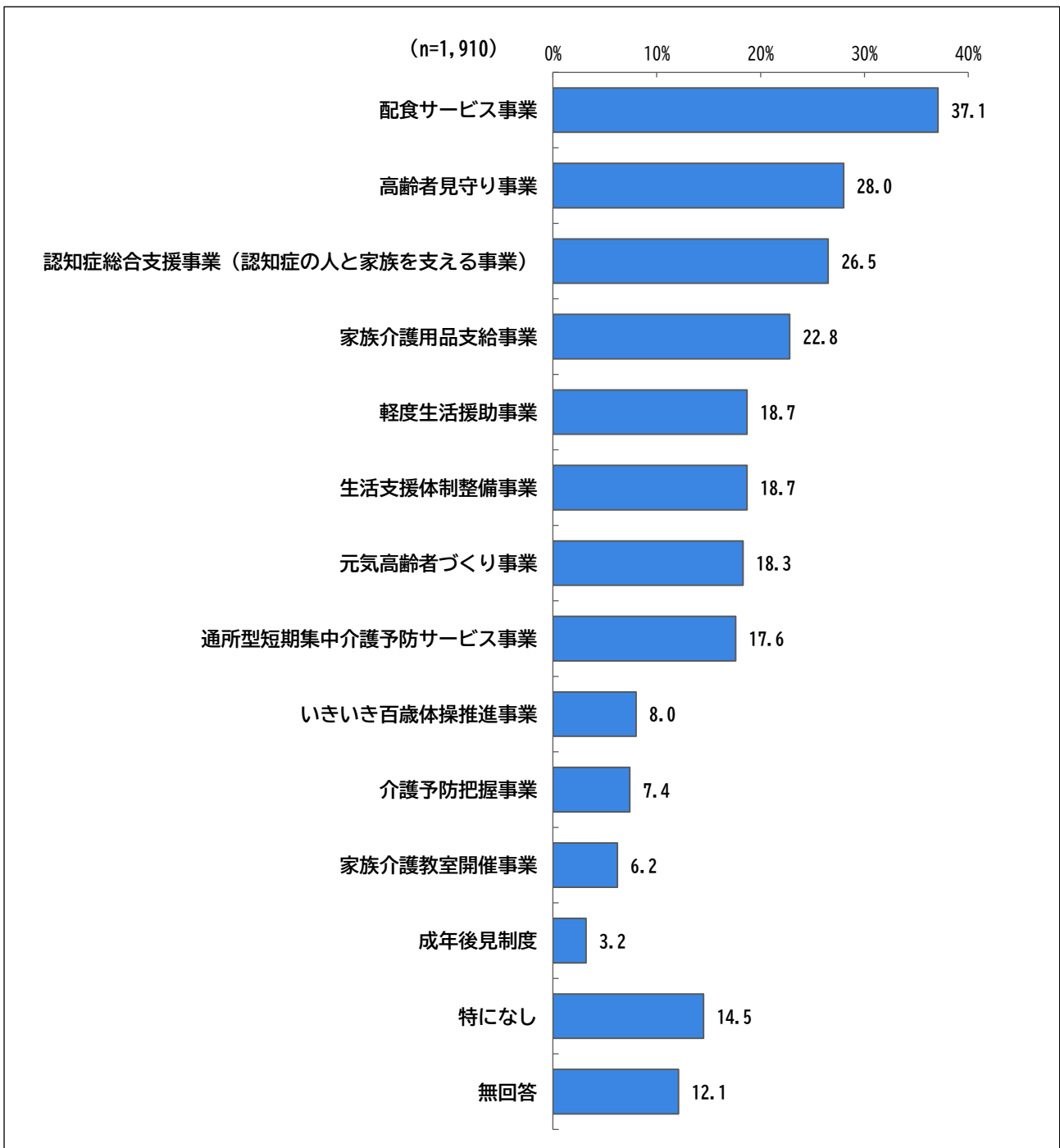
14 介護予防事業で特に力を入れてほしい高齢者施策について

問 14 (1) 地域ケア推進担当の事業で今後、特に力を入れてほしい事業をお答えください。(いくつでも)

【全体の傾向】

特に力を入れてほしい地域ケア推進事業についてみると、「配食サービス事業」が37.1%と最も多く、次いで「高齢者見守り事業」(28.0%)、「認知症総合支援事業(認知症の人と家族を支える事業)」(26.5%)、「家族介護用品支給事業」(22.8%)、「軽度生活援助事業」、「生活支援体制整備事業」(いずれも 18.7%)となっています。

図表 133 充実を希望する地域ケア推進事業(全体/複数回答)



【属性別の傾向】

性別にみると、男性では「生活支援体制整備事業」、女性では「軽度生活援助事業」が上位に挙がっています。

年齢構成別にみると、前期高齢者では「生活支援体制整備事業」、後期高齢者では「通所型短期集中介護予防サービス事業」が上位に挙がっています。

家族構成別にみると、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）では「認知症総合支援事業」が第1位となっています。

圏域別にみると、北部、西部では「元気高齢者づくり事業」、南西部では「軽度生活援助事業」、南東部では「生活支援体制整備事業」が上位に挙がっています。

図表 134 充実を希望する地域ケア推進事業
(全体、性別、年齢構成別、家族構成別、圏域別/複数回答)

<上位5位/単位%>

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体(n=1,910)		配食サービス事業 37.1	高齢者見守り事業 28.0	認知症総合支援事業 26.5	家族介護用品支給事業 22.8	軽度生活援助事業/生活支援体制整備事業 18.7
性別	男性(n=840)	配食サービス事業 34.6	高齢者見守り事業 27.4	認知症総合支援事業 23.9	家族介護用品支給事業 23.3	生活支援体制整備事業 21.2
	女性(n=1,070)	配食サービス事業 39.1	認知症総合支援事業 28.5	高齢者見守り事業 28.4	家族介護用品支給事業 22.4	軽度生活援助事業 20.9
年齢構成別	前期高齢者【65歳～74歳】(n=979)	配食サービス事業 41.0	認知症総合支援事業 28.6	高齢者見守り事業 26.5	家族介護用品支給事業 25.9	生活支援体制整備事業 22.5
	後期高齢者【75歳以上】(n=931)	配食サービス事業 33.1	高齢者見守り事業 29.5	認知症総合支援事業 24.3	家族介護用品支給事業 19.5	通所型短期集中介護予防サービス事業 18.6
家族構成別	1人暮らし(n=454)	配食サービス事業 37.4	高齢者見守り事業 34.1	軽度生活援助事業 24.0	生活支援体制整備事業/認知症総合支援事業 19.8	
	夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)(n=698)	配食サービス事業 42.6	高齢者見守り事業 28.9	認知症総合支援事業 25.8	家族介護用品支給事業 23.9	元気高齢者づくり事業 18.9
	夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)(n=86)	認知症総合支援事業 40.7	配食サービス事業 33.7	家族介護用品支給事業 30.2	生活支援体制整備事業 25.6	高齢者見守り事業 23.3
	息子・娘との2世帯(n=360)	配食サービス事業 29.4	認知症総合支援事業 28.6	家族介護用品支給事業 26.7	元気高齢者づくり事業 20.8	通所型短期集中介護予防サービス事業 20.3
	その他(n=267)	配食サービス事業 35.2	認知症総合支援事業 33.7	家族介護用品支給事業 27.3	高齢者見守り事業 26.2	生活支援体制整備事業 22.1
圏域別	北部(n=610)	配食サービス事業 37.4	高齢者見守り事業 29.5	認知症総合支援事業 23.8	家族介護用品支給事業 22.5	元気高齢者づくり事業 19.7
	西部(n=471)	配食サービス事業 40.6	認知症総合支援事業 29.7	高齢者見守り事業 26.3	家族介護用品支給事業 25.1	元気高齢者づくり事業 19.5
	南西部(n=455)	配食サービス事業 34.9	高齢者見守り事業 27.3	認知症総合支援事業 26.2	軽度生活援助事業 20.2	家族介護用品支給事業 19.6
	南東部(n=374)	配食サービス事業 35.0	高齢者見守り事業 28.3	認知症総合支援事業 27.3	家族介護用品支給事業 24.6	生活支援体制整備事業 23.3

問 14（2）前問の事業以外に、介護予防に関することで力を入れてほしいことはありますか。（1つだけ）

【全体の傾向】

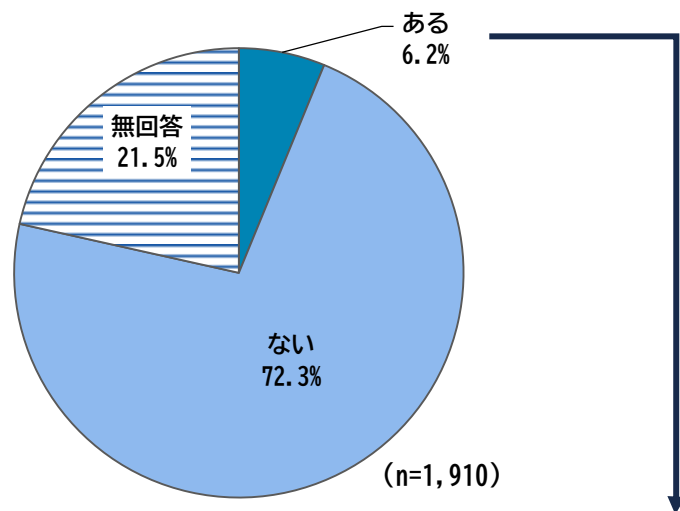
力を入れてほしい介護予防事業の有無についてみると、「ある」が6.2%、「ない」が72.3%となっています。また、「ある」と回答した方の具体的な内容としては、「地域コミュニティの活性化」や「情報提供（介護、福祉、支援、制度等）」などが求められています。

【属性別の傾向】

家族構成別にみると、いずれも「ある」は1割以下にとどまっています。また、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）では「ない」が81.4%を占めています。

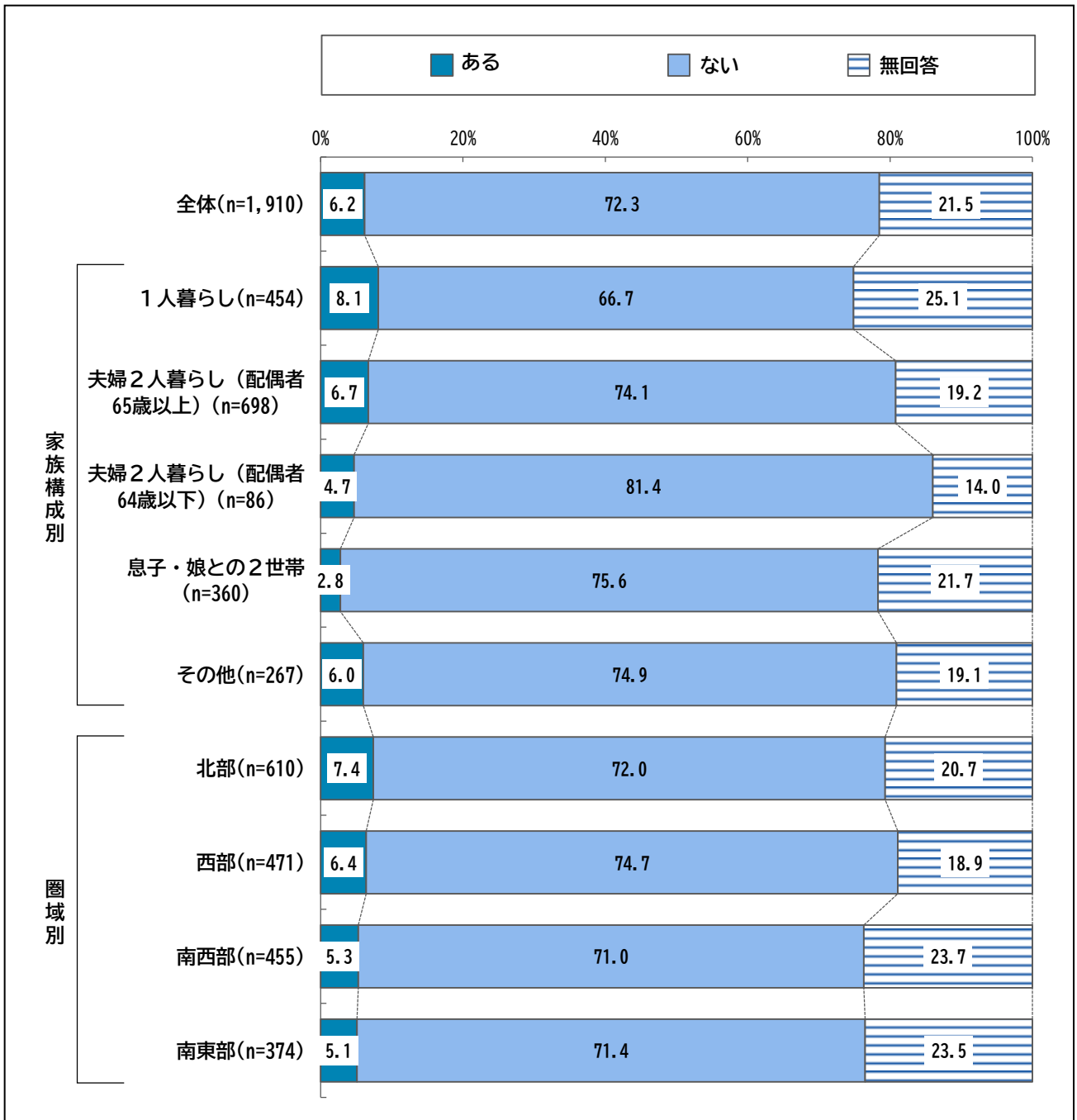
圏域別にみると、「ある」は北部（7.4%）、西部（6.4%）、南西部（5.3%）、南東部（5.1%）の順に高くなっています。

図表 135 力を入れてほしい介護予防事業の有無（全体）



介護予防に関して力を入れてほしいこと（記述）	件数
地域コミュニティの活性化（市民の意識向上、見守り強化、集いの場や機会の提供等）	15
情報提供の充実（介護、福祉、支援、制度等）	15
認知症予防・予防医学・自立推進事業	10
経済的支援（低額での利用希望、生活全般に対する支援等）	9
相談体制・窓口の充実	8
一人暮らし高齢者への支援	7
移動支援（車に乗れなくなった場合の支援、移動手段の充実等）	6
設備面の改善（施設の増設、車いす用道路、公園の健康器具の充実等）	5
人材育成	4
その他（幼少より教育に盛り込むなど）	15

図表 136 力を入れてほしい介護予防事業の有無（全体、家族構成別、圏域別）



15 福祉・介護予防などに関係する名称、用語について

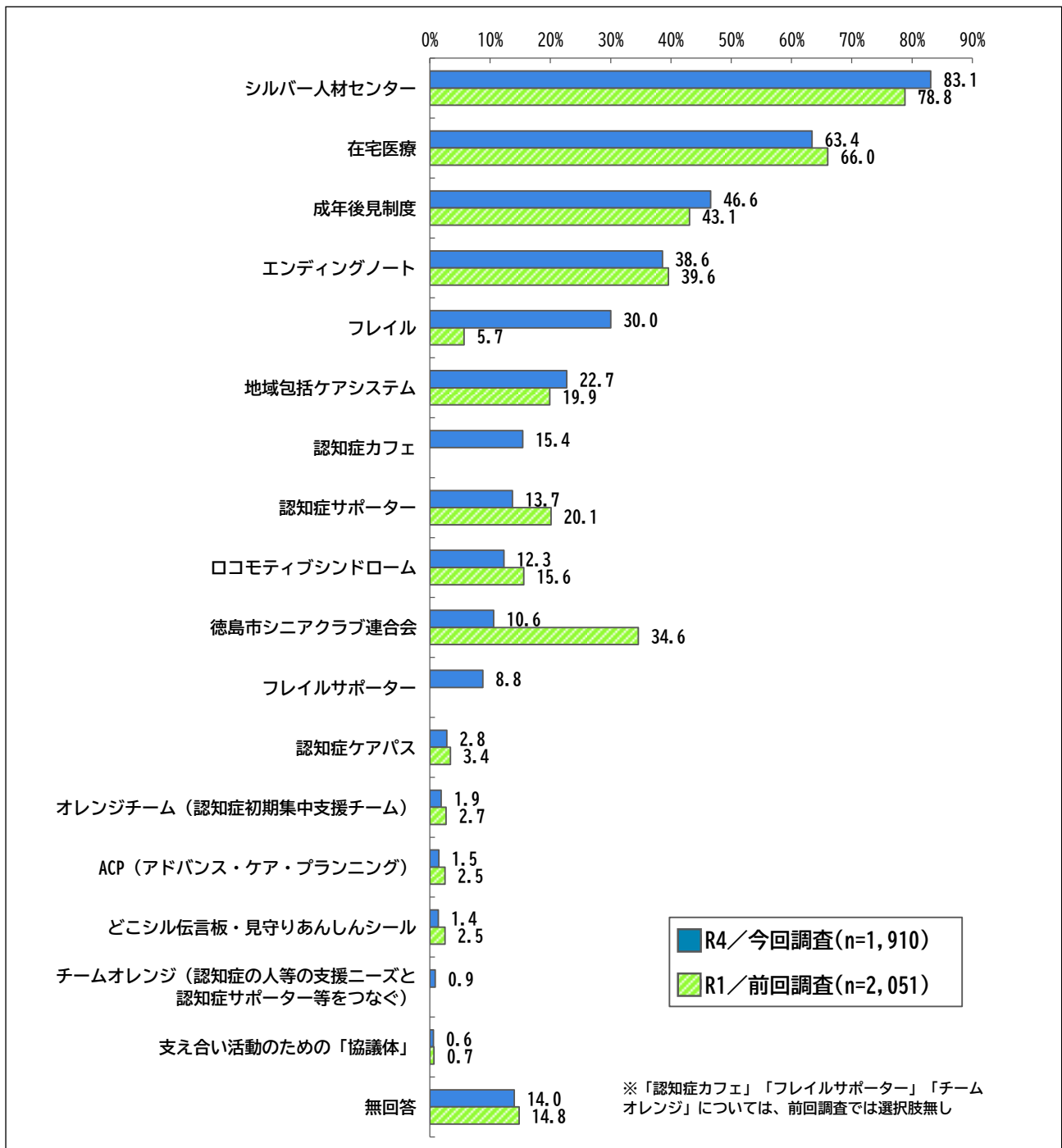
問 15 (1) 次の名称や用語について、知っているものを教えてください。(いくつでも)

【全体の傾向】

福祉・介護予防に関する名称・用語の認知度についてみると、「シルバー人材センター」が83.1%と最も多く、次いで「在宅医療」(63.4%)、「成年後見制度」(46.6%)、「エンディングノート」(38.6%)、「フレイル」(30.0%)となっています。

前回調査と比較すると、「フレイル」を知っている人の割合が5倍以上に増加しています。

図表 137 福祉・介護予防に関する名称・用語の認知度（全体、前回比較／複数回答）



16 評価項目別の判定結果

・リスク判定方法

	問NO.	質問項目	該当する選択肢
機能低下の 運動器	問2 (1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」
	問2 (2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	「3. できない」
	問2 (3)	15分位続けて歩いていますか	「3. できない」
	問2 (4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 or 「2. 1度ある」
	問2 (5)	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」 or 「2. やや不安である」
リスク 転倒	問2 (4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 or 「2. 1度ある」
閉じこもり 傾向	問2 (6)	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」 or 「2. 週1回」
状態 低栄養	問3 (1)	身長、体重	BMI < 18.5
	問3 (7)	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」
口腔機能 低下	問3 (2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
	問3 (3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	「1. はい」
	問3 (4)	口の渇きが気になりますか	「1. はい」
機能 低下の 認知	問4 (1)	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」
うつ 傾向	問7 (3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1. はい」
	問7 (4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	「1. はい」

■判定方法・・・該当する選択肢を回答した場合を1点としたときの合計点、または該当選択肢を回答した場合

- ①運動器の機能低下・・・該当：3点以上
- ②転倒リスク・・・該当：該当選択肢を回答した場合
- ③閉じこもり傾向・・・該当：該当選択肢を回答した場合
- ④低栄養状態・・・該当：2点
- ⑤口腔機能低下・・・該当：2点以上
- ⑥認知機能の低下・・・該当：該当選択肢を回答した場合
- ⑦うつ傾向・・・該当：1点以上

(1) 運動器の機能低下

【全体の傾向】

運動器機能低下の該当者の割合は 22.8%となっています。

前回調査と比較すると、該当者の割合が 0.3 ポイント増加しています。

【属性別の傾向】

性別にみた該当者の割合は、女性（27.9%）が男性（16.2%）を 11.7 ポイント上回っています。

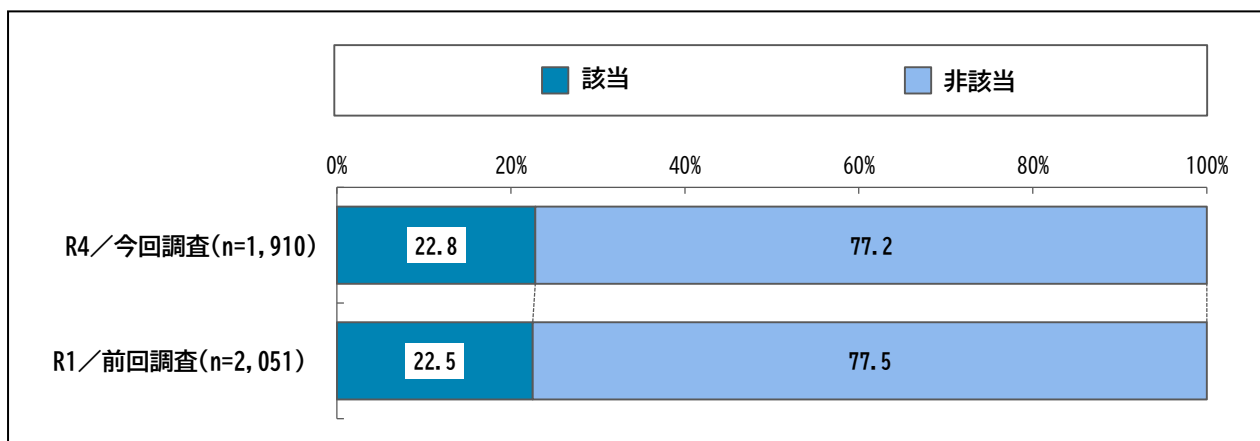
年齢構成別にみた該当者の割合は、後期高齢者（34.7%）が、前期高齢者（11.4%）を 23.3 ポイント上回っています。

認定状況別にみた該当者の割合は、一般高齢者（16.8%）と総合事業対象者（53.3%）および要支援 1・2（74.2%）とで大差がみられます。

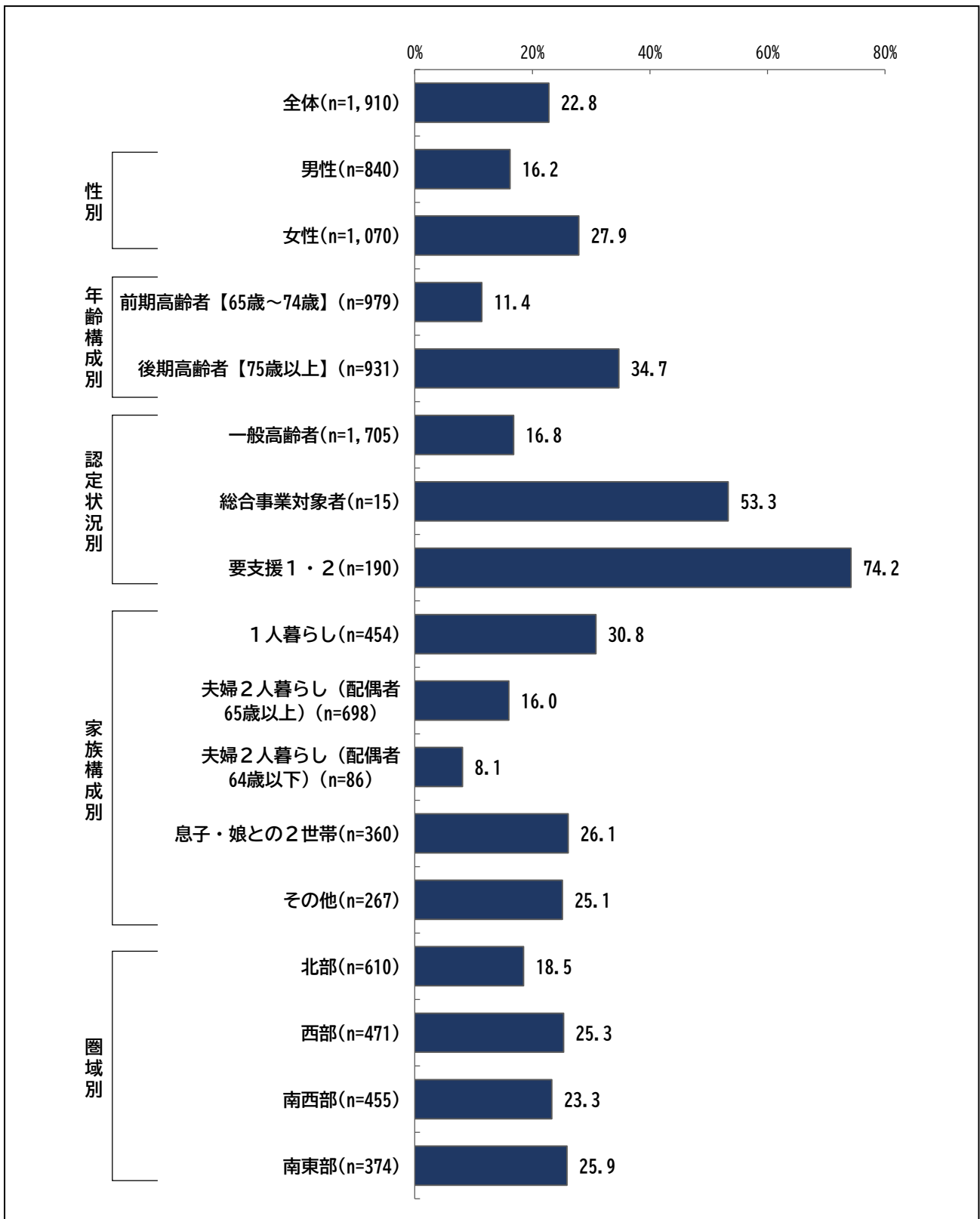
家族構成別にみた該当者の割合は、1人暮らしが 30.8%と最も高くなっています。

圏域別にみた該当者の割合は、南東部が 25.9%と最も高くなっています。

図表 138 運動器の機能低下の該当者の割合（全体、前回比較）



図表 139 運動器の機能低下の該当者の割合
 (全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別、圏域別)



(2) 転倒リスク

【全体の傾向】

転倒リスク該当者の割合は 37.2%となっています。

前回調査と比較すると、該当者の割合が 0.3 ポイント増加しています。

【属性別の傾向】

性別にみた該当者の割合は、男性（37.3%）が女性（37.2%）を 0.1 ポイント上回っています。

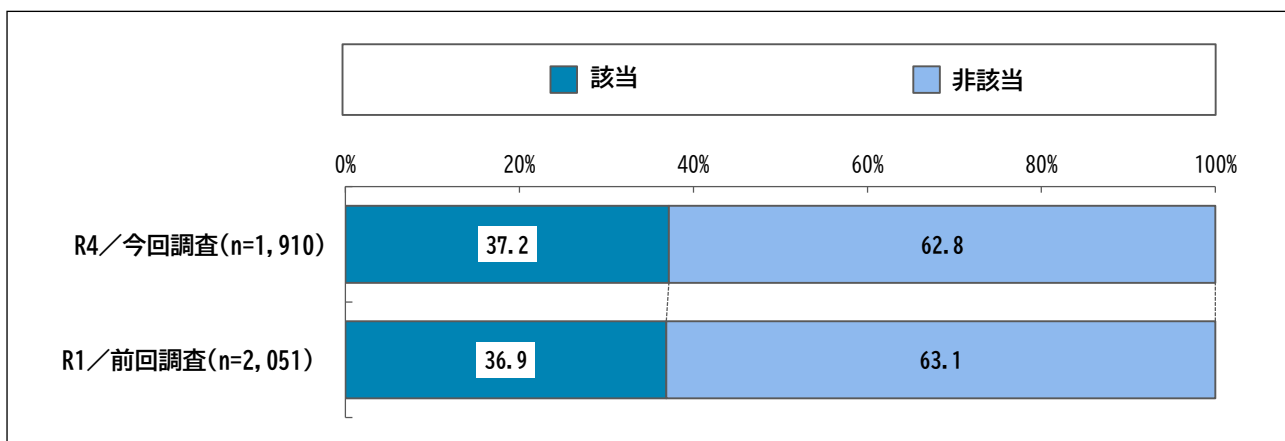
年齢構成別にみた該当者の割合は、後期高齢者（46.2%）が前期高齢者（28.7%）を 17.5 ポイント上回っています。

認定状況別にみた該当者の割合は、要支援 1・2 が 60.0% と最も高くなっています。

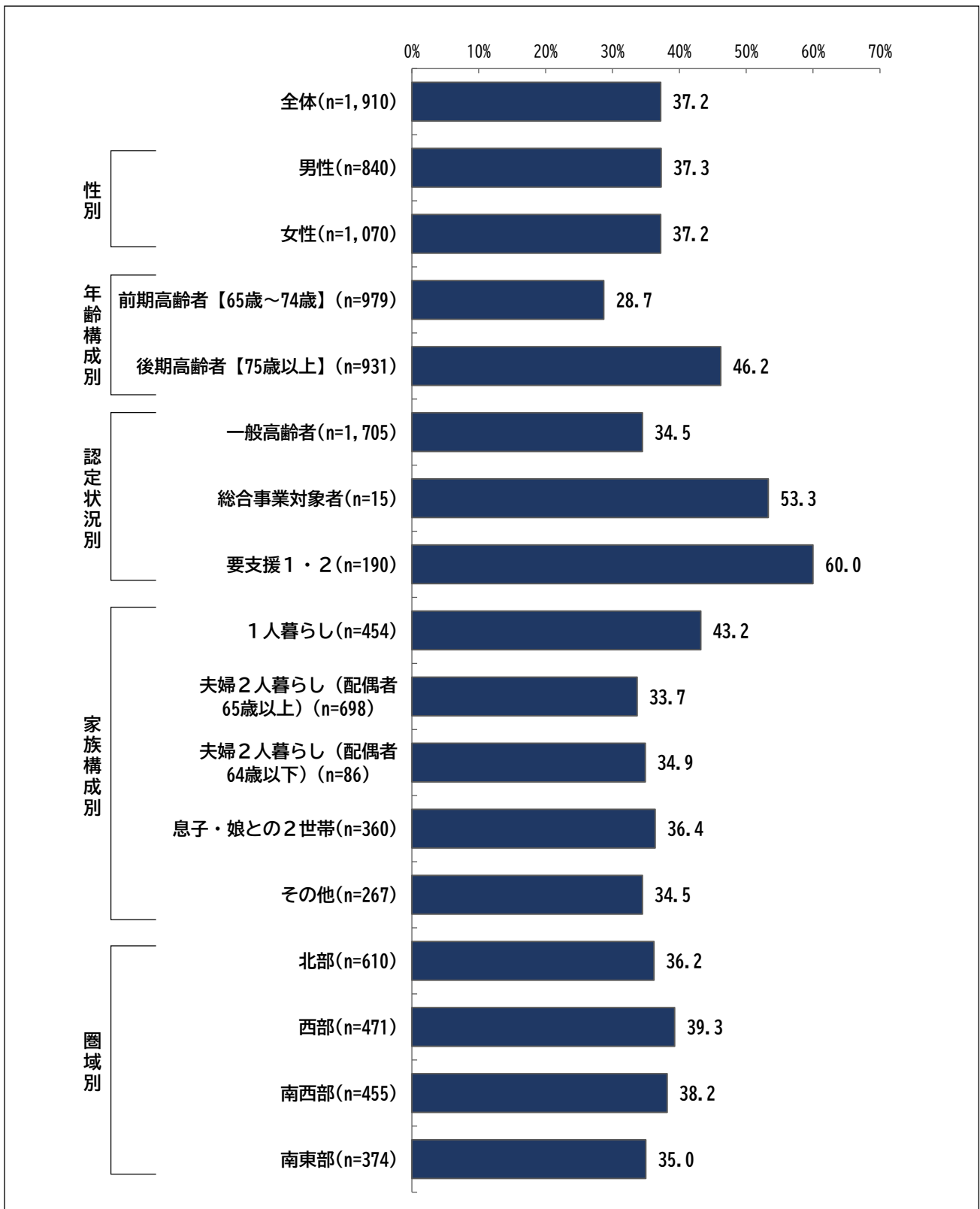
家族構成別にみた該当者の割合は、1 人暮らしが 43.2% と最も高くなっています。

圏域別にみると、西部が 39.3% と最も高くなっています。

図表 140 転倒リスク該当者の割合（全体、前回比較）



図表 141 転倒リスク該当者の割合
 (全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別、圏域別)



(3) 閉じこもり傾向

【全体の傾向】

閉じこもり傾向の該当者の割合は、21.9%となっています。

前回調査と比較すると、該当者の割合が4.1ポイント増加しています。

【属性別の傾向】

性別にみた該当者の割合は、女性（23.8%）が男性（19.5%）を4.3ポイント上回っています。

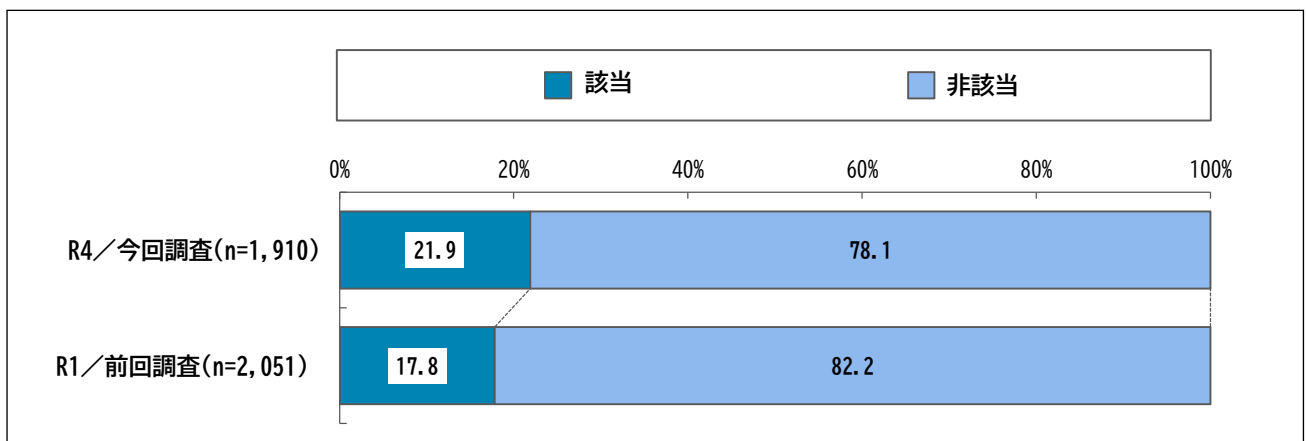
年齢構成別にみた該当者の割合は、後期高齢者（31.4%）が前期高齢者（13.0%）を18.4ポイント上回っています。

認定状況別にみた該当者の割合は、総合事業対象者が60.0%と最も高くなっています。

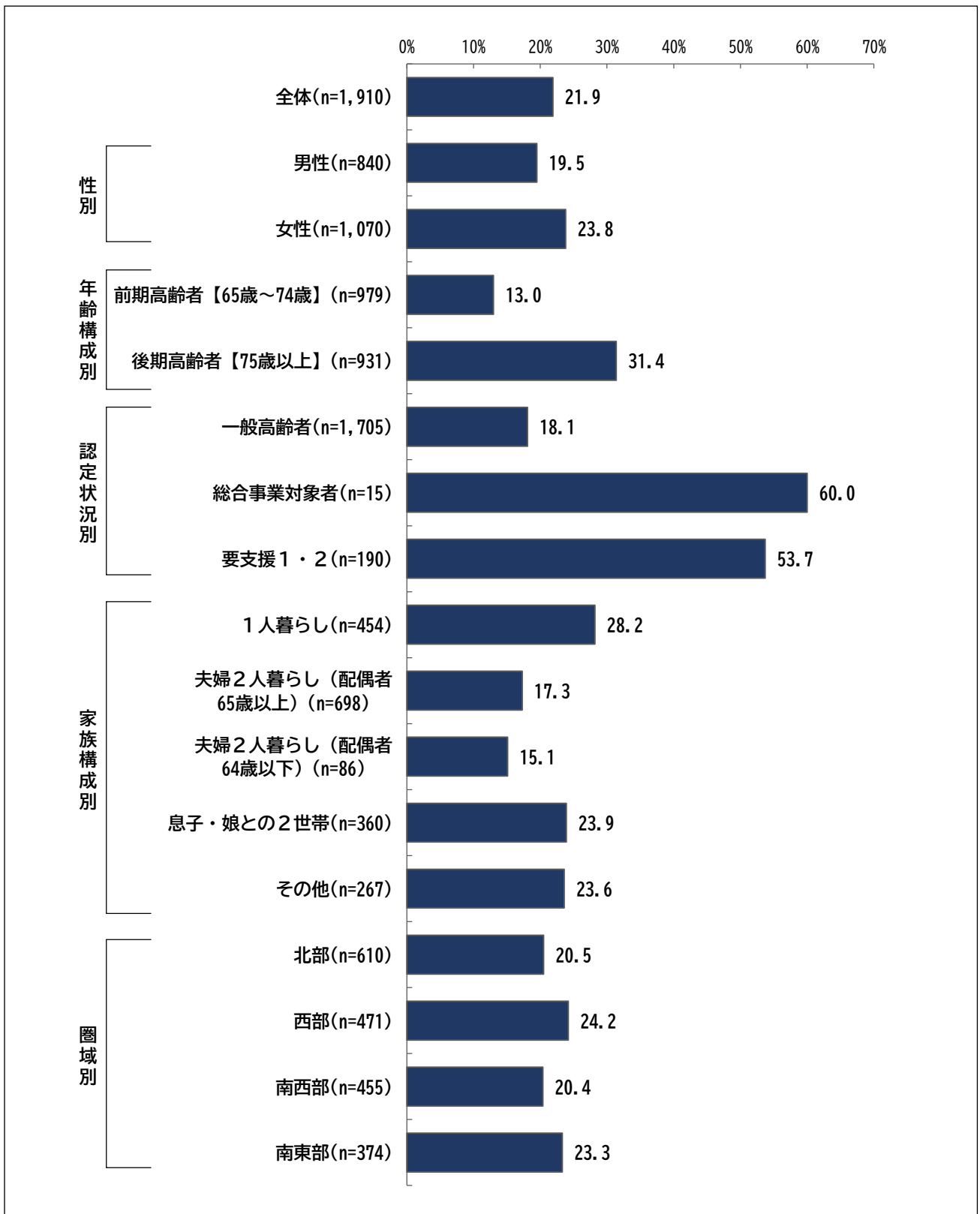
家族構成別にみた該当者の割合は、1人暮らしが28.2%と最も高くなっています。

圏域別にみた該当者の割合は、西部が24.2%と最も高くなっています。

図表 142 閉じこもり傾向の該当者の割合（全体、前回比較）



図表 143 閉じこもり傾向の該当者の割合
 (全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別、圏域別)



(4) 低栄養状態

【全体の傾向】

低栄養状態の該当者の割合は1.8%となっています。

前回調査と比較すると、該当者の割合が0.3ポイント増加しています。

【属性別の傾向】

性別にみた該当者の割合は、女性（1.9%）が男性（1.8%）を0.1ポイント上回っています。

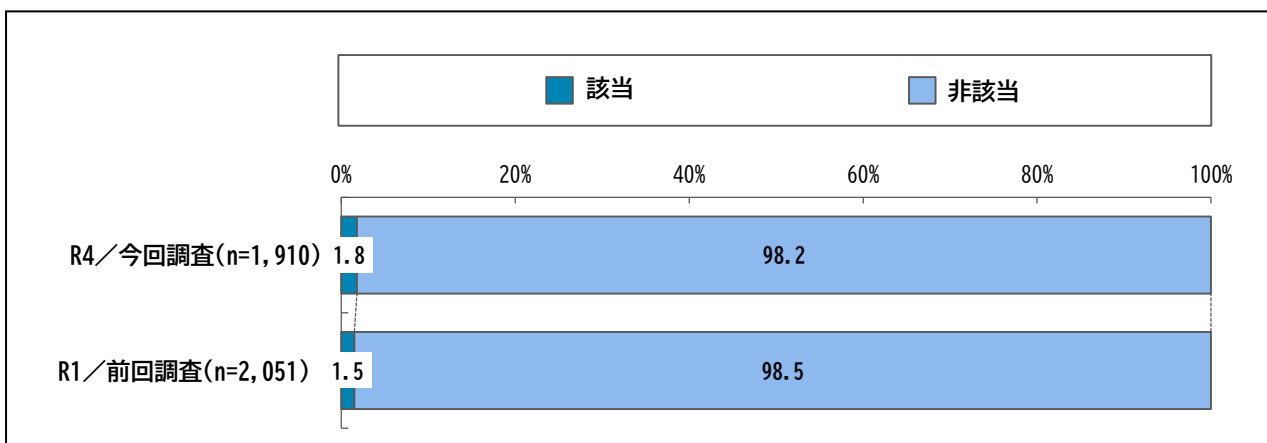
年齢構成別にみた該当者の割合は、後期高齢者（2.5%）が、前期高齢者（1.2%）を1.3ポイント上回っています。

認定状況別にみた該当者の割合は、総合事業対象者が6.7%と最も高くなっています。

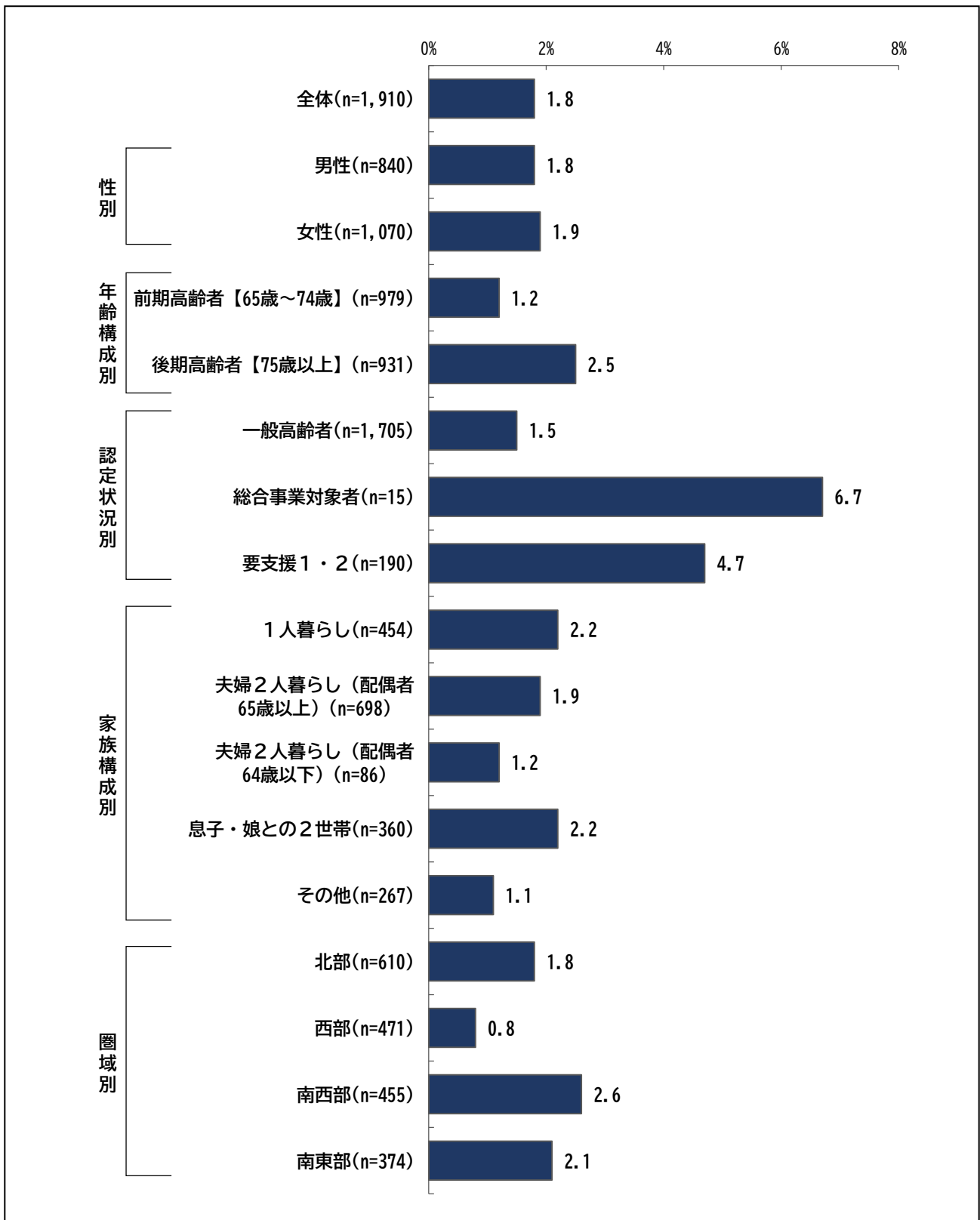
家族構成別にみた該当者の割合は、1人暮らし、息子・娘との2世帯がともに2.2%で最も高くなっています。

圏域別にみた該当者の割合は、南西部が2.6%と最も高くなっています。

図表 144 低栄養状態の該当者の割合（全体、前回比較）



図表 145 低栄養状態の該当者の割合
 (全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別、圏域別)



(5) 口腔機能低下

【全体の傾向】

口腔機能低下の該当者の割合は31.9%となっています。

前回調査と比較すると、該当者の割合が2.6ポイント増加しています。

【属性別の傾向】

性別にみた該当者の割合は、女性（32.5%）が男性（31.1%）を1.4ポイント上回っています。

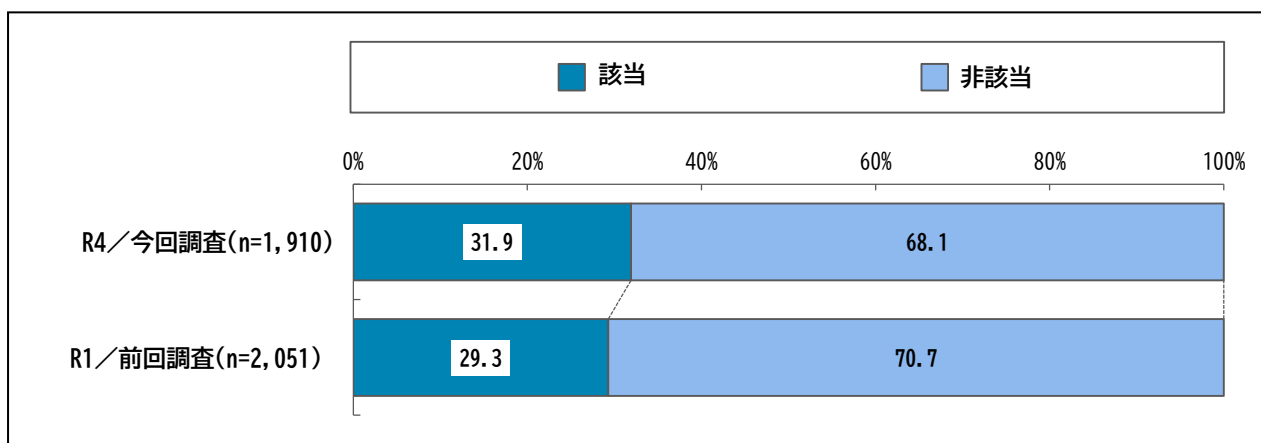
年齢構成別にみた該当者の割合は、後期高齢者（36.2%）が、前期高齢者（27.8%）を8.4ポイント上回っています。

認定状況別にみた該当者の割合は、要支援1・2が58.4%と最も高くなっています。

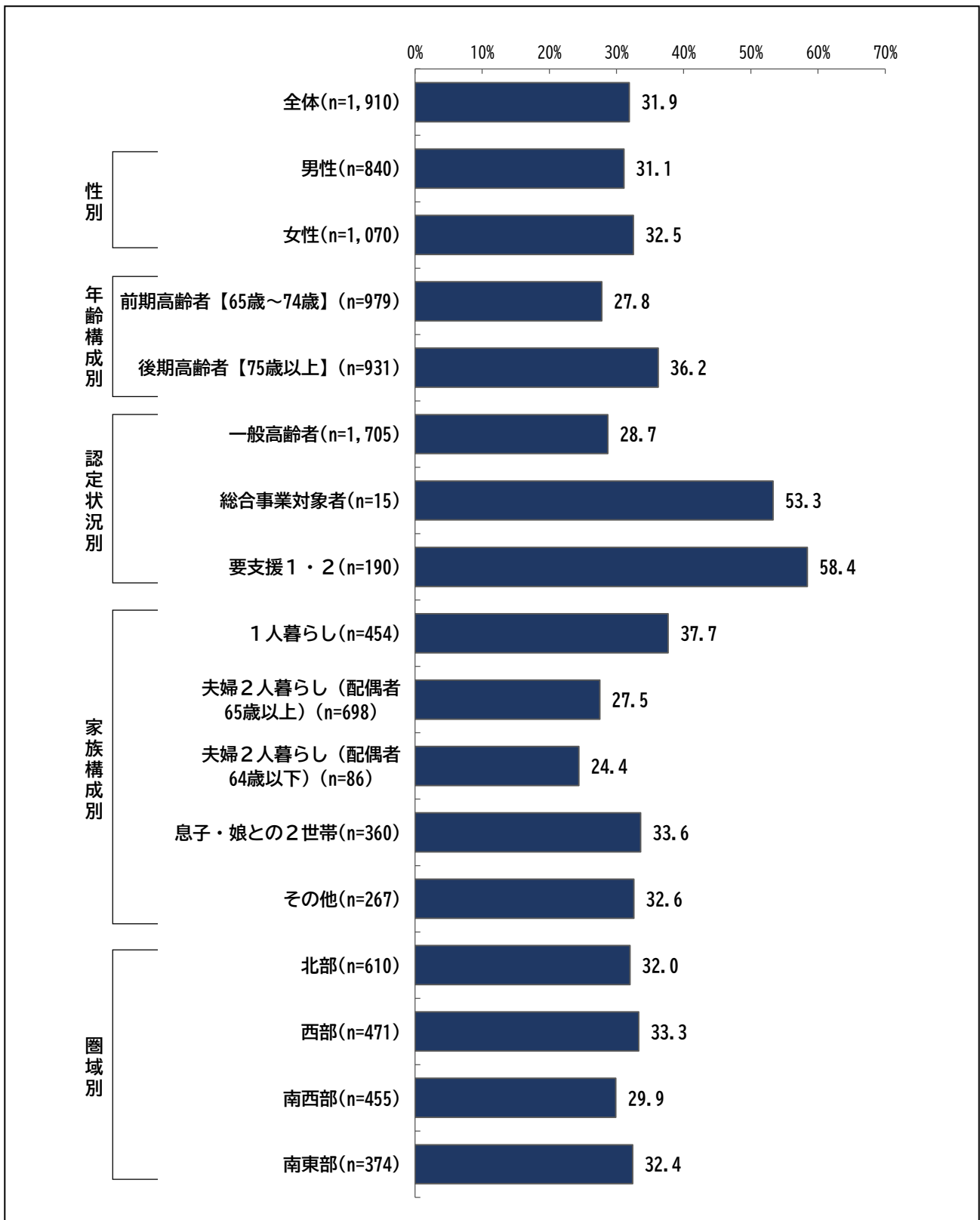
家族構成別にみた該当者の割合は、1人暮らしが37.7%と最も高くなっています。

圏域別にみた該当者の割合は、西部が33.3%と最も高くなっています。

図表 146 口腔機能低下の該当者の割合（全体、前回比較）



図表 147 口腔機能低下の該当者の割合
 (全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別、圏域別)



(6) 認知機能の低下

【全体の傾向】

認知機能低下の該当者の割合は、49.7%となっています。

前回調査と比較すると、該当者の割合が1.7ポイント減少しています。

【属性別の傾向】

性別にみた該当者の割合は、男性（49.8%）が女性（49.7%）を0.1ポイント上回っています。

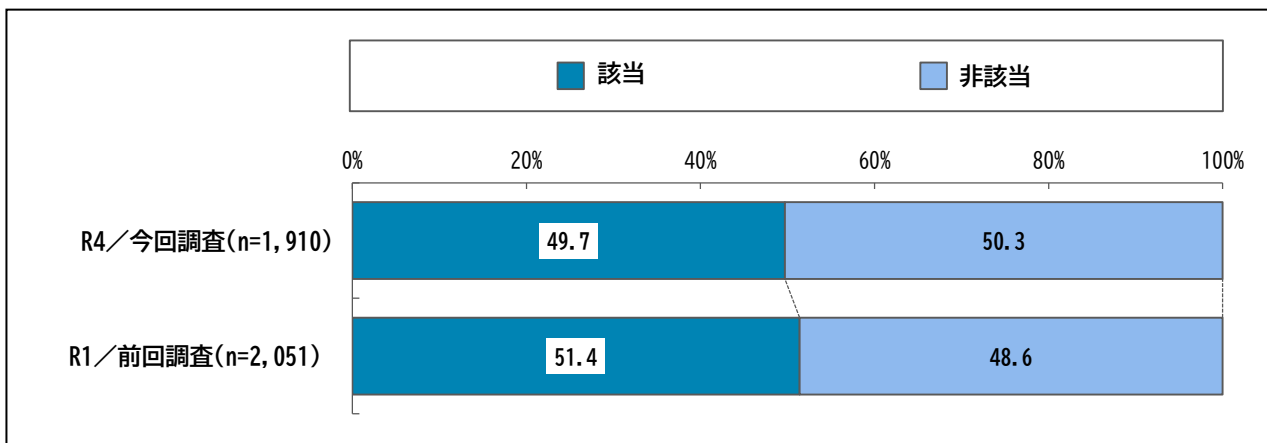
年齢構成別にみた該当者の割合は、後期高齢者（55.2%）が前期高齢者（44.5%）を10.7ポイント上回っています。

認定状況別にみた該当者の割合は、要支援1・2が65.3%と最も高くなっています。

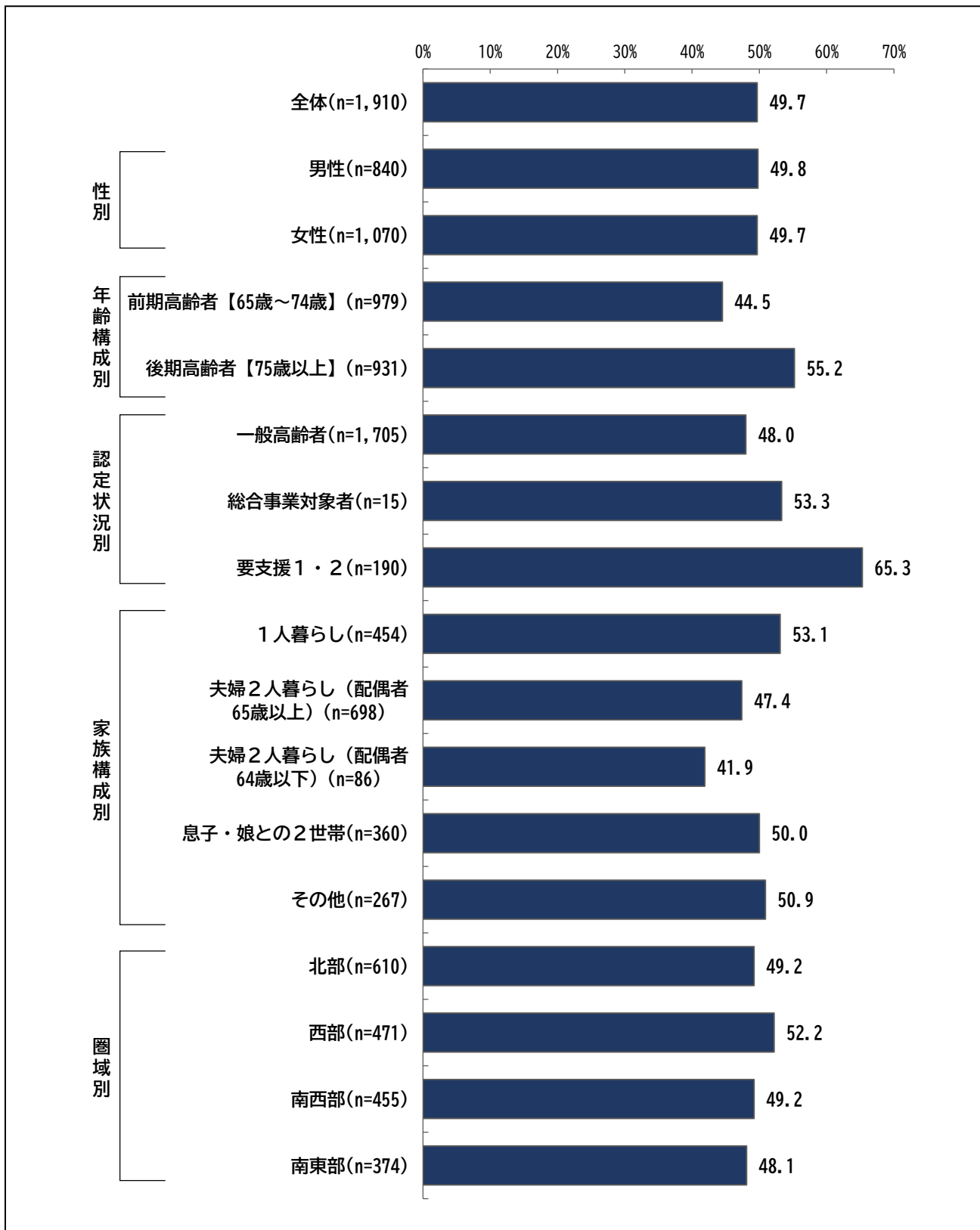
家族構成別にみた該当者の割合は、1人暮らしが53.1%と最も高くなっています。

圏域別にみた該当者の割合は、西部が52.2%と最も高くなっています。

図表 148 認知機能の低下の該当者の割合（全体、前回比較）



図表 149 認知機能の低下の該当者の割合
 (全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別、圏域別)



(7) うつ傾向

【全体の傾向】

うつ傾向の該当者の割合は、46.7%となっています。

前回調査と比較すると、該当者の割合が2.1ポイント増加しています。

【属性別の傾向】

性別にみた該当者の割合は、女性（48.1%）が男性（44.9%）を3.2ポイント上回っています。

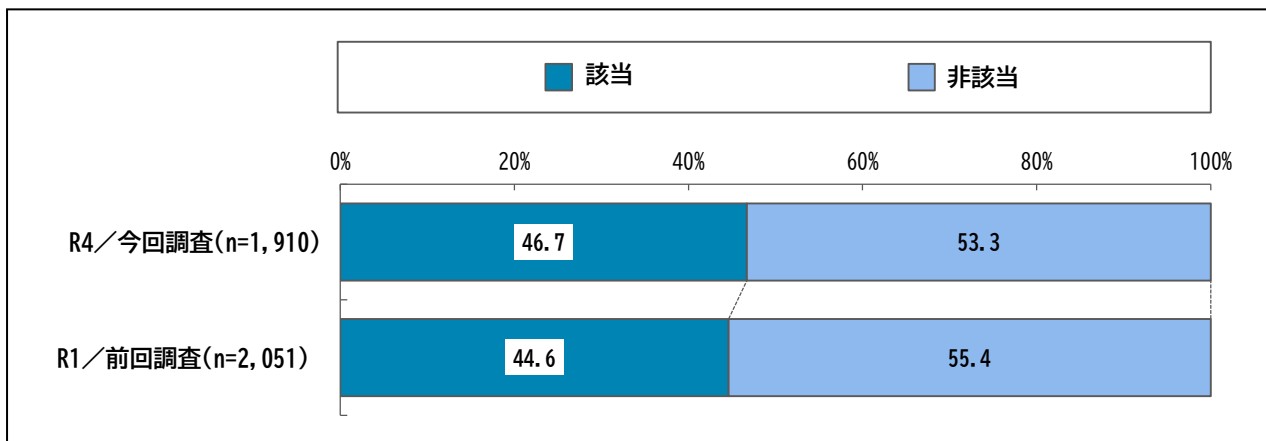
年齢構成別にみた該当者の割合は、後期高齢者（49.9%）が前期高齢者（43.6%）を6.3ポイント上回っています。

認定状況別にみた該当者の割合は、総合事業対象者が66.7%と最も高くなっています。

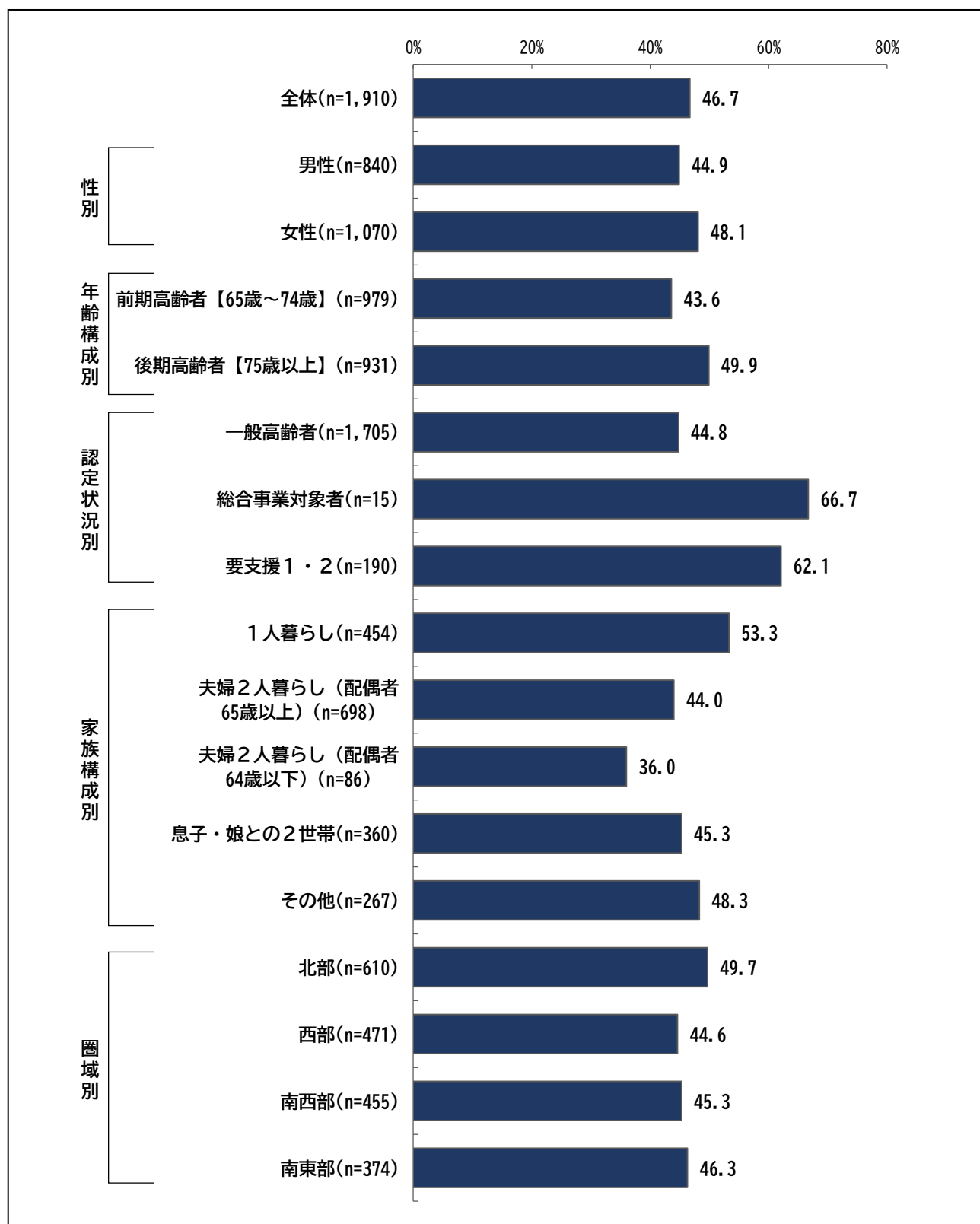
家族構成別にみた該当者の割合は、1人暮らしが53.3%と最も高くなっています。

圏域別にみた該当者の割合は、北部が49.7%と最も高くなっています。

図表 150 うつ傾向の該当者の割合（全体、前回比較）



図表 151 うつ傾向の該当者の割合
 (全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別、圏域別)



・判定方法（老研式活動能力指標）

① IADL（老研指標）

設問		選択肢
問4（4）	バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でも可）	「1.できるし、している」 or 「2.できるけどしていない」 1点
問4（5）	自分で食品・日用品の買物をしていますか	
問4（6）	自分で食事の用意をしていますか	
問4（7）	自分で請求書の支払いをしていますか	
問4（8）	自分で預貯金の出し入れをしていますか	

- 5点：高い
○4点：やや低い
○0～3点：低い

②社会参加

・知的能動性（老研指標）

設問		選択肢
問4（9）	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	「1.はい」：1点
問4（10）	新聞を読んでいますか	
問4（11）	本や雑誌を読んでいますか	
問4（12）	健康についての記事や番組に関心がありますか	

- 4点：高い
○3点：やや低い
○0～2点：低い

・社会的役割（老研指標）

設問		選択肢
問4（13）	友人の家を訪ねていますか	「1.はい」：1点
問4（14）	家族や友人の相談にのっていますか	
問4（15）	病人を見舞うことができますか	
問4（16）	若い人に自分から話しかけることがありますか	

- 4点：高い
○3点：やや低い
○0～2点：低い

(8) IADL－手段的日常生活動作

【全体の傾向】

IADLのスコアについては、「高い（5点）」が81.1%と最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「高い（5点）」が1.3ポイント減少しています。

【属性別の傾向】

性別にみると、「高い（5点）」は、女性（83.7%）が男性（77.7%）を6.0ポイント上回っています。

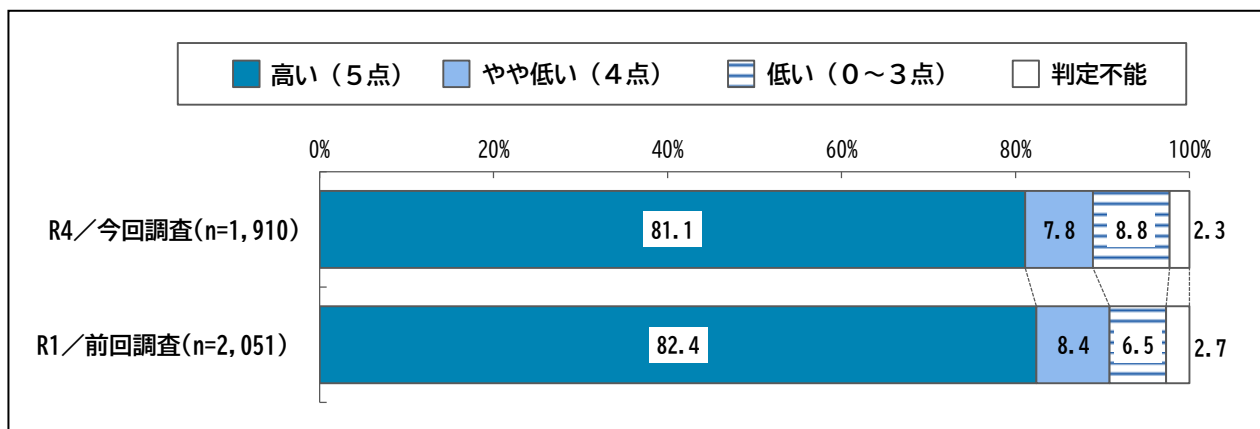
年齢構成別にみると「高い（5点）」は、前期高齢者（90.0%）が後期高齢者（71.8%）を18.2ポイント上回っています。

認定状況別にみると、「高い（5点）」は、一般高齢者が86.0%と最も高くなっています。また、「やや低い（4点）」については総合事業対象者で33.3%と最も高く、「低い（0～3点）」は要支援1・2で38.9%と最も高くなっています。

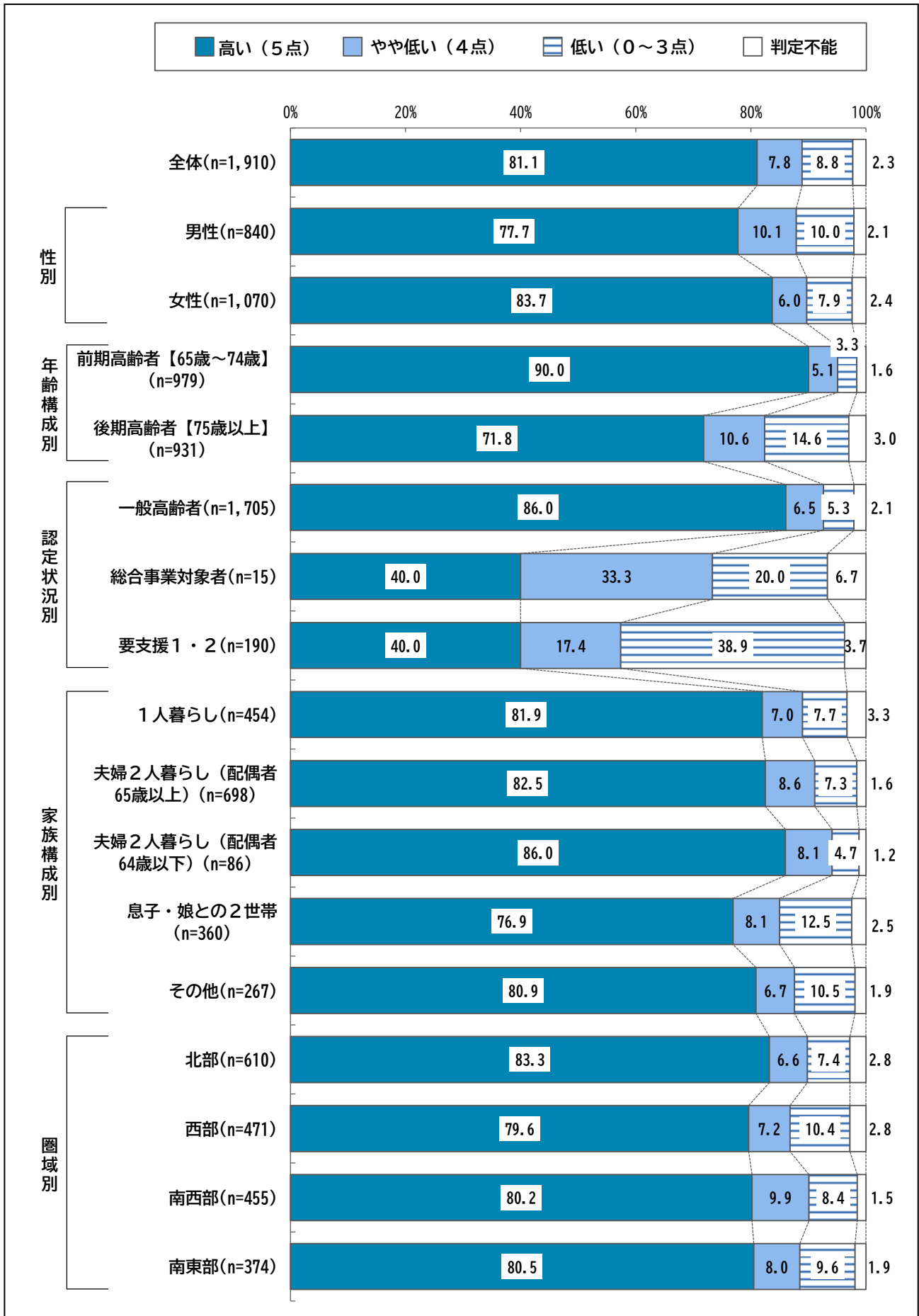
家族構成別にみると、「高い（5点）」は、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）が86.0%と最も高くなっています。一方、息子・娘との2世帯では76.9%と8割を下回っています。

圏域別にみると、「高い（5点）」は、北部が83.3%と最も高く、西部では79.6%と8割を下回っています。

図表 152 IADL（全体、前回比較）



図表 153 IADL (全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別、圏域別)



(9) 知的能動性

【全体の傾向】

知的能動性のスコアについては、「高い（４点）」が54.0%と最も高くなっています。

前回調査と比較すると、「高い（４点）」が4.7ポイント減少しています。

【属性別の傾向】

性別にみると、「高い（４点）」は、女性（58.2%）が男性（48.6%）を9.6ポイント上回っています。

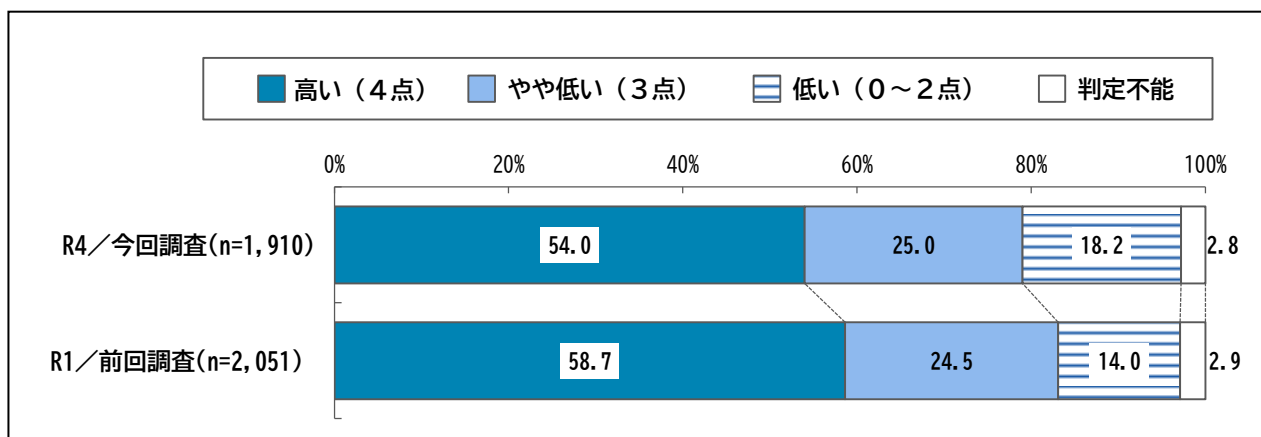
年齢構成別にみると、「高い（４点）」は、前期高齢者（56.8%）が後期高齢者（51.0%）を5.8ポイント上回っています。

認定状況別にみると、「高い（４点）」は、一般高齢者、総合事業対象者では5割を超えているのに対し、要支援1・2では31.6%にとどまっています。

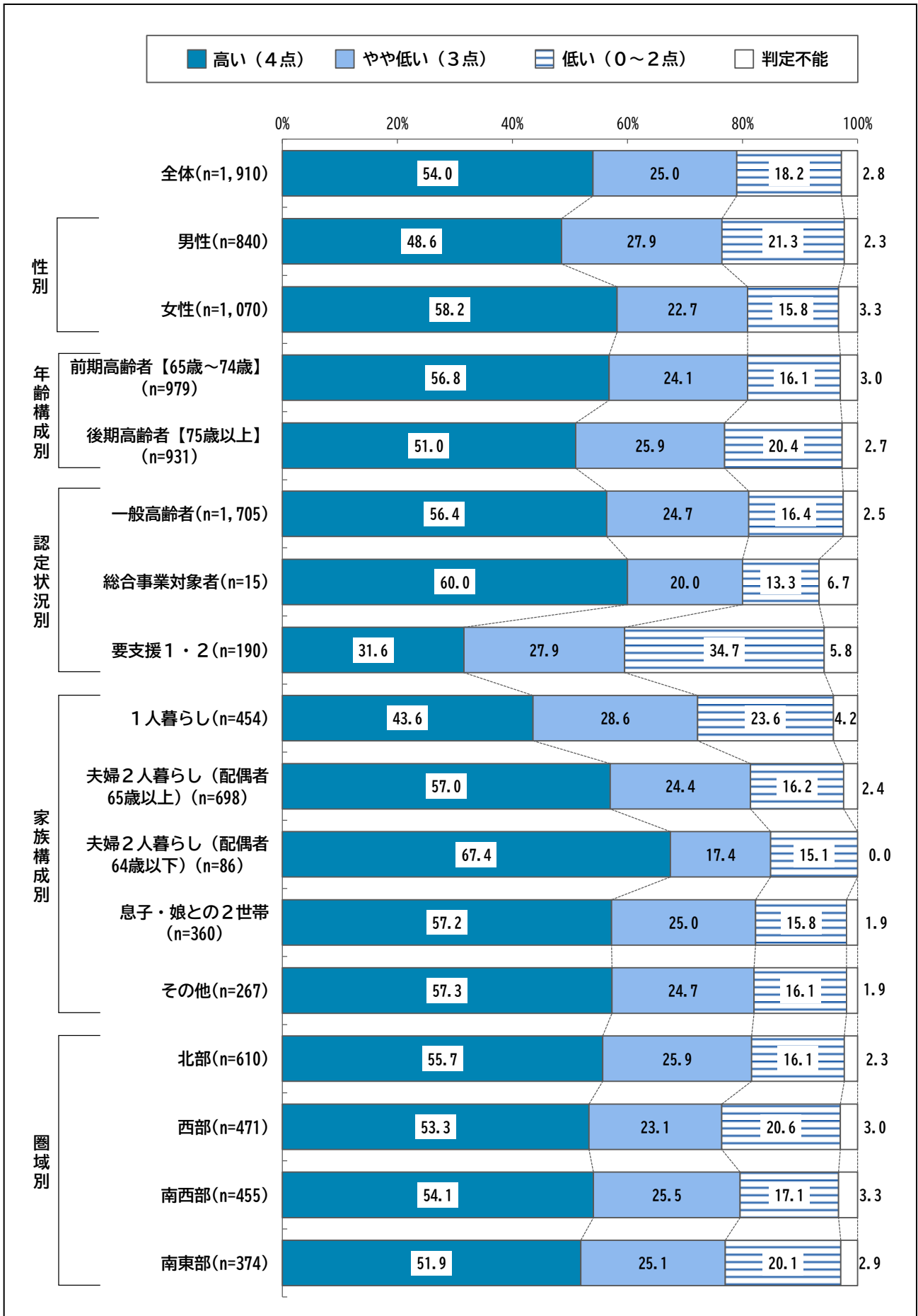
家族構成別にみると、「高い（４点）」は、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）が67.4%と最も高くなっています。一方、1人暮らしでは「高い（４点）」は43.6%と5割未満となっています。

圏域別にみると、「高い（４点）」は、北部が55.7%と最も高くなっています

図表 154 知的能動性（全体、前回比較）



図表 155 知的能動性（全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別、圏域別）



(10) 社会的役割

【全体の傾向】

社会的役割のスコアについては、「低い（0～2点）」が37.5%と最も高く、次いで「高い（4点）」が29.9%、「やや低い（3点）」が28.6%となっています。

前回調査と比較すると、「高い（4点）」が8.1ポイント減少しています。

【属性別の傾向】

性別にみると、男女ともに「低い（0～2点）」が最も高く、男性（41.5%）が女性（34.3%）を7.2ポイント上回っています。

年齢構成別にみると、前期高齢者では、「低い（0～2点）」が32.7%と最も高いものの、割合に大差はみられません。

一方、後期高齢者では「低い（0～2点）」が42.5%と最も高く、4割以上を占めています。

認定状況別にみると、一般高齢者では「低い（0～2点）」が33.8%と最も高いものの、割合に大差はみられません。

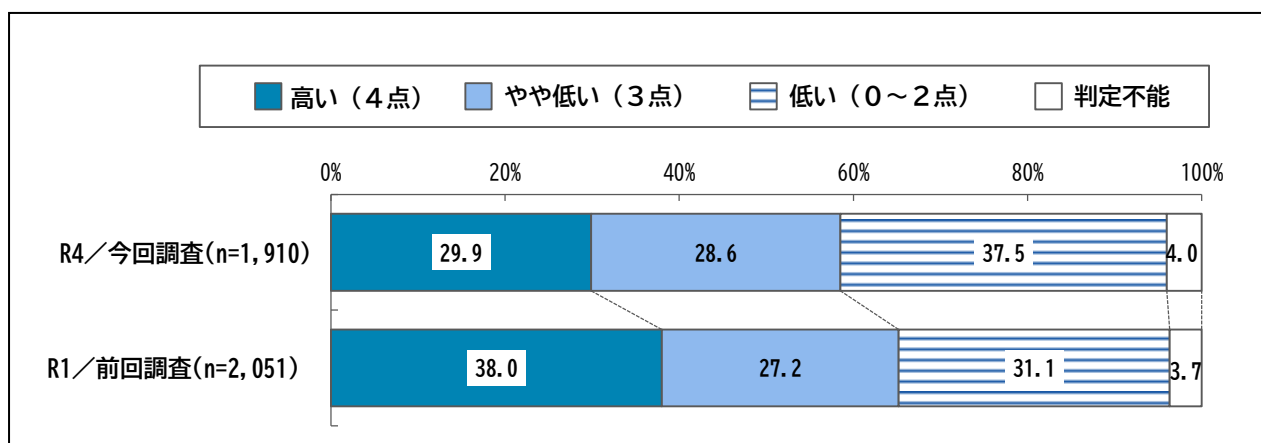
一方、総合事業対象者、要支援1・2では「低い（0～2点）」が最も高く、6割以上を占めています。

家族構成別にみると、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）では「やや低い（3点）」（34.9%）、息子・娘との2世帯では「高い（4点）」（34.2%）がそれぞれ最も高くなっています

一方、1人暮らし、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）、その他では「低い（0～2点）」が最も高く、特に1人暮らしでは48.0%と4割以上を占めています。

圏域別にみると、いずれの圏域でも「低い（0～2点）」が最も高くなっています。また、「高い（4点）」については、西部が34.2%と他の圏域に比べて高くなっています。

図表 156 社会的役割（全体、前回比較）



図表 157 社会的役割（全体、性別、年齢構成別、認定状況別、家族構成別、圏域別）

